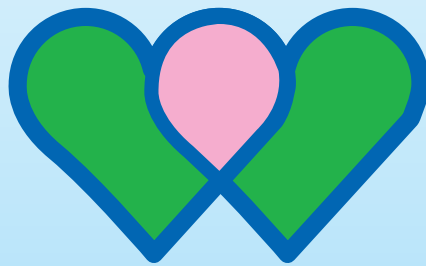


平成27年度

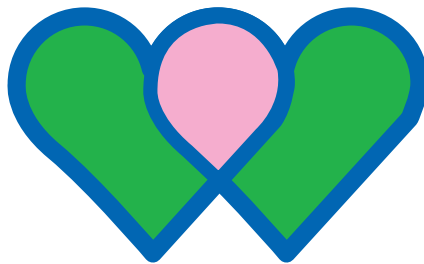
友愛会年報



社会医療法人友愛会

社会医療法人

友愛会



友愛会理念

友愛の心で

人間性豊かな職場環境をつくり

健康づくりに寄与する

地域医療に貢献する

行動指針

最良の医療サービスの提供に努めます
地域に根差し、医療施設の充実に努めます
地域医療機関との強い連携に努めます
患者様との信頼形成に努めます
そのために、全職員は一丸となって、
患者様本位の行動に努めます

医療

豊見城中央病院

地域医療支援病院
日本病院評価機構認定病院
臨床研修病院
救急告示病院
許可病床数 376床（一般）

南部病院

臨床研修協力病院
救急告示病院
許可病床数 188床（一般）

福祉

介護老人保健施設**友愛園**（入所定員100名）
通所リハビリテーション（通所定員 50名）

訪問看護ステーション

ホームヘルパーステーション 友愛

居宅介護支援事業所

保健

豊見城中央病院附属
健康管理センター

沖縄PET画像診断センター
豊崎クリニック

巻頭言



社会医療法人友愛会 理事長

比嘉 國郎

あっという間に2016年も過ぎ去ってしまいました。その間、さまざまな出来事がありました。世界を驚かしたのは、世界をリードするアメリカの大統領選挙ではなかったでしょうか。大多数のアメリカ国民はもとより、世界中が、ヒラリークリントン氏が勝利すると断じていました。が、蓋をあけたところ驚くなかれ、暴言・女性蔑視で不評をかっていたトランプ氏が圧勝したではありませんか。アメリカ国民の良識を疑った人々も多かったと思います。おそらく私の推測ですが、ヒラリー氏に勝てるとは思っていなかったのではないのでしょうか。当選して初めて目が覚め、言動も慎むようになったのではないのでしょうか。一方、政策を間違えると4年間もたないのではと言う気もします。願わくば、政治的にも経済的にも摩擦のない平和な世界を目指して、トランプ新大統領がリーダーシップを発揮して頂く事を期待します。

国内においては、地震が多い年ではなかったでしょうか。特に、熊本県の震度7の大きな地震では多数の尊い命が失われました。県民が総力をあげての復興への取り組みには、頭の下がる思いです。

国宝である熊本城もかなり傷が深く、修復には時間を要すると聞いています。一日も早く、元の姿に戻ることを希望します。その後、鳥取県でも地震がありました。更に、東北地方でも震度5の地震と津波警報があり、実際、宮城県で140cmの津波が押し寄せたと報じています。今後、沖縄県においても、何時どのような災害が起きるか分かりません。日頃より防災の意識を持って行動することで、災害時における被害を減少出来るのではと思います。

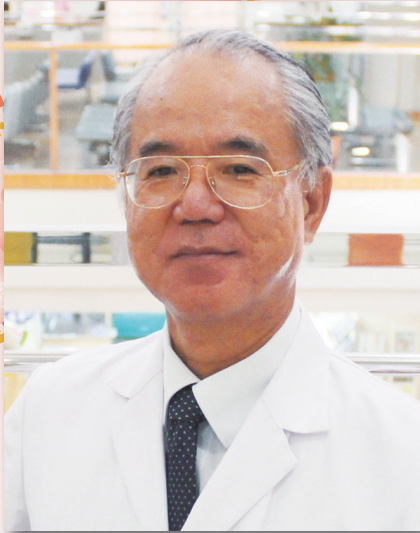
昨年暮れに、千葉大学附属病院特任教授井上貴裕先生の講演会が院内でありました。モチベーションのある病院ですから、二群になる事は充分可能であると発言して居られました。当院の弱い所は、診療密度と重症患者が基準値に達していないこと。クリアするには、幹部の皆さん既に認識していると思いますが、中でも、先生方に徹底して記録して貰う事です。救急患者入院を増やす事で、二群への路は可能のようであります。

この一年で、何が何でも二群を目指し、全ての職員で努力を重ね勝ち取ろうではありませんか。2,000人の職員が心をつにすれば、不可能はありません。

今後とも、関係される皆様の一層のご支援ご鞭撻をお願い申し上げます。

ご挨拶

27年度年報発刊にあたって



社会医療法人 友愛会
豊見城中央病院 院長

新垣 晃

病院を取り巻く環境は、年々厳しさを増しています。少子化による疾病構造の変化、社会保障財政の悪化による診療報酬や急性期病院の基準厳格化など、私たちは劇的な社会環境の変化に不可避的に対峙していかなければなりません。また、医師・看護師・医療技術者の確保困難や人件費の高騰、患者様からの先端的医療提供の要求に応えるには、内部環境においても非常に厳しい状況にあります。さらに、第7次改正医療法が施行され、より一層、経営の透明性やガバナンスの強化に対応しなければならなくなりました。当院は新病院建築事業計画の進行により、大規模な支出も予定されています。

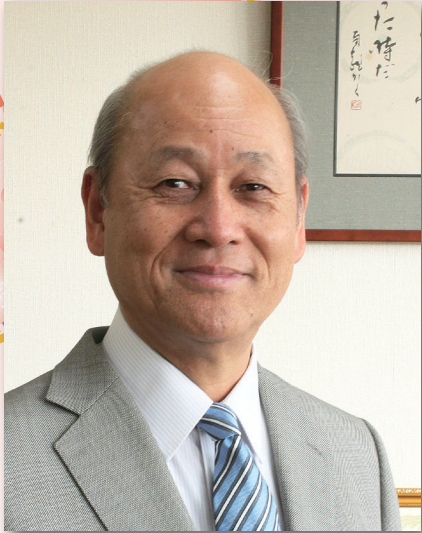
そのような状況下でも、当院は地域医療の受託責任を継続的に果たしつつ、事業の存続を図らなければなりません。「患者に選ばれる病院」を目指し、不断の組織変革を行い、さらなる発展・改善を目指してきました。友愛の理念・価値を発揮し、継続的に地域医療を支持するため、これまで以上に戦略的に経営を推し進めてまいりました。

2016年度診療報酬改定では、一般病棟（7対1）の「重症度、医療・看護必要度」について項目の見直しとともに、該当患者割合の基準（旧15%以上から新25%以上へ）が見直され、将来的にはさらなる基準の引き上げが予想されています。

376床の急性期病床を運用する当院の一般病床（7対1）の重症度、医療・看護必要度は、前年度16.2%（旧基準）から月25.7%から29%（4～11月までの平均27.1%）と25%以上を維持し、平均在院日数は前年度の10.1日から9.7日と短縮、病床利用率は95.53%から95.02%とわずかに減少しました。新入院患者数（月平均）は、前年の1,084人から1,117人と増加し、1日40人前後の患者様が常時入れ替わる状態となりました。また、30日以上長期入院患者は常時60名以上から30名以下へ改善し、救急患者の受け入れを容易にしました。手術患者数は月平均500件を超え、年間6000件を優に超え手術件数県内トップであります。これら当院の強みを活かすとともに、全国トップレベルを誇る実績のある脳外科、心臓外科、腎移植、人工関節置換術や関節外科専門治療をさらに強化し、癌治療（手術および化学療法）、循環器内科、腎臓内科をはじめとする、全診療科、全部署の業績を結集しましたこの年報を参考にさせていただきたいと思えます。

私たち急性期病院の担う役割は、救急車および救急室患者からの入院、重症患者の受け入れ、予定手術患者の獲得など、これまで以上に、重症の患者様へ質の高い医療を提供し、短い在院日数で安全に在宅、または連携医療機関へ送り出すことであります。そのためには、近隣の医療機関との地域連携をさらに強化し、南は宮古・八重山の南西諸島から、北は与論・奄美地区の全沖縄文化圏の皆様、および、これら地域を訪れる外国人の方々まで、すべての皆様へ現時点での最高のエビデンスのある高度急性期医療を提供できるよう強化・充実を図ってまいります。

ご挨拶



社会医療法人 友愛会
南部病院 院長
介護事業部 本部長

城 間 寛

平成27年度の年報の発刊の時期となりました。この年報には、病院機能のすべてが公開され役割やその業務量などもわかります。南部病院の病棟機能に関しては、一般急性期（一般病棟、緩和ケア病棟）から、回復期（回復期リハビリ病棟、地域包括ケア病棟）を中心とした分野を担い、そして、訪問診療や訪問看護などがあり、さらに通所リハビリテーションや居宅介護など、介護領域までが当院の機能としております。

さて、少子・高齢化の影響がピークに達する2025年に向けて、国は地域医療計画で大幅にこれまでの在り方を変えて、医療の提供体制について指針を示してきました。最終的には、平成29年3月までに県は地域医療計画を示すことになっていますので、公表を待つのみです。診療報酬に関しても、7対1看護加算など急性期病院にとっては厳しい内容となっていますが、欧米との比較で考えると、丁度変革の時期に差し掛かっていて、乗り越えなければいけない試練だと考え行くべきだと思います。そのためにも病院は、自分たちが行っている業務内容について情報発信して行く事は非常に大事なものとなってきます。また、この情報発信により各病院の診療機能が患者さんの方から見ても、一目でわかるようになると病院の選択が起こります。すなわち自然な競争が起こり、レベルの向上にも寄与するものと考えます。

また、南部病院に関して考えると、一般急性期から回復期が中心となっていますが、これは、国の提唱する地域包括ケア構想の中の拠点病院に該当するものと考えられます。まだ始まったばかりの地域包括ケア構想なので、まだ明確な形がありませんが、患者さんにとってもよく、医療者にとっても納得できる形が出来ていけばこの難局も乗り越えていけるようになっていくと考えます。介護事業部に関しては、平成22年から介護事業を一本化するために同事業部が立ち上がりましたが、実際の活動をしやすくするために、豊見城中央病院と南部病院に事務所を設け、そこを中心に活動する様にして、職員にとっても、利用者にとっても便利になる様にしてあります。

住民にとっては地域医療計画や地域包括ケアと言う事はわからないと思いますので、ここでも地域住民あるいは、患者さんに医療、介護のシステムを分かりやすいように情報発信する事は病院の役割だと思います。我々は、この年報や他の媒体を用いて医療の仕組みや、病院の役割などを伝えていく作業が必要であり、大事な事となっていきますのでしっかりとやっていきたいと思っております。

目次

友愛会理念・行動指針

巻頭言

ご挨拶

目次

友愛会

- ・沿革 1
- ・組織図 2
- ・職員数 3

豊見城中央病院

- ・施設概要 6
- ・学会認定 7
- ・沿革 9
- ・届出施設基準一覧 12
- ・主要機器 13
- ・組織図 17
- ・病院統計 18
- ・活動報告（部署） 27
- ・看護局研修一覧 87
- ・活動内容（委員会） 103
- ・学会発表 104

南部病院

- ・施設概要 124
- ・学会認定 125
- ・沿革 126
- ・届出施設基準一覧 128
- ・主要機器 129
- ・組織図 131
- ・病院統計 132
- ・活動報告（部署） 138
- ・看護部研修一覧 158
- ・活動内容（委員会） 170
- ・学会発表 171

健康管理センター

- ・施設概要 176
- ・沿革 176
- ・届出施設基準一覧 176
- ・学会認定 177
- ・主要機器 178
- ・組織図 179
- ・統計 180
- ・活動内容（部署） 184
- ・活動内容（委員会） 189
- ・学会発表 189

豊崎クリニック

- ・施設概要 192
- ・届出施設基準一覧 192
- ・主要機器 192
- ・沿革 192
- ・組織図 193
- ・統計 193
- ・活動内容（部署） 194

介護事業部

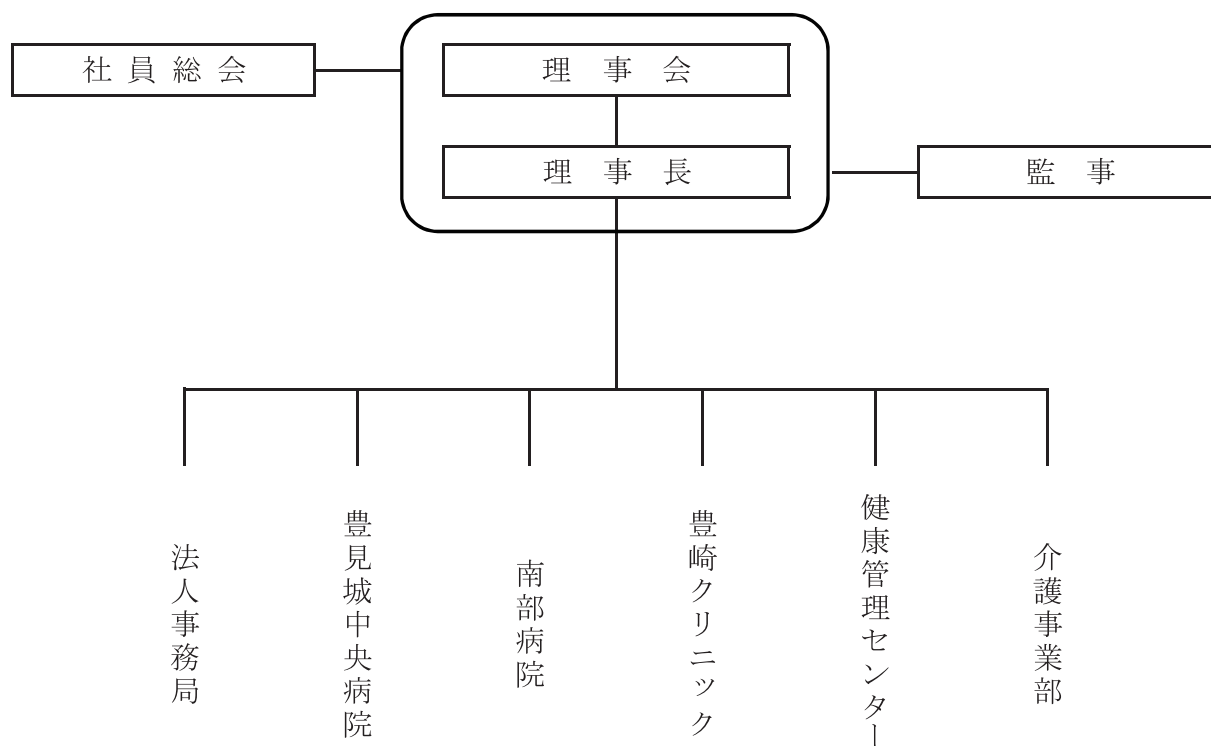
- ・施設概要 198
- ・沿革 199
- ・組織図 201
- ・統計 202
- ・活動内容（部署） 208

法人事務局

- ・組織図 216
- ・活動内容（部署） 217

1978年（昭和53年）	医療法人友愛会設立
1980年（昭和55年）	医療法人友愛会 豊見城中央病院開設（病床99床、診療科目5科）
1987年（昭和62年）	医療法人友愛会 豊見城中央病院附属診療所友愛医院開設
1991年（平成3年）	老人保健施設 友愛園開設（入所100床）
1992年（平成4年）	在宅介護支援センター開設 訪問看護ステーション開設 健康管理センター開設
1995年（平成7年）	豊見城中央病院 開院15周年
1998年（平成10年）	病院機能評価認定 一般病院「種別B」（豊見城中央病院）
1999年（平成11年）	居宅介護支援事業所開設
2002年（平成14年）	医療法人友愛会 糸満工業団地クリニック運営委託
2003年（平成15年）	臨床研修管理型病院認定（豊見城中央病院） 病院機能評価認定 一般病院「Ver.4.0」（豊見城中央病院）
2004年（平成16年）	沖縄PET画像診断センター 豊崎クリニック開設
2006年（平成18年）	医療法人友愛会 南部病院開設（病床250床、診療科目7科） 地域医療支援病院認定（豊見城中央病院） 臨床研修協力型病院認定（南部病院）
2008年（平成20年）	事業所内託児所『虹の子保育園』開園 病院機能評価更新認定 一般病院「Ver.5.0」（豊見城中央病院）
2009年（平成21年）	ファミリー・フレンドリー企業部門 沖縄労働局長奨励賞受賞 スターバックスコーヒー豊見城中央病院店オープン
2010年（平成22年）	医療法人友愛会 豊見城中央病院附属健康管理センター新築移転開設 豊見城中央病院 開院30周年
2011年（平成23年）	南部病院 開院5周年 病院機能評価認定 一般病院「Ver.6.0」（南部病院） 再生医療センター開設 社会医療法人認定 友愛会介護事業部構築 介護老人保健施設 友愛園 開所20周年
2012年（平成24年）	友愛会ケアプランセンター発足 緩和ケア病棟開設（南部病院）
2013年（平成25年）	豊見城中央病院20床増床、南部病院10床減少 病院機能評価更新認定 一般病院「3rdG:ver1」（豊見城中央病院） 療養通所介護友愛園の事業所廃止
2014年（平成26年）	地域包括ケア病床開設（南部病院） 友愛会ケアプランセンター豊見城開所（介護事業本部）
2015年（平成27年）	地域災害指定病院認定（豊見城中央病院）

友愛会 組織図



友愛会 職員数

(2016年3月31日現在)

(単位:人)

職 種		豊見城 中央病院	南部 病院	健康管理 センター	豊崎 クリニック	友愛園	介護 事業部	法人 事務局	合計
医 師	医師	99	22	7	2	1	0	0	131
	歯科医師	1	1	0	0	0	0	0	2
	フェロー	1	0	0	0	0	0	0	1
	後期研修医	12	0	0	0	0	0	0	12
	初期研修医	22	0	0	0	0	0	0	22
看 護	保健師	1	1	7	0	0	0	0	9
	助産師	22	0	0	0	0	0	0	22
	看護師	516	153	19	1	8	10	0	707
	准看護師	33	20	1	2	8	0	0	64
	看護補助者	85	19	6	0	0	0	0	110
介 護	介護福祉士	0	31	0	0	42	3	0	76
	介護員	0	4	0	0	14	0	0	18
	ヘルパー	0	0	0	0	0	3	0	3
	相談員	0	1	0	0	3	0	0	4
	ケアマネージャー	0	0	0	0	1	12	0	13
診 療 補 助 員	臨床心理士	4	0	0	0	0	0	0	4
	薬剤師	39	9	0	0	0	0	0	48
	放射線技師	23	6	6	4	0	0	0	39
	管理栄養士	15	6	2	0	1	0	0	24
	栄養士	1	0	0	0	0	0	0	1
	臨床検査技師	40	11	8	0	0	0	0	59
	臨床工学技士	15	2	0	0	0	0	0	17
	透析技士	2	3	0	0	0	0	0	5
	理学療法士	44	53	0	0	6	0	0	103
	作業療法士	20	27	0	0	4	0	0	51
	言語聴覚士	7	7	0	0	0	0	0	14
	呼吸療法士	4	0	0	0	0	0	0	4
	健康運動指導士	3	1	0	0	0	0	0	4
	針灸士	1	0	0	0	0	0	0	1
	歯科衛生士	6	0	0	0	0	0	0	6
	視能訓練士	3	0	0	0	0	0	0	3
	助手	8	6	0	0	0	0	0	14
	エンブリオロジスト	5	0	0	0	0	0	0	5
	培養士	6	0	0	0	0	0	0	6
	美容医療アシスタント	1	0	0	0	0	0	0	1
ソーシャルワーカー	15	7	0	0	0	0	0	22	
事 務	診療情報管理士	12	4	0	0	0	0	0	16
	医療事務	54	22	1	0	0	0	0	77
	一般事務	57	17	53	3	5	6	35	176
	総合案内	6	1	0	0	0	0	0	7
	秘書	0	1	0	0	0	0	6	7
	メディカルアシスタント	38	10	0	0	0	0	0	48
	クラーク	22	5	0	0	0	0	0	27
	器械士	6	2	0	0	0	0	0	8
	システムエンジニア	6	3	2	0	0	0	0	11
	その他	19	2	3	1	0	0	1	26
総合計		1274	457	115	13	93	34	42	2028

豊見城中央病院

概要

(2016年3月31日現在)

開設者	比嘉 國郎
名称	社会医療法人友愛会 豊見城中央病院
所在地	〒901-0243 沖縄県豊見城市字上田25番地
開設日	昭和55年4月1日
理事長	比嘉 國郎
院長	潮平 芳樹
副院長	松本 強、前濱 俊之、永山 盛隆、仲地 厚
看護局長	有銘 淳子
事務局長	神山 仁
敷地面積	18,722㎡
建物面積	33,463㎡
許可病床数	376床（一般病床 360床・ICU 10床・HCU 6床）
診療科目	内科・呼吸器内科・消化器内科・循環器内科・腎臓内科・神経内科 膠原病内科・糖尿病、代謝内科・心療内科・外科・呼吸器外科・消化器外科 乳腺外科・内視鏡外科・血管外科・心臓血管外科・移植外科・小児科・整形外科 緩和ケア外科・産婦人科・産婦人科（不妊治療）・眼科・耳鼻咽喉科・皮膚科 泌尿器科・脳神経外科・形成外科・美容外科・美容皮膚科・顎顔面外科 麻酔科・放射線科・リハビリテーション科・リウマチ科・救急科・病理診断科・歯科
1日平均患者数	入院：359名 外来：911名
病床利用率	95.5%
平均在院日数	10.1日
駐車場収容台数	外来駐車場418台 職員駐車場720台
各種指定・認定	地域医療支援病院 抜粋 臨床研修指定病院 救急告示病院 日本医療機能評価機構認定病院 一般病院2（3rd G:Ver.1.0） 沖縄DMAT指定病院 健康保険法の規定に基づく保険医療機関の指定 国民健康保険法の規定に基づく療養取扱機関の指定 労働者災害補償保険法の規定に基づく労災保険指定病院 生活保護法の規定に基づく指定医療機関 結核予防法の規定に基づく指定医療機関 身体障害者福祉法の規定に基づく厚生医療指定医療機関 （同法第十九条関係、指定医（同法第十五条関係）） 母子保健法の規定に基づく指定養育医療機関 原子爆弾被爆者の医療等に関する法律の規定に基づく指定医療機関 消防法の規定に基づく救急病院 老人保健法の規定に基づく医療機関 優生保護法の規定に基づく指定医 厚生省事務次官通知に基づく小児慢性特定疾患指定病院 沖縄県特定疾患治療研究事業実施規定に基づく委託病院 児童福祉法の規定に基づく育成医療指定医療機関 戦傷病者特別援護法の規定に基づく厚生医療指定医療機関 地域災害指定病院認定

学会認定

50音順

Platic Surgery Research Council (PSRC,米国)	日本循環器学会認定医・専門医
インプラント実施施設(乳房再建)	日本消化管学会胃腸科指導施設
エキスパンダー実施施設(乳房再建)	日本消化管学会胃腸科認定医
義肢補装具等判定資格医	日本消化器外科学会専門医修練施設
国際形成外科学会員(IPRAS)	日本消化器外科学会認定医・専門医・指導医
三学会構成心臓血管外科専門医認定機構 基幹施設 札幌医科大学医学部の関連施設	日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設
日本アレルギー学会教育施設	日本消化器病学会専門医・指導医
日本アレルギー学会認定医・専門医・指導医	日本消化器病学会専門医制度認定施設
日本医学放射線学会専門医	日本消化器内視鏡学会認定専門医
日本医学放射線学会専門医修練協力機関	日本小児科学会小児科専門医研修施設
日本眼科学会専門医	日本小児科学会認定医
日本眼科学会専門医制度研修施設	日本神経学会指導医・専門医
日本がん治療認定医	日本神経学会専門医制度准教育施設
日本がん治療認定研修施設	日本心血管インターベンション治療学会研修施設
日本緩和医療学会認定研修施設	日本心血管インターベンション治療学会認定医・指導医
日本救急医学会専門医	日本腎臓学会研修施設
日本胸部外科学会関連施設	日本整形外科学会専門医
日本胸部外科学会認定医	日本整形外科学会専門医制度研修施設
日本形成外科学会専門医	日本整形外科学会認定スポーツ医
日本形成外科学会認定施設	日本整形外科学会リウマチ専門医
日本形成外科学会皮膚腫瘍外科指導専門医	日本生殖医学会生殖医療専門医制度認定研修施設
日本外科学会外科専門医制度修練施設	日本生殖医学会認定生殖医療専門医
日本外科学会認定医・専門医・指導医	日本脊髄障害医学会
日本血液学会専門医	日本創傷外科学会専門医
日本口腔医療学会指導医	日本体育協会公認スポーツドクター
日本呼吸器学会専門医制度認定施設	日本手の外科学会研修施設
日本呼吸器学会認定専門医・指導医	日本透析医学会専門医制度認定施設
日本呼吸器外科学会関連施設	日本透析学会認定医
日本呼吸器外科学会専門医	日本透析学会認定医・指導医
日本産婦人科学会専門医制度卒後研修指導施設	日本糖尿病学会専門医・指導医
日本産婦人科学会総合型専攻医指導施設	日本糖尿病学会認定教育施設
日本腎臓学会認定医・専門医・指導医	日本内科学会認定医・専門医・指導医
日本耳鼻咽喉科学会専門医	日本内科学会認定医制度教育病院
日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設	日本内分泌学会専門医・指導医
日本耳鼻咽喉科学会認定騒音性難聴担当医	日本内分泌学会内分泌代謝科専門医制度認定教育施設
日本褥瘡学会認定師(医師)	日本乳癌学会認定医
日本循環器学会循環器専門医研修施設	日本乳癌学会認定医・専門医制度認定施設
	日本熱傷学会専門医認定研修施設

日本熱傷学会専門医
日本脳神経外科学会専門医・指導医
日本脳卒中学会専門医
日本脳神経血管内治療学会専門医
日本脳神経外科学会 専門医研修プログラム関連施設
日本脳卒中学会認定研修教育病院
日本泌尿器学会専門医・指導医
日本泌尿器科学会専門医教育施設
日本皮膚科学会専門医
日本皮膚科学会認定専門医研修施設
日本病理学会認定病理医
日本婦人科学認定医
日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈
専門医研修施設
日本不妊学会生殖医療指導医
日本麻酔科学会指導医
日本麻酔科学会専門医
日本麻酔科学会麻酔科認定病院
日本リウマチ学会教育施設
日本リウマチ学会認定医
日本リウマチ財団登録医
日本リウマチ友の会賞
日本リハビリテーション医学会専門医
日本臨床細胞学会専門医制度研修登録施設
日本臨床細胞学会細胞診指導医

1980年（昭和55年）	豊見城中央病院開設（99床） 診療科目 5 科（内科・小児科・外科・整形外科・産婦人科） 診療科目 6 科（眼科開設）（117床）
1981年（昭和56年）	診療科目 7 科（耳鼻咽喉科開設）（150床） 特 2 類基準看護取得、基準給食、寝具
1983年（昭和58年）	歯科開設
1984年（昭和59年）	泌尿器科開設 総合病院可、増築完成（250床へ増床）
1985年（昭和60年）	コンピュータ導入
1988年（昭和63年）	運動療法学科認可 280床へ増床 人工透析開設 第3類基準看護（120床）取得 作業療法施設認可
1989年（平成元年）	312床開設、特3類基準看護（120床）取得 重症者収容室加算（18室）取得
1991年（平成3年）	老人保健施設（友愛園）併設 透析室増床（21床） 施設基準（投薬）認可
1992年（平成4年）	MRI導入 皮膚科開設、脳神経外科開設 在宅支援介護支援センター（豊見城村（当時）委託） 訪問看護ステーション併設 健康管理センター開設
1994年（平成6年）	院外処方開始 特 3 類基準看護312床（全床）取得
1995年（平成7年）	循環器センターの開設 夜間勤務看護加算（2） オーダーリング導入
1996年（平成8年）	新看護（2対1A加算取得） 医療機関施設近代化施設整備事業による増改築工事着工 夜間勤務看護加算（1B）取得
1997年（平成9年）	増改築行為の竣工落成（306床 7階病棟） RI, MRI（1.5テスラ）、骨密度測定装置の導入 2階東・3階東病棟の改修工事終了

1998年（平成10年）	総合リハビリテーション施設取得 夜間看護加算（Ⅰ）a（3新は（Ⅰ）b） 体外衝撃波結石破碎装置導入 療養二群入院医療管理（Ⅰ）54床取得 財団法人日本医療機能評価機能による一般病院種別B認定
1999年（平成11年）	研修並び保護センター購入（恩納村字名嘉真） リウマチ外来開設 腹部用超音波診断装置購入、電子内視鏡システム購入 不妊・内分泌センター開設 病理検査室開設 ラオス国研修医師の受入 人工透析室増設（57床）
2000年（平成12年）	内視鏡下テレビ装置購入 呼吸療法外来開設 病院増改築工事着工 開放型病床20床申請
2001年（平成13年）	全病棟一般病床へ移行
2002年（平成14年）	9階新館完成 8病棟（個室病棟含む） 24時間救急開始 内視鏡センター・糖尿病センター・リハビリセンター開設 ICU開設
2003年（平成15年）	PACS導入 RIS導入 臨床研修管理型病院認定
2004年（平成16年）	病院機能評価更新 一般病院（Ver. 4）認定 沖縄PET画像診断センター 豊崎クリニック開設 生体腎移植手術実施 MRI 2台目導入（フィリップスAchieval. 5T/Nova）
2005年（平成17年）	豊崎クリニックにPET-CT導入 RI 新機種導入
2006年（平成18年）	友愛会 南部病院 開設 CT 2台目：シーメンスSOMATOM Sensation64 導入 DPCの導入 7対1看護配置 加算取得 「地域医療支援病院」として沖縄県より承認

2007年（平成19年）	形成外科、美容外科開設 許可病床316床に増床（10床：南部病院より移動） 体外衝撃波結石破碎装置（更新） 導入
2008年（平成20年）	事業所内保育所「虹の子保育園」 開園 病院機能評価更新 一般病院（Ver. 5） 認定
2009年（平成21年）	許可病床356床に増床（40床：南部病院より移動） 8階病棟完成（40床） 全9病棟（個室病棟を含む）
2010年（平成22年）	内科外来診察室の増室（8診→10診） 乳房X線撮影装置更新 MAMMOMAT 3000 Nova 豊見城中央病院附属健康管理センター開設（豊見城市豊崎） 豊見城中央病院 開院30周年 開院30周年記念式典及び記念講演会
2011年（平成23年）	「腎移植施設」承認【(社)日本臓器移植ネットワーク】 再生医療センター開設 心臓血管外科開設 手術室を1室増室（全11室） 沖縄県より社会医療法人の認可を受ける
2012年（平成24年）	9階病棟開設 許可病床356床
2013年（平成25年）	ドクターカー運用開始 特例病床10床認可 許可病床366床 南部病院より10床移動 許可病床376床
2014年（平成26年）	CT更新：Aquilion ONE VISION Edition（320列CT） 沖縄DMAT指定病院 病院機能評価更新 一般病院2（3rd G:Ver.1.0） 認定 日帰り手術センター開設 中国「中南大学湘雅病院」視察受入
2015年（平成27年）	再生医療医（2名）の認定取得 沖縄県ヘリコプター等添乗医師等確保事業への参加 地域災害指定病院認定 東京女子医科大学との再生医療連携協定締結

施設基準

(2016年3月31日現在)

基本診療料	<p>一般病棟入院基本料（7対1） 総合入院体制加算 超急性期脳卒中加算 診療録管理体制加算 1 医師事務作業補助体制加算 1 急性期看護補助体制加算 看護職員夜間配置加算 療養環境加算 重症者等療養環境特別加算 栄養サポートチーム加算 医療安全対策加算 1 感染防止対策加算 1 患者サポート体制充実加算</p>	<p>褥瘡ハイリスク患者ケア加算 ハイリスク妊娠管理加算 ハイリスク分娩管理加算 総合評価加算 データ提出加算 病棟薬剤業務実施加算 特定集中治療室管理料 3 ハイケアユニット入院医療管理料 1 小児入院医療管理料 4 歯科外来診療環境体制加算 短期滞在手術基本料 1</p>
特掲診療料	<p>植込型除細動器移行期加算 糖尿病合併症管理料 がん性疼痛緩和指導管理料 がん患者指導管理料 1 がん患者指導管理料 2 がん患者指導管理料 3 移植後患者指導管理料（臓器移植後の場合） 糖尿病透析予防指導管理料 院内トリアージ実施料 ニコチン依存症管理料 開放型病院共同指導料 がん治療連携指導料 ※がん治療連携計画策定病院（琉大） 肝炎インターフェロン治療計画料 薬剤管理指導料 医療機器安全管理料 1 持続血糖測定器加算 検体検査管理加算（Ⅱ） 心臓カテーテル法による 諸検査の血管内視鏡検査加算 時間内歩行試験 ヘッドアップティルト試験 皮下連続式グルコース測定 神経学的検査 ロービジョン検査判断料 小児食物アレルギー負荷検査 CT透視下気管支鏡検査加算 画像診断管理加算 1 CT撮影及びMRI撮影 冠動脈CT撮影加算 大腸CT撮影加算 心臓MRI撮影加算 抗悪性腫瘍剤処方管理加算 外来化学療法加算 1 無菌製剤処理料 心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ） 脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ） 運動器リハビリテーション料（Ⅰ） 呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ） がん患者リハビリテーション料</p>	<p>処置の休日・時間外・深夜加算 1 CAD/CAM冠 組織拡張器による再建手術 乳がんセンチネルリンパ節加算 2 ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後） 透析液水質確保加算 2 組織拡張器による再建手術 （乳房（再建手術）の場合に限る。） 乳がんセンチネルリンパ節加算 経皮的冠動脈形成術 経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの） 経皮的冠動脈ステント留置術 経皮的中隔心筋焼灼術 ペースメーカー移植術・交換術 植込型心電図記録計移植術・摘出術 両心室ペースメーカー移植術・交換術 植込型除細動器移植術・交換術 両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術・交換術 大動脈バルーンパンピング法（IABP法） 経皮的大動脈遮断術 腹腔鏡下肝切除術 腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術 体外衝撃波腎・尿管結石破碎術 同種死体腎移植術 生体腎移植術 膀胱水圧拡張術 手術の休日・時間外・深夜加算 1 胃瘻造設術 （経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。） 輸血管理料Ⅱ 貯血式自己血輸血管理体制加算 自己生体組織接着剤作成術 胃瘻造設時嚥下機能評価加算 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算 麻酔管理料（Ⅰ・Ⅱ） 病理診断管理加算 1 クラウン・ブリッジ維持管理料</p>

主要機器一覧

(2016年3月31日現在)

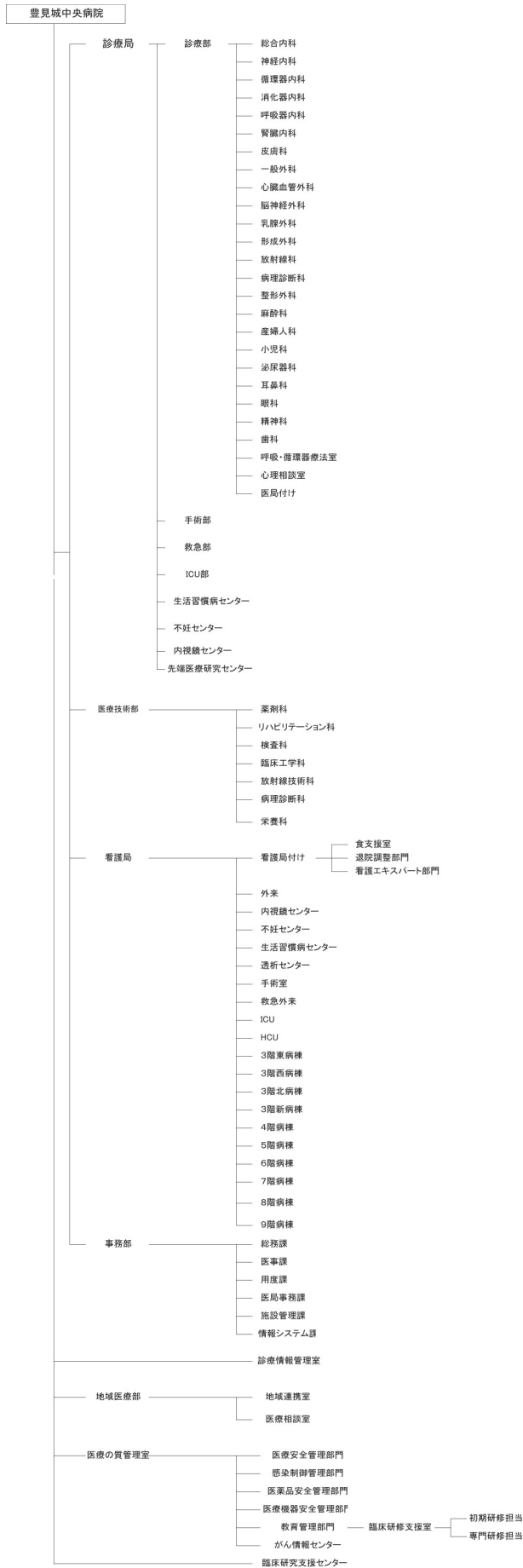
機器名	メーカー名	機種名
CT装置 (320列 ADCTシステム)	東芝メディカルシステムズ	AQUILION ONE/VISION EDITION
CT装置 (64列)	シーメンス (SIEMENS)	SOMATOM Sensation 64
MRI装置 (1.5T)	フィリップス (PHILIPS)	INTERA Achiva
	シーメンス (SIEMENS)	MAGNETOM Aera
血管造影X線診断装置 (バイプレーン)	GEヘルスケア・ジャパン	Innova IGS620
	フィリップス (PHILIPS)	Allura Xper FD20/10
RI装置 核医学診断用ガンマカメラ	シーメンス (SIEMENS)	E.CAM SIGNATURE
FPD搭載型X線TV装置	日立	EXAVISTA
	島津	ソニアルビジョン Safire 17
IVRデジタル式X線TV装置	島津	C - Vision
X線一般撮影装置	島津	UD150L-30
	日立	DHF-158-H2
	東芝メディカルシステムズ	RADREX MRAD-A50S
回診用X線撮影装置	島津	MobileART Evolution
外科用イメージ装置 (Cアーム型X線装置)	シーメンス (SIEMENS)	ARCADIS Avantic
外科用イメージ装置 (Cアーム型X線装置)	東芝メディカル	SXT-1000A/26
外科用イメージ装置 (Cアーム型X線装置)	島津	ACTENO6
		ACTENO9
乳房X線撮影装置	シーメンス (SIEMENS)	MAMMOMAT 3000 Nova
デジタルパノラマ・セロファ X線一般撮影装置	朝日レントゲン工業	HYPER-X CM
歯科用デジタルX線装置	朝日レントゲン工業	Cypher-E
全身用X線骨密度測定装置	GEヘルスケア・ジャパン	PRODIGY (Advance)
超音波診断装置 (LOGIQ)	GEヘルスケア・ジャパン	LOGIQ E9 with XD clear
		LOGIQ7-7Discovery II
超音波診断装置 (VIVID)	GEヘルスケア・ジャパン	ViViD-E9 Basic with XD clear (4 Dエコー)
		ViViD-7 BT05 4DV
		ViViD-7 BT08
超音波診断装置 (Voluson)	GEヘルスケア・ジャパン	Voluson E8 (4 Dエコー)
		Voluson S8 (4 Dエコー)
		Voluson P8
超音波診断装置 (3 Dエコー)	フィリップス (PHILIPS)	IE33 LIVE3D
超音波診断装置	東芝メディカル	NEMIO SSA-550A
		XARIO SSA-660A
		XARIO XG SSA-680A
		Aplio500 TUS-A500
超音波診断装置	日立アロカ	SSD-ALPHA6
		SSD-ALPHA10SX
		SSD-PROSOUND6
		Noblus
超音波診断装置	シーメンス (SIEMENS)	MEU-1585
		ソノビスタFX
超音波診断装置	ソノサイトジャパン社	ソノサイト 180PLUS
		S-Nerve
		MicroMaxx
超音波診断装置	トミー工業	UD-6000
超音波診断装置 (血管内皮機能測定装置)	ユネクス	UNEX EF 38G
生体情報モニタ セントラルモニタ	オムロンコーリン	HXC-1150
		CIC-PRO

機器名	メーカー名	機種名
生体情報モニタ セントラルモニタ	日本光電	CNS-9601 CNS-6201
生体情報モニタ ベッドサイドモニタ	オムロンコーリン	Solar8000 D5Kネルコア・DASH5000 B650
生体情報モニタ ベッドサイドモニタ	日本光電	BSM-5132 BSM-4103 BSM-2301 BSM-6501 MU-631R BSM-1763
ビジランスヘモダイナミックモニター	エドワーズライフサイエンス	VIG2
ビジレオモニター	エドワーズライフサイエンス	MHM1
EV1000クリティカルケアモニター	エドワーズライフサイエンス	EV1000PLUS
脳波スペクトル分析装置 BISモニタ View	日本光電	A3000
心電計（解析機能付）	日本光電	ECG-9120、ECG-9522、ECG-1550他
携帯電話式12誘導心電計（心電図伝送システム用）	グッドケア	EC-12RS
デジタル脳波計	フクダ電子	COMET CMP-E
運動負荷試験システム	日本光電	Q-Stress
眼底カメラ（ファイリング機能付き）	カールツァイス	TRC50DX（030-020-0005）
眼底カメラ（無散瞳型）	ニデック社	AFC-210
眼内レンズ度数測定器（IOLマスター）	カールツァイス	007-027-0002
眼底三次元画像解析装置（OCT）	ジャパン フォーカス （ハイデルベルグ）	ハイデルベルグスペクトラリスBluepeakOCT コンパクト
自動視野計	カールツァイス	ハンフリーフィールドアナライザー HFA-II 740
シノプトフォア 2001型 眼位検査、両眼視機能検査、視能矯正訓練器	クレメントクラーク	002-028-0020
スペキュラーマイクロスコープFA-II 角膜内皮細胞撮影装置	コーナン	FA-3809D（002-024-0004）
呼吸代謝測定装置	日本光電	V-MAXS-29S（Vmaxスペクトラ）
オージオメーター	RION	AA-H1
インピーダンスオージオメータ	RION	RS-22
ニスタモグラフ（電気眼振計）	第一医科（ファースト）	FNG-1004
筋電図誘発電位検査装置	ケアヒュージョン・ジャパン 日本光電	バイキングクエスト4チャンネル MEB-9402
ホルター心電図解析装置	フクダ電子	SCM-8000
総合肺機能測定システム	チェスト（CHEST）	CHESTAC-8900 D型
一酸化窒素ガス分析装置	チェスト（CHEST）	NIOX MINO
血液ガス分析装置（プレミア）	アイ・エル・ジャパン	GEM3500 GEM4000
血液凝固分析装置HMS PLUS	日本メドトロニック	30514
ABI装置（血圧脈波検査器）	オムロンコーリン	BP-203RPEⅢ
ネイタスアルゴ3i（新生児“AABR”聴力検査装置）	アトム	3i 60Hz
臨床用ポリグラフシステム	日本光電	RMC-4000
心臓カテーテル用検査装置・3次元マッピング装置	SJM （セントジュードメディカル）	イーピーワークメイトシステム・エンサイト システムVelocity
IABP装置（大動脈内バルーンパンピング）	アロウジャパン	IAP-0400J（AutoCAT2） IAP-0500J（AutoCAT2 WAVE）
スタックカート人工心肺装置	ソーリン	S-5 PERFUSIONSYSYSTEM
メラ心筋保護液供給システム	MERA	HCP-5000

機器名	メーカー名	機種名
経皮的補助循環システム	テルモ (株)	PCPSキャピオスEBS ME-SP101S
		PCPSキャピオスEBS ME-SP101PLUS
加温ハイフロー輸液ポンプ	メディコノヴァス	ベルモント・ラピッド・インフューザー 903-00001-J
麻酔器	ACOMA	BLANDA-STD
		KMA-1300Ⅲ
		KMA-1300Vs
		COMBI 508 II
麻酔器	GEヘルスケア・ジャパン	アバンスケアステーション エステイバ/5・7100シリーズ
脳神経外科手術用ナビーションユニット	メドトロニック社 (Medtronic)	ステルスステーション S7
マルチカラーレーザー (光凝固装置 ビズラス)	カールツアイス	007-027-0009
リトクラストシステム 一式	ボストン・サイエンティ フィック・ジャパン	840-500
眼科手術用顕微鏡	カールツアイス	MDO-XY
眼科手術顕微鏡 アシスタントスコープ付	カールツアイス	LumeraT 030-027-0012
手術用顕微鏡システム	ライカマイクロシステムズ	M5250H4
		M525F50
	カールツアイス	OPMI PENTERO900
内視鏡スコープ 経鼻用	OLYMPUS	GIF-XP260N
内視鏡スコープ 上部消化管ビデオスコープ	OLYMPUS	GIF-Q240Z
		GIF-Q260J
内視鏡スコープ 上部消化管ビデオスコープ (ハイビジョン)	OLYMPUS	GIF-H260
		GIF-H260Z
内視鏡スコープ 大腸ビデオスコープ	OLYMPUS	CF-Q260AI
		CF-HQ290I
		PCF-Q240ZI
		PCF-Q260AI
		PCF-PQ260L
内視鏡スコープ 十二指腸ビデオ	OLYMPUS	JF-260V
内視鏡スコープ 超音波ガストロビデオスコープ	OLYMPUS	GF-UM2000
内視鏡スコープ 腹腔・胸腔ビデオスコープ	OLYMPUS	LTF-VP
		LTF-VH
内視鏡スコープ エアウェイマネジメントモバイル スコープ	OLYMPUS	MAF-TM
		MAF-GM
内視鏡スコープ 気管支ビデオスコープ	OLYMPUS	BF-1T260
		BF-260
内視鏡スコープ OES 腎盂尿管ファイバースコープ	OLYMPUS	URF-P5
内視鏡スコープ OES 膀胱ファイバースコープ	OLYMPUS	CYF-5A
内視鏡スコープ ヒステロビデオスコープ	OLYMPUS	HYF-XP
		HYF-V
内視鏡スコープ 鼻咽喉ビデオスコープ	OLYMPUS	ENF-VT2
		ENF-VH
脳外用スコープホルダー	OLYMPUS	ENDOARM
冷凍アブレーション装置	メドトロニック社 (Medtronic)	CryoConsole
振動式末梢血管貫通用カテーテルシステム	メディコン	CROSSERジェネレーター GEN200
脊椎手術用内視鏡システム	メドトロニック社 (Medtronic)	METRシステム I

機器名	メーカー名	機種名
ハイスピードドリル 電動式システム	メドトロニック社 (Medtronic)	Midas Rex レジェンド
バッテリー式骨手術器械システム	デビューシンセス	BATTERY POWER LINE II
バッテリー式骨手術器械システム	ジンマー	HALL50
高周波手術装置	アムコ	VIO200D VIO200S
マイクロ波手術器	アルフレッサファーマ	マイクロターゼ AZM-550
下肢静脈瘤用高周波(ラジオ波)手術装置	COVIDIEN	エンドヴィーナス クロージャー システム
超音波手術器	ストライカー	ソノペットUST-2001
超音波手術システム ソノサージ(吸引)	テルモ(株)	SG-SSG2
高周波焼灼電源装置 超音波凝固切開装置	OLYMPUS	SurgicalTissueManagementSystem SET THUNDERBEAT
超音波手術システム	OLYMPUS	sonosurgG2
電気メス (関節鏡下外科手術用バイポーラ型)	ジョンソン&ジョンソン(エ チコン・外科)	VAPR 3 (ベーパー)
電気メス	COVIDIEN	Force Triard LIGASURE FORCE FX-C
体外式衝撃波結石破碎装置	ドルニエメディカル	ドルニエリソトリプター SII
バーサバルスホルミウムYAGレーザー手術装置	ボストン・サイエンティ フィック・ジャパン	840-901
ヤグレーザー手術装置	ニデック社	YC-1300
炭酸ガスレーザー手術装置	ニデック社	COL-1040SH
グリーンヤグレーザー手術装置	ニデック社	GYG-1500V
超音波白内障用手術装置インフィニティ	日本アルコン	209-1
超音波白内障用手術装置プレミア	ニデック社	DP-3472
ALEXLAZR手術装置(アレキサンドライトレーザー)	キャンデラ	ALEXLAZR
Vbeam 2血管腫治療レーザー装置	キャンデラ	Vbeam Perfecta
皮膚良性血管病変治療用レーザー装置	キャンデラ	Vbeam
ePlus(光・RF複合治療器)	ジェイメック	SYNERON
陰圧維持管理装置	スミスアンドネフュー	RENASYS GO 66800164
紫外線治療器	テルモ	デルマレイ200A/NB 421-100-02
逆浸透法精製水製造装置	東レ・メディカル	TR-1800R (RO装置)
多人数用透析液供給装置	東レ・メディカル	TC-50HI
透析用監視装置	東レ・メディカル	TR-3000MA
透析用監視装置	ニプロ(NIPRO)	NCV-3
血液浄化装置	ニプロ(NIPRO)	IQ21 (Plasauto)
個人用透析装置	ニプロ(NIPRO)	NDF-21
起立練習傾斜ベッドチルトテーブル(昇降式)	ミナト医科	K1430MN
調剤システム一式	ユヤマ	SSSYSTEM1
散薬監査システム	ユヤマ	YS-PC-DX-SB
バーチャルスライドシステム	浜松ホトニクス社	NanoZoomer2.0-HT C9600-13
密閉式自動固定包埋装置	サクラファインテック	ティッシュー・テック VIP 6-JO
自動免疫組織化学染色機器ヒストステイナー 48A システム	ニチレイバイオサイエンス	LV-48A
アイソレーターシステム	サンヨー	CPWS(セルプロセッシングワークステーション)本体
ハイエンドクリニカルフローサイトメーター	ベックマン・コールター	Navios 2 レーザー 6カラータイプ
リアルタイムPCRシステム	アジレント・テクノロジー	AppliedBiosystems StepOnePlus
内毒素測定器	和光純薬	Endosafe-PTS 53591311

組織図



統計

◇診療科別外来患者数

*1 日曜・祝祭日含む
*2 月曜日～土曜日の平均

診療科	延べ人数 ^{*1}	一日平均 ^{*2}
内科	93,097	315.6
小児科	13,759	46.6
外科	21,976	74.5
整形外科	29,939	101.5
眼科	9,608	32.6
産婦人科	25,816	87.5
耳鼻咽喉科	6,249	21.2
泌尿器科	11,696	39.6
透析	23,843	80.8
脳神経外科	3,355	11.4
皮膚科	10,424	35.3
放射線科	1,053	3.6
形成外科	9,816	33.3
心臓血管外科	1,616	5.5
歯科	6,023	20.4
合計	268,270	909.4

◇紹介・逆紹介

紹介	初診紹介患者	11,292
	再診紹介患者	3,286
	地域医療支援病院紹介率	68.1%
逆紹介	入院逆紹介数	4,098
	外来逆紹介数	11,347
	逆紹介率	99.9%
開放型病床延べ人数		3,268
登録医総数		374

◇分娩件数

経膈分娩		355
帝王切開	予定	70
	緊急	45
単産		467
複産		3

◇救急外来時間帯別患者数

時間帯	患者数	救急搬送（再掲）	
		入院	外来
日勤	7,168	733	997
準夜	11,364	665	957
深夜	3,242	354	585
合計	21,774	1,752	2,539

◇救急救命士実習受入件数

気管挿管実習	1
薬剤投与実習	3
救急救命士就業前病院実習	3
救急救命士就業後病院実習（再教育）	0

◇診療科別入院患者数

診療科	新入院数	退院数	(死亡数)	入院患者延数	解剖数
内科	5,482	5,394	(183)	61,216	9
小児科	917	959	(1)	6,168	
外科	1,328	1,319	(20)	16,327	
整形外科	1,868	1,863	(2)	28,927	
眼科	161	163	(0)	387	
産婦人科	1,374	1,385	(129)	7,618	
耳鼻咽喉科	236	252	(2)	2,354	
泌尿器科	594	623	(10)	5,887	1
脳神経外科	310	323	(12)	5,349	
皮膚科	135	137	(0)	1,292	
形成外科	344	367	(2)	5,488	
心臓血管外科	122	137	(0)	3,047	
合計	12,871	12,922	(361)	144,060	10

◇病床利用率・平均在院日数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
一般病床利用率	96.3%	94.0%	97.9%	98.6%	94.8%	93.5%	90.9%	92.8%	95.4%	94.9%	98.7%	98.5%	95.5%
平均在院日数	10.1	10.4	9.9	10.3	10.5	10.2	9.5	9.8	9.7	10.6	10.2	10.1	10.1

◇地域別患者数

		入院	外来
南部	那覇市	26.2%	29.5%
	豊見城市	25.5%	22.2%
	糸満市	21.9%	18.8%
	その他	11.1%	15.7%
中部		2.5%	4.7%
北部		1.0%	1.0%
離島		9.1%	5.8%
県外・その他		2.7%	2.3%
合計		100%	100%

◇地域がん届出件数

診療科	件数
内科	159
小児科	0
外科	314
整形外科	1
眼科	0
産婦人科	99
耳鼻咽喉科	31
泌尿器科	194
脳神経外科	12
皮膚科	48
形成外科	1
心臓血管外科	0
合計	859

◇診療科別手術件数・麻酔件数（手術室）

診療科	手術件数				麻酔件数							
	外来		入院		全身麻酔	脊椎麻酔	静脈麻酔	硬膜外麻酔	局所麻酔	ブロック	点眼麻酔	無麻酔
	予定	緊急	予定	緊急								
内科	3	1	9	2	4	0	3	0	8	0	0	0
小児科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外科	642	65	329	108	784	12	93	0	250	5	0	0
整形外科	714	36	1,009	93	475	925	3	0	213	234	0	2
眼科	302	1	98	2	14	385	0	0	4	0	0	0
産婦人科	255	7	247	61	250	132	187	0	1	0	0	0
耳鼻咽喉科	106	1	28	2	127	0	0	0	10	0	0	0
泌尿器科	434	28	55	66	100	274	169	0	31	0	0	9
脳神経外科	52	36	73	63	179	0	0	0	45	0	0	0
皮膚科	86	0	19	0	3	7	0	0	95	0	0	0
形成外科	530	15	187	14	246	27	3	0	400	70	0	0
麻酔科	0	0	0	2	0	0	0	1	0	1	0	0
心臓血管外科	32	1	110	30	169	0	0	0	4	0	0	0
計	3,156	191	2,164	443	2,351	1,762	458	1	1,061	310	0	11
合計	5,954				5,954							

◇心臓カテーテル件数

CAG(冠動脈造影検査)	1,011	ペースメーカー	体外式	14
PCI(冠動脈形成術)	372		移植術	31
PPI(下肢末梢動脈血管形成術)	86		交換術	7
EPS(電気生理学検査)	8	CRT-D	移植術	6
Ablation(心筋焼灼術)	150		交換術	2
PTMC(僧帽弁交連切開術)	2	CRT-P	移植術	1
PTAV(大動脈弁交連切開術)	0		交換術	0
LOOP心電計	1	ICD	移植術	3
その他	344		交換術	4
合 計				2,042

◇診療科別化学療法 患者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
内 科	15	14	14	15	15	13	13	13	12	14	15	18	171
小 児 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外 科	32	34	38	39	34	33	30	29	35	34	40	42	420
整 形 外 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
眼 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
産 婦 人 科	2	6	7	5	5	4	2	4	4	4	6	6	55
耳 鼻 咽 喉 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
泌 尿 器 科	5	7	7	7	8	7	7	6	6	6	4	3	73
皮 膚 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
脳 神 経 外 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
形 成 外 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
心 臓 外 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	54	61	66	66	62	57	52	52	57	58	65	69	719

※点滴室管理実績

◇診療科別化学療法 延べ患者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
内 科	25	22	22	21	24	22	28	24	22	26	26	41	303
小 児 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外 科	60	55	70	70	64	56	45	52	56	50	68	81	727
整 形 外 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
眼 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
産 婦 人 科	2	7	10	7	5	5	2	9	5	6	7	10	75
耳 鼻 咽 喉 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
泌 尿 器 科	6	7	10	11	11	8	8	8	6	7	4	4	90
皮 膚 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
脳 神 経 外 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
形 成 外 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
心 臓 外 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	93	91	112	109	104	91	83	93	89	89	105	136	1195

※点滴室管理実績

◇内視鏡検査件数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
上部消化管内視鏡 (FGS)		268	234	284	281	265	271	289	242	297	262	240	295	3,228
下部消化管内視鏡		213	179	227	251	245	237	234	239	239	216	211	232	2,723
EUS		22	15	23	17	18	12	15	26	23	28	29	27	255
ERCP関連		23	26	33	16	18	16	11	28	33	21	25	36	286
ESD	食道	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	胃	2	1	3	2	0	0	1	3	1	4	3	4	24
	大腸	2	4	4	3	1	1	3	3	1	3	3	3	31
気管支内視鏡検査		10	12	5	18	11	8	10	10	7	3	9	9	112
合 計		540	472	579	588	558	545	563	551	601	537	520	606	6,660

◇治療法別透析患者延べ数・患者数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
血液透析	人数	225	232	281	250	307	256	246	249	244	240	258	273	3,061
	延べ	2,233	2,241	2,357	2,406	2,310	2,331	2,359	2,139	2,315	2,237	2,257	2,474	27,659
血液透析濾過	人数	26	26	27	31	32	37	35	35	35	30	34	39	387
	延べ	258	286	318	333	342	404	346	381	381	336	371	421	4,177
血液濾過	人数	1	0	1	0	2	0	0	1	0	0	0	3	8
	延べ	4	0	2	0	2	0	0	2	0	0	0	15	25
血漿交換	人数	1	2	3	6	1	1	0	1	0	1	0	2	18
	延べ	2	5	24	31	1	2	0	2	0	2	0	5	74
エンド吸着	人数	0	1	2	0	2	4	0	1	0	0	0	0	10
	延べ	0	1	2	0	4	6	0	1	0	0	0	0	14
血球成分除去	人数	1	0	1	1	0	0	1	1	1	0	1	1	8
	延べ	4	0	1	9	0	0	2	4	4	0	5	5	34
C H D F	人数	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	4
	延べ	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	5
腹水濾過	人数	1	2	1	2	3	2	1	1	1	1	1	1	17
	延べ	1	2	3	3	3	3	2	2	1	2	2	1	25
C A P D	人数	14	15	14	14	14	14	15	15	18	15	15	16	179
	延べ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
I P D	人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延べ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
離 脱	人数	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	延べ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
生体腎移植	人数	1	1	2	2	1	2	3	2	3	3	2	1	23
	延べ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	人数	272	279	332	306	362	316	301	306	303	290	312	337	3,492
	延べ	2,504	2,535	2,707	2,782	2,662	2,746	2,709	2,531	2,702	2,577	2,636	2,922	31,983

◇薬剤管理指導料等

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1.救命救急入院料	81	71	70	75	75	53	53	36	53	52	52	50
2.特に安全管理が必要な医薬品	732	603	686	751	675	656	734	687	765	649	690	767
3.1および2以外	707	626	826	739	727	690	685	759	757	759	768	783
退院時薬剤情報管理指導料	649	535	651	642	606	532	615	636	656	632	667	715
薬剤麻薬管理指導料加算	17	10	12	23	21	14	22	16	11	13	12	14

◇リハビリ疾患別総単位数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
心大血管疾患 リハビリ（Ⅰ）	外来	321	311	514	453	364	416	441	506	511	357	360	460
	入院	1,082	1,038	1,300	1,165	1,224	932	1,174	1,043	1,161	1,214	1,139	1,249
脳血管疾患等 リハビリ（Ⅰ） イ.口以外の場合	外来	21	8	57	58	22	19	29	30	21	22	24	45
	入院	4,781	3,633	3,660	3,750	3,805	3,236	3,417	3,267	2,903	3,134	3,845	4,276
脳血管疾患等 リハビリ（Ⅰ） ロ.廃用症候群	外来	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	入院	2,657	3,216	2,755	3,048	2,905	2,783	2,931	3,420	3,045	3,167	2,952	2,793
運動器リハ ビリ（Ⅰ）	外来	722	649	813	706	631	669	660	605	672	642	595	723
	入院	7,276	6,841	8,001	7,473	7,218	6,182	6,089	5,589	5,880	5,071	5,173	5,783
運動器リハ ビリ（Ⅱ）	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
呼吸器リハ ビリ（Ⅰ）	外来	22	16	22	23	23	14	26	10	8	2	4	0
	入院	3,154	3,404	3,702	3,436	3,234	3,242	3,103	2,144	2,296	2,722	2,601	2,427
がん患者 リハビリ	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	251	145	326	213	262	262	335	177	106	198	103	286
摂食機能療法	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
早期リハビリ テーション加算	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	16,617	15,158	16,835	15,943	16,061	14,174	14,016	12,945	12,948	13,066	13,502	13,514
初期リハビリ テーション加算	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	12,167	11,415	13,010	11,745	12,003	10,091	10,313	9,543	10,500	9,547	10,286	9,660

◇栄養指導件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
個別栄養指導	439	358	379	324	363	288	373	352	359	362	419	418	4434	369.5
入院	330	274	281	234	271	209	256	250	275	257	301	314	3252	271
外来	109	84	98	90	92	79	117	102	84	105	118	104	1182	98.5
集団栄養指導	5	3	2	0	0	2	4	4	2	0	2	2	26	2.166667
N S T	462	432	554	571	443	363	401	515	471	521	534	536	5803	483.5833

◇食事別延食数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
一般食	12,355	12,847	12,841	15,121	13,416	12,610	12,883	13,219	13,347	12,449	11,985	12,444	155,517
特別食	14,185	13,466	13,979	13,210	13,166	12,701	12,577	12,376	13,719	13,590	13,302	14,484	160,755
経管栄養食	1,285	1,551	1,177	1,343	1,432	1,741	1,395	1,058	1,525	2,084	2,161	2,435	19,187
産科食	519	738	534	701	583	558	730	627	586	689	611	619	7,495
手作りおやつ(産科)	167	236	165	230	188	177	238	204	187	221	203	200	2,416
合計	28,511	28,838	28,696	30,605	28,785	27,787	27,823	27,484	29,364	29,033	28,262	30,182	345,370

◇検体検査件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
尿・一般検査	8,984	8,510	9,150	9,392	8,506	8,299	8,963	8,689	9,274	9,519	9,439	9,948
生化学	13,715	13,157	14,133	14,341	13,475	13,710	13,984	13,563	14,585	14,336	14,272	15,500
血液検査	12,828	12,073	13,178	12,748	12,297	12,311	12,687	12,212	13,834	13,204	13,267	14,359
血清・ホルモン	4,611	4,685	4,855	4,835	4,690	4,855	5,119	4,737	5,172	5,267	4,902	5,211
細菌検査	1,947	1,989	2,181	2,201	1,953	1,801	1,945	1,882	2,293	2,464	2,289	2,264
輸血・他	2,579	2,255	2,588	2,581	2,358	2,452	2,574	2,539	2,623	2,607	2,689	2,824
外注検査	5,066	4,453	5,282	4,861	4,655	4,485	5,021	4,573	4,869	4,925	5,023	4,806
合計	49,730	47,122	51,367	50,959	47,934	47,913	50,293	48,195	52,650	52,322	51,881	54,912

◇生理機能検査

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
心電図	2,018	1,985	2,222	1,783	1,728	1,602	1,930	1,751	1,808	1,749	1,799	1,772
負荷心電図	42	43	67	75	59	59	63	48	49	46	42	63
トレッドミル	12	8	12	11	15	13	11	11	10	15	6	11
ホルター心電図	68	46	72	62	52	61	73	73	72	74	60	70
腹部エコー	710	687	714	770	752	738	760	678	816	755	761	820
エコー造影	1	3	2	7	0	1	0	0	0	0	0	0
表在エコー	407	364	390	383	363	364	492	476	445	374	452	398
心臓エコー	183	199	238	211	157	171	170	222	162	222	206	235
肺機能検査	331	337	366	366	355	336	364	360	329	345	343	423
A B I	160	121	139	161	90	106	109	93	116	124	143	155
脳波検査	14	8	9	12	12	15	14	9	11	10	12	14
誘発筋電図	7	13	11	14	9	8	9	6	13	7	10	6
心電図記憶装置	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	3,953	3,814	4,243	3,855	3,592	3,474	3,995	3,727	3,831	3,721	3,834	3,967

◇バスキュラーラボ

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
頸部血管	99	99	112	100	92	91	93	91	92	92	125	113
下肢	142	141	155	177	133	151	154	149	160	118	122	88
上肢	59	58	51	56	71	71	61	58	56	45	44	58
腹部血管	30	34	36	27	38	25	40	30	25	36	46	45
心臓エコー	484	460	561	532	533	503	549	554	541	525	540	599
経食道エコー	13	12	12	14	13	18	16	13	9	21	19	15
ドブタミン負荷	3	0	2	2	1	0	2	1	0	0	1	0
エルゴ負荷	4	2	3	2	2	0	0	0	0	0	0	0
EKG	7	2	5	4	3	0	2	1	0	0	1	0
APG検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ABI検査	93	90	89	59	93	89	79	83	89	96	92	113
FMD	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SRPP	18	11	11	7	7	7	10	8	7	9	16	23
合計	953	909	1,037	980	986	955	1,006	988	979	942	1,006	1,054

◇検体件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
病理検体	473	426	521	544	468	481	501	474	507	471	489	508	5863	488.583
術中迅速(再掲)	(19)	(8)	(13)	(17)	(13)	(13)	(13)	(13)	(5)	(16)	(17)	(16)	(163)	(25.077)
細胞診検体	1030	988	1244	1301	1222	1212	1442	1316	1346	1130	1254	1272	14757	1229.75
術中迅速(再掲)	(0)	(0)	(1)	(0)	(1)	(0)	(0)	(2)	(0)	(1)	(2)	(0)	(7)	(0.583)
免疫抗体法件数	21	42	18	33	29	32	31	33	54	30	37	31	391	32.583
剖検	2	0	0	0	4	0	0	0	0	2	2	0	10	0.833
合計	1526	1456	1793	1878	1723	1725	1974	1823	1907	1633	1782	1811	21031	1752.583

◇検体枚数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
組織検査総標本枚数	1,724	1,484	1,448	1,622	1,477	1,575	1,759	1,662	1,615	1,525	1,664	1,836	19,391	1,615.917
細胞診検査総標本枚数	2,010	2,093	2,646	2,823	2,841	2,493	2,951	2,864	2,905	2,368	2,666	2,830	31,490	2,624.167
免疫抗体法総標本枚数	91	202	76	167	166	172	179	170	182	137	157	146	1,845	153.75
合計	3,825	3,779	4,170	4,612	4,484	4,240	4,889	4,696	4,702	4,030	4,487	4,812	52,726	4,393.833

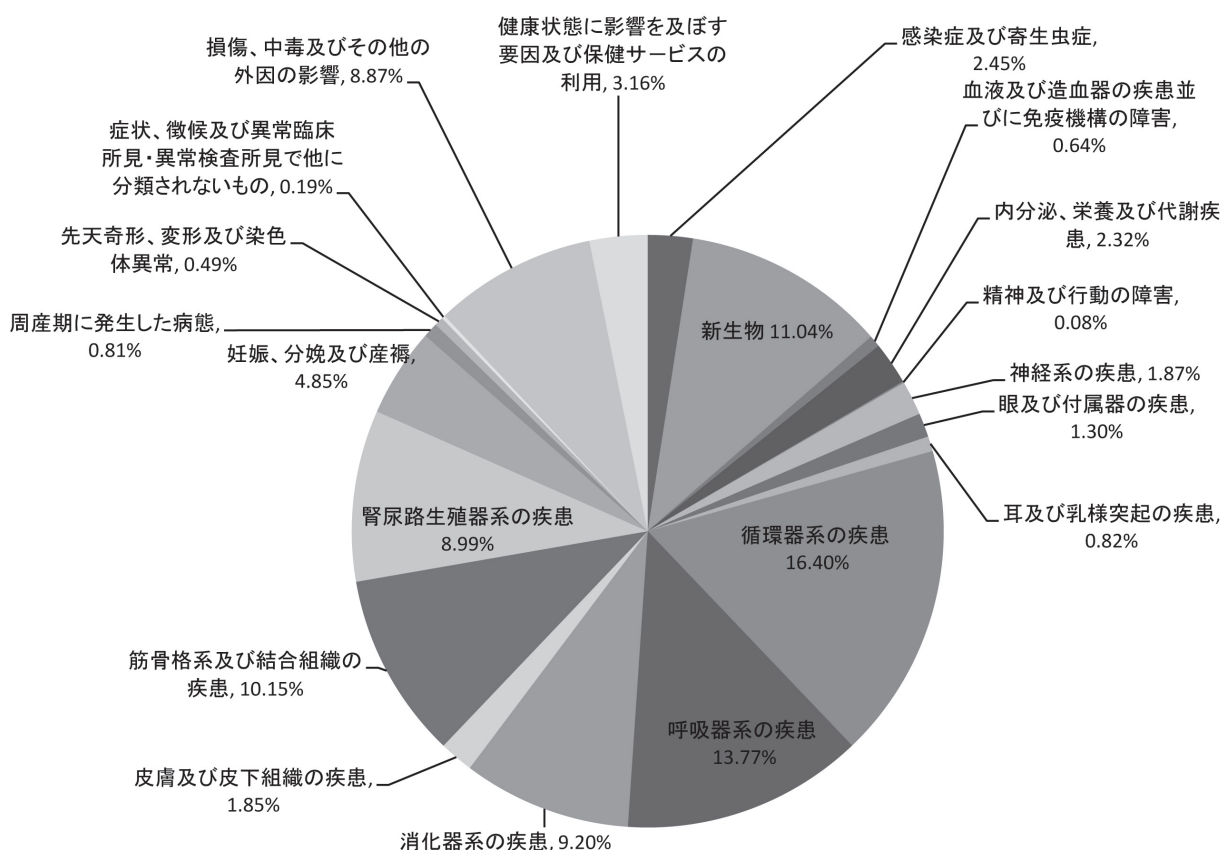
◇画像撮影件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
一般撮影	5,498	5,434	5,700	5,725	5,394	5,227	5,487	5,469	5,617	5,915	5,794	6,187
軀幹	4,298	4,169	4,378	4,388	4,207	4,111	4,337	4,223	4,423	4,740	4,716	4,885
その他	1,200	1,265	1,322	1,337	1,187	1,116	1,150	1,246	1,194	1,175	1,078	1,302
ポータブル	464	424	550	445	389	348	369	394	477	404	425	501
造影検査	73	74	88	88	79	62	83	80	107	95	109	129
上部消化管 (UGI)	8	7	10	9	7	1	8	10	12	20	22	13
バリウム直腸検査 (BE)	16	15	13	15	13	14	16	11	16	22	15	15
胆嚢胆道系	0	2	2	0	2	1	0	0	0	0	2	2
術中造影	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
泌尿器系	3	3	2	1	2	7	2	2	2	2	3	4
脊髄	18	17	23	26	16	13	21	14	17	11	20	20
関節造影	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
子宮卵管造影 (HSG)	14	7	15	10	7	5	16	14	18	10	15	24
血管造影	2	1	1	0	0	1	0	0	2	0	0	0
その他造影	12	20	18	24	29	19	17	27	37	23	32	48
透視のみ	0	2	3	3	2	1	3	2	3	7	0	3
マンモグラフィー	80	53	54	79	93	65	93	133	109	78	117	78
骨塩定量	172	150	191	166	173	122	183	136	172	156	162	166
腰椎正面	81	72	85	77	79	57	87	64	79	73	77	79
腰椎側面	2	6	4	0	2	2	4	1	3	0	0	0
大腿頸部	79	66	83	76	81	56	85	62	80	71	75	78
前腕	10	6	17	13	11	7	7	9	10	12	10	9
手	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
踵骨	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
全身	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
モルフォメトリー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
CT検査	1,685	1,539	1,845	1,793	1,737	1,697	1,851	1,720	1,794	1,846	1,877	1,961
単純												
頭頸部	423	429	491	477	481	463	566	474	530	540	571	616
躯幹部	865	783	924	913	855	843	883	863	858	872	904	916
その他	62	52	68	52	63	61	64	62	42	62	38	55
造影												
頭頸部	17	10	13	6	18	11	13	14	13	12	16	11
躯幹部	189	151	173	178	181	151	187	153	190	179	169	195
その他	3	3	5	5	1	5	5	2	6	8	2	5
単純造影												
頭頸部	4	6	15	16	5	12	9	15	8	12	9	12
躯幹部	122	105	156	146	133	151	124	137	147	161	168	151
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
MRI検査	564	536	591	546	487	498	565	505	546	475	517	567
単純												
頭頸部	207	201	224	207	164	189	212	175	189	165	185	200
躯幹部	212	196	214	213	212	188	196	200	217	181	208	221
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
造影												
頭頸部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
躯幹部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	70	68	84	69	52	56	70	66	80	53	56	82
単純造影												
頭頸部	17	21	26	18	17	9	21	13	7	15	14	10
躯幹部	54	46	40	35	41	52	64	47	52	59	49	53
その他	4	4	3	4	1	4	2	4	1	2	5	1
RI検査	82	57	91	75	61	56	57	56	54	60	74	85
脳	12	5	8	5	6	2	7	8	9	7	13	13
心臓	42	32	52	45	38	34	36	31	28	37	40	55
肝臓	1	1	1	0	2	0	0	1	4	1	2	0
腎臓	7	4	3	4	1	4	4	6	1	3	2	2
骨	18	10	21	19	9	14	8	7	9	11	15	13
腫瘍	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	2	5	6	2	5	2	2	3	3	1	2	2
合計	8,618	8,267	9,110	8,917	8,413	8,075	8,688	8,493	8,876	9,029	9,075	9,674

◇ICD-10大分類による退院診療科別患者数

大分類	内科	小児科	外科	整形外科	眼科	産婦人科	耳鼻科	泌尿器科	脳外科	皮膚科	形成外科	心臓血管科	計
感染症及び寄生虫症 (A00-B99)	188	64	15	1		4	4	1		40	1		318
新生物 (C00-D48)	355		427	12	1	246	24	261	10	38	70	1	1,445
血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害 (D50-D89)	59	1	9			6		5		2	1		83
内分泌、栄養及び代謝疾患 (E00-E90)	290	5	5			1							301
精神及び行動の障害 (F00-F99)	10	1											11
神経系の疾患 (G00-G99)	160	12	1	13			23		32		1		242
眼及び付属器の疾患 (H00-H59)	3				161						5		169
耳及び乳様突起の疾患 (H60-H95)	26	4					76						106
循環器系の疾患 (I00-I99)	1,780		101	5			1	1	209	1	2	133	2,233
呼吸器系の疾患 (J00-J99)	849	728	27	1			104		1			1	1,711
消化器系の疾患 (K00-K99)	650	3	518	2		6	7	1			5		1,192
皮膚及び皮下組織の疾患 (L00-L99)	78	5	12	11			3			56	75		240
筋骨格系及び結合組織の疾患 (M00-M99)	145	15	3	1,113							39		1,315
腎尿路生殖器系の疾患 (N00-N99)	374	17	59	2		482		275			3		1,212
妊娠、分娩及び産褥 (O00-O99)	1					627					1		629
周産期に発生した病態 (P00-P96)		105											105
先天奇形、変形及び染色体異常 (Q00-Q99)	2	2	2	1			5	6	5		40		63
症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの (R00-R99)		23	1				1						25
損傷、中毒及びその他の外因の影響 (S00-T98)	148	11	78	701	1	10	4	11	60		124	2	1,150
健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用 (Z00-Z99)	276	1	61	1		3		62	6				410
計	5,394	997	1,319	1,863	163	1,385	252	623	323	137	367	137	12,960

疾病分類—大分類比率



人員体制

池原 泰彦（医長）：千葉大学病院総合診療部登録医
 小幡 景太：内科認定医
 他、後期・初期研修医数名

■診療内容

1. 内科初診外来

以下①から④に該当する患者の診療

- ① 自分の症状が何科を受診するかわからない
- ② 他の医療機関で治療しているがよくなるしない
- ③ 特定診療科の宛名がない紹介状持参
- ④ 当院かかりつけなので普段診てもらっている病気の症状とは違うが診察希望
 当院に存在しない科（血液内科、心療内科、感染症内科、神経内科）の初療担当
- ⑤ 各種ワクチン
- ⑥ 各種健診
- ⑦ 針刺し事故における診療

2. 外来診療を通しての研修医教育

■目標

研修医教育の強化

2014年度後期から後期研修医に加え、初期研修医の外来診療研修も開始され、主にCommon diseaseに対する臨床推論を学ぶ事で、ER研修にいかすことができるようにする。

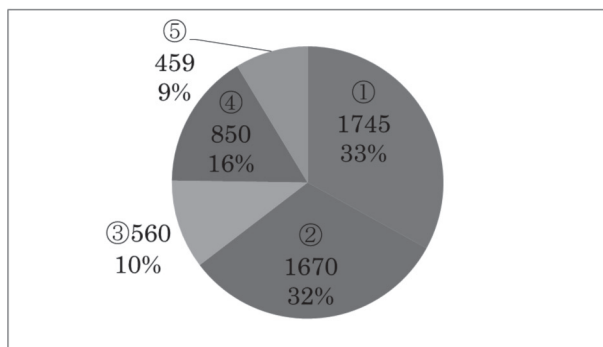
■2015年度の取り組み・実績

各種カンファレンスで、臨床推論・診断ピットフォールを伝える事で、見逃しによる医療事故を減らす努力に努めている

院内カンファレンスでの発表

- ①内科勉強会（14回）
- ②ランチョンセミナー（1回）
- ③ERカンファ・ファシリテーター（複数回）

定期的なカンファレンス以外で初期研修医がERで診療にあたった症例に対して個別に指導を行っている
 年間患者数 5,284人（ワクチン、健診等除く）



- ① 初診
- ② 当院かかりつけの急性症状
- ③ 院内紹介
- ④ 院外紹介
- ⑤ 職員

人員体制

遠藤一博（部長）：日本神経学会専門医・指導医、内科認定医、日本神経治療学会評議員、日本神経免疫学会評議員、医学博士
 西平 靖（医長）：日本神経学会専門医・指導医、内科認定医、死体解剖資格、医学博士
 長谷川樹里：内科認定医、総合内科専門医、日本神経学会専門医

■診療内容

神経内科は脳や脊髄、末梢神経、筋肉の病気を見る内科である。体を動かしたり、感じたりすることや、考えたり覚えたりすることがうまくできなくなったときに神経内科の疾患を疑う。症状としては、しびれやめまい、うまく力が入らない、歩きにくい、ふらつく、つっぱる、ひきつけ、むせ、しゃべりにくい、ものが二重に見える、頭痛、かつてに手足や体が動いてしまう、物忘れ、意識障害など多岐にわたる。したがって、脳神経外科、整形外科、眼科、耳鼻科、精神科との連携が必要である。

当科では、脳卒中、認知症診療をはじめ、診断、治療に必要な神経画像検査（MRI、脳血流検査など）や、髄液検査、電気神経検査、病理学的検査（筋生検、神経生検）も可能であり、関連施設との連携により特殊検査（自己抗体関連検査、遺伝子解析など）も実施している。

地域医療に貢献すべく、上記診断ツールを活用しながら日々の診療、治療を実施している。

■2015年度の取り組み・実績

学会発表

- Creutzfeldt-Jakob disease (CJD) 疑いとして当院紹介となった進行性認知症の2例
- 雷鳴様頭痛と椎骨脳底動脈系脳虚血症状を呈し、reversible cerebral vasoconstriction (RCVS) と考えられた若年女性の1例
- 亜急性進行性認知機能低下で発症した多発性硬化症の一解剖例
- 一側上肢の麻痺を伴ったMRSAによる深頸部膿瘍の1例
- An autopsy case of inflammatory demyelinating disease showing subacute progressive cognitive impairment.
- 経過中に類天疱瘡を認めた、RA因子陽性、肥厚性軟膜炎の一生検例
- 右耳帯状疱疹と右前庭神経障害主訴とした遅発性の完全形hunt症候群

■人員体制：10名

- ・新崎 修 (部長)
担当：インターベンション、末梢血管
- ・玉城 正弘 (部長) 担当：ICU、画像診断
- ・嘉数 真教 (部長)
担当：インターベンション、末梢血管
- ・大庭 景介 担当：不整脈、デバイス
- ・前田 峰孝 担当：不整脈、デバイス
- ・知念 敏也
担当：インターベンション、末梢血管
- ・嘉数 敦
担当：インターベンション、末梢血管
- ・阿部 昌巳
担当：インターベンション、末梢血管
- ・山口 伶
担当：インターベンション、末梢血管
- ・奥山 和明
担当：インターベンション、末梢血管

★施設認定

- ・心血管インターベンション研修施設
- ・不整脈専門医研修施設

★資格

- ・循環器専門医 4人
- ・インターベンション専門医・指導医：1人
- ・インターベンション認定医：4人
- ・不整脈専門医：2人
- ・心臓リハビリテーション指導士：1人

■診療内容

当院は沖縄本島南部地区の中核病院であり、24時間あらゆる循環器疾患に対応できる体制をとっており、2012年度には循環器ドクターカー、2014年末からは救急隊との心電図伝送システムを開始している。「循環器はチームワークが第一」のモットーのもと、講演会や市民公開講座を通じて地域連携も積極的にはかっている。

各部門には専門医がおり、年間1,000例を超えるカテーテル症例もあるため、様々な症例の診断・治

療に対してもそれぞれの専門医から適切なアドバイスが得られる他、ほぼ毎日カンファレンス・勉強会もあり、学会発表も積極的に支援しており、充実した臨床研修を行っている。

また、更なるスキルアップを目指し国内外への修にも若手医師を派遣している。(2016年12月より山口医師がアメリカで研修生活を開始する予定である。)

■目標

2011年5月より院内に心臓血管外科を開設し、外科との協力体制も円滑に立ち上がっている。ICD・CRTの施設認定・不整脈専門医の施設認定も獲得しており、今後は地域からの要望にさらに答えられる充実した診療体制に(特に救急患者受け入れ態勢)の充実を図り、各種専門的治療の質・量共に向上を目指してゆく。

■2015年度の実績 (2014年度との比較)

総カテーテル件数2,179件 (←1,931件)
 PCI：372件 (←310件)
 PPI：86件 (←78件)
 Ablation：150件 (←143件)
 Pacemaker：54件 (←71件)
 緊急カテーテル：184件 (←136件)
 緊急PCI：66件 (←61件)
 シェントPTA：142件 (←107件)

■現状と課題

これまでも課題としてきた救急患者受け入れ態勢に関してはドクターカーの運用 地域救急隊との勉強会の開催に加え、2014年末からは救急隊との24時間心電図伝送システム活用を開始しており、救急隊との連携がより強固なものになっていると実感している。また開業医の先生に対しては 循環器ホットラインを提供して求められる救急循環器疾患への診療体制の充実を図ってゆくとともに 当院での診療情報を勉強会等で紹介する啓蒙活動を継続してゆく。

人員体制

加藤 功大（部長）
 日本消化器病学会指導医および専門医、日本消化器内視鏡学会指導医および専門医
 日本肝臓学会専門医、日本緩和医療学会暫定指導医、日本がん治療認定機構認定医
 日本再生医療学会認定医
 真喜志 知子（内視鏡センター長）
 日本消化器病学会指導医および専門医、日本消化器内視鏡学会指導医および専門医
 大城 拓巳：日本消化器病学会専門医
 石原 祐二：日本消化器病学会専門医
 大中 祐太郎：日本再生医療学会認定医
 比嘉 剛二（後期研修医）

■診療内容

当院は沖縄本島南部地域の中核病院であり、消化管、胆膵、肝のすべての疾患に対応できる体制を整えている。主な業務は内視鏡関連業務が多いのが特徴であり、同時に4ブースを内視鏡検査に使っている。また、内視鏡センター内に専用透視室が設けられており、常時緊急ERCP検査に対応可能である。当科の業務内容において力を入れていることに若手教育がある。「医術は芸術ではない。上級医が育ったように教えるのではなく、合理的に濃縮して下へ教えるべし」をモットーに指導にあたっている。中でも内視鏡操作技術、内視鏡画像読影力に力を入れており、スキルアップを図るため、全国の有力施設への研修にも積極的に参加させるよう務めている。最近では先進医療研究センターと協力し、東京女子医科大学の細胞シート技術移転により、食道ESD後の細胞シート貼付による狭窄予防に取り組んでいる。

■目標

人員減に伴い、業務の合理化を勧め、検査件数維持、夜間緊急処置体制維持を目標とする。外部へのスタッフ勧誘に力を入れて、再度安定した布陣を整える。また、業務超過による体調不良を避けるため、全体的な業務量の削減にも着手する。

■2015年度の取り組み・実績

2015年度は前年度と比べ人員が9名から5名へ減員となり、2012年多忙な年度であった。7月から1名スタッフ採用とし6名体制になってからはやや落ちついたが、それでも外来を完全予約制にするなど、地域への医療提供サービスは下がったと考えられる。それでも沖縄県南部地域の基幹病院として夜間の消化器疾患の救急受け入れは従来通りの体制を維持できた。今年度末にオリンパスとのVPP契約期間が終了し、新しいシリーズの内視鏡機器が導入予定となっており、今後のモチベーションとしていきたい。

実績の推移表

区分 件数	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
上部消化管内視鏡	2,862	3,106	2,942	3,379	3,261	3,224
下部消化管内視鏡	1,897	1,979	1,974	2,635	2,833	2,739
EUS	181	278	256	222	197	251
ERCP関連	200	195	237	270	308	286
ESD食道	12	5	4	10	4	5
ESD胃	23	23	21	22	27	20
ESD大腸	24	28	29	41	37	31
計	5,199	5,614	5,463	6,579	6,667	6,556

人員体制	<p>松本 強（内科副院長）：呼吸器内科専門医・指導医、認定内科医、総合内科専門医、内科指導医、産業医</p> <p>佐藤陽子（呼吸器内科医長）：呼吸器内科専門医、認定内科医、総合内科専門医、内科指導医、産業医</p> <p>岩瀬悠介（呼吸器内科医師）：認定内科医</p> <p>所属学会：内科学会、呼吸器学会、肺癌学会、アレルギー学会、睡眠学会、呼吸ケア・リハビリ学会等。</p>
-------------	---

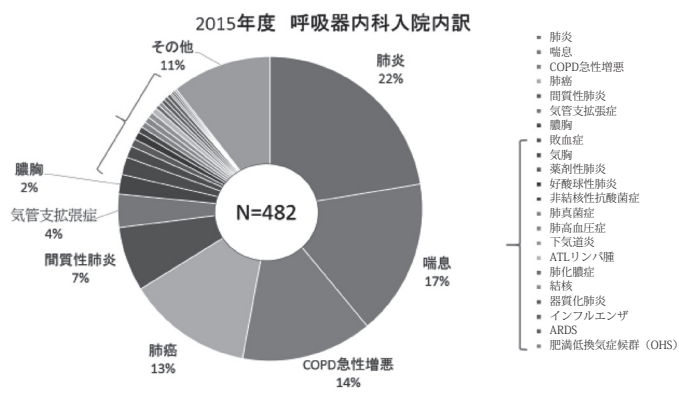
■診療内容

地域支援病院として、地域の要求に応えられる呼吸器内科診療を目指す。EBMに基づいた呼吸器専門医による標準的治療を基本として、納得のいく良質な医療を提供し、病診連携、病薬連携にて地域での包括的な医療を行いたい。

1. 呼吸器紹介患者の精査と治療：肺癌、間質性肺炎など「慢性肺疾患」、他呼吸器一般。
2. 呼吸器救急患者の入院治療：市中肺炎、医療・介護関連肺炎、喘息増悪、COPD急性増悪、間質性肺炎急性増悪、気胸、咯血、ARDSなど。
3. 重症慢性肺疾患の治療：重症喘息、COPD、慢性呼吸不全など。
4. 睡眠時無呼吸症候群の診断・治療：終夜ポリソムノグラフィーによる診断、CPAP治療。
5. 希少肺疾患の診断・治療：サルコイドーシス、非結核性抗酸菌症、肺胞蛋白症、PLCHなど。
6. 呼吸療法士、呼吸リハビリスタッフも回診に参加した呼吸器診療を実施しています。

■2016年の目標

- ・ 登録医より紹介・精査、入院・治療、逆紹介患者数の増加
- ・ 積極的学会活動を通して呼吸器内科の県内への実績アピール
- ・ 呼吸器内科人材の育成と獲得
- ・ 内科専門医を目標とする後期研修医の研修指導。
- ・ 呼吸器内科でのグループ診療に徹する。



■2015年度の取り組み・実績

- ①学会、講演、論文: 県内外で10件の学会（4）、研究会（5）発表と、医学書執筆（1）を行った。
 - ・呼吸器内科レジデントマニュアル第5版
医学書院、松本 強、p12-21,2015
- ②平成27年度の呼吸器内科入院患者（n=482名）の主病名の内訳は下図の通りである。本邦死因第3位の肺炎は、当院でも高齢化社会を反映して医療・介護関連肺炎（NHCAP）が増加している。しかし、当院では呼吸器内科のみで本疾患を診ているのではない。内科各科に振り分け診療しており、当科症例はその一部である。重症例のみ呼吸器内科に入院としている。喘息、肺癌、COPD急性増悪、間質性肺炎など主要疾患、その他種々な稀少疾患など第一線の市中病院として実に多彩な疾患に対応している。特に進行肺癌の分野では分子標的治療薬の発展が著しく、数年前では考えられない延命効果をもたらしている。当院では次々と登場する新規治療薬（免疫チェックポイント阻害薬を含め）を積極的に取り入れ、地域における患者様へ、数少ない呼吸器専門医として貢献している。

■人員体制：14名

潮平芳樹（院長）

内科学会認定医、総合内科専門医

腎臓学会専門医・指導医

透析医学会専門医・指導医

リウマチ学会専門医

下地國浩（部長）

内科学会認定医、総合内科専門医

透析学会専門医・指導医 腎臓病学会専門医

日本プライマリケア学会認定医・専門医

上地英司

内科学会認定医 日本リウマチ学会専門医

日本アレルギー学会専門医

公衆衛生学修士

小祿雅人

内科学会認定医、リウマチ学会専門医

腎臓病学会専門医

村山知生

内科学会認定医 腎臓病学会専門医

日本リウマチ学会専門医

西平守邦

内科学会認定医 総合内科専門医

日本移植学会移植認定医 ICD

日本化学療法学会抗菌薬療法認定医

腎臓病学会専門医 透析専門医

永山聖光

内科学会認定医 腎臓学会専門医

喜久村祐

内科学会認定医 腎臓病学会専門医

総合内科専門医 透析学会専門医

玉寄しおり

内科学会認定医

照喜名重朋

矢萩浩一

中田知愛

関口卓也（後期研修医）

内科学会認定医

土井啓史（後期研修医）

■診療内容

（腎臓病領域）透析医療は、高額な医療費が必要な国民病として、さまざまな問題を抱えている。そのため、早期に腎臓病の兆候を見つけ診断し、治療介入する予防医療が大切である。腎生検はその早期診断と重症度の評価において最も重要な検査の一つである。当科では、2016年年度は年間約80例の腎生検を施行している。血液透析（HD）療法以外に腹膜透析（PD）や腎移植の領域にも診療にあたっている。さらに、腎代替療法専門外来（そらまめ外来）を始めている。その外来は医師・看護師だけではなく、臨床心理士・栄養士・薬剤師を含めた多職種機能型外来として活動している。

●腎代替療法選択外来に受診された患者の内訳

外来内訳 患者数（人）

PD選択患者 6

HD選択患者 5

移植選択 3

（リウマチ膠原病領域）関節リウマチの診療は新時代を迎えている。早期診断に関する進歩と生物学的製剤の導入である。当科では早期診断に関して関節エコーを積極的に取り入れ、診断の補助だけでなく治療効果の判定にも役立てている。そして、目標達成に向けた治療（Treat to Target; T2T）を推奨し積極的に生物学的製剤の導入を行っている。膠原病の代表疾病である全身性エリテマトーデス（SLE）では、合併症として腎障害をよく認める。腎臓内科を併科することにより、早期診断・早期治療をできるのが当科の特徴である。

■目標

初期、後期研修医が研鑽できる環境を充実させ地域医療に貢献できるよう啓蒙活動や逆紹介を積極的に行う。

■2016年度の取り組み

腎臓リハビリ導入の計画や南部地区の災害対策の取り組みを始めた。そらまめ外来の負担軽減のため、CKD外来新設に向けて取り組んだ。透析では、IHDF、On-line HDFの導入を行った。国内留学も取り入れているが、この年度はいなかった。

人員体制

安里 豊（医長）：日本皮膚科学会専門医、皮膚悪性腫瘍指導医
医学博士、日本皮膚外科学会会員

■診療内容

一般皮膚科、水疱症、アレルギー、
皮膚感染症、皮膚腫瘍

一般皮膚科診療を中心に行っている。主には、皮膚感染症（蜂窩織炎、帯状疱疹）、水疱症（尋常性天疱瘡、水疱性類天疱瘡）、アレルギー疾患（アトピー性皮膚炎）にくわえて、乾癬は生物製剤治療（インフリキシマブ、アダリブマブ、ウステキヌマブ）の治療も行なっている。皮膚悪性腫瘍（悪性黒色腫、有棘細胞癌、基底細胞癌、乳房外Paget病）などの診断、治療を行なっている。進行期悪性黒色腫は新型免疫療法（ニボルマブ、イピリマブ）の治療も行なっている。

また、週3度の琉球大学病院皮膚科 医師による診察があり、琉球大学病院皮膚科と連携して難しい症例に対応している。

<主な医療機器>

紫外線照射装置、液体窒素、赤外線装置

■目標

当院は地域支援型病院であるため、なるべくさまざまな皮膚科疾患に対応できるように目指したい。

■2015年度の取り組み・実績

2015年度 入院患者の内訳

湿疹・皮膚炎	
薬疹	7
中毒疹	2
アトピー	4
蕁麻疹	1
結節性紅斑	1
紅皮症	1
自家感作性皮膚炎	1
急性汎発性膿疱性細菌疹	1
計	18

皮膚悪性腫瘍	
基底細胞癌	6
有棘細胞癌	7
ボーエン病	1
悪性黒色腫	13
パジェット	1
転移性皮膚癌	1
計	29

自己免疫性疾患	
類天疱瘡	3
アナフィラキトイド紫斑病	2
結節性紅斑	1
計	6

良性腫瘍	
腫瘍	7
脂肪腫	3
計	10

慢性疾患・その他	
その他	1
脱毛症	1
計	2

感染性疾患	
帯状疱疹	38
蜂窩織炎	24
水痘様発疹症	2
毛巣洞	5
膿皮症	3
計	72

総計 137

■人員体制

仲地厚（豊見城中央病院 副院長）

日本外科学会専門医・指導医

日本消化器外科学会専門医・指導医

日本がん治療認定医

消化器がん治療認定医

九州・沖縄ヘルニア研究会世話人

照屋剛（外科腫瘍科部長）

日本外科学会専門医・指導医

日本消化器外科学会専門医・指導医

日本がん治療認定医

消化器がん治療認定医 医学博士

我喜屋亮（呼吸器外科部長）

呼吸器外科専門医 胸部外科認定医

日本外科学会認定医 消化器外科認定医

比嘉国基（乳腺外科部長）

日本乳癌学会認定専門医

日本外科学会認定医

日本腫瘍形成外科学会評議員

日本外科病理学会評議員

大田守仁（外科部長）

日本外科学会専門医

日本移植学会認定医

日本臨床腎移植学会認定医

九州腎移植研究会幹事

沖縄県移植推進委員会委員

比嘉淳子（外科医師）

日本乳癌学会認定専門医

日本外科学会専門医・指導医

澤岷安勝（外科医師）

日本外科学会専門医・指導医

日本消化器外科学会専門医・指導医

日本消化器病学会専門医

日本がん治療認定医

消化器がん治療認定医 医学博士

錦建宏（外科医師）

日本外科学会専門医

島袋伸洋（外科医師）

日本外科学会専門医

辻村一馬（外科医師）

日本泌尿器科学会専門医

花城清俊（外科医師）

日本外科学会専門医

東康晴（外科医師）

日本外科学会専門医

鳥塚大介（外科医師）（後期研修医）

伊波孝路（外科医師）（後期研修医）

屋嘉部生子（看護師）

日本移植学会認定レシピエント

移植コーディネーター

■概要

消化器外科：上部消化管、下部消化管、肝胆膵などの診断・治療・手術（腹腔鏡下、開腹）

胸部外科：肺癌、気胸、縦隔腫瘍、多汗症、肺生検などの診断・治療・手術（胸腔鏡下、開胸）

血管外科：動脈の病気、静脈の病気、リンパの病気の診断・治療・手術 透析患者の内シャント関連

乳腺外科：乳癌の診断・治療・手術（鏡視下）、マンモグラフィーの読影

腎移植外科：慢性腎不全の診断・治療・手術（生体腎移植手術含む）

その他：甲状腺、副甲状腺、副腎、鼠径ヘルニア、腹壁ヘルニアの診断・治療・手術

■全手術症例内訳（2015年度）

胃疾患：43例、小腸十二指腸疾患：8例、大腸癌：93例、直腸癌：28例、肝臓癌：11例、胆嚢・膵臓・胆道癌：18例、胆嚢：97例、虫垂：67例、肛門疾患：3例、脾臓：1例、腸閉塞：12例、腹膜炎：14例、人工肛門閉鎖：20例、ヘルニア：111例

腎移植関連：53例、腎移植：27例

肺・縦隔：81例、乳癌：60例

内分泌（甲状腺、副甲状腺、副腎）：18例

動脈バイパス手術：32例

静脈瘤：126肢

内シャント造設術：105例、その他：133例

合計 1,145例

■診療内容

消化器外科

外科専門医・指導医、消化器外科専門医・指導医、がん治療認定医などの資格を有する常勤医師7人とその他の常勤医師2人とローテーター外科医師3人と後期研修医2人で診療にあたっている。

2015年度は計1,145例の手術をおこなっており、胃：大腸手術においても鏡視下手術の割合は年々増加傾向にある。

消化器疾患治療ガイドラインに沿った治療はもちろんのこと、上部消化管領域では胃癌に対して症例によってPhoto Dynamic Eyeと呼ばれる装置を使用し、センチネルリンパ節理論を併用し胃機能を温存する手術もおこなっている。下部消化管領域では根治性と安全性を勘案しながら腹腔鏡下手術を行うことで侵襲の低減化をはかり、直腸癌については症例によって術前放射線化学療法を施行している。適応があれば肛門を温存するISRと呼ばれる手術も行っている。肝胆膵領域では原発性肝癌のみならず、化学療法後の転移性肝癌手術の切除症例も増加し、また適応があれば腫瘍の占拠部位も加味しながら腹腔鏡下肝切除術も施行している。胆道癌、膵臓癌では根治を目指し、血管浸潤症例に対しても血管合併切除を用いた膵頭十二指腸切除も行っている。最近では胆嚢、虫垂、胃粘膜下腫瘍、鼠径ヘルニアに対して標準的に腹腔鏡下手術を施行している。

切除不能進行癌に対して化学療法、放射線療法、免疫療法による集学的治療を行う事で進行度の低減を図り、可能なかぎり根治手術が行えるように努力している。

平成22年度以降、県と国の補助事業、委託研究事業を受けて細胞培養施設を建設し「進行がんに対するγδ活性化Tリンパ球移入療法」などの臨床研究・治療を行っている。抗癌剤と癌免疫細胞療法の併用による治療を提供出来るよう心がけている。

情報開示として癌治療データをもとに当院の大腸癌の5年生存率を作成し病院ホームページに掲載した。他の癌についても順次公表する予定である。

胸部外科

手術は肺腫瘍、縦隔腫瘍、多汗症、気胸、胸部外傷、肺生検、リンパ節生検を施行し、呼吸器内科と連携し化学療法を施行している。

乳腺外科

乳癌の検診から診断、治療（手術、化学療法、ホルモン治療）まで幅広く診療している。

乳癌検診：健康管理センターを中心に視触診、マンモグラフィー、乳腺超音波による乳癌検診を施行。画像は読影認定医により評価され質の高い検診を心がけている。

診断：自覚症状のある方や当院や他院の検診、他院からの紹介などの精査は乳腺外来で行っている。従来からのマンモグラフィーや超音波に加え、当院乳腺外来の特徴の一つである乳房MRIを併用した診療を行っている。

治療

①手術

従来から行われている乳癌の温存術や全摘手術に加え、小さな傷で行う内視鏡手術も行っている。乳輪と腋窩の切開から乳房温存または全摘術を施行している。

また、インプラントを使用した乳房再建にも力をいれており、内視鏡下乳房全摘術後の2期的再建や1期的に行う皮下全乳房切除+インプラント同時再建もおこなっている。

②抗癌剤・ホルモン治療

術前・術後に標準治療を行っている。

腎移植外科

現在日本全体で32万人、沖縄県でも約4,200人の透析患者が存在している。腎代替療法の一つである腎移植は、QOLのみならず長期生存の点でも透析治療より優れており、当院では積極的に移植医療を推進している。手術を行う移植医のみならず腎臓内科医、循環器内科医、糖尿病内科医、その他多くの診療科が診療に協力する体制となっており、医師のみならず看護師、コメディカル、事務なども参加した「移植推進委員会」を院内に立ち上げ、①生体腎移植、②献腎移植、③臓器提供、④教育啓蒙の4つを柱として活動している。具体的には、九州大学臨床・腫瘍外科移植研究室の協力のもと、血液型不適合移植、糖尿病性腎不全の移植、透析治療を経ない腎移植（preemptive腎移植）などを含めた、質が高く、かつ安全な移植医療を行うことで良好な移植成績を示している。これまで約100例の腎移植を行ってきたが透析再導入となった症例は1例もない。またドナーに関しては全例鏡視下腎摘術を施行し術後平均6.9日で退院。早期の日常復帰を可能にしている。

日常の診療においては、学会認定を受けた移植専門医と九州大学および東京女子医大から派遣される移植経験医が直接患者の診療にあたっている。また学会認定レシピエント移植コーディネーターを配し、ドナーおよびレシピエントが術前、手術、術後と安心して治療に臨めるように配慮している。

血管外科

動脈疾患では、特に閉塞性動脈硬化症に対して、bypass術や、血管内治療としてバルーン拡張術やステント留置を行っている。一人の患者様に対しても血管内治療と手術を併用することがあり、最適な方法で治療の提供ができるように検討を行い実施している。また、32例の閉塞性動脈硬化症の患者様にbypass手術を施行した。

静脈疾患に関しては下肢静脈瘤が多く、126肢に対してストリッピング術を行った。また、透析患者様の内シャント造設術や血栓除去術なども行っている。

■目標

消化器外科

外科疾患の治療成績向上を目標に努力し、開業医・登録医と共に地域の医療に貢献する事を目標としている。登録医の先生方に当院で治療した内容を報告し手術記録を添付するなど治療内容をわかりやすく伝える工夫も行っている。院内・院外において市民公開講座を2015年上半期は10回開催し地域住民の健康維持に貢献できればと考えている。

下記の項目に示すように、目標を立案し意識的に診療をおこなう。

1. 他の医療機関との連携強化
2. 研修医・若手医師へのアピール
3. 手術件数増加への取り組み
4. 学会認定施設を目指す
5. 一連の癌治療体制を確立
6. 患者様に必要な情報の提供
7. チーム医療の確立
8. 質の高い外科業務の確率

初期研修医に対しては、外科研修が患者に十分な治療を提供でき、信頼される人格を形成できるような研修となるよう取り組んでいる。縫合手技のハンスオンセミナーを行い、疾患病態生理の理解や画像読影やカルテ記載やカンファレンスでのプレゼンテーションの習得を修練している。

胸部外科

呼吸器外科手術 70例以上

原発性肺癌 30例以上

乳腺外科

当院における乳腺診療は「乳癌を美しく治す」を目標に、健診・診断・治療（手術、抗癌剤、ホルモン治療）を行う。

腎移植外科

- ① 沖縄県内の腎不全患者が安心して「腎移植」という治療を選択できるように、常に最高レベルの移植医療を提供していく。
- ② そのためにスタッフも全国学会や研修会に積極的に参加し、常に最新の知識およびスキルの研鑽を怠らない。
- ③ 県内の腎臓内科医および透析医から信頼される診療実績を示し、コミュニケーションを図りながら連携して患者の診療を行う。
- ④ 移植医療というものが、一般的な医療となり多くの患者が恩恵を受けられるように、医療者、患者、一般市民、社会全体に対して積極的に啓蒙活動を行っていく。

血管外科

動脈疾患に関しては、循環器内科や形成外科と連携し、閉塞性動脈硬化症の中でも血管内治療が困難な症例に対して、bypass手術を積極的に行い救済に努める。

静脈疾患に関しては、下肢ストリッピング術からレーザー治療を導入し、全身麻酔ではなく、局所麻酔へと移行し手術のよりよい低侵襲化を行い、可能であれば日帰り手術へと移行する。

内シャント関係では、腎臓内科・循環器内科と連携を行い、シャントトラブル、紹介造設患者様をなるべく早期に解決することにより、患者様の負担を軽減する。

■2015年度の取り組み・実績

消化器外科

- ・PDE、センチネルリンパ節理論、術中迅速病理を用いた胃機能温存手術
- ・良性疾患に対する細径式腹腔鏡下手術
- ・結腸直腸癌に対する根治的手術・腹腔鏡下手術・肛門温存手術
- ・肝臓、胆嚢、膵臓に対する標準的手術・血管合併切除を併施した拡大手術
- ・鼠径ヘルニアに対する腹腔鏡下手術
- ・「進行癌に対する γ δ 活性化Tリンパ球移入療法」に希望者への紹介提示
- ・地域講演会、院外講演会の実施
- ・地域開業医院連携訪問
- ・院内講演会を隔月の第2土曜に定期開催
- ・移植情報を院内雑誌「ゆうあい」に掲載
- ・レジデントの県外研修

胸部外科

肺縦隔疾患81例の目標は達成できた。

乳腺外科

日本乳癌学会および乳癌検診学会に出席・発表を行った。乳癌検診啓蒙活動の一環で乳癌講演会を定期的に開催した。

腎移植外科

2015年度の腎移植件数は27例でこれは県内最多の症例数であり、全国的にも上位15施設に入る件数である。献腎移植1例、血液型不適合7例、preemptive移植10例を行った。全員が生存し、透析再導入になった患者はいない。生体腎移植ドナーも全例社会復帰している。また増加する移植患者のケアが十分できるように移植学会に認定された専任の移植コーディネーターをおき、患者のニーズに対応できるようにしている。

スタッフの研鑽のため移植関連の全国学会に医師、看護師、コメディカルを積極的に発表参加させている。また移植医療啓蒙のため、一般市民、透析、腎不全患者を対象とした説明会を毎年開催している。さらに沖縄県の移植医療推進のため、県知事から囑託された推進委員の一人として県レベルでの移植普及活動に

も携わっており、今後も院内のみならず沖縄県全体の腎不全患者の治療に寄与し、県内の移植医療の中核を担っていくつもりである。

血管外科

2015年度の血管外科の領域の手術は263例であり、その内訳を紹介する。

(1) 閉塞性動脈疾患・動脈瘤

閉塞性動脈硬化症は、腹部や下肢の血管が閉塞することにより歩行時に足の痛みをきたす代表的な疾患である。重症化すると下肢切断が必要となることもある。近年、高齢化や糖尿病、メタボリックシンドロームの増加によりどの疾患も増加傾向にある。この病気に対して薬物療法、血管内治療、バイパス手術などの複合的な治療を行っている。特に、最近ではカテーテルを用いた血管内治療の頻度が増加している。2015年度のバイパス術の手術件数は32例であった。腹部大動脈瘤は主に動脈硬化によって腹部の血管が脆くなって拡張する病気である。破裂すると高い確率で死亡する。

(2) 静脈疾患

下肢静脈瘤は最も頻度の高い静脈疾患である。当院ではこれまで専門的に静脈疾患に取り組んできたため、手術を受けられる患者様も多く、2015年度では126肢の手術治療実績である。当院の静脈瘤手術は原則的に1泊入院での治療を行っている。

(3) リンパ疾患

リンパ浮腫は手術後のリンパの流れが悪くなり手足がむくむ病気である。高熱や炎症を合併して歩けなくなることもある。若い方は原因不明で発症する場合もある。治療の中止はセルフマッサージを中心とした理学療法である。当科では教育入院も行っている。

(4) 透析患者の内シャント関連

沖縄県では慢性腎不全により透析治療が必要となる患者様が増えている。これらの患者様に対して内シャント造設術や静脈が荒廃して内シャント造設術が施行困難な患者様には動静脈表在化術を行っている。2015年度のシャント造設術は105例であった。

人員体制

山内 昭彦、田淵 正樹、鳥塚 大介（後期研修医）

【2015年度の実績】

2015年度は127名の患者さんに関心術を施行することができました。特記すべき点は、周術期死亡（術後30日以内死亡）が0であったことです。ちなみに2014年11月より周術期死亡はなく、現時点（2016年12月1日）で連続254名の開心術患者の死亡0を継続しております。この数字のとらえ方は様々なご意見があることと思いますが2年間で250名以上の心臓手術で周術期死亡0というのはチーム医療がよく機能していることと解釈しております。

心臓外科医だけでなし得ることはできない数字であり、今後ともご紹介いただく内科の先生方、当院のメディカルメンバーの総力をあげて一人ひとりの心臓で困っている患者さんとむきあいたいと思います。

【特筆すべき事項など】

当科は低侵襲医療へ向けて年々レベルをあげております。心臓外科医療自体は侵襲的な医療であります。その中でも患者さんへの負担を可能な限り小さくする努力を続け、結果を出しております。低侵襲医療＝小切開、ということではありませんが小切開冠動脈バイパス術を導入し良好な結果を得ております。この治療の素晴らしい点は退院後、すぐに仕事へ復帰できる点であります。従来の切開法とは違い骨を切らない手術なので運動機能を落さず心臓外科治療を行うことができます。また、麻酔科医師の慎重な麻酔管理によって術後、手術室にて抜管し会話が可能な状況で手術室を退室する「術場抜管」の割合が増えております。手術が成功し、尚且つ良好な麻酔管理がなされないとできないことです。これによって患者さんへの身体的・精神的負担をかなり軽減できるようになっております。今後とも、改善できる点を貪欲に追求したいと思います。

我々の強みはひとりひとりの患者さんに対するオーダーメイド手術治療と考えております。可能な限りの患者さんからのリクエストに応え満足していただく医療が可能です。当然、できることできないことのラインはありますができることを100%に近い精度で提供することを考え皆で精進し、向上し続けたいと思います。

脳神経外科

人員体制

常勤医：孫 宰賢（部長）
藤井 教雄
岩上 貴幸
非常勤医師：金城 則雄（南部病院 脳神経外科）
與那覇 博克（沖縄赤十字病院 脳神経外科）

■診療内容

平成27年10月より常勤医3名体制となった。それにより救急患者の受け入れや対応可能な疾患が大幅に拡大した。脳卒中、頭部外傷や脳腫瘍、他の脳神経外科関連疾患の殆どの手術が可能になった。特に、救急科スタッフをはじめ、救急外来に関わる多くのスタッフの御協力のもと、脳卒中、中でも脳梗塞超急性期治療、頭部外傷に対する24時間の緊急対応が可能になった。脳神経外科領域の手術件数は県内でも上位となっている。特に、前年度の脳動脈瘤手術件数は県内一となった。

手術適応にならない脳卒中や頭部外傷の対応を他科の先生方やスタッフにご協力いただいております。脳神経外科スタッフは手術患者に専念できる環境が整っている。

また、多数の熱意あるリハビリテーションスタッフの働きにより充実した急性期リハビリテーションが可能になっている。さらに、急性期治療終了後は、ソーシャルワーカーや医療連携室の迅速な働きかけにより南部病院をはじめとする回復期リハビリ病院へのスムーズな連携が可能になっている。

■目標

- ①さらなる救急患者の受け入れアップ
- ②紹介・逆紹介患者の増加
- ③手術件数のさらなる増加
- ④入院患者回転率のアップ
- ⑤脳ドックの強化
- ⑥一般市民向けの講演
- ⑦本島北部地域や離島からの患者の受け入れ

■2015年度の手術実績

血管内手術	件数
破裂動脈瘤 塞栓術	20
未破裂動脈瘤 塞栓術	31
動静脈奇形（脳）	3
閉塞性脳血管障害	46
その他	9
	計109

脳血管障害	件数
破裂動脈瘤 クリッピング術	3
未破裂動脈瘤 クリッピング術	5
脳動静脈奇形	3
バイパス手術	1
高血圧性脳内出血 開頭血腫除去術	16
その他	10
	計38

脳腫瘍	件数
摘出術	9
経蝶形骨洞手術	1
	計10

水頭症	件数
脳室シャント術	25
その他	9
	計34

外傷	件数
急性硬膜外血腫	3
急性硬膜下血腫	8
減圧開頭術	1
慢性硬膜下血腫	38
その他	7
	計57

頭蓋・脳 奇形	1
脳神経減圧術	2
その他	45

2015年度 総手術件数 296件

人員体制	檜山 和也（医長） ・医学博士 ・日本形成外科学会：専門医 ・日本熱傷学会：専門医 ・日本創傷外科学会：専門医 ・日本レーザー医学会：専門医 ・日本抗加齢学会：専門医 ・日本褥瘡学会：在宅褥瘡管理資格 ・日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会：責任医師登録 ・沖縄ウインドマネジメント研究会：世話人 ・沖縄実践フットケア研究会：世話人 ・日本皮膚科学会：正会員 ・日本美容外科学会JSAPS：正会員 石山 智子（スタッフ） 李 填鏞（後期研修医）
-------------	---

【2015年度の実績】

■診療内容

顎変形症、顔面非対称、咬合不整など顔面変形に対する顔面・上下顎の骨切り術を含む診療。

腫瘍の診療：全身の皮膚・皮下・軟部の良性・悪性腫瘍の治療および整容的・機能的配慮を伴った修復・再建。

あざ・血管腫・母斑・黒子の診療：症例により手術・各種レーザーその他の治療方法を選択。

先天異常の診療：顔面・手足その他全身の先天異常の診療・外科的治療。

外傷（急性創傷・感染創傷）・熱傷の診療。

瘢痕・瘢痕拘縮（ひきつれ）・ケロイド・変形の診療。

難治性創傷・慢性創傷の診療：潰瘍・褥瘡（とこずれ）

美容外科・美容皮膚科診療：シミ・シワなどの診療、各種レーザー治療（保険・自由診療）、高周波光治療器（E-light）によるニキビ・美肌・脱毛などの施術（自由診療）。

■2015年の取り組み・実績

2015年（1－12月）の新患患者数は総数1,607名、入院患者数は358名であった。手術件数は総数1,434件。その内、入院手術件数は392件（全身麻酔233件、腰椎または伝達麻酔100件、局所麻酔59件）であった。

形成外科は整容的な問題を解決する科であるため、治療のためには十分なインフォームド・コンセントを行い、治療法の選択は患者様の意向を尊重し、治療のゴールが共有されることが望ましいと考えている。

QOL向上のため局所麻酔の手術など日帰りの手術の際には、可能な限りシャワー浴ができるようにフィルムドレッシングなどを使用した創部保護を行うよう心がけている。

形成外科分野のみならず、積極的に他科へ協力し病院全体へ創傷治癒分野の最新の知識と機器や材料を提供していきたいと考えている。

人員体制

赤嶺 珠（部長）
 専門：放射線診断学 資格：放射線科専門医、核医学専門医
 長田 修（医長）
 専門：放射線診断学 資格：放射線診断専門医

【2015年度の実績】

■診療内容

①放射線診断学

主にCTやMRIの画像診断・読影レポートの作成を行っている。

放射線科医はCTやMRI、RI検査の撮像法の調整や決定を行い、担当する診療放射線技師との連携を密にしている。撮像技術に関する勉強会の主催や共催に協力している。

また近隣の医療機関からのCTやMRIの検査依頼については専用予約枠を設けている。

②Intervention Radiology (IVR)

頭部・循環器領域を除く、体幹部領域を中心に、外傷性出血などの緊急症例に対して動脈塞栓術、肝細胞癌などの悪性腫瘍に対してTACEや動注療法などを施行している。

③核医学 (RI)

検査はほとんどの領域について施行可能である。

関連医療機関である豊崎クリニックではPET検査を行っており、悪性腫瘍の診断力増強に寄与している。

■目標

- 1) 検査件数、読影件数の増加・維持
- 2) 核医学検査の件数増加（外来依頼検査の増加を図る）
- 3) 他院依頼検査のさらなる増加

■2015年度の取り組み・実績

・読影件数（CT・MRI・RI）

	C T	M R I	R I	合計
2015年度	17,692	5,156	838	23,686
2014年度	19,309	6,767	853	26,929

※単純X線写真読影件数、健康管理センター 胸部CT 読影件数は除く。

■人員体制

新垣 晃（院長、人工膝関節担当）

日本整形外科専門医

日本整形外科リウマチ医

永山盛隆（副院長、股関節外科担当）

日本整形外科専門医

日本リハビリテーション学会認定医

日本体育協会スポーツドクター

伊佐真徳（部長、脊椎外科担当）

日本整形外科専門医

日本脊椎脊髓病学会脊椎脊髄外科指導医

毛利正玄（部長、膝関節外科担当）

日本整形外科学会認定専門医

上原邦彦（副部長、脊椎外科担当）

日本整形外科専門医

日本脊椎脊髓病学会脊椎脊髄外科指導医

工藤啓久（医長、膝関節外科担当）

日本整形外科専門医

堀切健士（医長、手外科担当）

日本整形外科専門医

上原大志（手外科担当）

日本整形外科専門医

嘉数 哲（脊椎外科担当）

日本整形外科専門医

玉寄美和（股関節外科担当）

日本整形外科専門医

野口 貴雄（一般整形外科担当）

六角高祥（非常勤、脊椎外科担当）

岩田友希江（非常勤、手外科担当）

日本整形外科専門医

福嶺紀明（非常勤、肩関節外科担当）

日本整形外科専門医

■診療内容

整形外科のほぼ全ての分野に関し、手術にも対応できる専門家及び設備を有した沖縄県随一の病院で、年間手術件数は約2,000件を数える。

=手外科=

堀切医師・岩田医師を中心に、上肢全般の関節変性疾患や骨折などの外傷に対応している。

=肩・肘関節=

上原医師・福嶺医師を中心に、一般の骨折のみでなく、関節鏡視下肩・肘関節手術は年々増加しており、良好な成績を上げている。頑固な肩関節拘縮や肩腱板修復術は現在では鏡視下手術が可能であり、最小の侵襲で大きな改善を得ることができるようになってきている。

=股関節=

永山副院長・渡辺医師を中心に重度の変形性股関節症や関節リウマチ・大腿骨頭壊死症などに対して積極的に人工股関節全置換術を行っており年間手術件数は約150件に及ぶ。また若年者や軽度の変形症の患者さんに対しては骨切り術などを行っている。低侵襲性の手術も手掛けており、これらの手術は県内のパイオニア的な存在であり、最も多くの症例経験を有している。

=膝関節=

新垣院長・毛利部長・工藤医長を中心に骨折や変形性膝関節症および関節リウマチに対して数多くの症例を手がけている。特に変形性膝関節症に対しては人工膝関節や単顆人工膝関節置換術などの手術を行い、年間約600件と本邦でもトップクラスの手術件数となっている。また、関節鏡手術も行っている。

=脊椎外科=

伊佐部長・上原副部長・嘉数医師・六角医師を中心に椎間板ヘルニアや脊柱管狭窄症などあらゆる脊椎疾患に対応している。手術ではほぼ全症例に顕微鏡を導入し、最小侵襲手術を心掛け、年間の手術件数は約200件に及んでいる。保存的治療では理学療法だけでなく硬膜外ブロックなども行い、効果を上げている。

■目標

地域連携パス（現在は大腿骨近位部骨折連携パスのみ導入）の推進を図り、患者転院調整がスムーズに行えるように取り組んでいる。

診療部門のセンター化にも取り組み、手術の標準化及び効率化が期待でき、人工関節センターの設立を目指している。

■人員体制

- ・島尻 隆夫（部長）
麻酔科専門医
- ・島袋 泰（副部長）
麻酔科指導医
- ・藤村 泰三（手術部副部長）
麻酔科指導医
周術期経食道心エコー認定医
- ・余語 久則（麻酔科医長）
麻酔科指導医
- ・新里 泰一（麻酔科医長）
麻酔科専門医
救急専門医
集中治療専門医
- ・宜保 さとこ（麻酔科医師）
麻酔科専門医
- ・上間 優子（麻酔科医師）
麻酔科認定医
- ・笹良 剛史（南部麻酔科部長）
ペインクリニック専門医、麻酔専門医
- ・山腰 美代香（後期研修医）
- ・川出 ゆかり（後期研修医）
- ・仲宗根 しのぶ（非常勤医師）
- ・山里 政智（非常勤医師）

■診療内容

心臓血管外科、脳神経外科、整形外科、消化器外科、呼吸器外科、乳腺外科、移植外科、泌尿器外科、産婦人科、耳鼻科、形成外科、眼科、皮膚科等ほぼ全ての外科系の麻酔を担当している。

又麻酔のみでなく緩和ケア、ペインクリニック、集中治療にも関与している。

■目標

心臓血管外科、脳神経外科を含む超緊急手術への対応
周術期の疼痛コントロール

緩和ケア（緩和ケア外来、緩和ケア回診）

手術件数のさらなる増加への対応

日帰り手術の麻酔

南部病院での手術麻酔への関与
後期研修医の育成

■2015年度の取り組み・実績

2015年度の手術件数は6,001件

内訳は

整形外科1,854件、外科1,144件、心臓血管外科173件、産婦人科570件、眼科402件、耳鼻咽喉科137件、泌尿器科583件、形成外科746件、脳神経外科272件、皮膚科105件、内科14件、麻酔科1件以上の手術を直接担当または緊急時のバックアップを行っている。

特に心臓血管外科、脳神経外科のある程度の手術件数は麻酔専門医取得のためには必須であり、この件数を満たしている民間病院は当院以外では沖縄県内ではほとんどない。

周術期の疼痛コントロールに力を入れている。術後の疼痛管理は従来の持続硬膜外麻酔による術後鎮痛に加え、機器を用いた麻薬（フェンタニル）の持続静注による自己調節鎮痛（PCA、patient-controlled analgesia）を行っている。

更に、超音波エコーを使用した末梢神経ブロックで、高リスクの患者の麻酔管理を行い、持続神経ブロックで術後鎮痛に寄与している。

緩和ケア、ペインクリニックに対しても余語先生を中心に対応している。

南部病院麻酔科の笹良先生が週一回ペインクリニック外来を担当している。

■人員体制

前濱 俊之（副院長）

日本産科婦人科学会専門医、指導医
 日本婦人科腫瘍学会専門医、指導医
 日本臨床細胞学会専門医、教育研究指導医
 日本がん治療認定医機構認定医
 日本性感染症学会認定医
 インфекションコントロールドクター認定医
 日本女性医学会女性ヘルスケア暫定指導医
 母体保護法指定医

日本外科病理学会 理事

野原 理（不妊・内分泌センター長）

日本産科婦人科学会専門医
 日本生殖内分泌学会専門医

神山 和也（部長）

日本産科婦人科学会専門医

上地 秀昭（医長）

日本産科婦人科学会専門医
 日本婦人科腫瘍学会専門医
 日本がん治療認定医機構認定医

白石 康子

日本産科婦人科学会専門医

當眞真希子

日本産科婦人科学会専門医

小林 剛大

日本産科婦人科学会専門医

土井 生子

日本産科婦人科学会専門医

田近 暎子

日本産科婦人科学会専門医

■診療内容

＝産科部門＝

新しい部長のもと、妊娠、分娩の厳重な管理を行い合併症防止に努めている。母児の良好な予後を最優先に掲げ、分娩体制と緊急手術の適応を明確にしている。連携施設からもハイリスク症例を積極的に受け入れ、地域の周産期医療に貢献している。病棟の管理水準を維持すべく胎児の集中モニタリングシステムを導入している。当院不妊センターからの妊娠例を当院での分娩に繋げている。

＝婦人科部門＝

当院婦人科では高度な技術を要する内視鏡手術を積極的に導入、実践しており、症例数が年々増加している。異所性妊娠などの緊急の腹腔鏡手術もほとんどすべて受け入れて行なっている。婦人科悪性腫瘍の紹介は可能な限り早めの対応を行なっている。そのなかでも化学療法を先行させる進行婦人科癌の症例も積極的に行ない、その化学療法を外来で施行している。そのため、患者様の生活の質の向上と良好な治療成績に繋がっている。子宮鏡検査も積極的に導入し、子宮鏡下手術も増加している。子宮頸部上皮内腫瘍に対し薬物療法を施行しており、周産期合併症の防止に貢献している。

＝不妊症（生殖・内分泌）部門＝

不妊症の実績は県内トップレベルであり、現在一般不妊治療、体外受精、顕微授精、凍結胚移植、習慣性流産の特殊治療を行うと共に泌尿器科と連携し、男性不妊を対象とした集約的な治療を行っている。

■目標

産科、婦人科、不妊部門の全部門において診療内容が充実しており、若手医師の臨床経験に大いに寄与している。それにより、産婦人科研修指定病院としての評価が高く、新しい専門医制度の厳しい基幹病院基準を満たし、基幹病院と認定された。この体制を維持していくことが今後の若手医師の増加、スタッフの充実に繋がると考える。周産期医療、婦人科手術、不妊治療のすべての分野での診療、教育のレベルアップおよびその維持を目標としていく。

■2015年度の取り組み・実績

婦人科腫瘍における内視鏡手術が増加している。周産期部門での合併症が減少し、母児の良好な予後が維持できている。産婦人科研修制度における基幹病院指定は沖縄県の産婦人科の民間病院としては当院が唯一であり、九州においても当院を含めて2施設しか指定されていない。このことは高度の医療を提供している証でもあり、若手医師の受け入れとともに、紹介例の増加に繋がる。

人員体制

奥間 稔（部長）
 大城 征
 名嘉山 賀子
 内川 俊樹
 宮里 弘樹

【2015年度の実績】

①地域診療所あるいは他院からの紹介あるいは転院を、断らないこと

病棟ベッドに余裕のある夏場から11月頃にかけては、例年通り受け入れできているが、12月から5-6月頃にかけては、病棟ベッドがしばしば満床となるため、断らざるを得ない状況を認めている。

②待ち時間の短縮

待ち時間に関しては、保護者の希望もあり、どうしても外来担当医によって待ち時間の差を認めている。しかし、できるだけ待ち時間が長くないように、担当医の診察前に吸入⇔吸引などの処置を実施するなどして、できるだけ来院から会計までの時間を短縮するようにしている。

③地域小児科医師とのコミュニケーションに務める

発足して10年以上を経過した『やまびこ会』を利用して、近隣の診療所との顔がみえる連携の継続・発展をめざしているが、毎回参加する医師と全く参加しない医師の両極端であり、参加しない診療所との連携が困難である。

④精査依頼の紹介依頼のスムーズな受け入れ

保育所あるいは幼稚園・小～中学校健診における一時健診で精査必要な小児に対して、できるだけ速やかに精査が出来るように努めているが、循環器に関しては、5-7月頃に集中するために、予約枠を越えてしまい、断らざるをえないケースがある。

可能なら、循環器外来枠を増やしたいところであるが、それも困難があり、今後の課題であろう。

人員体制

島袋 浩一（部長）
 日本泌尿器科学会指導医
 日本泌尿器科学会専門医
 又吉 幸秀
 日本泌尿器科学会専門医
 がん治療認定医

■診療内容

腎臓、尿管、膀胱、尿道などの尿路、前立腺などの男性生殖器、副腎などの疾患を診る科である。

尿路の癌ばかりでなく、膀胱炎などの感染症、頻尿・尿失禁・夜尿などの排尿障害は、男性女性に限らず小児からお年寄りまで幅広くかかる。加えて、高齢化社会が更に進み、尿路・排尿管理はより良い「生活の質（QOL）」の為に重要であり、医療のみならず介護の場でも、泌尿器科のニーズはますます高まっている。

■目標

当科は、病診連携の開業医の先生からの紹介はもちろん、近病院泌尿器科医からの紹介も多く、信頼と質の高い診療を行っていると自負している。近い将来のさらなる高齢化社会にも対応できるように、診断のみならず治療も年々変化している。また、多くの高齢の患者様は合併症をお持ちであるため、当院各科の先進的医療と、また病診連携で開業医の先生、近病院の先生方と連携をはかりながら、患者様が、常に安心できる医療を受けられるような診療を行う。

■2015年度の取り組み・実績

当科は、外来・手術・ESWLと、毎日密なスケジュールで忙しくしている。周辺病院泌尿器科の閉鎖に伴い、再来予約患者様・紹介予約患者様・救急より患者様が増加し、これまでと比べ予約可能人数の2から3倍の患者様を受け入れている。そのため、来院される患者様には待ち時間が長く、大変ご迷惑をかけている状況が続いている。待ち時間を減らすよう努めているが、焼け石に水の状態が続き、来院された患者様には大変ご迷惑をおかけしている状況である。

外来・入院診療に加え、救急／緊急手術を含む患者様に対しても、質の高い医療を提供しようと努力している。手術においては腹腔鏡手術の導入だけでなく、開腹手術においても切開を小さくすることで低侵襲化を図っている。また膀胱癌の治療においては症例にもよるが、膀胱摘出術が適応の進行膀胱癌において膀胱温存療法を行っている。また泌尿器科癌に対する外来化学療法にも対応している。

終末期医療 慢性期の入院を友愛会南部病院で担っていただき、当院での急性期、南部病院での慢性期のすみ分けをおこない、患者さんにとっても満足のいく医療が受けられるものと思っている。

人員体制

常勤医師

新垣 孝一郎（医長）

日本眼科学会専門医、身体障害者指定医（視覚）

視覚障害者用補装具適合判定医師、本眼科学会会員、日本眼科医会会員

非常勤医師

関口 和行（斜視専門外来）

酒井 寛（緑内障専門外来・琉球大学准教授）

山内 遵秀（琉球大学助手）

照屋 絵厘子（琉球大学）

仲村 由希子（琉球大学）

稲福 ゆり（琉球大学）

視能訓練士

小橋川 明菜 平良 綾子 高良 伸

■診療内容

白内障、緑内障、角膜疾患、ぶどう膜疾患、眼底疾患などに対し診療を行う。

視能訓練士3名により、正確な検査と訓練を行う。

主な機器；超音波白内障手術装置、レーザー光凝固装置、ハンフリー視野計、ゴールドマン視野計、眼底撮影装置、OCT、自発蛍光眼底写真、YAGレーザー装置、超音波検査装置、大型弱視鏡、網膜電図ほか。手術は、白内障、翼状片、眼瞼症手術などを行う。

■目標

南部地区の地域医療支援病院として、各医療機関とも連携を取り合い、眼科診療を提供する。

手術治療に関して、患者様のニーズにお答えできるよう質を高めていく。

難症例に対しては、非常勤医師との連携を取り、より質の高い医療を提供する。

■平成27年度の取り組み・実績

白内障手術： 381件

翼状片手術： 10件

斜視手術： 8件

学会発表活動

第5回中部地区眼科学術講演会

人員体制	歯科医師：山内 一誠（医長） 歯科衛生士：4名 受付：1名
------	-------------------------------------

■診療内容

主に一般歯科治療を行なっている。

診療内容は下記の通り。

- ①補綴処置（クラウンや義歯作成）
- ②歯周病処置（歯石除去、ポケット搔爬）
- ③外科処置（抜歯）
- ④予防処置（ブラッシング指導）
- ⑤審美歯科（オールセラミック、ホワイトニング等）

病院歯科の特色として、有病者、要介護者また出生児より高齢者までの幅広い年齢層に応じた治療及び指導を行なっている。有病者に関しては、関連診療科と連携をはかり患者様の口腔内衛生状態の確認から治療、メンテナンスまでを行う。また熟練した歯科衛生士による一般向け、医療従事者向けの口腔ケアの講演、指導も積極的に行なっている。

■目標

「8020」運動と言われる、厚生労働省が推奨している80歳で20本の自分の歯を保つという取り組みがありますが、これを一人でも多くの方に達成していただけるように、また本数に足りなくとも美味しく食事をしていただける様、患者一人一人にあった治療、指導を続けていきたい。

また、摂食嚥下ケアチーム等、チーム医療に参加していく。

■2015年度の取り組み・実績

- ・豊見城市立保育所歯科検診（年2回）

人員体制

廣瀬雅樹（医長）厚生労働省認定精神保健指定医、日本精神神経学会認定精神科専門医・指導医、日本内科学会内科認定医・総合内科専門医、日本医師会認定産業医）

■診療内容

精神科リエゾンチームは、コンサルテーション・リエゾン精神医学の実践において望ましいチーム編成の一つである。次年度のチーム編成を目指しつつ着任初年度は、医師のみにて総合病院の救急リエゾンの課題である自殺企図患者への早期介入や、身体合併症の治療に際し問題となる精神症状への速やかな対処、（近年の急速な地域住民の高齢化もあり）認知症ケアの現場でみられる周辺症状やせん妄となど、多岐に渡る疾患に対応した。近隣に多数の精神科医療施設が存在し、当科は精神科医1人体制であることから、外来診療は主たる業務と位置づけなかった。救急外来や入院患者への適切な医療的介入の後、再発防止の視点を重視し必要に応じ行政担当者とも連携の上、円滑に精神科医療施設へ繋げることを主たる業務とした。時に、身体疾患に関する治療方針についても総合内科専門医の立場から言及し助言した。また職員のメンタルヘルスケアにおける相談や診療にも対応した。

◆自殺対策

着任初年度の喫緊の課題と認識し医療安全担当者らと対策を協議の上、年度当初のセーフティマネジメント勉強会において国や県での概況を講演すると共に、当院での対応のガイドラインを提案し承認を受けた。さらに年度末東京都内で開催された「院内自殺及びその事後対応に関する研修会」に参加し、内容を医療安全担当者らに伝達した。さらに病歴管理室の協力を得て当院における月毎の自殺企図件数を集計し逐一、転帰を把握することにより関係者へのフィードバックを図った。

◆せん妄対策

医療現場での実践を通じ、各部署のスタッフに教育的な指導を行った。勉強会の開催や事例検討に際し、適宜、必要な助言を与えた。

◆心理相談室との連携

心理相談室に持ち込まれた案件の内、臨床心理士のみでは対応困難なものについては精神科医師による介入を速やかに行った。またカウンセリングのみに終始せず、知能検査を含めた専門的な心理検査の実施し客観的な指標による評価が可能となるよう配慮した。

◆精神科医療施設との連携

近隣の精神科医療施設と連携する際、当院主治医よりの診療情報提供書に加え当科より生活歴や精神症状に関する詳細な情報をまとめ提供し、より円滑に患者の受け入れが進むよう心がけた。

【2015年度の実績】

コンサルテーション・リエゾン精神医学におけるチーム医療では、医師、看護師、薬剤師、臨床心理技術者、作業療法士、精神保健福祉士や社会福祉士らの専門の異なる複数の職種の者が連携、協働して医療サービスを提供し医療効果を高めることが期待される。高齢化による社会構造の変化や今後の診療報酬改定を見据えつつ、コンサルテーション・リエゾン精神医学を実践し、総合病院である当院にふさわしい今後の精神医療の在り方を、精神疾患と身体疾患の両分野を専門とする医師の視点をもって明確に提示した。

人員体制

常勤医師
山城 拓也（医長）

■診療内容

周辺の耳鼻咽喉科医院と連携して中耳炎や真珠腫などの耳疾患、アレルギー性鼻炎や副鼻腔炎などの鼻疾患、扁桃腺などの口腔疾患、頸部疾患の手術療法を行う。

突発性難聴、顔面神経麻痺などのステロイド療法。

小児難聴の早期診断。

補聴器の適合。

嚥下機能評価。

頭頸部がんの診断、琉球大学耳鼻咽喉科と連携しての治療と治療後の診察・リハビリ。

■目標

周辺の耳鼻咽喉科医院との更なる連携と、手術件数の増加。

■2015年度の取り組み・実績

周辺の耳鼻咽喉科医院との連携強化

手術数の増加

補聴器の適合判定

嚥下

内視鏡検査

■人員体制

- ・比嘉盛丈（センター長、医学博士、日本糖尿病学会認定指導医・専門医、日本内分泌学会評議員・認定指導医・専門医、日本内科学会研修指導医）
- ・當眞 武（医長、医学博士、日本内科学会認定総合内科専門医、日本糖尿病学会認定専門医、日本内分泌学会認定専門医）
- ・大城道子（日本糖尿病学会認定専門医、日本内分泌学会認定専門医、日本内科学会認定総合内科専門医）
- ・井口 梓（日本糖尿病学会認定専門医、日本内分泌学会認定専門医、日本内科学会認定総合内科専門医、）
- ・眞境名豊文（日本糖尿病学会認定専門医、日本内分泌学会認定専門医）
- ・座覇明子（日本糖尿病学会所属専門研修医）

■診療内容

糖尿病・生活習慣病センターは外来部門と入院部門から成り、日本糖尿病学会または日本内分泌学会認定の指導医・専門医、日本糖尿病協会認定療養指導士（看護師、管理栄養士、薬剤師）、運動療法士、メディカルアシスタントなど多彩なメンバーが各々の専門性を生かしながら、糖尿病や生活習慣病そして各種内分泌疾患の症例に対して質の高いチーム医療を実践している。外来部門では非常勤医3名を含めて計9名の医師と日本看護協会認定糖尿病看護師1名、認定療養指導士4名、運動療法士2名、メディカルアシスタント3名が診療にあたる。とくに糖尿病を良好にコントロールするためには自己管理が必要不可欠で、糖尿病（境界型を含む）、或いはその関連疾患を含めた生活習慣病全般に対する自己管理を支援すべく、糖尿病教室、食事指導、筋力トレーニング、カウンセリング等のプログラムの充実に努めている。各種合併症については、眼科、腎臓内科、循環器科、血管外科、皮膚科、形成

外科などと密接に連携して全身管理を図りながら、血糖コントロールのみならず他の血管病リスクの管理を行い、合併症の予防と最良の治療を実践する。入院部門では内分泌疾患に関する精査と糖尿病合併症の評価や治療を主な柱とし、術前の血糖管理のみならず、全身状態の悪い症例、ステロイド療法を要する症例等、管理が困難とされる症例に対してチーム医療を展開する。さらに市町村の保健行政からの要請に応じて講演会を開催し、周辺医療機関に向けて最新医療情報を発信することで地域全体の医療レベルの向上に努めている。

■目標

- ・地域の中核病院としての機能を果たすべく、管理の困難な症例や併科の多い症例などを中心に外来管理を行うこととし、自己管理が可能で管理状況が改善した症例は積極的に逆紹介を行う。
- ・内分泌疾患が疑われる症例を幅広く受け入れ、内分泌学的精査を積極的に行う。
- ・大学病院と綿密に連携して共同研究を行い、医療の向上に努める。
- ・研修医やコメディカルスタッフの教育に努め、学会で発表できるように支援する。

■人員体制

野原 理（センター長）

医学博士、産婦人科専門医、生殖医療専門医

白石 康子

医学博士、産婦人科専門医

比嘉 みさえ

臨床エンブリオロジスト、臨床検査技師

豊里 和

エンブリオロジスト、体外受精コーディネーター

東 正輝

エンブリオロジスト

屋良祥吾

エンブリオロジスト

大慈弥みち子

エンブリオロジスト

■診療内容

近年我が国では晩婚化による女性不妊症と、高齢妊娠による不育症患者が急増している。当院産婦人科ではこれらの社会のニーズに答える為、一般不妊治療から難治性症例に必要とされる体外受精まで幅広い診療を行っている。特に40才以上の女性や乳癌/子宮内膜癌などの悪性疾患の治療も必要とする患者様に対し個別のオーダーメイドの治療プランを、医学的妥当性を検討しつつ提供出来る施設である。更に当院不妊センターは、泌尿器科と連携し、無精子症の治療として精巣内精子回収術（TESE）を伴う顕微授精を行なう県内でも数少ない施設の一つである。

主な治療内容を以下に記す。

- ・一般不妊治療（排卵誘発等）
- ・ART（体外受精、顕微授精、精巣精子を用いた顕微授精、凍結融解胚移植）
- ・腹腔鏡手術、子宮鏡手術
- ・不育症治療（抗凝固療法等）

■目標

特にART（Assisted Reproductive Technology）に特化しており以下を目標と設定。

体外受精

採卵件数 200件以上

顕微授精件数 150件以上

凍結胚移植 300件以上

妊娠率 30%以上

人工授精 500件以上

精巣内精子回収手術（TESE）による顕微授精

- ・英文学術論文の発表
- ・胚移植用カテーテル検討
- ・子宮内膜着床機能改善法の検討
- ・生殖関連学会での学会発表
- ・不妊症看護認定看護師取得のための研修開始（H28年9月より看護師1名研修開始）
- ・生殖医療専門指導医認定取得（H28年4月より医師1名研修登録開始）
- ・臨床エンブリオロジスト認定取得
- ・生殖補助医療胚培養士取得
- ・体外受精コーディネーター認定取得
- ・r-FSH製剤自己注射導入

■2015年度の取り組み・実績

- ・国際生殖医学会での臨床データの発表
- ・不妊カウンセラー取得
- ・黄体管理における薬剤の変更
- ・看護スタッフによる薬剤や検査受診方法の説明資料の充実

2015年度成績

体外受精採卵数263件

（うち顕微授精件数 229件）

新鮮胚移植件数 76件、妊娠率 19%

凍結胚移植件数 307件、妊娠率 28%

人工授精 408件

人員体制

専従医：玉城正弘 ICU部長
 専任医：新里泰一 麻酔科医長、内科・外科 後期研修医ローテート医師
 平日、祝祭日の日直/当直：循環器科 医師
 研修ローテート医：初期研修医2年目（1ヶ月間）

【2015年度の実績】

I. ICU入室患者

①延べ人数：3,346人

②診療科内訳

内科 34.8%、外科 21.2%、脳神経外科 18.7%、心臓血管外科 17.9%、

整形外科 3.7%、泌尿器科 1.5%、形成外科 1.2%、産婦人科 0.7%、耳鼻咽喉科 0.1%

II. 各種ICU入院指標

①稼働率 91.7% ②算定率 96.7% ③稼働率 91.8

III. 人工呼吸器、循環補助器、血液浄化療法の稼働件数

①人工呼吸器（侵襲的人工呼吸器、非侵襲的人工呼吸器）：1002件

②循環補助器：IABP 19件、ECMO 7件

③血液浄化療法：252件（HD・HDF・ECUM・SLED 229件、CHDF 8件、PE・DFPP 8件、PMX 7件）

IV. 院内の横断的活動

①Rapid response team：8件（ICU入室5件）

②Respiratory support team：ラウンド594件、加算対象38件（ラウンド件数の7%）

V. 院外活動

①テレビ

2015年9月28日 NHK 「外国人観光客に安心の医療を」

2015年11月13日 NHK 「命を守るオモテナシ～観光立県に死角あり！～」

2015年12月15日 沖縄テレビ放送 みんなのニュース おきCORE

②新聞、雑誌

2015年7月9日 週間レキオ、レキオクリニック

人員体制

常勤4名（2016年1月より1名が産休・育休に入り、3名体制）
資格：臨床心理士（財団法人 日本臨床心理士資格認定協会）

【2015年度の実績】

■業務内容

- 1) 外来・入院の患者様・ご家族への心理的支援
- 2) 職員への心理的支援（メンタルヘルス対策）
- 3) 職員・患者様への心理的教育／啓発活動

■2015年度の取り組み

- 1) 臨床心理検査／アセスメント
 - ・認知機能検査、知能検査（物忘れ外来、心療内科外来・病棟）
 - ・人格検査、不安・抑うつ検査等（心臓リハビリ・ペイン外来、その他）
- 2) 臨床心理面接
 - ・入院生活のストレス、抑うつ状態、病気への不安、元々の精神疾患、自殺企図／念慮などを持つ患者様への個別対応（アセスメント含む）及びスタッフへのコンサルテーション
 - ・慢性疾患への心理的介入（慢性疼痛・腎臓内科、生活習慣病など）
 - ・緩和ケア対象患者様・ご家族への心理サポート
- 3) 職員メンタルヘルス（安全衛生委員会・チューター委員会）
 - ・自主来談への対応（随時）
 - ・ストレス調査後の要ケア対象者心理面接
 - ・復職支援
 - ・部署長／同僚からの相談に対するコンサルテーション
 - ・初期研修医へのサポート
 - ・Tea Partyの開催（年2回）
- 4) 集団療法・委員会活動（図2）
- 5) 心理教育・啓発活動
 - ・エキスパートナース呼吸器疾患領域講義
 - ・新入職員向けメンタルヘルス講話
 - ・新人看護師ストレスマネジメント研修・ケアカフェ
 - ・CICARE研修会
 - ・ココロの相談室だよりの発行（月1回）

図1.2015年度検査・面談件数

検査	認知機能検査	111件
	知能検査	5件
	スクリーニング	156件
面談	外来面接	687件
	病棟面接	475件
	メンタルヘルス	753件

図2. 集団療法・委員会

赤ちゃんサークル	第2・4金曜日
OHANA（乳がん患者会）	第2土曜日
緩和ケアチームカンファ 緩和ケア委員会	毎週火曜日 第3火曜日
心臓リハビリテーション 講義	第1火曜日 第2月曜日
南部病院 疼痛カンファ	毎月第3火曜日
リラクゼーションクラス （南部病院）	毎年1回 （全10回コース）
お茶会 （南部病院緩和ケア病棟）	毎週水曜日 午後

【2015年度新たな取り組み】

- ・常勤の心療内科医が着任したことにより、知能検査器具の更新や質問紙検査の見直し、心療内科医との連携、救急外来での自殺企図ケース対応フローチャートづくりへの参加
- ・生活習慣病センターにおけるダイエットを目指す患者様への関わり

人員体制

仲間康敏（室長）：保健学修士（博士過程前期）
FCCS Associate Instructor、保健師、呼吸療法士認定士、看護師、
衛生検査技師、救急救命士、衛生管理者

関口浩至：医学博士過程前期、看護師、慢性呼吸器疾患看護認定看護師、
呼吸療法士認定士

兼城隆行：保健師、看護師、呼吸療法士認定士

徳山未希：看護師、呼吸療法士認定士

現在、4名の呼吸療法士が在籍し、ICUを中心にHCU、病棟、内視鏡室、睡眠時無呼吸
外来、在宅医療と幅広い領域で呼吸循環管理を行っています。

■診療内容

当院の呼吸療法士の業務内容は、急性期と慢性期業務に分担され、急性期は仲間、慢性期は関口を中心に、兼城、徳山がその領域での呼吸循環管理に関わっております。急性期業務はICUを中心に人工呼吸管理やWeaning、ECMO等の体外循環管理を行っています。また必要時応じてRRS（Rapid Response system）の要請があれば、迅速にHCU、病棟、透析室への急変に対応しています。慢性期業務は病棟での人工呼吸管理、在宅酸素療法及びCPAP/NPPV導入、維持管理が主な業務となっています。また南部病院においては入院患者の人工呼吸管理から睡眠時無呼吸外来でのデータ解析・CPAP導入、さらには訪問看護師と連携して在宅医療サポートまでをも行っています。

3月31日現在でのCPAP利用患者は153名、在宅酸素療法患者51名、在宅NPPV患者6名、在宅人工呼吸患者1名となっています。

■目標

- | | |
|---------------------|-----------------------|
| ①国内外学会への演題発表（5題以上） | ②学会論文掲載（1編以上） |
| ③院内DAM教育への参画 | ④エアウェイシュミレーション教育の実施 |
| ⑤院内エキスパートナース育成への協力 | ⑥臨床研究支援センタープロジェクトへの参画 |
| ⑦喘息吸入指導プロジェクトへの参画継続 | ⑧大学や看護学校への非常勤講師 |

■2015年度の取り組み・実績

- | | |
|-------------------|-----------------------|
| ①浦添看護学校非常勤講師 | ②院内RRSへの参画 |
| ③院内BLS教育への参加 | ④学会・研究会への演題発表（国内3） |
| ⑤FCCS第2回沖縄コース開催 | ⑥臨床研究支援センタープロジェクトへの参画 |
| ⑦院内エキスパートナース育成 | ⑧呼吸器看護外来開設・継続 |
| ⑨喘息吸入指導プロジェクトへの参画 | |

人員体制	加藤功大（センター長）：日本再生医療学会認定医 －CPC－ 仙北屋浩亮（CPC科長）：日本再生医療学会認定臨床培養士 －培養管理部門－ －品質管理部門－ －事務局－
-------------	---

【2015年度の実績】

■診療内容

当センターは平成22年に沖縄県の「医療産業化プラットフォーム基盤構築事業」の補助を受けて発足した組織である。アイソレータ3台を整備した細胞調製施設（CPC）を有し、九州・沖縄地区有数の再生医療関連センターとして期待を背負っている。現在、当センターの事業内容は大きく3つに分けられる。

- ①平成25年度沖縄県「医療基盤活用形クラスター形成支援事業」の一環として「切除不能膵癌に対するゲムシタビン（GEM）併用 γ δ T免疫細胞療法療法の臨床研究」を実施。
- ②健康管理センターで実施している免疫療法外来（自費診療）への γ δ T免疫細胞の培養細胞提供。
- ③東京女子医科大学との包括的な友好連携協定に基づく細胞シート技術の臨床応用。

当センターは第二種～第三種再生医療等技術を用いて実地臨床に取り組んでいる全国でも数少ない民間施設である。来るべき再生医療分野の医療イノベーションに対して、速やかに沖縄県民へこれを提供できることを事業目的としている。

■目標

沖縄県の支援のもと始まった医療基盤活用形クラスター形成支援事業を次の点に基づいて順調に進める。

- ①県内で最大の現場スタッフ8名の育成（培養士は順次学会認定培養士取得予定）。
- ②免疫学的解析を行える品質管理部門の育成。
- ③再生医療等安全性確保法への対応。
- ④再生医療技術の第三種から第二種へのレベルアップ（iPS細胞は第一種）。
- ⑤再生医療に関する多施設ネットワークの構築。
- ⑥培養士育成教育への支援。

■2015年度の取り組み・実績

- ・東京女子医科大学と包括的友好連携協定の締結
- ・認定再生医療等委員会申請（認定番号：NB7150001）承認 《九州・沖縄地区認定第1号》
- ・再生医療等提供計画届出（認定番号：PC7150001）承認 《九州・沖縄地区認定第1号》
- ・特定細胞加工物培養加工施設届出（施設番号：FC7150069）承認
- ・沖縄力発見ツアー開催（沖縄総合事務局・沖縄県庁主催）
- ・培養口腔粘膜組織上皮細胞シートの培養加工技術移転のための東京女子医科大学への短期留学
- ・日本再生医療学会認定臨床培養士の認定（1名）

－発表・講演－

国立沖縄工業高等専門学校第一回沖縄再生医療人材育成セミナー講演「臨床における細胞培養技術者とその役割」

人員体制

喜友名 正也 (部長)
 日本病理学会専門医・指導医
 日本臨床細胞学会専門医・教育研修指導医
 日本臨床検査医学会専門医
 日本がん治療認定医機構暫定教育医

戸田 隆義 (顧問)
 日本病理学会専門医・指導医
 医学博士

【2015年度の実績】

■目標

専門医制度が改革中であるが、新制度で病理診断科の専門研修連携施設及び内科の専門研修基幹施設になりうる剖検数及びCPC数を維持していきたい。また、業務量や臨床各科とのカンファレンスを増加させて、収益の増加や医療の質の向上を図るためにも、常勤医を複数配置できるように人材育成に務めていきたい。

■実績

当科では、常勤1名、非常勤1名で、組織診、細胞診、解剖の業務を行い、CPCや臨床各科（消化器、産婦人科）との合同カンファレンスを行っています。

平成27年度の業務実績は組織診5,779件（内、術中迅速163件）、細胞診14,689件、病理解剖10症例です。また、カンファレンスはCPCが5回、消化器カンファレンスが12回、産婦人科カンファレンスが9回です。なお、日本外科病理学会沖縄県支部会の事務局長として、6月に市民公開講座を浦添市内で開催した。

学会発表活動

第104回日本病理学会総会

第56回日本臨床細胞学会総会（春季大会）

第20回日本外科病理学会

人員体制	副部長2名、科長1名、主任2名、副主任3名		
	理学療法士	47名（管理職含む）	健康運動指導士 3名
	作業療法士	21名（管理職含む）	鍼灸師 1名
	言語聴覚士	7名	助手 5名

■概要

二次救急医療におけるリハ介入領域が広がり、様々な障害患者に対応できる組織体制とスタッフ教育が近々の課題であった。本年度は組織体制としてチーム編成の見直しを図り、スタッフ教育を一般教育と専門教育に分け、生涯学習としての教育内容を明文化した。また地域支援病院として顔の見える施設間連携を図ることでシームレスなリハが提供できるよう情報共有に努めた。さらに地域における健康運動推進の啓蒙活動にも取り組んだ。

【施設基準】

- ・心大血管疾患リハビリテーションⅠ
- ・脳血管疾患等リハビリテーションⅠ
- ・運動器リハビリテーションⅠ
- ・呼吸器リハビリテーションⅠ
- ・がんのリハビリテーション
- ・訪問リハビリテーション

■2015年度の取り組みと実績

1. 診療科別に専門的リハビリが提供できる組織づくりとして各診療科に対応できるリハチーム運営体系の確立
2. チーム医療の連携強化の一環にてカンファレンスの充実や各種委員会参加、関連学会での学術発表
 - ・NST委員会関連の学術発表
3. evidenceに基づいたリハビリを実施するため、疾患別リハビリ実施内容を検証
4. 心身機能の改善、ADL向上を目指して疾患別リハ評価項目の統一化を図り、PT・OT・ST併用患者の症例検討会開催
5. 間接業務内容を改善することで、業務時間の効率化を図る
6. 連携施設と情報共有の強化
 - ・4施設を訪問
 - ・地域医療連携講演会にて講演
7. 地域市町村との連携を図るため地域向け講演会への積極的介入
 - ・豊見城市委託事業への取り組み（生活習慣病における運動指導）
 - ・高校総合体育大会へのサポート派遣
8. スタッフの生涯教育取り組みとして新人、専門教育の体制化
9. 学術（論文）、講演発表
 - ・各関連学会にて7演題発表
 - ・執筆活動として1題投稿
 - ・関連講演会に3本講演

人員体制

薬剤師数（常勤35名・非常勤4名）
 薬剤助手（2名）
 薬剤科長・主任（3名）

■概要

- ・ 院外処方箋発行率 約95% ・ 1日2交代ローテーション勤務
 8：30～17：30 17：00～翌日9：00（準夜・深夜帯1名）
 夜間外来において調剤業務、外来処方箋数 611枚/月
- ・ 調剤業務
 12病棟・一部外来処方・友愛園
 平均処方箋数：内服・外用 6,841枚/月、 注射箋6,472枚/月
 薬剤科内での化学療法混注 約122件/月、 薬剤科内での麻酔科使用インフューザーバルーン
 麻薬・麻酔薬混注 約82件/月
- ・ 製剤業務
 院内約束処方予製、不妊外来 膈坐薬、形成外科使用軟膏予製、各種消毒剤調整
- ・ 病棟薬剤業務（薬剤管理指導料業務）
 1,878件/月
- ・ TDM解析業務
 バンコマイシン注のTDM約35件/月
- ・ DI業務
 医薬品情報収集、 院内ホームページMD-VIEWへの掲載、 薬剤採用届けの管理、薬事審議委員会の開催
 各部署よりの問い合わせ、院内在庫薬剤の管理
- ・ 治験管理業務
 12プロトコール35症例

■目標

- ・ 薬剤管理指導業務拡大 ・ 薬剤科内業務の合理化 ・ 新入職員の確保 ・ 認定薬剤師の取得

■2015年度の取り組み・実績

- ・ 薬剤科内業務の合理化を図り薬剤管理指導料の大幅な増加に繋がる。
 月当たり平均2,119件
- ・ 薬剤師増加による病棟薬剤業務の拡大
- ・ 後発品使用率70%
- ・ 外来化学療法指導料算定開始 325件/年
- ・ 学会発表11学会で10演題発表に至る。
- ・ 次年度入職薬剤師3名確保する。

人員体制	検査科全職員数 : 50名 科長 : 1名 科長補佐 : 1名 主任技師 : 4名 副主任技師 : 1名 臨床検査技師(一般職) : 30名 再生医療(品質検査担当) : 1名 採血室担当(看護師5名、臨床検査技師1名) 検査科受付(検体、生理) : 5名 自己血室事務 : 1名
-------------	--

■目標

1. 検査精度の保証
2. 患者サービスの向上
3. ISO15189 H28年8月受審
4. 細菌室立ち上げに向けての整備

【業務概要】

(採血室) : 外来全診療科対応

(検体検査項目) : 血液検査・一般検査・生化学検査・免疫血清検査・輸血検査・細菌検査(グラム染色、抗酸菌染色鏡検)

(生理検査項目) : 超音波検査(心臓・腹部・表在・関節)、
心電図検査(12誘導、運動負荷(歩行、マスター負荷)トレッドミル・CPX検査、
ホルター心電図、肺機能検査、NO呼気ガス分析、ABI/PWV検査、脳波、神経伝導検査
(バスキュララボ) : 心臓超音波(経食道心エコーを含む)・血管検査(腹部、頸動脈、上下肢動静脈、
シャント、)ドブタミン負荷心臓超音波、SRPP、FMD、ABI/PWV検査

■2015年度の取り組み及び実績

- ・検査件数 (統計実績参照)
- (運用)
- ・院内(患者、職員用)向け検査科業務パンフレット作成
- ・生理・検体全ての標準作業書作成
- ・生理検査TAT管理システム構築及び実施(患者待ち時間、検査時間の管理)
- ・個人の力量評価チェックシート作成及び実施
- ・脳波記録院内PCへの送信システム開始
- ・業務効率化に向けてのコンサルトを受ける
- ・内部監査終了、マネジメントレビュー展開
- ・日臨技精度保証施設認証の取得
- (新規業務導入)
- ・グリコアルブミン、トロポニンI検査の導入
- ・血圧のみホルター心電計導入・デジタル脳波計導入
- ・新規治験業務:透析患者の(超音波による副甲状腺検査)
- (教育)
- ・学会発表 3題、研修会発表 4題
- ・県外講習会参加 6名 (輸血関連、神経検査関連、超音波関連)

人員体制

1. 臨床工学技士：18名（科長：1名 主任：1名） 構成人数：18名
 血液浄化：5名 ICU：1名手術室：4名医療機器管理：2名 心臓カテーテル：2名
 透析技士：2名血液浄化担当 医療機器保守修理：2名

■概要

臨床工学科は2016年3月末時点で18名が所属し主な業務として血液浄化装置、人工心肺装置等の生命維持装置を中心に操作と医療機器の保守点検を行い診療現場からの医療機器修理初期対応も施行。

【活動内容】

医療機器管理（購入から廃棄、機器貸出、保守点検、納品検収、修理等）医療機器保守管理（始業時、使用時、終了時、定期点検等）新規、更新購入や廃棄の検討医療ガス日常点検、医療ガス管理委員会医療機器修理の初期対応人工呼吸器使用時RSTラウンド週2回各種勉強会、説明会の開催（ME勉強会、各部署依頼勉強会）臨床業務における技術提供（人工心肺血液浄化、アフエレーシス、ナビゲーション、その他臨床技術協力）透析液水質管理、医療機器安全管理起案事前確認会議、高額医療機器購入会議、感染制御管理委員会、他科との調整業務分担推進会議医療技術者として生命維持管理装置の操作および保守点検を遂行し医療チームの一員として医療従事者と密に連携しより円滑で効果的な体制を整えて医療の進歩と安全に貢献し最良の医療提供を行う。臨床工学科は、血液浄化、心臓血管外科、脳神経外科においては24時間終日PHS待機体制を施行。

■目標

手術室の業務急性期に於ける業務拡大、他医療従事者間との連携・協力修理コストを削減し経営面に貢献。

■2015年度の取り組み・実績

【臨床技術提供実績】

- ①透析総回数：27,504回 ②病棟出張透析：400回 ③血漿交換療法：患者数22 回数：85回
- ④エンドトキシン吸着：患者数4 回数：6回 ⑤血球成分除去療法：患者数8 回数：34回
- ⑥C-HDF：患者数4 回数：5回 ⑦腹水濾過濃縮再注入：患者数17 回数：25回
- ⑧心臓血管外科手術件数：145件人工心肺使用：85件 ⑨脳神経外科手術ナビゲーション操作：61件
顕微鏡操作：44件 ⑩学会発表：4 演題

【医療機器管理・実績】

医療機器保守点検：16,049件 医療機器定期点検：2,459件
 医療機器修理：院内1,582件 院外96件 医療ガス日常点検：314件

【医療機器研修会・説明会】

臨時研修会：12回 導入時説明会：16回

人員体制

診療放射線技師：23名
 看護師：7名
 クラーク：1名 助手：2名

■概要

一般撮影 4台 (CR及びFPD)	全診療科の単純X線撮影に対応
CT 2台 (320列・64列)	全診療科の単純及び造影検査に対応 必要に応じ3D画像の構築等
MRI 2台 (1.5T)	全診療科の単純及び造影検査に対応 必要に応じ3D画像の構築等
X-TV 3台 (Cアーム型・FPD)	消化器・泌尿器・婦人科・整形外科・外科系の透視検査全般に対応 内視鏡センターにてERCP・EIS・CF・BF等に対応
血管撮影装置 2台	循環器系専用1台・汎用型1台にて様々なIVRに対応
骨密度測定装置 (DXA)	腰椎及び股関節を基準に前腕、踵骨、全身の測定に対応
ガンマカメラ 1台	全診療科からのガンマカメラを使用した、核医学検査全般に対応
ポータブル装置 4台	外来、病棟、ICU、手術室に設置対応
外科用イメージ 4台	手術室にてステントグラフト、血管外科、外科、整形外科、泌尿器等で使用

科内委員会

・運営委員会・教育学術委員会・医療安全委員会・放射線管理委員会・放射線機器管理委員会・IT委員会

■目標

- ・科内の教育体制の改革を行う
- ・個々の知識向上に努める
- ・各施設の運用の改善
- ・委員会活動の充実

■2015年度の取り組み及び実績

今年度の実績は、一般撮影 67,500件 ポータブル撮影 5,200件 UGI 130件 Ba-E 180件 他造影検査 700件 骨密度 1,000件 CT 21,500件 MRI 6,400件 核医学 810件 血管撮影及びIVR 2,400件であった。昨年度に比べ、CTの件数がやや増加傾向となった。血管撮影及びIVRに関しても増加傾向であり、緊急対応の件数も増えている。

また、本年度は、高額医療機器の更新導入はなかったが、放射線情報システム (RIS) の更新があり、RISの機能である患者認証システムや撮影室内患者確認モニタ等の積極的な取入れ、運用が行われた。委員会活動では医療安全委員会が過去3年間の科内インシデントの取りまとめを行い、IT委員会と協力して運用が開始された患者認証システムの有用性の確認検討が行われた。(内容に関しては、次年度の沖縄県放射線技師会学術発表会にて報告予定) また、放射線機器管理委員会では、造影剤注入装置の自主点検を行い、機器の精度が担保出来ているか確認を行った。このように、活発な委員会活動の下、より安全で安心な質の高い医療の提供ができるよう改善活動が行えたものと思われる。

人員体制

病理・細胞診専門医：1名（常勤）、病理専門医：1名（非常勤）
 臨床検査技師：5名（常勤、全員細胞検査士有資格者）
 受付事務：1名（非常勤）

■目標

1. 医療の質向上を図る
2. 診療科との連携強化
3. 収益アップに向けて

【2015年度の取り組みおよび実績】

1. 検査実績

- ・組織検査：総件数5,779件
 - 作製標本総枚数19,391枚
 - 術中迅速病理組織診断163件
 - 酵素抗体法検査391件
 - 酵素抗体法総枚数1,755枚
- ・細胞診検査：総件数14,689件
 - 作製標本総枚数31,491枚
- ・病理解剖：10症例

【特筆すべき事項など】

組織検査件数、細胞診検査件数とも前年度と比較し、ほぼ横ばいの傾向であった。しかし酵素抗体法検査の分野では件数および作製枚数とも前年度の5割程度の増加を示した。この分野の検査は、近年がん患者の治療法選択に大きく寄与する検査であり、今後も増加傾向を示すと考えられる。結果報告の遅延を避けるため、さらなる自動化や当科スタッフのスキル向上を図る必要がある。

人員体制	管理栄養士15名、栄養士1名 （科長、主任1名、副主任2名） 給食会社職員（栄養士、調理師、調理員、食器洗浄員、事務員）
------	--

【2015年度の実績】

入院患者の早期治癒・回復に向けて、主治医をはじめ他部署と連携を図り、患者の栄養管理を行っております。管理栄養士は病棟担当制で3ヶ月毎に担当を変え、様々な病態に対して栄養管理ができるよう取り組んでおります。病棟での業務として栄養計画の立案・主治医への提案、栄養評価、食事内容の検討、食形態の検討、経腸栄養剤の調整、NST回診、栄養食事指導等を行っております。栄養食事指導は他医療機関からの依頼も実施しており、予約以外、急な依頼にも対応しております。また医師・看護師と連携をとり、糖尿病透析予防管理指導、透析外来栄養指導も実施しております。栄養教育の一貫として、初めて腎臓病患者対象の料理教室を開催し好評でした。今年度開催した第1回腎臓病病態栄養専門管理栄養士試験に1名合格し、今後も専門性を高めた栄養管理が実施できるよう、卒後教育と専門管理栄養士育成の強化を図りたいと思います。

- 1 栄養サポートチーム 加算 : 5,676件
- 2 個人栄養食事指導加算 : (入院) 2,715件、(外来) 1,286件
- 3 食事提供数 : (一般食) 115,517食、(治療食) 160,755食
- 4 学会発表 5 演題
 日本病態栄養学会 1 演題、日本静脈経腸栄養学会 1 演題、日本褥瘡学会 1 演題、日本透析学会 1 演題
 沖縄NSTフォーラム 1 演題
- 5 資格取得
 腎臓病病態栄養専門管理栄養士 1 名、糖尿病療養指導士 2 名、NSTコーディネーター 1 名
- 6 糖尿病 食事会開催 バイキング方式 / 料理30品
 ・平成27年7月「益料理の上手な食べ方について」、参加者：41名（他医療機関患者紹介あり）
 ・平成27年12月「正月料理の上手な食べ方について」、参加者：56名（他医療機関患者紹介あり）
- 7 糖尿病教室
 毎月第2月曜日（15：00～16：00）、入院・外来患者対象、場所：糖尿病・生活習慣病センター内
- 8 腎臓病 料理教室開催
 平成28年3月、参加者9名、場所：かえるピア（沖電ビル）
- 9 その他 科内ランチョン勉強会開催（週4回）、科内症例検討会開催（週1回）実施

【有資格】

がん病態栄養専門管理栄養士 1 名、腎臓病病態栄養専門管理栄養士 1 名、糖尿病療養指導士 2 名
 NST専門療養士 3 名、病態栄養認定管理栄養士 2 名、静脈経腸栄養（TNT-D）管理栄養士 1 名、
 NSTコーディネーター 1 名

人員体制

【看護管理部】 看護局長：1名 看護副局長：2名 看護局事務：2名
 【エキスパート部門】 感染管理認定看護師：2名、摂食・嚥下障害看護認定看護師：1名、皮膚・排泄ケア認定看護師：2名、がん化学療法看護認定看護師：2名、緩和ケア認定看護師：1名、集中ケア認定看護師：1名、慢性呼吸器疾患看護認定看護師：1名、救急看護認定看護師：1名、糖尿病看護認定看護師：1名、脳卒中リハビリテーション看護認定看護師：1名、レシピエント移植コーディネーター：1名、ピアカウンセリングナース：1名、退院調整部門看護師：2名、食支援看護師：2名

■概要

病床数：376床 看護単位：12看護単位（ICU10床・HCU6床含む）

外来部門：一般外来・透析センター・内視鏡センター・救急外来・日帰り手術センター

手術部門：手術室（11室）中央材料室 看護配置：7対1 勤務体制：2交代制

看護方式：パートナーシップ・ナーシング・システム（PNS）

PNSの充実により、安全な看護の提供、新人看護師の早期育成、業務の定時終了など、看護の質の向上とワーク・ライフ・バランスの実現に繋がっている。南部病院との合同教育をはじめ、キャリア支援に於いては3領域の認定看護師が認定資格を取得、院内では看護実践能力の高いリーダーの育成を目指し「院内認定エキスパートナース（呼吸領域）」の院内認定看護師制度に今年度7名が修了認定を受けた。入退院調整についてはベッドコントロールチームと退院支援ナースを中心に円滑な病床管理を行っている。

■目標

【ミッション】 全ての患者さんに安全で質の高い看護サービスを提供する

1. PNSの確立
2. 入退院調整機能の充実
3. 看護師の定着推進・適正人員配置
4. 看護の質の向上への人材育成と教育
5. ワーク・ライフ・バランスの推進

■2015年度の取り組み・実績

1. 新卒看護師入職42名（4月）
2. 看護学校への講師派遣等 52名
3. 看護週間 5/10～5/16
 - ①看護活動紹介のポスター掲示
 - ②母の日似顔絵展
 - ③看護イベント
 - ④ふれあい看護体験（15名）
4. 看護局総会 5/29 ・活動報告 ・永年勤続表彰 ・新人看護師激励会 ・定年退職者激励
5. 新人看護研究発表会 10演題 10/1
6. 看護局・看護職活動部会主催イベント
 - ①友愛園納涼祭にてチャリティーバザー 9/26（リレーフォーライフへ売上金寄付）
 - ②3Kg減らすウォーキング大会11/14
 - ③テーブルマナー 3/10
 - ④いちご狩り 2/28 参加人数 大人25名、小人18名
 - ⑤全島エイサーバスツアー 9/5（土）9/6（日）
7. 人事交流 留萌市立病院：研修受け入れ 10月1名
福井県済生会病院：研修受け入れ9月1名：研修派遣10月1名
8. ワーク・ライフ・バランス推進への取り組み

人員体制	師長：1名　主任：1名 看護師：37名　准看護師：3名 看護補助者：15名　クラーク：1名　入力担当者：5名 美容アシスタント：1名　看護相談看護師：1名　コンシェルジュ：1名
------	---

■概要

当院の1日の外来患受診者数は、800～900名である。地域支援病院として外来診療においても専門性の高い医療を目指し、専門医による専門外来を行っている。また、認定看護師（がん認定看護師・糖尿病認定看護師）や専任及び担当看護師を配置し、がん化学療法看護や糖尿病患者指導・リウマチ指導・ストーマ指導・心臓リハビリ指導・リンパ浮腫外来や腎移植外来・自己血輸血など医師と共にチーム医療を提供し安全で質の高い医療・看護を提供している。

日帰り手術センターでは、白内障手術や手根管手術を行い、日帰り大腸ポリープ切除術（内視鏡）も行っている。より良いサービスを患者様へ提供する為、患者サポートチームへの参加と「外来意見箱」や「外来患者満足度調査」の結果をもとに日々改善活動を行なっている。

■目標

ミッション：自分が受けたい看護を患者さんに提供する

ビジョン：外来で治療を受ける患者さんに専門的な看護サービスを提供する

行動指針：目配り・気配り・思いやりと笑顔のサービス

■2015年度の取り組み・実績

1. 教育：①院内外・県内外研修会の参加・発表　②看護協会研修　③医療・看護必要度研修　④在宅支援セミナー研修　⑤医療安全医療事故研修　⑥医療メディエーション研修　⑦小児アレルギーエドゥケーター研修へ参加
2. 看護専門学校講師派遣：（終末期看護リンパ浮腫について）
3. 看護学生実習受け入れ：小児科外来実習
4. ワークライフバランスの取り組み：①ノー残業ディ　②17時のラウンド（補完業務確認）
5. その他：①腎外来・CKD外来の立ち上げ　②施設見学及び施設見学の受け入れ　③糖尿病週間ポスター展示　④生活習慣病予防教室事業（豊見城市）参加

人員体制

師長 1 名
 看護師 19 名 内視鏡業務従事 11 名（消化器内視鏡技師免許取得者 8 名）
 放射線業務従事 8 名
 看護補助者 2 名 看護クラーク 1 名

■概要

内視鏡装置 5 台、 X線TV装置 1 台、 超音波診断装置 1 台、 内視鏡洗浄消毒装置 3 台
 内視鏡・放射線看護に置いては検査治療に対する知識・技術はもちろん、24時間救急に対応出来る実践能力が要求される。緊急を要する症例には、直ぐに対応出来るよう夜勤の導入とオンコールに対応している。内視鏡センターでは、内視鏡機器の洗浄・消毒に検査毎の十分な用手洗浄と高水準消毒薬を用いて、日常の診療に欠かせないツールとなっている内視鏡を介した感染が起こらないように務めています。2015年度からは、大腸ポリープ切除等の日帰り手術センターの患者の受け入れも行っている。

*2015年度・検査件数

- ・内視鏡検査の件数 6,660件（オンコール対応：145件）
 上部内視鏡検査 3,508件、下部内視鏡検査 2,754件、ERCP 286件、気管支内視鏡 112件
- ・脳血管治療及び検査の件数 226件
 脳アンギオ 119件、CAS 26件、コイル塞栓術 61件、他（血栓除去等）20件
- ・放射線科、麻酔科、外科の検査及び治療件数 70件

■目標

- ・安心・安全・迅速な内視鏡・放射線看護の提供
- ・検査治療の看護の質の向上
- ・緊急内視鏡受け入れ体制の整備
- ・チーム医療の構築

■2015年度の取り組み・実績

教育

- ・LPS導入に向けて、麻生飯塚病院施設見学 6月 前田理恵、金城聖子
- ・医療マネジメント学会九州・山口連合大会にて発表
 「業務効率改善へ向けた取り組み～内視鏡センターでの業務標準手順書～」
 11月 前田理恵、金城聖子、金城洋子
- ・消化器内視鏡技師研究会及び消化器内視鏡機器取り扱い講習会参加
 外間佑美子、市村愛子
- ・カメラ・処置具等の取り扱いの学習会を6回実施

人員体制	看護師長 1名	看護主任 1名	看護師25名
	看護補助者 4名	看護クラーク 1名	医療メディカルアシスタント 2名

■概要

ベット数	55床	透析装置 全自動コンソール稼働	55台	個人用透析装置	2台
外来患者数	約160名/月平均	旅行透析			36名
入院患者数	約65名/月平均	新規血液透析導入患者数			34名
腹膜透析患者数	21名	腹膜透析新規導入患者数			6名
腎移植	24名				

入院透析の患者数が増加しており、心臓の検査や手術目的での入院が、昨年より多くなっている。各診療科との連携をもち、スムーズな治療体制を整えている。

今年度5月より、CKD外来が稼働し、腎サポート外来へ来る前の段階の患者様へ、多職種介入型の診療体制、指導外来をスタートしました。患者個々に合わせて、治療法選択、指導の強化を図り、早期からの治療導入を、病棟、外来、透析室にてサポートしている。

透析室内では、透析療法において、I HDF療法やOnlineHDFのが定着している。

フットケアチェック表の運用を開始した。

記録の電子システムへの変更を行い、ペーパーレスの取り組みを行った。

看護業務・看護補助業務・クラーク業務・MAなどの、業務整理を行った。

■目標

1. 安全で安心な体外循環の提供
2. 救急患者の受け入れ態勢の整備
3. 患者サービスの強化
4. 安全な薬剤管理
5. 待ち時間の改善
6. 時間外勤務の改善
7. チーム医療の推進
8. 中堅看護師の患者指導能力の強化
9. 看護師教育体制の充実

■2015年度の取り組み・実績

1. 透析療法技術認定士の受講看護師 2名
2. 透析療法従事者研修者の受け入れ 医師3名 看護師1名
3. 腎臓病・生活習慣病センターにおける総合的チーム医療の実践に向けた取り組み
4. 研修会・学会発表、日本腹膜透析学術集会、透析医学会
5. 結の会（腹膜透析関連施設会議）への参加、関連施設への講師派遣
6. 看護学校への講師派遣 腎不全看護・腹膜透析看護・腎移植看護
7. 南部地区地域連携に向けた取り組み 災害対策の検討
8. 腎臓リハビリの導入計画・透析中のリハビリ導入
9. 関連業者からの勉強会開催
10. 業務改善（エコー下ガイド穿刺、電子カルテシステム化、各担当業務内容の見直し）

人員体制

看護師長	1名	看護補助者	16名（クレーク2名含む）
看護主任	2名		
看護師	29名		
准看護師	4名		

■概要

手術室11部屋（クリーンルーム1部屋含む）

診療科目 12科

平成27年度手術件数5,954件

麻酔科管理症例4,063件

■目標

1 患者様の安心・安全・安楽の追求。

- ①患者様と接する時間に限りがあり、如何に緊張を解し安心感を与えるかをテーマにコミュニケーションを図る。
- ②麻酔中の体位固定に細心の注意を図り、術後合併症の予防に努める。
- ③手術安全確認を確実にを行い医療過誤の予防に努める。

2 効率的な手術室運営の実現。

- ①時間・資源・人材の効率的運用を図る。
- ②手術実績に応じた手術枠の調整。

■2015年度の取り組み・実績

手術室運営にあたり、手術件数目標を500件/月と設定し全スタッフが12診療科全てに対応できる事を目標に掲げ取り組んできました。また、緊急手術等の予定外手術も可能な限り全て受け入れてきました。その結果として、前年比103%の手術件数増加へと結びついている。

手術室では看護師不足を補うため看護補助者からサージカルアシスタントとして器械出しを育成し手術に対応してきた。更に看護師と看護補助者のペアリングで夜勤を組み、器械組み等のワーク業務を中心とした雑務に当たることで準夜勤者の負担軽減と超勤対策を行ってきた結果、3割程度の超勤削減へと結びついた。また、個々の対応力向上がその一助となっているとも言える。

しかし、効率に重点を置くこととの交換に術前訪問という患者サービスを置き去りにしてきたことも事実であり今後の課題及び、強化重点項目として次年度以降の対策として取り組む必要があると考えている。

人員体制

看護師長 1 名 看護主任 3 名 看護師 25 名 准看護師 1 名 看護補助者 1 名
看護クラーク 2 名 看護局オブザーバーとして 看護局長

■概要

2次救急病院として24時間体制で対応。多職種がチームとして携わり救急医療にあたる、地域支援病院として位置づけられている。断らない医療を念頭に、常に受け入れ体制を整えるため、ベッドコントロール面でも力を入れている。

主な診療領域は、内科、外科、整形外科、産婦人科、循環器内科、心臓血管外科、脳外科である。緊急時の手術対応も可能であり充実している。他に、泌尿器科、眼科、皮膚科、耳鼻科、形成外科の患者も受け入れ、幅広い領域で対応している。

又、質の高い医療を提供できるよう、看護師も研修受講に積極的に参加し、知識、技術の向上に努めている。その他には、救急救命士学生の実習の場として、更に近隣消防の生涯教育の場としても協力し、人材育成にも積極的である。

■目標

①重症外傷受け入れ体制の強化

- ・重症外傷受け入れに向けて知識・アセスメント力・全体マネジメント力の強化
- ・医療機器取扱強化 超緊急輸血対応
- ・シミュレーション実施 チームの一員としての行動が取れ他職種との連携強化

②ドクターカー受け入れ充実

- ・ERスタッフJPTEC・JNTEC受講率UP
- ・携行資機材の充実 救急隊と連携を密に充実を図る

■2015年度の取り組み・実績

1. 患者受け入れ体制強化

- ①観察室の1室を隔離室に改装し運用開始
- ②ベルモントラピッドインフューザー（高速輸液ポンプ）導入 重症外傷対応強化
- ③ストレッチャー5台増床
- ④救急看護認定看護師1名合格

2. 診療部関連

- ①救急症例勉強会 2ヶ月毎1回開催
- ②ERカンファレンス 毎週土曜日
- ③南部地区MCメディカルコントロール評議会参加
- ④沖縄県MCメディカルコントロール評議会参加

3. 看護部関連

- ①ACLS受講 1名
- ②ICLS受講 3名
- ③JPTEC受講 2名
- ④JNTEC受講 1名
- ⑤部署内勉強会 月1回開催

人員体制

看護師長 1 名
 (病床数減にて10月より編成) 看護師 23→19名 看護補助者 2→1名
 看護クラーク 1名 MSW 1名 薬剤師 1名 入院医事課 1名
 4対1看護体制

■概要

【病床数】12床 10月より6床へ変更 ハイケアユニット入院医療管理料1取得

【病棟名】高度治療室病棟 (HCU病棟)

【診療科】内科・外科・整形外科・脳外・産婦人科・耳鼻科・泌尿器科・形成外科

【重症率】97% 【算定率】99.1% 【稼働率】87% 【平均在院日数】2日

【特徴】

HCUは、2014年6月1日より3北フロアにある日帰りセンターと隣接する場所に位置する。

夜間、休日及び日中のHCU担当医師(内科医・外科医)専任を配置する。

ER・外来から、集中治療を必要とする緊急入院や病棟急変患者、外科・整形・脳外の手術後患者の受け入れをし、幅広く看護を行っている。

ICUからの急性期治療継続を要する患者の継続看護と、緊急時の後方体制として各病棟と連携を行い重症患者発生時は、円滑に受け入れを行っている。

NST・摂食嚥下の看護において、早期介入を推進し自立への支援を早期より実践している。

【対象患者】

急性期・慢性期間問わず、全身的な集中管理、治療、看護、観察を必要とする患者

■目標

1. 重篤な急性期機能不全の患者看護の知識・技術の向上
2. ハイケアユニット機能の維持・向上重症率・重症度・看護必要度が、80%以上

■2015年度の取り組み・実績

①人材育成・研修

- ・院内エキスパートナース認定 (呼吸領域) 取得2名 ・人工呼吸器勉強会
- ・内科系(呼吸・循環・腎・消化器)と外科系(外科・脳外・整形・婦人科)看護の勉強会
- ・FCCS受講・取得 1名・RRS勉強会参加
- ・NST勉強会・摂食嚥下勉強会 ・病棟シミュレーション研修(急変時・摂食嚥外:食事支援技術)
- ・PNS看護方式を導入

②カンファレンス・会議

- ・NST・褥瘡・情報共有患者カンファレンス・病棟会議 月1回・ICU/HCU運営会議 月1回

③看護学校講師派遣

那覇看護専修学校(准看護学科)講師 基礎看護技術アシスタントティチャー2名

④迅速な入室患者の受け入れ体制づくり

- ・ベッドコントロール会議参加(9時・16時)

人員体制	看護師長 1 名 看護主任 2 名 看護スタッフ 28 名 集中ケア認定看護師 1 名 看護補助者 2 名 看護クラーク 1 名
-------------	---

■概要

病棟名：重症集中治療管理室（ICU）

診療科：全診療科対象 治療ベッド数：10床

重症率：92% 算定率：97%

稼働率：92% 平均在院日数：3日

特定集中治療管理を必要とする救命救急入院や急性期における看護・治療・診療を行う治療室であり全診療科を対象に患者を受け入れている。

救急外来及び病棟からの転入患者（術後患者・集中治療の必要な患者）の受け入れも多く、月平均延279名である。内訳として、心臓血管外科、消化器外科・腎移植後・脳外科・重症循環器疾患・敗血症・交通外傷・心肺蘇生後が全体を占めている。

日々、特定集中治療を要する患者の多様化に伴い、更に、質の高い安全で安心な医療が求められていることから、他職種を含めた総合的なチーム医療が提供出来るように努めている。患者、その家族を含めた急性期医療の提供を目指し実践している。

■目標

1. 常に重症患者を受け入れる体制を作る
2. ワークライフバランスを意識し、スタッフが働きやすい職場環境作り（年休取得率など）
3. 日常生活援助を充実し、2次合併症予防に努める
4. スタッフの知識技術の向上（勉強会・学会・各種資格取得に向けての取り組みなど）
5. 他職種間の連携強化

■2015年度の取り組み・実績

1. 1日2回（朝・夕）、ICU専従医師・主治医・看護師・呼吸循環士にて合同回診カンファレンスを行い患者の診療・看護の情報共有と治療方針の確認を行っている。一貫した継続性のある治療・看護が出来るように実施している。
2. 各勉強会や研修など
 - 1) 手術適用患者の術前カンファレンス（担当医師・ICU専従医・看護師・他職種）の実施
 - 2) 症状看護・治療に対する勉強会を週1～2回開催している。
 - 3) スタッフ中心に各疾患別のグループ活動
 - 4) 学会発表参加（集中治療学会・冠疾患学会）
 - 5) BLSインストラクター
 - 6) 小児三角頭蓋研修への参加

人員体制

看護師長1名 看護主任2名 看護師31名 看護補助者8名（クレーク2名含む）
MSW1名 入院医事課1名

■概要

【診療科】呼吸器内科、内分泌・糖尿病内科

【病床数】42床

【病床稼働率】104%

【平均在院日数】11日

【特徴】

診療科は呼吸器内科と内分泌・糖尿病内科だが、診療科を問わず予約外入院患者を中心に受入れしている。呼吸器内科では、COPDや喘息といった長期で継続した関わりが必要な患者から、人工呼吸器を使用するような急性期の患者まで幅広く受け入れしている。内分泌・糖尿病内科では、糖尿病のコントロールや教育目的での入院、ホルモン値検査等の患者が多く指導や説明といった部分に力を入れている。

全体的な病棟の特徴として、治療や療養において介助を要する患者が多く、看護必要度は常に目標値を超えている。高齢者と長期化し再入院を繰り返す患者の割合が高いのが特徴である。

■目標

- ・クリニカルパス使用率の向上
- ・PNSを活用し新人教育を充実させる
- ・残業時間を減らす
- ・教育体制の確立

■2015年度の取り組み・実績

PNS導入から3年が経過し、システムにも慣れ安定して看護が提供できるようになった。特に新人教育の面では、PNSを活用した指導方法が確立され、以前より早い段階での夜勤導入等が可能となった。PNSの充実に伴い仕事の効率化が進み、残業時間の減少へも繋がっている。また、今年度より開設された院内エキスパートナース（呼吸領域）研修へ2名のスタッフを参加させ、病棟での呼吸器に関する教育充実に向けて体制づくりを行っている。

業務の面では、以前よりクリニカルパス使用率が低かったことに対して、新たにホルモン値検査のクリニカルパス作成を行った。今後は、積極的にクリニカルパスの作成を行い、安心・安定した看護が提供できるよう取り組んでいく。

昨年度に比べ様々な面で変化が出始めている。特に、今まで病棟としてはあまり取りくんでこなかった看護研究に取り組み始めるスタッフが現れたり、自発的に業務改善に取り組んだり、個々が考えたことを行動に移し成果を挙げつつある。

人員体制	<ul style="list-style-type: none"> ◆看護師長 1名 ◆看護主任 1名 ◆看護師 36名（心臓リハビリ担当看護師4名含む） ◆看護補助者 6名（看護クレーク含む） ◆他職種病棟担当：NSW 1名 薬剤師3名 管理栄養士1名 医事課1名
------	---

■概要

【診療科】循環器内科、心臓血管外科、一般内科 【病床稼働率】102% 【平均在院日数】7日

【病床数】41床（循環器Bed 2床含む） 【病床利用率】91%

【特徴】

当病棟は、循環器内科・心臓外科を主科としている。同フロアに心臓カテーテル検査・治療を行う血管造影室が併設されており緊急時にいち早く処置・治療ができる体勢をとっている。それぞれのスタッフが連携をとり、いち早く情報の共有を図る為、患者さんにとっては、安心できる入院環境を提供できている入院中、患者さんには他職種によるアプローチがなされ、ハートチームとして全ての患者さんが笑顔で自宅退院される様に支援している。

また、「断らない医療」を目指し、他病棟、他部門との協働を図っている。入退院、カテーテル検査・治療が多く慌ただしい日々ではあるが、医療・看護の充実を図り、患者さんに安心した検査・治療の提供、満足して頂ける入院生活を目指し日々研鑽していきたい。

■目標

1. 専門性の高い知識の向上
2. 効率的なベッドの運用
3. PNSの完全導入

■2015年度の取り組み・実績

1. 病棟内勉強会の充実
 - ・心電図、循環器疾患の勉強会
 - ・カテ室研修
2. 看護学校への講師、アシスタントティーチャー派遣
3. 他職種カンファレンスの実施
 - ・退院調整部門とのカンファレンス（週1回）
 - ・循環器カンファレンス（週1回）
 - ・心臓血管外科カンファレンス（週1回）
4. 循環器ベッド2床の運用
5. クリニカルパスの見直し
6. 院内エキスパートナース（呼吸器領域）1名取得

人員体制

看護師長 1名	看護主任 1名
看護師 30名	准看護師 2名
看護補助者 5名	看護クラーク 1名 MSW 1名

■概要

診療科：腎臓病・リウマチ膠原病内科、一般内科、皮膚科

病床数：34床

ベッド稼働率：104%

平均在院日数：13日

■目標

1. 専門性高い看護提供
2. 人材育成の確立
3. PNSの完全導入

■2015年度の取り組み・実績

1. 研修・学術集会参加
 - ・日本腹膜透析学会発表
 - ・九州リウマチ学会発表
 - ・シミュレーション研修参加
 - ・院内外腹膜透析看護セミナー参加
 - ・院内外リウマチ看護セミナー参加
 - ・新人看護実施者研修参加

2. 日々の活動

専門性高い看護提供のため、腹膜透析・リウマチ看護研修の参加と専門外来業務をおこなった。

シミュレーション研修や新人看護実施者研修参加にて人材育成力をつけたことで、先輩看護師の役割意識が高まり新人看護師の離職抑制となった。

日勤の多様な勤務形態でのPNS完全導入と夜勤での導入のため、業務改善と時間管理の意識付けを行った。PNSの日勤の完全導入、夜勤の導入をおこなったことで、プライマリー意識が高まり個別的看護の提供に繋がった。

3階新病棟

看護局

人員体制	看護師長	1名	看護補助者	5名
	看護主任	1名	看護クラーク	2名
	看護師	28名	MSW	1名
	准看護師	3名		

■概要

診療科：整形外科

病床数：45床

平均在院日数：14.7日

ベッド稼働率：97.8%

■目標

- 1 専門性を活かし患者に関わり、早期離床、早期退院に向ける
- 2 転倒転落防止に努める
- 3 チーム医療の充実（Dr.・NS・RH・MSW他）

■2015年度の取り組み・実績

【病棟実績】

11月：45床へ増床

10月：THA クリニカルパス改訂

2月：TKA・THAクリニカルパス改訂

【日々の取り組み】

- 1 退院支援カンファレンス（毎週水曜日）
- 2 リハビリカンファレンス（月～土曜日）
- 3 ウチナーグチラジオ体操・合唱レクリエーション（月～土曜日）

【教育・病棟勉強会】

4月：PPEと感染対策

6月：病院の動向と三角頭蓋について

8月：病院の動向と細胞シートについて

10月：看護必要度評価について

12月：NPPVハンズオン

【看護研究】

「せん妄予防への当病棟の取り組み～ICDSCスケール活用による看護師のせん妄患者の可視化を試みて～」

4階病棟・産婦人科外来・不妊内分泌センター

看護局

人員体制	1) 看護管理体制			
	助産師・看護師長	1名	主任助産師	3名
	2) 職種(資格)別人員数			
	助産師	18名	看護師	11名
	看護補助者	2名	看護クラーク	3名
	3) 部署別配置人数			
	病棟・新生児室 産婦人科外来	25名 7名(助産師外来担当者2名含む)	不妊・内分泌センター	5名

■概要

当病棟は産婦人科病棟で、病床数は個室10床を含む22床の病棟である。分娩前後の管理をはじめ、切迫流早産、妊娠糖尿病、妊娠高血圧症、妊娠悪阻などの産科疾患の管理入院以外に内科・外科疾患などの合併妊娠の管理を行っている。生活習慣病の増加、高齢妊娠の増加、不妊治療の高度化などの影響を受け、ハイリスク妊娠・分娩は年々増加しており、NICUを有する総合周産期センター、地域周産期センターの2次施設として、また近隣の開業医などからの紹介や産婦人科救急を24時間受け入れている。

妊婦が主体的に分娩に臨めるよう、助産師外来ではバースプランを実施している。LDRシステムによるフリースタイル分娩、また中央監視システムにより異常の早期発見に努め、産科医・助産師が24時間分娩に立ち会い、妊婦・家族が安心して分娩に臨むことができる。生後早期からの母子同室を行い、退院後に助産師・看護師による1週間健診を全例実施することで、母乳育児の推進、産後のメンタルケアを充実させている。

■目標

- ①安全で満足の行く周産期ケアを提供し、次世代の健康増進に資する。
- ②医師・コメディカルの育成を介し、地域の周産期医療環境の整備に貢献する。

■2015年度の取り組み・実績

1) 産婦人科病棟・新生児室

- ①母乳育児の推進：国際認定ラクテーションコンサルタントを中心とし地域での普及活動
- ②助産実践能力習熟度段階(CLockMiP)レベルⅢ認定8名合格
- ③ハイリスク妊産婦の地域支援強化
- ④助産師・看護師による1週間健診全例実施

2) 産婦人科外来

- ①助産師外来 ・バースプラン・保健指導・妊婦の整体指導・授乳指導・おっぱいマッサージ
- ②両親学級(年36回実施)

3) 不妊・内分泌センター

- ①体外受精説明会開催(月1回)
- ②体外受精コーディネーターの資格取得、認定看護師不妊症看護課程受験

人員体制

看護師長1名 看護主任1名 看護師24名 准看護師2名 保育士1名
看護補助者5名 看護クラーク2名

■概要

病床数38床、病床利用率89%、病床稼働率102%、平均在院日数7日、看護提供方式：PNS、当病棟は混合病棟で、小児科、一般外科、泌尿器外科、耳鼻咽喉科、入院を必要とする15歳未満の小児を、一般外来や救急、地域連携を通し、幅広い年齢層の患者を受け入れしている。成人は主にクリニカルパスを活用した周術期管理を行う。加え泌尿器外科では化学療法、耳鼻咽喉科では咽頭喉頭の術後・放射線治療後の摂食嚥下リハビリ、小児科ではアレルギーや感染症、ネフローゼ症候群、川崎病などの治療、形成外科では小児の血管腫・母斑などの手術や各種レーザー治療、火傷、また先天異常診療や手術対象への看護実践をしている。病棟には保育士も配置され、入院中の保育活動や他部署からの預かり保育の協力もしている。当院でも虐待防止対策が取られている中で、当病棟は小児虐待については児童相談所との連携も必要とされ、中・南部・島尻地区の小児虐待防止対策の一端を担う。これからもよりよい医療を提供していくために、医師はもとより、薬剤師、MSW、リハビリスタッフ、食支援スタッフ、管理栄養士と連携とり。今後も、地域のニーズや社会の変化に対応できる医療人として成長出来るよう、院内外の研修参加や学習を重ね、医療・看護の質向上を維持する。

■目標

- ・小児ベッド16床運用
- ・手指衛生の徹底
- ・多職種カンファレンスの充実
- ・CICEARの実践
- ・WLBの確立
- ・療養環境の整備（満足度アンケートのクレーム改善）

■2015年度の取り組み・実績

【業務改善】

医療機器騒音対策、バーコード使用徹底、看護業務手順、PNS看護方式に沿った看護チーム編成、内服管理手順、クリニカルパス作成・修正、患者満足調査アンケート回収

【教育】

看護師シミュレーション教育継続、新人看護師シミュレーション指導者研修、沖縄クリニカルシミュレーションセンター主催による新人教育プログラム研修参加、クリニカルラダー別看護研修への参加、小児看護領域実習生受け入れ、那覇看護専門学校へのAT派遣、インターンシップ受け入れ、沖縄県看護協会各種セミナー参加、看護必要度研修、新人看護事例研究、呼吸器勉強会、RRT主催SBAR研修参加

【地域連携】

年末年始、長期祝祭日、休日の南部医療センターこども医療センターの後方支援

【コスト管理】

医療材料、病棟常備薬定数整理

【接遇】

退院フォロー電話、CICEAR研修参加、

6階病棟

看護局

人員体制

看護師長1名 看護主任1名
看護師32名 看護補助者6名
看護クランク2名 MSW1名 入院医事課1名

■概要

診療科：一般外科（生体腎臓移植を含む） 脳神経外科

病床：42床 病床稼働率：104% 在日数：8日

外科・脳神経外科の2科混合病棟である。外科では消化器・肺・肝・胆・膵臓系、乳腺、血管系などの手術や手術前・術後の化学療法も実施している。また毎月2例の生体腎移植手術も実施。脳神経外科では脳腫瘍、くも膜下出血などの患者を受け入れており、治療は開頭術や血管内治療を実施。手術後は患者・家族・医師・リハビリ科も含めた多職種カンファレンスを実施することで早期の社会復帰を目指している。

多様に変化していく医療に向き合い、周術看護の提供をするために各疾患の勉強会の開催。また認定看護師の協力を得て勉強会を実施、知識技術の向上に努めている。

■目標

- ・安心・安全な周術期看護の提供
- ・チーム医療の展開
- ・物品管理の徹底
- ・PNSの看護方式の定着

■2015年度の取り組み・実績

- ・口腔ケア-研修参加
- ・摂食機能療法セミナー参加
- ・退院支援セミナー参加
- ・全国PNS研究会発表
- ・看護学校講師派遣
- ・アシスタントティチャー派遣
- ・看護協会主催の研修参加
- ・病棟勉強会 ストマ・腎移植・脳神経
摂食嚥下勉強会
リハビリ科移動方法勉強会
RRSシミュレーション受講

人員体制	看護師長 1名 看護主任 1名 看護師 18名 看護助手 2名 クラーク 1名 MSW 1名
-------------	--

■概要

診療科：全科対象（小児科・産科・心臓血管外科を除く）

病床数：26床 平均在院日数：7日

ベッド稼働率：102% ベッド利用率：91%

病棟の特徴

- * 全室個室（プライバシーの遵守）
- * 一部を除いた全診療科対応
- * 検査入院から手術まで対応
- * 静かな療養環境の提供
- * 緩和ケア（看取り看護）対応
- * 感染症隔離ケアの対応
- * 個室料金（実費支払い）

■目標

- 1：安全を遵守し、安心できる看護サービスの提供を目指す
 - ①安全の遵守：個人情報・安全への配慮と管理・危機管理
 - ②安心できる看護サービス：患者満足度を意識した実践行動
 - ③接遇教育の徹底：挨拶・笑顔・身だしなみ・思いやり・気配り・目配り・言葉使い・傾聴
- 2：自己の知識と技術向上を目指し、学習意欲を高める
 - ①看護協会研修への参加
 - ②院内・院外の研修・講演会等への参加
 - ③新人教育への取り組み
 - ④e・ラーニング課題受講・その他
 - ⑤スタッフ全員で振り返り学習を实践

■2015年度の取り組み・実績

- 1：教育・業務
 - * 新入職員（新人）教育担当者配置
 - * 看護学校へアシスタントティチャー派遣
 - * 看護局配信（e・ラーニング）受講
 - * 医療安全・感染対策講演会（年2回）参加
 - * P N Sへの取り組み（日勤・夜勤のスタッフ配置と業務理解）
- 2：WLB等の取り組み
 - * 毎週土曜日 NO残業デーを設定
 - * 年間休暇計画表を活用しリフレッシュ休暇・年休等の100%取得
- 3：師長の取り組み（目標管理）
 - * 働きやすい職場環境を意識した職員へのアプローチ（話を聞く・話ができる）
 - * キャリアファイルの活用を徹底し、職員のキャリアアップにつながる情報をキャッチしてサポートする。

人員体制

看護師長1名 看護主任1名 看護師28名 准看護師3名
看護補助者6名 看護クランク1名 MSW1名 入院医事課1名

■概要

【診療科】整形外科・形成外科・婦人科・眼科

【病床数】40床

【病床稼働率】104%

【平均在院日数】10日

上記4科の混合病棟である。主に整形外科では人工膝関節置換術が多く、毎日平均4件の手術を実施。その他、転倒等による骨折の緊急入院の受け入れを行なっている。

形成外科は、重度の閉塞性動脈硬化症による下肢壊疽が多く、離島からの入院受け入れも行っている。その他、交通外傷による顔面骨折や広範囲褥瘡の為、手術による治療を実施。熱傷の緊急入院も受け入れをしている。

婦人科は、小手術から大手術、抗癌剤治療まで幅広く対応している。

眼科は白内障手術を主とした短期入院の受け入れを行なっている。

手術後は患者・家族・主治医・リハビリ科も含め多職種を交えたカンファレンスを開催。退院目標の設定を行い早期の社会復帰を目指している。長期リハビリが必要な場合は、回復期病院への転院の調整を行なっている。安心・安全な看護の提供を心がけて患者のニーズに応えられるよう定期的に病棟での勉強会を開催。

■目標

1. PNS看護方式の定着
2. 接遇の強化
3. 物品管理の徹底
4. 職員満足度の充実
5. 笑顔で働き続けられる職場

■2015年度の取り組み・実績

- ・全国褥瘡学会発表
- ・JSPEN学会参加
- ・口から食べる幸せを守る会実技セミナー参加
- ・沖縄看護協会主催の研修参加
- ・WLB等の取り組み
- ・各診療科で計画した勉強会開催
- ・教育担当が計画したシミュレーション教育
- ・看護学生の臨地実習受け入れ
- ・全国PNS研究会発表
- ・新人看護師事例研究発表
- ・QCサークル研究会参加
- ・RRSシミュレーション受講
- ・多職種でのカンファレンス実施
- ・看護補助者夜勤業務継続
- ・看護学校へアシスタントティーチャー派遣

人員体制	看護師長 1 名 看護師（准看護師 1 名含む） 28 名 看護補助者 6 名 看護クラーク 2 名 MSW 1 名
-------------	--

■概要

診療科：消化器内科 一般内科・病床数：40床

ベッド稼働率：104.2% 平均在院日数：9.6日

消化管出血・アルコール性肝障害・胆嚢胆管炎など、消化器系の疾患全般を対象としている。

緊急ERCP、FGS、CFなど緊急検査が多く、また、癌などの疾患にも対応している。

■目標

1. PNSの完全導入
2. 人材育成の確立
3. 働きやすい職場環境への改善
4. 病棟運営における役割分担の拡充

■2015年度の取り組み・実績

【PNSについて】

日勤・夜勤共にPNS（パートナーシップナーシングシステム）が不完全導入のままであったため、完全導入を目標に、業務の整理・ハード面の調整を行った。日勤・夜勤ともに2015年6月には完全導入ができた。PNSの完全導入により、受け持ち看護師としての意識向上にむけた取り組みを開始した。

【週間カンファレンスについて】

週間業務の見直しと日々のカンファレンスを開始した。開始当初は、なかなかカンファレンスの実施が難しかったが、根気よく声をかけることを続けた結果、カンファレンスを定着することができた。

（週間カンファレンス）月曜日：看護必要度カンファレンス・水曜日：摂食嚥下カンファレンス

木曜日：医療安全カンファレンス・金曜日：看護計画評価修正・情報共有

【リーダー育成】

リーダー育成については、卒後2年目からのリーダー業務導入の意識付けを行い、年度末には卒後1年目看護師以外全スタッフのリーダー業務導入は終了した。リーダー育成は今後も継続。

経験の浅いスタッフの病棟内外業務の拡大を行ったことで、コミュニケーション能力があがり、個々の仕事への意識向上にも繋がった。

【医療安全・感染対策】

医療安全の面では、2015年4月の時点でのバーコードリーダー使用率が40%台であったが、医療安全委員会リンクナースを中心に、声かけからはじめ徐々に上昇し90%以上の維持を継続できている。

感染対策の面では、スタンダードプリコーションの徹底から手洗い遵守率100%をめざし、感染対策委員会リンクナースを中心にチェックを開始した。年間平均80%以上の維持が出来るようになった。

人員体制

課長 1 名、副主任 3 名
 内科 11 名、糖尿病センター 3 名、心臓血管外科 1 名、外科 4 名
 整形外科 6 名、眼科 2 名、産婦人科 1 名、不妊外来 1 名、
 泌尿器科 2 名、透析室 3 名、麻酔科 2 名、
 形成外科 1 名、カテ室 1 名、脳神経外科 1 名
 (派遣職員 4 名)

■概要

医局事務課は医師の負担軽減の為、医師事務作業補助者として医師の指示、確認の下に医師の事務作業（診断書等文書作成）や診療の補助を行い、診察時間の短縮、事務作業の負担を軽減し、医師が治療に専念できるようにサポートすることを目的とし、設立された部署である。当院ではメディカルアシスタント（MA）と呼称されているが各医療施設で呼称は異なる。一般的には前述のとおり「医師事務作業補助者」が名称でありその字の如く「医師」の「事務作業」の「補助」を担う事で、外来補助時には患者様の待ち時間の短縮又は医師と患者様が接する時間がより長くもてるようになる。MAは医師、患者、他部署との連携を図る事により「医療の質の向上」に貢献している。

■目標

MAとして勤務する為には、医師法、薬事法、健康保険法等その他診療に関する研修を6ヶ月の間に終了することが必須であり、配属後は担当科の専門知識取得が必要不可欠である。また積極的に研修、勉強会に参加し医師が診療行為に専念できるよう正確、且つ迅速な診療補助に努め医師から信頼される職員の人材育成を目標とする。

○主な業務として医師の指示、確認の下に下記業務に携わっている。

- ・診療録作成補助、検査予約、処方箋、診療予約に関する代行入力
- ・診断書等の文書の作成補助 ・診察に関するデータ収集 ・NCD登録
- ・学会、講演会等の資料及びデータ収集

■2015年度の取り組み・実績

【2015年の診断書等書類作成・代行入力件数】

- ・診断書、診療情報提供書等 13,883件 月平均925件 ・代行入力件数 外来176,831件 入院19,170件

【研修・資格等】

- ・平成27年度医師事務作業補助者研修 ・第31回腎移植・血管外科研究会 ・NCDセミナー2015
- ・医師事務作業補助者指導者養成講習会 ・JACVSDデータマネージャー会議
- ・沖縄県医師事務作業補助者研究会 ・REASON Trial登録推進会議 ・災害医療フォーラムin福島
- ・日本心臓血管外科データベースマネージャー会議
- ・医療経営士3級資格取得者1名

研修実績

看護局

豊見城中央病院

施設内研修	参加人数	施設外研修	参加人数
集合研修	42	看護研究入門編	1
BLS研修	36	フレッシュマン研修	40
KYT（医療安全）	35	リーダーシップ研修	7
メンバーシップ	36	フィジカルアセスメント	14
問題解決技法	36	感染管理 ～感染防止の基礎知識～	14
看護観発表会	35	がん看護研修Ⅰ	15
シミュレーション	42	災害医療と看護（基礎編）	10
DESC法	36	看護職と倫理（入門編）	11
急変対応すぐやる技術/看護記録をどう書くか	39	助産実践能力習熟段階（クリニカルラダー）レベルⅢ	4
手術室研修	28	継続教育担当者として効果的な教育計画の企画にどう取り込むか	7
看護に看取りとエンゼルケア・経管栄養チューブ管理の栄養に実際	36	労働者として知っておきたい労働基準法の基礎知識	3
コーチング後輩育成講座	30	看護管理者が元気になるストレスマネジメント	3
問題解決技法Ⅱ	19	救急看護 急変よそくと対応	43
リーダーシップ研修	23	人工呼吸管理の基礎と患者のケア	14
問題解決技法Ⅲ	12	がん看護研修Ⅱ	18
輸液ポンプ、シリンジポンプの取り扱い/褥瘡の基礎知識と予防法	43	助産実践能力習熟研修（クリニカルラダー）レベルⅢ認証申請のための必須研修	5
アサーション研修	43	准看護師研修 与薬と医療事故防止	3
静脈血採血のコツとワザ	31	災害看護（看護管理者編）	8
看護業務と医療安全	30	口腔ケア 口から始まるQOLの向上	7
糖尿病の基礎知識と血糖測定・インスリン注射	42	看護の本質を再確認しよう看護の臨床の「知」から	6
フィジカルアセスメント	38	がん看護研修Ⅲ	17
事例研究	33	災害看護（実務編）	5
看護の可視化～看護を形で伝えよう～	33	医療安全管理者養成研修会	2
抑制開始判断フローチャートを導入してみた	6	看護職と倫理（看護管理者編）	6
透析室看護師の献腎移植における支援の取組	4	地域包括ケアシステム構築に向けた保健師と看護師の連携	4
看護必要度院内研修	39	沖縄県保健師助産師看護師自習指導者講習会	2
メディエーション研修	14	リーダーシップ研修	7
経管栄養のチューブの管理	31	医療提供体制の変化を踏まえた看護職の役割 患者の在宅療養を支援するために	15
急変対応すぐやる技術	32	看護師が行う糖尿病患者のフットケア	9
看護記録をどうかくか	33	日本冠疾患学会	2
高齢患者の感染予防対策	19	助産師職能委員会企画研修 胎児心拍モニタリング新生児フィジカルアセスメント	5
看護に役立つ胸部画像の見方	4	これからの時代に求められる看護記録	15

施設内研修		参加人数	施設外研修		参加人数
認知症の早期診断と早期治療・ケア		28	地域包括的視点に基づく看護管理		3
感染管理Ⅱ		11	医療事故と法的責任		1
新人看護職員研修実施指導者研修		5	創傷・褥瘡ケア（ストーマケア含む）基礎編		17
医療事故と法的責任		1			
第18回日本腎不全看護学会学術集会・総会		2	沖縄県における高齢社会の現状と看護職者の役割		6
IBCLCのための母乳育児カンファレンス		2	認知症高齢者の理解と看護（基礎編）		8
第4回 先輩看護師応援プログラム 机上トレーニング・国試験問題④		2	不穏患者への看護介入とチームアプローチの実際		6
第30回日本がん看護学会学術集会		1	摂食・嚥下障害のある患者の看護		13
RRS推進講座 アジャエンダー		1	人工呼吸器管理の基礎と患者のケア		9
医療メディエータ養成研修（基礎編）		1	創傷・褥瘡ケア（マネジメント編）		7
救急看護&トリアージ実技取得ベーシック		1	救急超音波講習会		1
第21回 日本心臓リハビリテーション学術集会		1	ナースのためのメンタルヘルスケア ストレス緩和方法		4
九州腎移植研究会		1	新人看護職員研修教育担当者研修		5
平成27年度 産科管理者交流集会		1	ケアリングアイランド 臨地実習指導		13
日本静脈栄養学会		2	QC大会		14
透析従事者研修		1	日本ACLS協会沖縄トレーニングサイト		2
第3回九州・沖縄地区クリティカルケア看護セミナーリハビリテーションの重要性		1	平成27年度医療安全管理者養成講習会アドバンスコース		1
泌尿器看護セミナー		2	第12回日本褥瘡学会九州沖縄地方会		1
重症度、医療・看護必要度の院内監査のあり方		2	VHJ 透析部会小委員会 透析室ケア必要度分科会		1
第4回 先輩看護師応援プログラム 机上トレーニング・国試験問題④		2	シミュレーション基板型教育セミナー（Fun Sim J）		1
救急看護 急変予測と対応		13	第79回 日本循環器学会学術学会		1
日本サイコオンコロジー学会総会		1	第15回沖縄リウマチ薬研究会		1
慢性疾患患者の療養生活をいかに支えるか		10	こころ豊かなライフ・ワーク 専門能力をボランティアに活かそう		1
日本救急看護学会主催		2	第60回 日本透析医学会		2
第21回 日本腹膜透析医学会学術集会・総会		3	第11回 ICMアジア太平洋地域会議・助産学術集会		2
日本集中医療医学会 学術集会		3	医療安全管理者養成研修 日本病院会		1
糖尿病重症化予防（フットケア）研修		1	日本透析医学会 学術集会・総会		2
退院支援がうまくいく病院にする仕組みづくりと具体策		2	第6回 日本] 腎臓リハビリテーション学会学術集会		2
退院支援		1	第34回 沖縄県人工透析研究会		6
第36回 透析技術認定試験		2	第5770回 QCサークル全国大会		1
医療安全基礎講座2015		1	先輩看護師シミュレーション研修		1
里帰り研修		1	第3回 PNS研究会 IN 福井		2
医療関係者のための経営改善セミナー		1	バクスター宮崎工場見学		1
施設内研修	実施件数	33件	受講者延べ人数		960人
施設外研修	実施件数	97件	受講者延べ人数		567人

人員体制	課長1名 主任1名 副主任2名 一般職6名
-------------	--------------------------------

■概要

当用度課は、物品の流通、費用に関わる重要な位置にあり、各部署への物品の安定供給と徹底したコスト削減はもとより、物流業務の効率化と、適正在庫量の周知徹底を目標に日々業務を行なっている。

1. 物流管理

医療材料、医療消耗品の受発注から払い出し業務、各部署の定数管理やオーダー物品管理、滅菌期限、棚卸管理を院内SPDシステムにて運用している。

2. 預託、持ち込み材料の使用情報データ入力

カテ室、OP室、放射線科、内視鏡センターにて高額使用材料の患者毎のデータ取り込み、使用実績の確認、物品の補充の為の発注業務、医事課への情報提供等。

3. マスター管理

材料、薬剤、消耗品の新規採用、変更等によるマスター作成業務。新規備品導入時の備品登録業務。新規採用物品の登録や価格改訂、価格交渉での物品マスターの修正を行う。

4. 価格交渉

新規採用時、変更、見直しでの価格交渉と高額使用材料の価格見直し。起案決済分の導入前の価格交渉

■2015年度の取り組み・実績

1. 医療改訂年度以外での価格交渉

医療改訂以外で段階引き下げとなった材料の包括交渉を行い、約2%の価格引き下げを獲得する。
内服薬を中心に薬剤の価格見直しでの再交渉を行った。

2. 業務の見直し

物流部門と管理部門の業務整理を行い、専門性を生かした業務運用を開始する。
物流部門の業務の標準化マニュアルの作成、業務フローチャートの作成。

3. VHJ推奨商品への切り替えの推進と強化を図る。

衛生材料の値上を基にVHJへの推奨見直し依頼を行い、推奨商品の変更を行った結果、値上前の価格以上のメリットを算出する。

VHJ推奨商品以外の価格交渉もベンチマークを活用して行った。

人員体制

課長 1 名
主任 2 名（衛生工学衛生管理者 1 名）
副主任 1 名
一般職 9 名（衛生管理者 1 名・図書司書 1 名・患者搬送等運転手 3 名）

■概要

病院事務を中心に、各科・課と業務連携を行いながら、庶務業務の他、他の部署に属しない様々な業務の対応を迅速に行っている。

主な業務として、

- ・官公庁許認可申請
- ・稟議書に関する業務
- ・文書收受業務
- ・特別管理産業廃棄物の管理
- ・各種契約に関する業務
- ・勤怠管理
- ・出張、旅費関係業務
- ・公用車輛管理（安全運転管理者 1 名・副安全運転管理者 1 名）
- ・委託業者管理
- ・各種実習受入担当窓口
- ・福利厚生
- ・院内イベント
- ・院内の苦情処理
- ・職場環境整備
- ・事業所内保育施設担当窓口
- ・救急車輛による搬送業務
- ・防災訓練
- ・院内PHS、内線電話管理
- ・職員安全衛生管理
- ・図書室管理
- ・広報誌「ゆうあい」編集

■目標

- 【1】患者満足度・職員満足度の向上
- 【2】正確な業務遂行と同時に、効率化・合理化を図る
- 【3】人材育成（課員個々のレベルアップ）

■2015年度の取り組み・実績

- ・職員定期健康診断受診促進（受診率100%）
- ・特定従事者検診（受診率100%）
- ・メンタルヘルス対策
- ・沖縄県緩和ケア研修会事務局
- ・AHA BLSプロバイダーコース事務局
- ・院内BLS講習会事務局
- ・広報誌発刊（年6回）
- ・病院立入検査（医療監視）対応
- ・職員駐車場の増設、管理
- ・施設基準届出資料作成
- ・医療法第7条、9条、27条、29条に規定する提出資料の作成
- ・事業所内保育施設運営等助成金支給申請書作成
- ・各種選挙不在者投票の対応
- ・汚物リネン庫の環境改善
- ・患者満足度調査の実施（外来・入院・透析）
- ・救急外来観察室の一部を隔離室へ変更。
- ・HCUの病床を12床から6床へ減少。3階東病棟へ1床、3階新病棟へ5床移動工事に伴う申請手続き。
- ・誕生日会運営（毎月）
- ・互助会運営（副幹事長）
- ・補助金申請
- ・ドクターカー対応

人員体制	課長 1 名 主任 1 名 副主任 1 名 電気主任技術者 1 名 一般職員 2 名 夜間専属（委託） 4 名
------	---

■概要

友愛会にて、所有している施設（豊見城中央病院延床面積 約3,300㎡ PETセンター 1,491㎡健康管理センター 4,700㎡、居宅59㎡、治験205㎡、保育園276㎡、保養所199㎡）合計57,500㎡の建物内に設置されている機械設備、電気、空調、衛生設備の維持管理を365日、24時間体制にて行なっています。

各設備に関わる国や県への申請、法令に基づいた点検整備、各種工事の打ち合わせ等を行い点検や作業がスムーズに行われるよう調整、提案を行なっています。

業務内容

豊見城中央病院

- | | |
|--------------------------|-------------------------|
| ・ボイラー点検 2回/日、浄化槽点検 1回/日 | ・電気設備点検 2回/日、発電機点検 1回/週 |
| ・医療ガス点検 2回/日、コジェネ点検 1回/週 | ・水質検査 1回/日、各ポンプ類 1回/日 |
| ・電気設備精密点検 1回/年 | ・消防設備点検 2回/年 |
| ・水質検査 1回/年 | ・各種官公庁報告書作成等 |

豊崎クリニック

- ・電気設備精密点検 1回/年
- ・消防設備点検 2回/年

健康管理センター

- | | |
|-----------------|----------------|
| ・電気、機械設備点検 1回/週 | ・電気設備精密点検 1回/年 |
| ・消防設備点検 2回/年 | ・水質検査 1回/年 |

その他

各施設の設備維持管理と改修や日々の修繕業務

目標

アメニティの充実、光熱費削減、各種免許所得、この3本柱をメインに下記を目標としました。

機器の寿命を考慮した提案をすることで、各建築物のアメニティの充実を図る。

高効率機器を採用することで、光熱費の削減を図り省エネを実施する。

人材育成し各種免許所得及び講習を受講することで、知識を広め技術向上を目指す。

■2015年度の取り組み・実績

新病院建築関連

新病院建築に向けたESP（エネルギープロバイダー）事業の提案。

新病院での地下水利用に関する提案。

現病院での地下水利用業者選定。

健康管理センターでの空調機省エネ提案。

報告書関連

経済産業省 エネルギー使用定期報告書

環境省 大気汚染排出量報告

沖縄県 水道水質関連報告

沖縄県 病院耐震補強関連報告書

講習への参加

最先端技術研修会、冷凍空調施設研修会、冷凍技術講習会

冷凍事業所保安講習、省エネ技術講習、危険物事業所見学

建築物ヒートポンプ活用セミナー

人員体制

課長 1名 (システムエンジニア)
 主任 1名 (システムエンジニア)
 一般職員 5名 (システムエンジニア 4名・事務員 1名)

■概要

情報システム課は、当院におけるサーバー、クライアントPC、多岐に渡る業務システムの管理、導入、職員へのコンピュータ操作指導を担う部署である。IT技術の医療現場導入により、その活動範囲は拡大している。

主な業務として

- ・ ネットワーク保守管理
- ・ オーダーリングシステム保守管理
- ・ 電子カルテシステム保守管理
- ・ 看護支援システム保守管理
- ・ 医事システム保守管理
- ・ 医療用画像ファイリングシステム (PACS) 保守管理
- ・ 地域連携システム保守管理
- ・ 手術・ICU検温等の自動記録システム保守管理
- ・ サーバー保守管理
- ・ プリンタ保守管理 (119台)
- ・ クライアントPC保守・管理 (デスクトップ型PC： 818 台、ノート型PC： 202 台、)
- ・ データ保守管理 (バックアップ・ウイルス・個人情報漏洩対策等)

が挙げられる。

これらは医療現場の状況に則して柔軟な対応を必要とするが、医師、看護師、技師、事務員と、ソフトウェアメーカーとの間に立ち、密接なコミュニケーションにより、円滑な運用を心がけている。

■2015年度の取り組み・実績

- ・ 電子カルテ入れ替え NEWTON (ソフトウェアサービス) →NEWTON2 (ソフトウェアサービス)
 自動受付機システム変更
 透析管理システム変更
 病理細胞診診断結果システム入れ替え
 自社開発アプリ改修
- ・ 文書管理システム導入 (MEDI-Papyrus)
- ・ 問い合わせ対応業務の管理体制の変更
- ・ 医療ITソリューション展参加
- ・ 救急外来診察状況案内システム開発
- ・ 外国人患者用同時通訳システム導入
- ・ ベッドコントロール用アプリ開発
- ・ 麻薬処方箋発行システム運用開始
- ・ サーバー室入退室管理体制の変更
- ・ 放射線検査依頼用紙・シール発行アプリ開発
- ・ 紹介率・逆紹介率自動算出アプリ開発
- ・ 退院サマリ・DPC情報差異抽出アプリ開発

人員体制

管理者副院長（1名室長兼務）
課長1名 副主任2名 診療情報管理士6名 一般事務3名

■概要

当室は、DPC対象病院として適切なデータ提出をするために、DPC導入の影響評価に係る患者調査票入力、ICD-10国際疾病分類に沿ったコーディングを実施している。構築されたデータベースから必要な情報を抽出・加工し、診療情報の二次活用が出来るよう精度向上に努めている。

診療記録については、医師および看護局監査を適正に行い、開示請求等に耐え得る記録を目標とし、医局会・師長会・各診療科カンファレンス等にて周知・フィードバックを行っている。「見読性かつ真正性、保存性を満たした診療録」を意識し、質の高いチーム医療推進につなげていきたい。

【主な業務内容】

<診療録関連>

- ・質的・量的監査（医局、看護局）
- ・保管・管理（新規発生紙媒体に関しては記録の電子化を推進）

<サマリー関連> *診療録管理体制加算1（100点）継続

- ・期限内90%以上記載率管理・督促
- ・疾病コーディング、処置・手術情報、死亡情報、患者調査票入力
- ・退院患者疾病統計

<DPCデータ関連>

- ・作成・チェック（様式1、様式4、詳細不明コード、転科、化学療法等）
- ・提出（厚労省、VHJ、QIプロジェクト、QIP、診断群分類研究支援機構）

<その他>

- ・診療記録開示請求業務（受付→起案→通知→受け渡し→報告）
- ・警察等から病歴照会業務（原則：捜査関係事項照会文書に基づき医師へ取り次ぎ回答）
- ・委員会事務局（DPCコーディング委員会、文書管理委員会、クリニカルパス検討会、QI委員会）
- ・各種委員会（IT委員会、医局会、師長会、主任会）
- ・病名マスタ管理（外来に関しては中長期的に整備予定）

■2015年度の取り組み・実績

項目	実績	昨年比	内訳 / 概要
①診療記録開示	42件	+10	患者本人52%、患者家族24%、裁判所7%、弁護士7%、その他10%
②警察等から病歴照会	91件	-6	変死者66%、捜査32%、その他2%
③院外アンケート（診療データ）	28件	±0	手術数でわかるいい病院（週刊朝日）、各学会アンケート、病床機能報告等
④院内診療データ抽出依頼	132件	-15	医局（学会発表、年報用等）63%、治験14%、看護局4%、その他19%
⑤院内外研修実績	3件	±0	ARROWSスタートアップセミナー、第14回VHJベンチマーク研修会、診療情報管理士生涯教育研修会
⑥診療録の移動	1件	-	死亡・インアクティブ診療録の一部を南部病院看護宿舎へ
⑦退院サマリー期限内達成率	92.9%	-1.2	督促方法を担当制から全員へ変更し、業務の効率化を図った。毎月95%目標達成に至らなかった点については課題が残った
⑧班体制の強化	随時	-	退院チェック、様式1、サマリー、統計・管理班の専門制へ変更したことで業務効率化が可能となった。しかしながら、平均5時間の残業については課題と捉える

人員体制

地域医療部長 副院長 1名
 地域連携室 室長 1名
 ソーシャルワーカー 5名
 地域連携室事務 3名

■概要

当院は地域医療支援病院の承認を受けており、地域の医療機関や介護サービス事業所、行政機関との連携窓口として以下の業務を行っている。

① 地域医療支援病院業務

- ・登録医、連携医療機関等との紹介・逆紹介に関する業務
- ・地域医療機関等への研修回・勉強会の企画、運営に関する業務
- ・地域医療支援病院運営委員会の開催
- ・開放型病床登録医総会の開催
- ・地域医療連携懇親会の開催

② 広報関連業務

- ・市民公開講座の企画、運営
- ・地域連携だよりの発行（毎月）
- ・救急だよりの編集、発行（毎月）
- ・心臓血管外科だよりの編集、発行（6回/年）
- ・広報誌ゆうあい「登録医紹介」、「市民公開講座の報告」担当
- ・登録医療機関の訪問、医師面会

③ 地域連携事務業務

- ・病診連携に関する統計業務
- ・紹介患者の外来調整・転院調整・救急調整
- ・地域連携パス（大腿骨近位部骨折・脳卒中）の事務局
- ・セカンド・オピニオンの紹介・受入調整
- ・患者サポート体制事務局

■2015年度の取り組み・実績

実績

- ・紹介患者件数 11,292名
- ・地域医療支援病院紹介率 68.1%
- ・逆紹介件数 16,532名
- ・地域医療支援病院逆紹介率 99.9%
- ・開放型医療機器利用実績 1,302件
- ・電子カルテ開示施設数 36施設
- ・電子カルテ開示件数 255件
- ・地域医療機関向け勉強会 18回
- ・院内市民公開講座 6回

人員体制

副院長・地域医療部長 永山 盛隆
医療ソーシャルワーカー（社会福祉士）9名

■概要

主たる業務は、入院患者の退院支援および入院中の相談対応。

外来患者の相談対応も医療相談室にて対応。外来の相談内容については以下の通り。

- ・腎移植
- ・緩和ケア
- ・がん相談
- ・そらまめ外来（腎不全サポート外来）
- ・虐待（疑い含む）対応

相談業務として家庭内環境の問題、救急外来に運ばれた身元不明者の対応、窮迫保護の申請、キーパーソン確認、精神障害者の精神科への通院・入院調整等、医事課と連携し、保険証や生活保護等の行政手続きの申請同行や代行、患者、ご家族のみならず、担当ケアマネージャーや関係機関からのさまざまな相談に日々対応。

退院支援は、院内のチーム医療実践のため他職種との連携を常に意識して業務にあたる。また院外の行政や他機関との連絡調整も密に行ない、治療終了後に患者やご家族が困らないように環境調整して退院していただく。

■2015年度の取り組み・実績

- ・他病院・他施設入院転院相談 1,709件
- ・セカンドオピニオン調整 17件
- ・介護保険相談 620件
- ・障害年金/生活保護相談 194件
- ・障害者手帳相談 154件
- ・がん相談（実数） 300件
- ・訪問診療/訪問看護調整 176件
- ・その他相談 687件

医療の質管理室 医療安全管理部門

人員体制

医療安全管理責任者：1名（副院長・兼務）
医療安全管理部門長：1名（医師・兼務）
医療安全管理責任者：1名（看護師・専従）
医療メディエーター：1名（専従）

■概要

“人は誰でも間違える”という人間の本質を基に、過ちを誘発しない環境や過ちが事故につながらないシステムを組織全体として整備し、安全文化の醸成に努め、安全で質の高い医療を提供する事を目的に活動を行っている。医療安全管理部門は、病院長直下である医療の質管理室に設置され、副院長を医療安全管理責任者、医療安全管理部門長を医師が兼任、医療安全管理者は看護師長を専従とし、組織横断的な活動を行っている。職員一人ひとりから、インシデント報告を積極的に出してもらうことで、各個人が安全管理に対して高い意識を持つ事ができ、改善、対策、再発予防へ繋がっている。報告されたインシデント・アクシデント事例については、多職種で構成される週1回のカンファレンスにおいて迅速に情報共有し、対策に係る取組を評価したり提言したりしている。各会議には、各部門の診療部長、科・課長、各部署からセーフティマネージャーが代表で出席し、情報の共有や対策の周知など組織全体で安全活動が行われている。

■目標

1. 医療における安全と信頼を保証し、患者・職員を守るための活動全般を行う
2. 原因を分析し、対策を強化する事で再発防止に努める
3. 安全に関する広報・教育活動を行い職員の安全風土作りを行う

■2015年度の取り組み・実績

2015年10月1日より、医療事故調制度が施行された。この制度は、医療の安全を確保するために、医療事故が発生した医療機関において院内調査を行い、その調査報告を医療事故調査・支援センターが収集・分析することで再発防止につなげることを目的としている。制度開始に伴い、全死亡症例をチェックシートの提出により把握し、検討が必要と判断した症例については、関係者で振り返りを行う体制を構築した。これにより、医療の安全確保のみならず、より質の高い医療提供につながっていると考える。

■研修・講演会

1. 院内講演会（年2回）
 - ①事例から学ぶ医療安全 受講率：95.7%
 - ②各部門の活動報告 受講率：96%
2. 教育・勉強会
 - ①新入職者オリエンテーション
 - ②中途入職者オリエンテーション（2ヶ月に1回）
 - ③医局セーフティマネジメント勉強会（毎月）
 - ④RCA勉強会（各部署の医療安全担当対象）KYT勉強会（新人看護師対象）
 - ⑤RRSシミュレーション研修
 - ⑥メディエーション勉強

医療の質管理室 感染制御管理部門

人員体制	感染制御管理責任者：1名（医師、兼務） 感染制御管理者：1名（看護師、専従） 感染管理認定看護師：1名（看護師、専従） 事務：1名（専従）
-------------	--

■概要

安全で質の高い医療を提供することを目的に、病院直下に2007年4月より医療の質管理室を立ち上げた。その中に感染制御管理部門を設置した。感染制御管理部門は、病院長を感染制御管理責任者とし、実務者として感染管理認定看護師を2名専従で位置づけている。

感染管理組織体制は、感染制御委員会、感染制御チーム「Infection Control Team」（以下ICT）、看護局感染対策委員会からなっている。感染制御委員会は、組織における感染対策の決定機関である。ICTは医師・感染管理認定看護師・薬剤師（感染制御認定薬剤師）・検査技師・事務の他職種メンバーで構成され、実働チームとして日々活動を行っている。看護局感染対策委員会は、ICTと連携し、各現場での実働および実践モデルとして活動している。「病院に関わる全ての人を感染から守る」「病院関連感染の低減を図る」ことを目標にし、安心・安全で質の高い医療が提供できるよう、感染制御活動を行っている。

■2015年度の取り組み・実績

1. ICTラウンド
 - ▶1回/週ラウンドし、感染対策の実施状況確認
2. 耐性菌アウトブレイク対策
 - ▶手指衛生強化
 - ▶情報収集
 - ▶感染防止対策の徹底
 - ▶職員教育
3. 感染防止対策加算1/感染対策地域連携加算取得
 - ▶感染防止対策加算2の施設（南部病院）と連携（合同カンファレンス：4回/年、相談）
 - ▶感染防止対策加算1施設同士の相互チェック実施
4. 抗菌薬適正使用
 - ▶年間のアンチバイオグラムを分析し、リーフレットを改訂。
 - ▶研修医レクチャー（抗菌薬適正使用、グラム染色）
 - ▶抗菌薬ミーティング（1回/月）
5. 看護局感染対策委員会
 - ▶ラウンド（1回/月）
 - ▶ラウンド時の指摘事項改善活動、報告会
6. 職業感染対策
 - ▶インフルエンザワクチン
 - ▶B型肝炎ワクチン
 - ▶流行性ウイルス疾患抗体検査・ワクチン接種
 - ▶針刺し/切創・粘膜曝露対策、対応
 - ▶管理健診
7. 教育
 - ▶全職員対象講演会（2回/年）
 - ▶新入職員導入研修/中途入職オリエンテーション
 - ▶リンクナース勉強会（1日研修）
 - ▶各職種（部署）別勉強会
 - ▶委託業者勉強会
8. サーベイランス
 - ▶JANISサーベイランス
 - ▶透析カテーテルサーベイランス
 - ▶耐性菌サーベイランス
 - ▶針刺しサーベイランス
 - ▶インフルエンザサーベイランス
 - ▶手指衛生遵守率

医療の質管理室 医薬品安全管理部門

人員体制

医薬品安全管理責任者：1名
豊見城中央病院 薬剤科 科長
(薬剤科長が医薬品安全管理責任者兼務)

■概要

医薬品安全管理責任者は病院、診療所又は助産院に設置される、医薬品の安全管理に設置される、医薬品の安全管理に関わる責任者である。

病院等の管理者の指示の下、下記業務を行う。

- ・ 医薬品の安全管理のための業務に関する手順書の作成。
- ・ 従事者に対する医薬品の安全管理の業務に対する手順書の作成。
- ・ 医薬品の業務手順書に基づく業務の実施
- ・ 医薬品の安全使用の為に必要となる情報の収集。その他医薬品の安全確保を目的とした方策の実施。

■目標

- ・ 毎月一回のラウンド時における医薬品の確認。
- ・ 医薬品安全講習会の開催。
- ・ 医薬品安全管理手順書の改訂
- ・ 院内ホームページMD-VIEWでの情報提供の充実。

■2015年度の取り組み・実績

- ・ 毎月一回の医療の質管理室における院内ラウンド実行。
- ・ 平成27年12月9日
第1回医薬品安全講演会
医薬品副作用被害救済制度に関して
医薬品医療機器機構（PMDA）より講演
平成28年1月29日
第2回院内合同講演会開催
(1年間の振り返り)
- ・ 院内ホームページMD-VIEWでの情報提供方法の改訂。
- ・ 各病棟における麻薬・向精神薬の払出し方法の説明会実施。

医療の質管理室 医療機器安全管理部門

人員体制	医療機器安全管理責任者：1名	医療機器安全管理実務者：1名
	医療機器保守修理者：2名	構成人数：4名

■概要

医療機器安全管理体制は、平成19年に医療法により法令が定められた。当院でも法規定に基づき医療安全管理を実施している。

1.医療機器の安全使用を確保するための責任者の配置 2.医療従事者に医療機器の安全使用のための研修の実施 3.医療機器の保守点検計画の策定及び保守点検の適切な実施 4.医療機器の安全使用のために必要となる情報収集その他医療機器の安全確保を目的とした改善のための方策の実施

【業務内容】

1.医療機器の保守点検・修理を実施 2.医療機器点検計画書の策定 3.医療機器安全使用のための研修記録リストの管理 4.医療機器研修記録の管理 5.人工呼吸器RSTラウンド（週2回） 6.医療安全環境ラウンド（月1回） 7.医療ガス点検の管理（毎日）医療ガス安全管理委員会（年1回） 8.医療機器不具合時の対応 9.医療機器人為的ミスとの分析と検証 10.診療現場における信頼性安全性の情報提供 11.医療機器購入時の納品検収 12.医療機器の廃棄及び移動申請 13.セーフティーマネジメント対策部会 14.セーフティーマネジメントカンファレンス 15.感染制御管理委員会 16.死亡症例検討会

医療機器のトラブルは機器本体および関連器具に起因するものと医療従事者の人為的ミス等がある。

また電気や医療ガス等の医療設備に起因することもあり日頃から対策を講じる事や、発生事例の問題点や分析、検証を行い今後の対策を診療現場へフィードバックさせる事で再発防止に繋がる。

■目標

医療機器管理技術の向上と安全な医療を提供する。

■2015年度の取り組み・実績

1. 医療機器保守点検：16,049件 医療機器定期点検：2,459件
2. 医療機器修理院内：1,582件 医療機器修理外注：96件
3. 医療ガス日常点検：314回
4. 医療安全環境ラウンド：12回
5. 人工呼吸器RSTラウンド：96回
6. 医療機器安全管理講演会（活動報告）：1回
7. 医療機器関連研修会・説明会

臨時研修会：12回

導入時説明会：16回

医療の質管理室 がん情報センター

人員体制

管理者 副院長 1 名（兼務）
 診療情報管理士 2 名（副主任 1 名）
 一般事務 1 名

【2015年度実績】

<統計関連>

1. 院外ホームページ公表
 院内がん登録2015年
 「主要5部位5年実測生存率」
2. 国立がん研究センター
 - ・院内がん登録全国集計へデータ提出
 - ・院内がん登録とDPCを使用したQI研究参加
3. 沖縄県地域がん登録データ提出 合計859件
4. がん関連データ依頼・集計
 - ・読売新聞社編集局医療部
 「病院の実力」
 - ・週刊朝日編集部「いい病院」
 - ・日本胸部外科学会
 - ・院内（医師・その他部署）13件

<取り組み>

- ・院内院外ホームページ開設・院内がん情報コーナー設置
- ・がんセンター事務局
- ・委員会発足（友愛会がん情報委員会/年2回・がん情報センター会議/月1回）

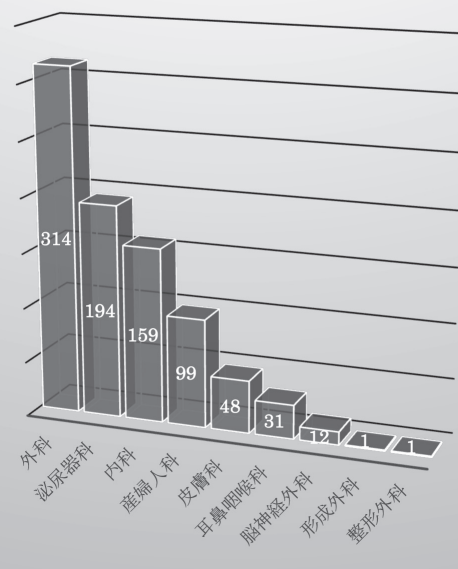
【特筆すべき事項】

今年度は「がん診療連携拠点病院」取得も視野に入れ、がんに関する情報を総括する部署「がん情報センター」として部署名を変更、業務内容も大きく変わった。各関連部署を召集、委員会を発足し指定要件の整備を中心に取り組んだ。情報公開では院内にがん情報コーナーを設置、院内外のホームページを開設し、さまざまな「がん情報」を発信した。データ提出については国立がん研究センターへ院内がん登録2014年症例の全国集計、院内がん登録2013年症例とDPCを使用したQI研究、沖縄県へは地域がん登録データ提出、その他院内（医師、その他の部署）からの依頼や院外アンケートなどにも対応した。

平成28年1月より「全国がん登録」がスタートし、全ての病院は都道府県へ届出することが義務化となった。さらに院内がん登録データの精度向上を目指しさまざまな統計を展開していく。

今後は、当院のみならず友愛会全体のがん診療の質の向上に繋がるよう施設間の連携を強化し取り組んでいく。

地域がん登録 診療科別件数
n=859



医療の質管理室 教育管理部門

人員体制	部門長（兼務） 1名 課長 1名 主任 1名 課員 6名
------	---------------------------------------

■概要

教育管理部門は部門長を中心に、1. 院内研修（職員教育）、2. 臨床研修支援室（医師臨床研修）の2分野にて、それぞれ協力体制を取りながら業務を進めている。職員教育では主に階層別教育として新入職員研修や中間管理職者研修を企画、運営を行っている。臨床研修支援室では、初期研修医が2年間の研修を行うのに適切な環境を整え充実した研修ができるように、研修管理委員会のメンバーとして、各部署および研修医の意見を集約し、サポートを行っている。

■2015年度の取り組み・実績

1. 研修（職員教育）担当

- ① 第2回研究発表会を実施 参加人数約150名
 研究発表演題 5演題、ナーシングインディケーター2題
 優秀賞：看護局 食支援室「満足して生きることへの支援」
- ② 院内教育通信の定期発行（毎月）
 今年度は、コラム掲載を多めにし、各職員の活動が法人内でアピールできるようにした
- ③ キャリア開発支援活動を実施
 キャリア開発支援活動として認定看護師教育課程の受験準備に向けた支援（書類提出支援・キャリア相談・小論文指導等）を実施 今年度認定看護教育課程への支援
- ④ 看護局職員への研修講師（リーダーシップ研修）
- ⑤ 新入職員導入研修
 前年度の実績を基に人事課とともにプログラム作成。プログラムでは、可能な限り院内講師で対応するよう調整し、法人全体からの協力を得られるような体制を目指した。
- ⑥ 友愛会豊見城中央病院医学雑誌第3巻の発行
- ⑦ 中間管理職者研修

立命館大学より外部講師を依頼、MOT（Management of technology）研修を計5回で開催

2. 教育研究（医師臨床研修）担当（修正予定）

当院は臨床研修病院群プロジェクト群星沖縄（8基幹型病院、9協力病院、11協力施設）および、Ryu-MIC（琉球大学附属病院を中心とした臨床研修病院グループ）プログラムへの参画病院である。その中で、指導医や研修医の交流や教育の場を提供しており、一施設では対応できない幅広い研修ができるように尽力している。今後も臨床研修制度に従い、研修医が医師として要求される基本的臨床能力を2年間で修得できるよう、更に充実した研修支援を行う。

専任事務担当者2名体制で実習、見学学生の対応、医師国家試験取得後1年目から2年目の初期臨床研修及び、3年目から5年目の後期臨床研修の業務管理を行っている。又、専攻医研修制度に向けた準備、情報集約、院内の体制整備など、専攻医受け入れに向けた柔軟な対応ができるよう取り組んでいる。

臨床研究支援センター

人員体制

センター長
 臨床研究コーディネーター：4名
 治験事務局担当：1名
 臨床研究事務局兼経理担当：1名

【2015年度実績】

新規臨床研究	
診療科	件数
循環器内科	5
糖尿病・生活習慣病センター	4
外科	2
呼吸器内科	2
呼吸療法室	2
産婦人科	2
呼吸器外科	1
婦人科	1
脳神経内科	1
脳神経外科	1
腎臓リウマチ膠原病内科	1
薬剤科	1

新規治験

診療科	件数
腎臓リウマチ膠原病内科	4

【特筆すべき事項など】

2015年4月に井関邦敏センター長が就任。新規依頼者からの依頼が増加し、センターの体制整備を行うことで更に幅広い領域の治験・臨床研究の獲得を目指した。外部SMOと相互支援を行うことで治験業務が円滑に進むようになった。

活動内容（委員会）

■委員会活動

No	委員会（50音順）	開催回数	活動内容
1	I T委員会	月1回	電子カルテの運用改善等の検討
2	安全衛生委員会	月1回	毎月第4木曜日、産業安全と労働衛生に関する事項の検討
3	医学雑誌編集委員会	年2回	医学雑誌発刊における編集内容の検討、査読、編集
4	移植推進委員会	月1回	院内職員への学習、教育、周知、情報共有等を行い、地域の方々へ、移植についての啓蒙活動、献腎移植認定施設としての責務を担う
5	医療安全管理委員会	月1回	医療事故の発生防止の分析、啓発、教育、広報等の検討を行なっている
6	医療ガス安全管理委員会	年1回	医療ガスに関する点検、報告、監督者や点検者の決定を行う
7	栄養（NST）委員会	月4回	栄養サポート栄養改善などを検討する
8	化学療法委員会	月1回	プロトコルの作成・検討、化療に関する情報共有と確認
9	感染制御委員会	月1回	病院長の諮問に応じて種々の院内感染を予防することを目的とし、その具体案を検討、立案するとともに、その決定により対策を実施する
10	友愛会がん情報委員会	年2回	友愛会各施設のがんに関する情報共有と課題認識を共有し組織的な改善策を検討している
11	緩和ケア委員会	月4回	毎週火曜日にカンファレンス、痛みや身体症状、気持ちの辛さの緩和、退院支援
12	虐待防止対策委員会	年1回	医療機関の責務として保護を必要とする患者（要保護者）への対応を明確にし、関連機関と連携をとり要保護者の保護及び支援を行う。虐待症例が発生した場合、随時ケース会議を開催する。
13	クリティカルケア委員会（ICLS）	月1回	院内患者様の急変の徴候を察知し、心停止の予防や心停止後の緊急事態への対応方法を普及、啓蒙及び人材育成等も行なっている
14	クリニカルパス委員会	月2回	パス作成に関する問題点の解決や運用方法の取り決め診療の質の改善につながるデータ収集と分析等を行なっている
15	検査運営委員会	2ヶ月1回	検査室の運営に関する協議を行い現場からの要望、活動に関する確認等を行なっている
16	コーディング委員会	年4回	適正な病名コード付与の検討
17	サービス向上委員会	月1回	外来アンケート調査、満足度調査等を行い集計結果をフィードバックさせる
18	褥瘡対策委員会	月1回	第1, 3, 4金曜日は院内ラウンド、第2金曜日は会議及び学習会、日本褥瘡学会で演題発表や参加を行なっている
19	省エネルギー推進委員会	年1回	エネルギー使用の合理化に関する活動。経済産業省へのエネルギー使用報告。
20	診療報酬委員会	月1回	返戻、再請求、減点の報告及び対策
21	セクハラ・パワハラ対策委員会	随時	セクシャルハラスメント、パワーハラスメントの相談・苦情への対応
22	接遇委員会	月1回	職員の接遇教育の充実を図り、医療現場における接遇の重要性を認識するとともに、患者サービスの充実と医療の向上に寄与する
23	摂食嚥下ケア委員会	月1回	多職種で集まり、各科の状況や課題、それに対する取り組み等について話し合い、他科からの助言をもらい修正しながら院内の摂食・嚥下ケアの質向上を目指す。
24	台風対策委員会	随時	暴風警報を発令する台風襲来が予想される場合に、台風対策委員会を開催し、台風対策の検討を行う
25	治験審査委員会	月1回	治験の倫理性、安全性、科学的妥当性等の審議、及び人権と安全、福祉を守りながら審査を行なっている
26	防災委員会	年2回	消防訓練計画の作成及び消防訓練実施（年2回）、防災設備の改善
27	薬事審議委員会	2ヶ月1回	当院で使用する、全ての医薬品の医学的及び薬学的評価を行い、選択、購入、配布、使用等に関する勧告を行う。
28	輸血療法委員会	月1回	ボランティアより提供された貴重な輸血用血液及び血液製剤を有効且つ安全に使用するための検討等を行なっている
29	臨床研修管理委員会	月1回	毎月第4土曜日開催、臨床研修に関する提案、協議等

学会発表

腎臓リウマチ膠原病内科

- ・ ANCA検査のANCA関連血管炎診断に対する寄与
当院ANCA検査施行状況より

上地 英司

第59回日本リウマチ学会総会・学術集会

(2015.4 愛知)

- ・ 脊椎の手術後に生じたと考えられる脊椎硬膜動静脈瘻の2例の検討

藤原 善寿

南部地区医師会学術生涯教育講演会

(2015.5 沖縄)

- ・ 皮膚から見つける内科疾患

小禄 雅人

南部地区医師会学術生涯教育講演会

(2015.5 沖縄)

- ・ 当院における腎生検症例の臨床的検討

小禄 雅人

第58回日本腎臓学会学術総会

(2015.6 愛知)

- ・ 術後無尿になった症例

下地 國浩

第119回沖縄県医師会医学会総会

(2015.6 沖縄)

- ・ 乳がん患者に発症した悪性高血圧症

永山 聖光

第119回沖縄県医師会医学会総会

(2015.6 沖縄)

- ・ アセトアミノフェンによる薬剤性間質性腎炎の1例

藤原 洸平

第119回沖縄県医師会医学会総会

(2015.6 沖縄)

- ・ 透析患者の偶発性低体温症に対して加温血液透析で救命し得た一例

立田 直久

第119回沖縄県医師会医学会総会

(2015.6 沖縄)

- ・ 当院におけるANCA関連腎炎症例の臨床的検討

小禄 雅人

第60回日本透析医学会学術集会・総会

(2015.6 神奈川)

- ・ 当院における末梢動脈疾患 (PAD) の現状と背景因子の検討

西平 守邦

第60回日本透析医学会学術集会・総会

(2015.6 神奈川)

- ・ 注排液不良を呈した3症例

永山 聖光

第60回日本透析医学会学術集会・総会

(2015.6 神奈川)

- ・ 当院血液透析患者における感染性心内膜炎の検討

喜久村 祐

第60回日本透析医学会学術集会・総会

(2015.6 神奈川)

- ・ 関節リウマチの治療

中田 知愛

リウマチ診療 地域連携講演会

(2015.7 沖縄)

- ・ AN AUTOPSY CASE OF LIMITED CUTANEOUS SYSTEMIC SCLEROSIS PAH WITH PVOD

村山 知生

17th Asia Pacific League of Associations
for Rheumatology Congress

(2015.9 インド)

- ・ 遠位尿細管アシドーシスを初発症状とし20年後にループス腎炎を発症した1例

照喜名 重朋

第45回日本腎臓学会西部学術大会

(2015.10 石川)

- ・ 強皮症肺高血圧の症例

村山 知生

第40回沖縄リウマチ・膠原病懇話会

(2015.11 沖縄)

- Contribution of MPO-/PR3-ANCA Tests to the Diagnosis of ANCA-Associated Vasculitis in a Community Hospital: Evaluation of 2.782 Samples
上地 英司
2015 ACR/ARHP Annual Meeting
(2015.11.6 アメリカ)
 - 抗GBM抗体型腎炎の一例と当院で経験した5例の検討
山口 佐歩美
日本内科学会九州支部主催第311回九州地方会
(2015.11 長崎)
 - 性同一性障害を背景に持つPD患者に生じた卵管采巻絡の1例
永山 聖光
第21回日本腹膜透析医学会学術集会総会
(2015.11 宮城)
 - トラネキサム酸投与時中止により排液障害が改善した1例
矢萩 浩一
第21回日本腹膜透析医学会学術集会総会
(2015.11 宮城)
 - 腎機能低下を契機に診断に至ったサルコイドーシスの一例
関口 卓也
第120回沖縄県医師会医学会総会
(2015.12 沖縄)
 - Bechet病3症例の報告
中田 知愛
第120回沖縄県医師会医学会総会
(2015.12 沖縄)
 - 局所症状に乏しかった結石性腎盂腎炎の1例
藤原 雅和
第120回沖縄県医師会医学会総会
(2015.12 沖縄)
 - 「人工透析について」
下地 國浩
沖縄県南部薬剤師会講演会
(2016.1 沖縄)
 - 豊見城中央病院におけるPD診療と症例報告に関する講演
矢萩 浩一
TRC症例報告会
(2016.2 沖縄)
 - 「当院における包括的腎補助療法の現状と展望」
永山 聖光
TRC症例報告会
(2016.2 沖縄)
 - 関節リウマチに対する生物学的製剤について
上地 英司
中外製薬沖縄新薬室社内研修会
(2016.3 沖縄)
 - クラウドサービスを用いた移植腎病理の遠隔読影システムの構築
西平 守邦
第49回日本臨床腎移植学会
(2016.3 鳥取)
- ### 循環器内科
- 救急車搭載モバイルクラウド心電図による臨床アウトカム
嘉数 真教
第79回日本循環器学会学術集会
(2015.4 大阪)
 - Impact of Troponin Elevation for One-year Survival after Transcatheter Aortic Valve Replacement
奥山 和明
第79回日本循環器学会学術集会
(2015.4 大阪)
 - 「脚が痛い！」「足の傷が治りにくい！」で、悩む患者はいませんか？」
新崎 修
宮古地区循環器カンファレンス
(2015.5 沖縄)
 - 「心房細動から脳を護ろう！」
大庭 景介
宮古地区循環器カンファレンス
(2015.5 沖縄)

- ・モバイルクラウド12誘導心電図伝送システムが早期診断につながった一例
嘉数 真教
第119回沖縄県医師会医学会総会
(2015.6 沖縄)
- ・エコーガイドが有用であった前脛骨動脈への経皮的動脈形成術の1例
奥山 和明
第119回沖縄県医師会医学会総会
(2015.6 沖縄)
- ・アルコール性肝硬変、多発性腫瘍患者にDIC、黄疸、急性腎障害で発症した沖縄県南部発症のWeil症の一例
新垣 朋弘
第119回沖縄県医師会医学会総会
(2015.6 沖縄)
- ・難治性冠攣縮性狭心症、心室細動に対しファスジル投与で管理し得た1例
大城 大介
第119回沖縄県医師会医学会総会
(2015.6 沖縄)
- ・当院の心房細動患者における抗凝固療法について
前田 峰孝
沖縄県南部地区抗凝固療法Network Meeting
(2015.6 沖縄)
- ・OCTによる観察が有用であった特発性肝動脈解離の一例
嘉数 敦
第118回日本循環器学会九州地方会
(2015.6 福岡)
- ・Tokyo Percutaneous cardiovascular Intervention Conference2015
知念 敏也
TOPIC2015
(2015.7 東京)
- ・A case of an extensive intramural hematoma after stent implantation in a bend lesion
嘉数 敦
第24回日本心血管インターベンション治療学会学術集会
(2015.8 福岡)
- ・A case of Inappropriate ICD Therapies in the Patient with Overlap Syndrome of LQT3 and Brugada Syndrome Effectively Treated by Ablation for Atrial Fibrillation
前田 峰孝
第30回日本不整脈学会学術大会/第32回日本心電学会学術集会 合同学術大会
(2015.7.31 京都)
- ・A case of acute upper limb ischemia with arterial thrombosis, treated by catheter-directed thrombolysis of young woman.
新垣 朋弘
第24回日本心血管インターベンション治療学会学術集会
(2015.8 福岡)
- ・A MORBID OBESITY PATIENT NEEDS SPECIAL CONSIDERATION FOR THE TRACHEOSTOMY TUBE CHOICE. USEFULNESS OF EARLY TRACHEOSTOMY AND ADJUSTABLE TRACHEAL TUBE.
山口 怜
World Federation of Societies of Intensive and Critical Care Medicine
(2015.9 韓国)
- ・入院時B型慢性肝炎に伴うChild-Pugh分類Cの肝硬変患者に発症した亜急性心筋梗塞による心室中隔穿孔に対して外科的修復術を施行した一例
新垣 朋弘
第63回日本心臓病学会学術集会
(2015.9 神奈川)
- ・MSSA肺血症時に心筋穿孔から急性心タンポナーデを合併したがフィブリン糊によるパッチで止血できた透析患者の1救命例
嘉数 真教
第63回日本心臓病学会学術集会
(2015.9 神奈川)
- ・心房細胞の加療～NOACとアブレーション～
大庭 景介
Face to Face 医療連携の会
(2015.10 沖縄)

- ・乳癌分子標的薬Trastuzumabによる薬剤性心筋症の1症例
山口 怜
第63回日本心臓病学会学術集会
(2015.9 神奈川)
- ・経皮的大動脈弁置換術後のPercutaneous Paravalvular Leak Closure: AVP4の有用性について
奥山 和明
ストラクチャークラブジャパン ライブデモン
ストレーション2015
(2015.9 東京)
- ・右房のfocal ATに対してPentaRay NAVカテーテルによる多極同時マップを使用しアブレーションを行った1例
前田 峰孝
カテーテルアブレーション関連秋季大会2015
(2015.10 福島)
- ・左房起源の心房頻拍のアブレーションに対し、多極マッピングが有効であった1例
大庭 景介
カテーテルアブレーション関連秋季大会2015
(2015.10 福島)
- ・A successfully treated case by hybrid therapy for occluded lesion of the iliac and superficial femoral artery
阿部 昌巳
Complex Cardiovascular Therapeutics 2015
(2015.11 兵庫)
- ・両側下肢閉塞性動脈硬化症に対して外科的内膜摘除術とカテーテルインターベンションによるハイブリッド手術にて治療した一例
新垣 朋弘
第22回日本心血管インターベンション治療学会 九州・沖縄地方会
(2015.11 沖縄)
- ・糖尿病がエゼチミブのLDL低下率に与える影響
山口 怜
第29回日本冠疾患学会学術集会
(2011.11 北海道)
- ・ベアメタルステント遅発性ステント内血栓症の一例
山口 怜
第22回日本心血管インターベンション治療学会 九州・沖縄地方会
(2015.11 沖縄)
- ・経皮的血管形成術を行うことで植え込みデバイスのアップグレードを行った2症例
阿部 昌巳
第22回日本心血管インターベンション治療学会 九州・沖縄地方会
(2015.11 沖縄)
- ・Reversed guide wire techniqueが有用であった分岐部病変の2症例
嘉数 敦
第22回日本心血管インターベンション治療学会 九州・沖縄地方会
(2015.11 沖縄)
- ・クロピドグレル耐性が疑われた亜急性期ステント血栓症 (SAT) の1例
嘉数 敦
第119回日本循環器学会九州地方会
(2015.12 福岡)
- ・「抗凝固療法の最近の話題」
前田 峰孝
沖縄県Core Member Meeting
(2016.1 沖縄)
- ・低心機能、持続性心室頻拍から5年後心サルコイドーシスと診断し、心不全増悪にてICDからCRT-Dへのup gradeを行った1例
大庭 景介
第8回植込みデバイス関連冬季大会
(2016.2 福岡)
- ・条件付きMRI対応CRT-Dのためmid cardiac vein (MCV) に左室リードを留置せざるを得なかった心サルコイドーシスの1例
前田 峰孝
第8回植込みデバイス関連冬季大会
(2016.2 福岡)

糖尿病内科

- ・妊娠糖尿病で分娩後39日目に発症した劇症
1型糖尿病の一例
眞境名 豊文
第58回日本糖尿病学会年次学術集会
(2015.5 山口)
- ・SGLT-2 阻害薬レスポンスの臨床的特徴
比嘉 盛丈
第58回日本糖尿病学会年次学術集会
(2015.5 山口)
- ・ステロイド治療に伴う高血糖に対してメトフォル
ミン及びDPP4阻害薬が有効であった4例の検討
井口 梓
第58回日本糖尿病学会年次学術集会
(2015.5 山口)
- ・高齢糖尿病患者における治療と低血糖との関連
眞境名 豊文
第58回日本糖尿病学会年次学術集会
(2015.5 山口)
- ・生体腎移植後の肥満症に対してSGLT-2 阻害薬が
無効だった1例
座覇 明子
第58回日本糖尿病学会年次学術集会
(2015.5 山口)
- ・腎臓ってすごい
比嘉 盛丈
第5回腎移植市民フォーラム～いのちの贈り物～
(2015.5 沖縄)
- ・SGLT-2 阻害薬で減量効果が得られる症例におけ
る臨床的特徴
座覇 明子
第119回沖縄県医師会医学会総会
(2015.6 沖縄)
- ・糖尿病専門施設で治療中の高齢糖尿病患者におけ
る低血糖発症頻度の実態
平橋 文
第119回沖縄県医師会医学会総会
(2015.6 沖縄)
- ・食行動パターンと肥満との関連
比嘉 盛丈
第36回日本肥満学会
(2015.10 愛知)
- ・SGLT 2 阻害薬に期待すること
比嘉 盛丈
Total management Seminar
(2015.10 沖縄)
- ・SGLT 2 阻害薬の作用動態が血糖変動に与える影
響について
比嘉 盛丈
第6回糖尿病合併症懇話会
(2015.10 福岡)
- ・民間病院の立場から
比嘉 盛丈
平成27年度沖縄県医師会勤務医部会講演会オー
ル沖縄の次なる挑戦！—これからの専門医にどう
取り組むか—
(2015.12 沖縄)
- ・長期ステロイド治療により副腎不全が疑われた
症例
座覇 明子
第120回沖縄県医師会医学会総会
(2015.12 沖縄)
- ・副腎の萎縮にステロイド含有点鼻薬の関与が疑わ
れた1例
大湾 朝元
第120回沖縄県医師会医学会総会
(2015.12 沖縄)
- ・当院におけるSGLT 2 阻害薬の使用経験
眞境名 豊文
第73回NDN（南部糖尿病ネットワーク）
(2016.3 沖縄)

呼吸器内科

- ・当院で経験した局所麻酔下胸腔鏡による胸膜癒着術の臨床的検討
岩渕 悠介
第55回日本呼吸器学会学術集会
(2015.4 東京)
- ・当院における農夫肺症例の検討
佐藤 陽子
第55回日本呼吸器学会学術集会
(2015.4 東京)
- ・BAL、TBLBにて好中球有意であった器質化肺炎の1例
上野 伸行
第119回沖縄県医師会医学会総会
(2015.6 沖縄)
- ・アスペルギルス肺炎を合併した肺癌3症例の検討
佐藤 陽子
第56回日本肺癌学会学術集会
(2015.11 神奈川)
- ・咯血をきたした原発性気管支動脈蔓状血管腫の2例
平良 翔吾
第120回沖縄県医師会医学会総会
(2015.12 沖縄)

神経内科

- ・意識障害を呈し急速に進行した血管内大細胞型B細胞悪性リンパ腫（Intravascular large B-cell Lymphoma：以下IVLBCL）の1例
深水 泰宏
日本内科学会九州地方会
(2015.5 福岡)
- ・体幹部の痛みで発症した神経サルコイドーシスの1例
林 涼子
第309回日本内科系九州地方大会
(2015.5 福岡)

外科

- ・TAPP法にて治療を行った大腿ヘルニアの3例
仲地 厚
第13回日本ヘルニア学会学術集会
(2015.5 愛知)
- ・生体腎移植アデノウィルス尿路感染の1例
錦 建宏
第35回九州腎移植研究会
(2015.5 福岡)
- ・膵IPMNの術前悪性度診断におけるFDG-PET検査の有用性についての検討
大田 守仁
第27回日本肝胆膵外科学会・学術集会
(2015.6 東京)
- ・沖縄県における短期滞在手術の現状提示
仲地 厚
第11回日本短期滞在外科手術手技研究会
(2015.6 沖縄)
- ・腹腔鏡下鼠径ヘルニアのトロッカー挿入法であるオプティカル法の導入初期成績
仲地 厚
第119回沖縄県医師会医学会総会
(2015.6 沖縄)
- ・切除不能進行再発大腸癌での化学療法に伴う有害事象報告
照屋 剛
第119回沖縄県医師会医学会総会
(2015.6 沖縄)
- ・集学的治療が奏功しPS4から1へ改善した乳癌多臓器転移の1例
比嘉 淳子
第23回日本乳癌学会学術総会
(2015.7 東京)
- ・日本最南端の移植施設での先端医療の実践～当院の移植システムの現状と展望～
大田 守仁
第31回腎移植・血管外科研究会
(2015.7 栃木)

- Cetuximab投与中に十二指腸穿孔を生じた進行大腸癌の1例
照屋 剛
第70回日本消化器外科学会総会
(2015.7 静岡)
- UTILITY OF THE JAPANESE GLOMERULAR FILTRATION RATE EQUATION IN ESTIMATING DONOR KIDNEY
辻村 一馬
ESOT Brussels 2015
(2015.9 ベルギー)
- 1年以上エベロリムスを投与した患者のadverse effectについての検討
大田 守仁
第51回日本移植学会総会
(2015.10 熊本)
- MPGNに対する腎移植の2例
辻村 一馬
第51回日本移植学会総会
(2015.10 熊本)
- 当科における腎移植後のBKウィルス感染症の検討
錦 建宏
第51回日本移植学会総会
(2015.10 熊本)
- 高用量5-FU投与中に高アンモニア血症を呈した進行大腸癌の2例
照屋 剛
第53回日本癌治療学会学術集会
(2015.10 京都)
- 術前診断が困難であった原発性肝neuroendocrine tumor の一切除例
東 康晴
第20回日本外科病理学会学術集会
(2015.11 和歌山)
- 術前化学療法を施行した進行胃癌術後の異時性原発性肝細胞癌の一例
錦 建宏
第20回日本外科病理学会学術集会
(2015.11 和歌山)
- 子宮体癌術後の直腸転移の1例
照屋 剛
第70回日本大腸肛門病学会学術集会
(2015.11 愛知)
- 縦隔型気管支動脈瘤破裂の1例
伊波 孝路
第77回日本臨床外科学会総会
(2015.11 福岡)
- 十分なメッシュ被覆後に発生したBulgingに対する腹腔鏡下腹壁瘢痕ヘルニア修復術の工夫
仲地 厚
第28回日本内視鏡外科学会総会
(2015.12. 大阪)
- ステロイド長期内服歴を有する患者への腹腔鏡下大腸切除術-最近の2症例-
仲地 厚
第120回沖縄県医師会医学会総会
(2015.12 沖縄)
- 左側JHS分類I型の腹膜切開はヘルニア門の下縁内側から始める
仲地 厚
第8回日本腹腔鏡下ヘルニア手術手技研究集会
(2016.3 静岡)
- 腎移植後にアデノウイルス感染症を発症した3例
辻村 一馬
第49回日本臨床腎移植学会
(2016.3 鳥取)
- 当科における腎移植後のBKウィルス感染症の検討
錦 建宏
第49回日本臨床腎移植学会
(2016.3 鳥取)
- 移植前Rituximab投与後の遅発性好中球減少についての検討
大田 守仁
第49回日本臨床腎移植学会
(2016.3 鳥取)
- 糖尿病性腎症に対する腎移植治療
大田 守仁
第5回腎移植市民フォーラム～いのちの贈り物～
(2015.5 沖縄)

- 血管が原因の皮膚の異常所見
島袋 伸洋
南部地区医師会学術生涯教育講演会
(2015.5 沖縄)

- 消化器癌における取り組みについて
錦 建宏
制吐療法を考える会
(2015.11 沖縄)

整形外科

- 大腿骨頸部骨折に対する骨接合術の短期治療成績
杉 崇
第21回救急整形外傷シンポジウム EOTS in 台湾
(2015.4 台湾)

- 中高年の整形疾患
永山 盛隆
平成27年度第1回沖縄銀行健康保険組合健康講演会
(2015.5 沖縄)

- 高度臼蓋形成不全股に対するERA0の経験
永山 盛隆
第119回沖縄県医師会医学会総会
(2015.6 沖縄)

- 成人に発症した大腿骨頭すべり症の1例
永山 盛隆
第42回日本股関節学会学術集会
(2015.10 大阪)

- セメントレス人工股関節全置換術後臼蓋骨折の3例
永山 盛隆
第120回沖縄県医師会医学会総会
(2015.12 沖縄)

- BiCONTACTステムの長期成績
永山 盛隆
第46回日本人工関節学会
(2016.2 福岡)

- 貯血式自己血採血の研修医教育
永山 盛隆
第29回日本自己血輸血学会・評議委員会
(2016.3 北海道)

形成外科

- 糖尿病患者に生じた体幹部皮膚軟部組織感染症についての検討
檜山 和也

- 第99回長崎形成外科懇話会
(2015.5 長崎)

- 重度糖尿病と薬剤アレルギーのため、感染コントロールに難渋した足湯熱傷の1例
石山 智子

- 第41回日本熱傷学会総会学術集会
(2015.6 愛知)

- 未治療糖尿病患者に生じた体幹部皮膚軟組織壊死についての検討
檜山 和也

- 第7回日本創傷外科学会総会・学術集会
(2015.7 東京)

- 肛門周囲膿瘍を伴った仙骨部褥瘡患者の治療についての検討
檜山 和也

- 第17回日本褥瘡学会学術集会
(2015.8 仙台)

- 沖縄県における糖尿病と壊死性軟部組織感染症についての検討
李 填鏞

- 第67回日本皮膚科学会西部支部学術大会
(2015.10 長崎)

- 複合レーザー治療による先天性色素性母斑治療についての検討
檜山 和也

- 第100回長崎形成外科懇話会
(2015.10 東京)

- 特発性眼筋炎症の治療経験
檜山 和也

- 第33回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会
(2015.11 兵庫)

- ラップ療法が長期実施された両下腿熱傷の1例
檜山 和也

- 第120回沖縄県医師会医学会総会
(2015.12 沖縄)

- ・熱傷での入院を契機に肝細胞がんが指摘された未治療糖尿病患者の1症例

石山 智子

第26回日本熱傷学会九州地方会

(2016.2 福岡)

- ・Congenital curved nail of the forth toeの1例

檜山 和也

九州・沖縄形成外科科学会第100回記念・学術集会

(2016.3 福岡)

脳神経外科

- ・認知症について

孫 宰賢

うるく地域学習会

(2015.4 沖縄)

- ・Neuroendovascular treatment at the southern end of Japan

孫 宰賢

Ryukyu Friendship Neurosurgical Conference

(2015.7 沖縄)

- ・A first case of the endovascular surgery

藤井 教雄

Ryukyu Friendship Neurosurgical Conference

(2015.7 沖縄)

- ・コイル塞栓術後、動脈瘤周囲浮腫を生じた一例

孫 宰賢

第74回日本脳神経外科学会学術総会

(2015.10 北海道)

- ・コイル塞栓術後に出現した多発増強病変を呈した1例：親水コーティング塞栓との関連性について

藤井 教雄

第121回日本脳神経外科学会九州支部会

(2015.10 佐賀)

- ・A case of the peri-aneurysmal edema after the coil embolization

孫 宰賢

10th Asian Oceanian Congress of Neuroradiology (AOCNR2015)

(2015.11 福岡)

- ・バルーンとステントによるY字アシストテクニックにて治療した脳底動脈先端部瘤の1例

孫 宰賢

第31回NPO法人日本脳神経血管内治療学会学術総会

(2015.11 岡山)

- ・脊椎手術から約2年経過したのちに発症した脊髄硬膜動静脈瘻の1例

藤井 教雄

第31回NPO法人日本脳神経血管内治療学会学術総会

(2015.11 岡山)

- ・末梢にmigrationしたコイルをステント留置によりレスキューした一例

孫 宰賢

第6回熱海脳血管内治療セミナー

(2016.3 静岡)

- ・コイル塞栓術中にdistal coil migrationを生じ、ステント留置によりレスキューした1例

藤井 教雄

第213回日本神経学会九州地方会、第122回日本脳神経外科学会九州支部会

(2016.3 福岡)

- ・気管切開術を安全に行うための変法

岩上 貴幸

第25回脳神経外科手術と機器学会

(2016.3 新潟)

心臓血管外科

- ・コイル塞栓術後1年7か月後に破裂をきたした腕頭動脈嚢状瘤

寺田 真也

第43回日本血管外科学会学術総会

(2015.6 神奈川)

- ・MICS CABGにおける安全なLITA採取を目指して—3D-CTを利用したSurgical viewによるLITA解析—

山内 昭彦

第20回日本冠動脈外科学会学術大会

(2015.7 京都)

- MICS CABGにおける安全なITA採取を目指して
— 3D-CTによるSurgical view構築—
山内 昭彦
第29回日本冠疾患学会学術集会
(2015.11 北海道)
- 当施設におけるOPCAB連続147例の検討
山内 昭彦
第120回沖縄県医師会医学会総会
(2015.12 沖縄)
- 当院における急性A型大動脈解離に対する治療成績の検討
寺田 真也
第120回沖縄県医師会医学会総会
(2015.12 沖縄)
- 当院における80歳以上の高齢者に対する大動脈置換術症例の検討
田淵 正樹
第120回沖縄県医師会医学会総会
(2015.12 沖縄)
- 妻の子宮頸癌の原因が自分だと悩んだ夫の2症例
余語 久則
第28回日本サイコオンコロジー学会総会
第15回がん患者の抑うつと不安に関する研究会
(2015.9 広島)
- 肝硬変Child-Pugh Cおよび高度腎機能低下G4A1期の患者の心室中隔穿孔パッチ閉鎖手術の麻酔経験
藤村 泰三
日本心臓血管麻酔学会第20回学術大会
(2015.10 福岡)
- HIT交代陰性化患者の冠動脈バイパス術において術後血栓症会費のために術中もアルガトロバンを使用した一例
川出 ゆかり
日本臨床麻酔学会第35回大会
(2015.10 神奈川)
- 食道裂孔ヘルニア根治術後の左胸部位痛にプレガバリンが有効であった1症例
新里 勇人
日本臨床麻酔学会第35回大会
(2015.10 神奈川)

麻酔科

- Analysis on causes of hospital death despite the preference for home death:Cases of liver cancer patients home-cared at end-stage
余語 久則
EAPC2015 14th World Congress of the European Association for Palliative Care
(2015.5 デンマーク)
- 圧調節換気中の体位変化が換気量に与える影響
川出 ゆかり
日本麻酔科学会第62回学術集会
(2015.5.27 兵庫)
- The validity of entropy values obtained from a laterofacial electrodes
余語 久則
Euroanaesthesia (2015.5 ドイツ)
- 胆癌および非癌透析患者の終末期透析中止および再開の経験
余語 久則
第20回日本緩和医療学会学術大会
(2015.6 神奈川)
- Difficulty of evaluating the effect of ketamine on Bispectral Index and entropy in use of propofol-remifentanil and sevoflurane-remifentanil
余語 久則
ANESTHESIOLOGY2015 Leaders in Perioperative Medicine
(2015.10 アメリカ)
- カフ圧自動調整器カフキーパーの自動調整範囲
余語 久則
第33回日本麻酔・集中治療テクノロジー学会
(2015.11 香川)

産婦人科

- 卵巣腫瘍の術前診断における MRI dynamic studyの診断精度
田近 映子
第67回日本産科婦人科学会学術講演会
(2015.4 神奈川)

- ・子宮頸癌検診におけるHPV検出および型同型の臨床的有用性の検討
 當眞 真希子
 第67回日本産科婦人科学会学術講演会
 (2015.4 神奈川)
- ・子宮頸部上皮内腫瘍の経時的変化に及ぼすHPV感染および型別の影響について
 土井 生子
 第67回日本産科婦人科学会学術講演会
 (2015.4 神奈川)
- ・子宮頸部上皮内腫瘍に対するフェノール療法の臨床的検討
 前濱 俊之
 第67回日本産科婦人科学会学術講演会
 (2015.4 神奈川)
- ・両側卵巢摘出術の4年後にエストロゲン上昇をきたした1例
 上地 秀昭
 第67回日本産科婦人科学会学術講演会
 (2015.4 神奈川)
- ・子宮頸部円錐切除症例における妊娠予後とその原因検索の臨床的解析
 小林 剛大
 第67回日本産科婦人科学会学術講演会
 (2015.4 神奈川)
- ・Clinical significance of Sperm Recovery Test (SRT) for the infertile patients
 白石 康子
 国際生殖医学会学術集会2015
 (2015.4 神奈川)
- ・母乳制限によるHTLV-I母子感染対策の統計学的検定
 前濱 俊之
 第32回日本産婦人科感染症学会学術講演会
 (2015.5 栃木)
- ・ダグラス窩に微小転移を認めた卵巢境界悪性表在性乳頭状腫瘍の1例
 前濱 俊之
 第56回日本臨床細胞学会総会(春期大会)
 (2015.6 島根)
- ・ホルモン剤自己中断後チョコレート嚢胞破裂をきたした1例
 當眞 真希子
 第119回沖縄県医師会医学会総会
 (2015.6 沖縄)
- ・卵巢腫瘍との鑑別が困難であった超巨大子宮筋腫の1例
 小林 剛大
 第119回沖縄県医師会医学会総会
 (2015.6 沖縄)
- ・卵巢チョコレート嚢胞との鑑別に苦慮したcystic adenomyomaの1例
 土井 生子
 第119回沖縄県医師会医学会総会
 (2015.6 沖縄)
- ・子宮頸部病変の早期診断・早期治療の最前線
 前濱 俊之
 第18回日本外科病理学会沖縄支部 市民公開講座
 (2015.6 沖縄)
- ・現行のHTLV-I母子感染対策の統計学的検定
 前濱 俊之
 第51回日本周産期・新生児医学会学術集会
 (2015.7 福岡)
- ・円錐切除術後外科断端陽性例のフォローアップにおけるHPV検査の有用性
 上地 秀昭
 第57回公益社団法人日本婦人科腫瘍学会学術講演会
 (2015.8 岩手)
- ・セカンドオピニオン外来にて確定診断された卵巢low-grade漿液性腺癌の1例
 前濱 俊之
 第57回公益社団法人日本婦人科腫瘍学会学術講演会
 (2015.8 岩手)
- ・現行の母乳制限によるHTLV-1母子感染対策の統計的分析
 前濱 俊之
 第2回日本HTLV-1学会学術集会
 (2015.8 東京)

- ・腹腔鏡術後に診断された子宮内膜間質腫瘍の1例
上地 秀昭
第55回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会
(2015.9 神奈川)
 - ・抗癌剤抵抗性を示した卵巣low-grade漿液性癌の1例
前濱 俊之
第20回日本外科病理学会学術集会
(2015.11 和歌山)
 - ・子宮頸癌検診におけるHPV検出および型検査併用の臨床的意義
前濱 俊之
第54回日本臨床細胞学会秋期大会
(2015.11 愛知)
 - ・HTLV-I母子感染の実態とその対策に対する統計学的検定
前濱 俊之
日本性感染症学会第28回学術大会
(2015.12 東京)
 - ・HTLV-I母子感染対策の地域別統計学的検証
前濱 俊之
第120回沖縄県医師会医学会総会
(2015.12 沖縄)
 - ・当院で経験した子宮体部癌肉腫の一例
當眞 真希子
第120回沖縄県医師会医学会総会
(2015.12 沖縄)
 - ・子宮体癌術後に肺転移を認めた1例
小林 剛大
第120回沖縄県医師会医学会総会
(2015.12 沖縄)
 - ・卵巣成熟嚢胞奇形腫自然破裂後に発症した化学性腹膜炎の一例
土井 生子
第120回沖縄県医師会医学会総会
(2015.12 沖縄)
 - ・頸部浸潤を伴った子宮体部癌肉腫の1例
大城 大介
第120回沖縄県医師会医学会総会
(2015.12 沖縄)
 - ・卵巣小嚢胞より2年経過後卵巣明細胞癌になったと考えられた1例
李 賢雅
第120回沖縄県医師会医学会総会
(2015.12 沖縄)
 - ・閉経後2年で発症した極小卵巣明細胞癌の1例
前濱 俊之
第37回日本エンドメトリオーシス学会学術講演会
(2016.1 熊本)
- I C U**
- ・平成28年度対象研修医シミュレーショントレーニング 講師
玉城 正弘
(2015.4 沖縄)
 - ・米国集中治療医学会FCCS Japan 出雲コース 講師
玉城 正弘
(2015.6 島根)
 - ・日本心臓病学会ABCD Sonography 講師
玉城 正弘
(2015.9 神奈川)
 - ・米国集中治療医学会FCCS Japan 那覇コース講師
玉城 正弘
(2016.1 沖縄)
 - ・ICLS (みーむんコース) 講師
玉城 正弘
(2016.1 沖縄)
 - ・ICLS (みーむんコース) 講師
玉城 正弘
(2016.3 沖縄)
- 耳鼻咽喉科**
- ・振り子様巨大咽頭蓋嚢胞の一例
金城 秀俊
第59回沖縄県耳鼻咽喉科懇話会
(2016.3 沖縄)

泌尿器科

- ・夜間頻尿に対するイミダフェナシン最適投与方法に関する多施設臨床研究
又吉 幸秀
第103回日本泌尿器科学会総会
(2015.4 石川)

皮膚科

- ・壊疽性膿皮症の2例
安里 豊
日本皮膚科学会第74回沖縄地方会
(2015.6 沖縄)
- ・sister Mary Joseph's noduleの1例
安里 豊
日本皮膚科学会第78回沖縄地方会
(2016.2 沖縄)

病理診断科

- ・食道Mixed adenoendocrineの1切除例
喜友名 正也
第104回日本病理学会総会
(2015.4 愛知)
- ・推定診断に苦慮した卵巣低悪性度漿液性腺癌の1手術例
喜友名 正也
第56回日本臨床細胞学会総会（春期大会）
(2015.6 島根)
- ・診断に苦慮した卵巣淡明細胞細胞腫瘍の1症例
喜友名 正也
第20回日本外科病理学会学術集会
(2015.11 和歌山)

看護局

- ・CPA蘇生後の超高齢者に対する心臓リハビリテーション継続が身体機能改善と再入院予防に有用であった一経験
三瀬 宏美
第79回日本循環器学会学術集会
(2015.4 大阪)

- ・麻痺側である右下腿に褥瘡形成し、治癒に3ヶ月有した1例を通して
知念 大介
第12回日本褥瘡学会九州地方会学術集会
(2015.5 福岡)
- ・腎移植後に憩室穿孔や創部離開を発症し創傷管理に難渋した一例
平良 豊
第24回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会
(2015.5 千葉)
- ・脊椎手術の術前オリエンテーションDVD作成を試みて
渡口 里織
第15回日本運動器看護学会
(2015.6 神奈川)
- ・共同意思決定（SDM）による治療変更の援助
森山 琴絵
第60回日本透析医学会学術集会・総会
(2015.6 神奈川)
- ・沖縄県の膵腎移植希望者のためにコーディネーターとしてできること
屋嘉部 生子
第31回腎移植・血管外科研究会
(2015.7 栃木)
- ・人工呼吸器装着患者への食支援を通して
諸見里 亜紀子
第3回NPO法人口から食べる幸せを守る会
(2015.7 神奈川)
- ・PCI後早期退院する症例に、心臓リハビリ専従看護師は何かができるか
三瀬 宏美
第21回日本心臓リハビリテーション学会学術集会
(2015.7 福岡)
- ・シャワー浴が好影響を与えた壊死性軟部組織感染症と多発褥瘡がある1例を経験して
玉城 判
第17回日本褥瘡学会学術集会
(2015.8 宮城)

- ・ 当院における褥瘡ハイリスク患者ケア加算算定患者の褥瘡発生要因の検討
平良 豊
第17回日本褥瘡学会学術集会
(2015.8 宮城)
- ・ 超高齢者の嚥下障害から学んだ食支援
池端 良太
第21回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会
(2015.9 京都)
- ・ 当院における献腎登録待機患者の更新外来受診状況から見えてきた問題点
屋嘉部 生子
第51回日本移植学会総会
(2015.9 熊本)
- ・ 系列施設間での創傷ケア連携の現状と課題
平良 豊
第14回沖縄ウインドマネジメント研究会
(2015.10 沖縄)
- ・ 業務改善に向けた取り組み～内視鏡センターでの標準業務手順作成について～
金城 聖子
日本医療マネジメント学会 第14回九州・山口連合大会
(2015.11 熊本)
- ・ 術前患者情報収集を洗練化する為の取り組み～看護師の不安を取り除く視点から～
仲間 敏春
第29回日本冠疾患学会学術集会
(2015.11 北海道)
- ・ OPCAB術後における肺合併症予防について
大城 和也
第29回日本冠疾患学会学術集会
(2015.11 北海道)
- ・ これで快適PDライフ！！ PD生活をサポートする患者指導 ～補助具提示をよりスムーズに～
平良 千夏
第21回日本腹膜透析学会医学会学術集会・総会
(2015.11 宮城)
- ・ 退院に向けて複数施設への指導に困難を感じた事例を通して
宮城 律子
第21回日本腹膜透析学会医学会学術集会・総会
(2015.11 宮城)
- ・ 経腸栄養プロトコール導入の試み「心拍動下冠動脈バイパス術後の術場抜管について」
大城 和也
第43回日本集中治療医学会学術集会
(2016.2 兵庫)
- ・ SBTプロトコールを用いた看護師によるWeaning Assessment
仲間 敏春
第43回日本集中治療医学会学術集会
(2016.2 兵庫)
- ・ 経口摂取へ向けて多角的視点での介入を検討した一例
大城 清貴
第31回日本静脈経腸栄養学会学術集会
(2016.2 福岡)
- ・ 重症肺炎を発症した著名な低栄養患者の一例
豊島 紫乃絵
第31回日本静脈経腸栄養学会学術集会
(2016.2 福岡)
- ・ 中堅看護師育成のための病棟主任の役割
上江洲 真樹
第3回PNS研究会
(2016.3 福井)
- ・ 透析室看護師の献腎移植における取り組み
江藤 浅香
第34回沖縄県人工透析研究会
(2016.3 沖縄)
- ・ 感染防止対策のための現場改善を取り入れて
中村 昌子
第3回日本環境感染学会総会・学術集会
(2016.2 京都)
- ・ 口から食べることをサポートする為の包括的支援スキルーKTバランスチャートを用いた展開ー
大城 清貴
第21回JSDR看護師交流集会
(2015.9 京都)

- ・「がんになっても看護師として働きたい！」
その想いに寄り添うためサバイバーナースの就労
支援を一緒に考えませんか？
上原 弘美
第30回日本がん看護学術集会・交流集会
(2016.2 千葉)

呼吸循環療法室

- ・表面筋電図を用いた頻呼吸時の呼吸筋の評価法
関口 浩至
第37回日本呼吸療法医学会学術集会・第5回
呼吸療法スタッフ講習会
(2015.7 京都)
- ・家屋調査に基づいた実生活に沿った退院支援の
報告
徳山 未希
第18回沖縄呼吸療法研究会
(2016.1 沖縄)

放射線技術科

- ・MICSにおける左内胸動脈走行の位置情報を支援
する術前3Dイメージングについて
金城 一史
AZE展2015
(2015.5 東京)
- ・320列CT装置を用いた原発性アルドステロン症
に対する副腎3D-CTVに関する撮影の検討
金城 一史
一般社団法人沖縄県放射線技師会第60回定期総会
(2015.5 沖縄)
- ・低侵襲心臓手術にAZE雷神を用いた術前ITAの
Surgical view の検討
金城 一史
一般社団法人沖縄県放射線技師会第60回定期総会
(2015.5 沖縄)
- ・始業点検時に水ファントムを追加することで装置
エラーを早期に発見できた事例報告
浅黄 真那
一般社団法人沖縄県放射線技師会第60回定期総会
(2015.5 沖縄)

- ・320列CTを用いた心臓CT時の注入時間短縮の検討
島袋 真
一般社団法人沖縄県放射線技師会第60回定期総会
(2015.5 沖縄)
- ・造影剤理論に基づき心臓CT時に低濃度造影剤を
使用した3症例からの報告
島袋 真
一般社団法人沖縄県放射線技師会第60回定期総会
(2015.5 沖縄)
- ・Paroxysmal atrial fibrillation (Paf) 発作性心房動
動を目的としたAblation 術前心臓
3DCTにおける左房と食道のFusion 3D画像の有
用性について
比嘉 一郎
一般社団法人沖縄県放射線技師会第60回定期総会
(2015.5 沖縄)
- ・Magnetization prepared Rapid Acquisition
Gradient Echoes (MP2RAGE) によるT1値の測定
精度評価
有働 直生
一般社団法人沖縄県放射線技師会第60回定期総会
(2015.5 沖縄)
- ・MR装置における磁性体吸着事故の報告と対策
山田 憲一
一般社団法人沖縄県放射線技師会第60回定期総会
(2015.5 沖縄)
- ・中濃度造影剤と低濃度造影剤使用による下枝3
D-CTAの比較
島袋 真
第5回沖縄CT研究会主催 3Dコンテスト
(2015.5 沖縄)
- ・MICS-CABGの3術前支援画像として用いられた
3D-CT画像
金城 一史
第5回沖縄CT研究会主催 3Dコンテスト
(2015.5 沖縄)
- ・64列CTから320列CT装置AquilionONE導入によ
る右副腎静脈に対する撮影タイミングについて
金城 一史
第19回CTサミット
(2015.7 東京)

- ・大血管+冠動脈領域～臨床3D画像とは～
 金城 一史
 第15回沖縄CT研究会
 (2015.11 沖縄)
- ・320列CTとWorkstation AZE virtual place導入による新たな心臓3DCTの活用について
 金城 一史
 第22回日本心血管インターベンション治療学会 九州・沖縄地方会
 (2015.11 沖縄)
- ・原発性アルドステロン症 (PA) に対する東芝320列CT装置を用いた副腎静脈3D撮影による副腎サンプリング (AVS) 支援について
 金城 一史
 第31回日本診療放射線技師学会
 (2015.11 京都)
- ・MICS CABGに対する術前ITA 3D Imagingについて
 金城 一史
 画論 The Best Image2015
 (2015.12 東京)
- ・当院心不全クリニカルパス導入は心臓リハビリテーションに何をもたらすか
 高橋 陽
 第21回心臓リハビリテーション学会学術集会
 (2015.7 福岡)
- ・摂食嚥下障害者へのチームアプローチ ～言語聴覚士の役割と今後の課題～
 長濱 みき
 第21回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会
 (2015.9 京都)
- ・当院におけるCPO術後リハビリテーションについての調査・報告
 城間 俊充
 第42回日本股関節学会
 (2015.10 大阪)
- ・当院における弯曲状寛骨骨切り術クリニカルパスの改善
 城間 俊充
 第16回日本クリニカルパス学会
 (2015.11 千葉)

リハビリテーション科

- ・白蓋形成不全に伴う変形性股関節症に対する弯曲状寛骨骨切り術の一例
 城間 俊充
 第50回日本理学療法学会
 (2015.6 東京)
- ・ALS患者の在宅復帰に向けた取り組みを経験して
 玉寄 歩
 第49回日本作業療法学会
 (2015.6 兵庫)
- ・当院における高齢心臓血管外科術後患者はどのような入院経過をたどるか
 高橋 陽
 第21回心臓リハビリテーション学会学術集会
 (2015.7 福岡)

先端医療研究センター

- (セル・プロセッシング・センター)
- ・臨床における細胞培養技術者とその役割
 仙北屋 浩亮
 沖縄再生医療人材育成セミナー
 (2016.1 沖縄)

薬剤科

- ・当院での分割DCS療法の検討
 大城 真理奈
 第13回日本臨床腫瘍学会学術集会
 (2015.7 北海道)
- ・腎移植外来における薬剤師の活動
 大城 瑠奈
 第9回日本腎臓病薬物療法学会学術集会
 (2015.10 宮城)

- ・透析患者におけるイバンドロン酸ナトリウム (IBN) 静注投与における安全性の検討
大城 匡史
第9回日本腎臓病薬物療法学会学術集会・総会 2015
(2015.10 宮城)
 - ・当院における外科治療を必要とした消化管穿孔症例への抗菌薬の投与状況の報告
新垣 淑大
第29回沖縄県薬剤師学術大会
(2015.11 沖縄)
 - ・当院におけるリウマチ性疾患患者を対象とした妊娠と薬に関する意識調査
大城 真理奈
第25回日本医療薬学会
(2015.11 神奈川)
 - ・スルファメトキサゾール・トリメトプリム (ST合剤) アレルギー歴のある腎移植レシピエントに対して脱感作療法を行った1例
大城 瑠奈
第25回日本医療薬学会
(2015.11 神奈川)
 - ・スムーズな自己管理の秘訣—薬剤師の介入を通して—
大城 匡史
第21回日本腹膜透析医学会学術集会・総会
(2015.11 宮城)
 - ・血液透析患者におけるバンコマイシン継続投与時の血中濃度の変動
安里 美奈
第31回日本環境感染学会
(2015.2 京都)
 - ・血液透析 (HD) 患者へのバンコマイシン初回負荷投与量の検証
小杉 卓大
第31回日本環境感染学会
(2015.2 京都)
 - ・当院におけるダプトマイシン使用状況の把握
伊波 友理華
第31回日本環境感染学会
(2015.2 京都)
 - ・当院HCU病棟での栄養知識調査による取り組み
中川 幹宜
第31回日本静脈経腸栄養学会学術集会
(2016.2 福岡)
 - ・膵がんに対するGEM+nabPAC隔週投与の検討
上原 政文
日本臨床腫瘍薬学会学術大会2016
(2016.3 鹿児島)
- 栄養科**
- ・沖縄県における肥満度とPFC比率との関連解析
上原 千明
第58回日本糖尿病学会年次学術集会
(2015.5 山口)
 - ・当院における透析外来患者の栄養障害リスクの現状調査
安里 美樹
第60回日本透析医学会学術集会・総会
(2015.6 神奈川)
 - ・美味しく楽しく食べて生活習慣病を予防しよう
一松 かおり
豊見城市生活習慣病予防教室
(2015.8 沖縄)
 - ・褥瘡患者へ多職種が介入し褥瘡治癒を認めチーム医療が有用であった1例
安里 美樹
第17回日本褥瘡学会学術集会
(2015.8 宮城)
 - ・美味しく楽しく食べて生活習慣病を予防しよう
前原 礼子
豊見城市生活習慣病予防教室
(2015.9 沖縄)
 - ・美味しく楽しく食べて生活習慣病を予防しよう
一松 かおり
豊見城市生活習慣病予防教室
(2015.10 沖縄)
 - ・美味しく楽しく食べて生活習慣病を予防しよう
上原 千明
豊見城市生活習慣病予防教室
(2015.10 沖縄)

- ・美味しく楽しく食べて生活習慣病を予防しよう
安里 美樹
豊見城市生活習慣病予防教室
(2015.11 沖縄)
- ・美味しく楽しく食べて生活習慣病を予防しよう
當眞 由子
豊見城市生活習慣病予防教室
(2015.11 沖縄)
- ・美味しく楽しく食べて生活習慣病を予防しよう
前原 礼子
豊見城市生活習慣病予防教室
(2015.12 沖縄)
- ・ソフト食の内容充実に向けて～患者の栄養状態と嗜好調査から検討～
一松 かおり
第19回日本病態栄養学会学術集会
(2016.1 神奈川)
- ・美味しく楽しく食べて生活習慣病を予防しよう
玉寄 絹代
豊見城市生活習慣病予防教室
(2016.1 沖縄)
- ・美味しく楽しく食べて生活習慣病を予防しよう
与座真 菜華
豊見城市生活習慣病予防教室
(2016.1 沖縄)
- ・美味しく楽しく食べて生活習慣病を予防しよう
眞榮城 由美
豊見城市生活習慣病予防教室
(2016.2 沖縄)
- ・咽頭癌術後の栄養管理を行った2症例
宮城典子
第31回日本静脈経腸栄養学会学術集会
(2016.2 福岡)
- ・高齢者の栄養管理
一松 かおり
豊見城市講演会
(2016.2 沖縄)
- ・経管栄養に難渋し、多職種介入によって改善を得られた1症例
安里 美樹
第11回沖縄NSTフォーラム (2016.3 沖縄)

検査科

- ・出血源を特定し得た小腸出血の1例
松田 英世
第40回 日本超音波検査学会学術集会
(2015.5 神奈川)
- ・心筋梗塞に合併した心室中隔穿孔を経験して
登川 雅子
第51回沖縄県医学検査学会
(2015.6 沖縄)
- ・超音波検査が有用であった魚骨による小腸穿孔の1例
東盛 明奈
第51回沖縄県医学検査学会
(2015.6 沖縄)
- ・APTT試薬の比較検討
北村 文太
第51回沖縄県医学検査学会
(2015.6 沖縄)

臨床工学科

- ・当院の間歇補充型HDF療法による補液プログラムの比較検討
吉浜 清安
第60回日本透析医学会学術集会・総会
(2015.6 神奈川)
- ・高度肥満患者に対する上行大動脈人工血管置換術の経験
鹿島 裕
第41回日本体外循環技術医学会大会
(2015.10 兵庫)
- ・ステント留置後にIVUSが抜去不能となり対処マニュアルにて抜去できた症例
仲盛 智之
第22回日本心血管インターベンション治療学会九州・沖縄地方会
(2015.12 沖縄)
- ・透析患者監視装置におけるクリーニングクロス Toraysee® for CEへの期待
奥原 崇人
第34回沖縄県人工透析研究会
(2016.3 沖縄)

臨床研究支援センター

- ・沖縄県における透析療法の現況

井関 邦敏

第34回沖縄県人工透析研究会

(2016.3 沖縄)

- ・Japan Renal Registry

井関 邦敏

9th ICURT

(2016.3 メキシコ)

- ・Low Parathyroid Hormone Levels after Parathyroidectomy Reduce Cardiovascular Mortality in Hemodialysis Patients

井関 邦敏

9th ICURT

(2016.3 メキシコ)

人事課

- ・雇用の質に対する友愛会の取り組み

仲里 考史

医療勤務環境改善セミナー

(2015.9 沖縄)

医局事務課

- ・腎移植外来におけるMedical Assistant

(MA) の役割

仲盛 さやか

第31回腎移植・血管外科研究会

(2015.7 栃木)

地域連携室

- ・ABC分析を用いた効率的な登録医訪問業務の検証

比嘉 聡

第17回日本医療マネジメント学会学術総会

(2015.6 大阪)

- ・地域連携室が行う訪問業務の効果

仲地 貴弘

第17回日本医療マネジメント学会学術総会

(2015.6 大阪)

- ・逆紹介率向上に向けた取り組みの評価

東門 麻里子

第65回日本病院学会

(2015.6 長野)

- ・沖縄県内離島病院との心疾患患者の医療連携について

東江 愛可音

第65回日本病院学会

(2015.6 長野)

- ・地域医療連携ネットワークちゅらネットワークの取り組み

仲地 貴弘

第65回日本病院学会

(2015.6 長野)

- ・当院における地域包括ケアシステムを見据えた医療福祉連携士の取り組み

仲地 貴弘

第14回日本医療マネジメント学会学術総会

九州・山口連合大会

(2015.11 熊本)

友愛園

- ・言葉をこえた関わりを考える

矢野 俊恵

第49回日本作業療法学会

(2015.6 兵庫)

- ・ご家族様への精神的支援に重点を置いた在宅復帰調整

與座 勇人

第26回全国介護老人保健施設大会

(2015.9 神奈川)

- ・壁画の果たした役割～2本の木が教えてくれたこと～

矢野 俊恵

第22回沖縄県老人保健施設大会

(2016.2 沖縄)

- ・End Of Life Care ～私達にできること～

池間 博史

第22回沖縄県老人保健施設大会

(2016.2 沖縄)

南
部
病
院

概要

(2016年3月31日現在)

開設者	社会医療法人 友愛会
名称	社会医療法人 友愛会 南部病院
所在地	〒901-0362 沖縄県糸満市字真栄里870番地
開設日	平成18年4月
理事長	比嘉 國郎
院長	城間 寛
副院長	新城 哲治
看護部長	高良 さとみ
事務部長	仲村 兼二
敷地面積	44,502㎡
建物面積	9,762.99㎡
許可病床数	188床（一般病床）
診療科目	内科・循環器内科・消化器内科・呼吸器内科・神経内科 脳神経外科・外科・整形外科・泌尿器科・麻酔科・皮膚科 リハビリテーション科・耳鼻咽喉科・精神科・放射線科・歯科 緩和ケア内科・訪問診療科
1日平均患者数	入院：187名 外来：283名
病床利用率	99%
平均在院日数	19日
駐車場収容台数	駐車場515台
各種指定・認定	生活保護法の規定に基づく指定医療機関 消防法の規定に基づく救急告示病院 労働者災害補償保険法に基づく労災保険指定病院 結核予防法の規定に基づく指定医療機関 沖縄県特定疾患治療研究事業実施規定に基づく委託病院 身体障害福祉法の規定に基づく更生医療指定医療機関（同法第十九条関係） 指定医（同法第十五条関係） 原子爆弾被害者の医療等に関する法律の規定に基づく指定医療機関 公職選挙法施行令の規定に基づく不在者投票指定施設 厚生省事務次官通知に基づく小児慢性特定疾患治療研究事業医療機関 厚生労働省健康局疾病対策課長通知に基づく先天性血液凝固因子傷害等治療研究事業委託医療機関 協力型臨床研修指定病院 ペインクリニック専門医の指定研修施設 在宅療養支援病院 病院機能評価認定施設（3rdG：Ver.1.1） 国土交通省自動車事故医療体制設備事業の規定に基づく短期入院協力病院指定施設 沖縄県重症難病患者入院施設確保事業に基づく、沖縄県難病医療一般病院指定施設

50音順

欧州心臓病学会特別正会員
心臓血管リハビリテーション指導士
日本医学放射線学会放射線診断専門医
日本医師会認定産業医
日本医師会健康スポーツ医
日本緩和医療学会暫定指導医
日本緩和医療学会認定研修施設
日本外科学会認定医・専門医・指導医
日本高血圧学会専門医・指導医
日本高血圧学会特別正会員
日本高血圧学会認定施設
日本再生医療学会再生医療認定医
日本循環器学会専門医
日本循環器学会認定研修関連施設
日本循環器学会認定循環器専門医
日本消化器外科学会認定医
日本静脈経腸栄養学会認定NST稼働施設
日本神経内科学会専門医
日本腎臓学会腎臓専門医
日本心臓病学会特別正会員
日本整形外科学会スポーツ認定医
日本整形外科学会専門医
日本整形外科学会認定運動器リハビリテーション医
日本体育協会公認スポーツドクター
日本糖尿病協会療養指導医
日本内科学会認定医
日本脳神経外科学会専門医
日本脳卒中学会専門医
日本泌尿器科学会専門医
日本病態栄養学会病態栄養専門医
日本ペインクリニック学会認定医
日本麻酔科学会標榜医・認定医・指導医
日本リハビリテーション学会専門医
日本リハビリテーション学会認定臨床医
日本臨床外科学会評議員
マンモグラフィー診断認定医
身体障害者福祉法指定医
日本ペインクリニック学会認定指定研修施設
日本透析医学会透析専門医
PET核医学認定医
RyuMic指導医

- 2006年（平成18年） 南部病院 開設
 診療科目 内科・小児科・外科・整形外科・泌尿器科・放射線科
 ・リハビリテーション科（病床数250床）
 全身用コンピューター断層撮影装置 Lightspeed Plus導入
 入院基本料区分13対1 看護補助加算10対1 取得
 亜急性期入院医療管理料12床取得（5／1より）
 入院時食事療法（I）取得
 特殊疾患療養病棟31床取得
 回復期リハビリテーション病棟開設（32床）
 亜急性期入院医療管理料 病床変更（7／1より）
 回復期リハビリテーション病棟増床（40床）
 歯科外来開設（月・水・金午前のみ診療開始）
 病床変更（4階北病棟→4階南病棟）12床
 オーダリングシステム導入
 土曜診療（内科、外科、小児科）開始
 生活習慣病センター開設
 禁煙外来開始
 臨床研修病院指定（協力型）
 病床数248床へ変更
- 2007年（平成19年） 土曜診療 整形外科開始
 病院送迎バス増便2台目運行開始
 麻酔科（ペインクリニック）開始
 訪問看護ステーション移設、訪問介護ステーション移設
 亜急性期入院医療管理料 病床数変更15床
 手術室稼働（一部）
 居宅介護支援事業所（南部ケアプランセンター）開設
 病床数の変更248床→238床、10床を豊見城中央病院へ移動
 超電導磁石式全身用MR装置インテラアチーバ1.5導入
- 2008年（平成20年） 亜急性期入院医療管理料2 病床数変更23床へ増床
 南部病院チャリティーバザー開催
- 2009年（平成21年） 南部病院通所リハビリテーション 開設（定員20名）
 病床数の変更238床→198床、40床を豊見城中央病院へ移動
- 2010年（平成22年） 亜急性期入院医療管理料2取得 病床数変更40床
 障害者自立支援法指定（訪問介護ステーション）
 亜急性期入院医療管理料2取得（12床増床）
 在宅療養支援病院
- 2011年（平成23年） 酸素単価取得
 電子カルテ導入
 病院機能評価認定「Ver.6.0」
 特別療養環境の提供実施
 南部病院 開院5周年祭
 社会医療法人の認定

2012年（平成24年）	病児保育開始 緩和ケア内科開設 緩和ケア病棟入院料取得（21床）
2013年（平成25年）	一般病棟入院基本料10対1（病床数変更85床→82床） がん患者リハビリテーション料取得 病床数の変更198床→188床、10床を豊見城中央病院へ移動 一般病棟入院基本料（10対1）の施設基準、看護必要度加算2→1 回復期リハビリテーション病棟入院料1取得 総合評価加算取得 CT装置4列→16列へ変更 患者図書室「いちまん友愛文庫」開室
2014年（平成26年）	地域包括ケア入院医療管理料取得（20床） 胃瘻造設時嚥下機能評価加算取得
2015年（平成27年）	地域包括ケア 病床→病棟全床（45床） 特定検診 開始 病院機能評価認定「3rdG：Ver.1.1」

基本診療科	診療録管理体制加算 1 臨床研修病院入院診療加算・協力型 重症者等療養環境特別加算 地域包括ケア病棟入院料 1 (看護職員配置加算)(看護補助者配置加算) 一般病棟入院基本料10対1(看護必要度加算 1) 回復期リハビリテーション病棟入院料 1 (リハビリテーション充実加算)(体制強化加算) 救急医療管理加算・乳幼児救急医療管理加算 急性期看護補助体制加算 (25対1 5割以上) 療養環境加算 退院調整加算 栄養サポートチーム加算 医師事務作業補助体制加算 1 (25対1 補助体制加算) 医療安全対策加算 1 病棟薬剤業務実施加算 患者サポート体制充実加算 感染防止対策加算 2 緩和ケア病棟入院料 救急搬送患者地域連携受入加算 総合評価加算 データ提出加算
特掲診療科	医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則 5 及び 6 (歯科点数表第 2 章第 9 部の通則 4 を含む。)に掲げる手術 脳血管疾患等リハビリテーション料 (I) 運動器リハビリテーション料 (I) 呼吸器リハビリテーション料 (I) 心大血管疾患リハビリテーション料 (I) C T 撮影及び M R I 撮影 画像診断管理加算 2 薬剤管理指導料 糖尿病透析予防指導管理料 夜間休日救急搬送医学管理料 クラウン・ブリッジ維持管理料 CAD/CAM 冠 検体検査管理加算 (I) 神経学的検査 無菌製剤処理料 外来リハビリテーション診療料 医療機器安全管理料 1 麻酔管理料 地域連携診療計画退院時指導料 (大腿骨頸部骨折) // (脳血管疾患) 脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術 在宅療養支援病院(「第14の2」1の(1)に規定する病院) 在宅時医学総合管理料又は特定施設入居時等医学総合管理料 在宅がん医療総合診療科 透析液水質確保加算 2 がん性疼痛緩和指導管理料 がん患者指導管理料 1 がん患者リハビリテーション料 ニコチン依存症管理料 酸素加算 糖尿病合併症管理料

主要機器一覧

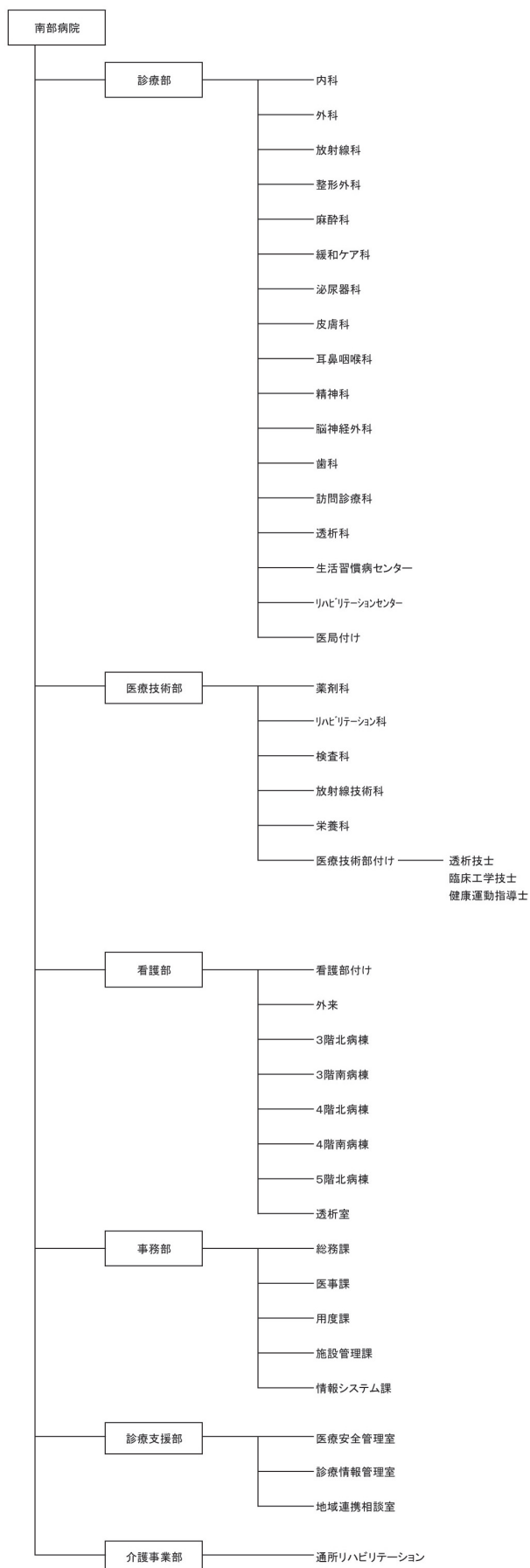
(2016年3月31日現在)

機器名	台数	メーカー名	機種名
超電導磁石式全身用MR装置	1	株式会社フィリップスエレクトロニクス ジャパンメディカルシステムズ	InteraAchieva 1.5TNovaACS-NT
全身用X線CT診断装置	1	GE横河メディカルシステム株式会社	Lightspeed PLUS2.1QX/α2
据置型診断用X線発生装置	2	東芝メディカルシステムズ株式会社	KXO-50G・KXO-80G
据置型デジタル式汎用X線透視診断装置	1	株式会社島津製作所	FLEXAVISION Fdpackage
据置型デジタル式乳房用X線診断装置	1	株式会社日立メディコ	LARAD M-Ivselenia
外科用X線テレビジョン装置	1	株式会社島津製作所	OPESCOPE ACTIVO WHA-200
二重エネルギー骨X線吸収測定装置	1	GEヘルスケア・ジャパン株式会社	PRODIGY
移動型アナログ式汎用一体型X線診断装置	3	株式会社日立メディコ	SiriusStarMobile125B・130H
コンピューテッドラジオグラフィ	1	富士フィルムメディカル株式会社	FCRSpeedia
画像診断用イメージャ	2	富士フィルムメディカル株式会社	DRYPIX5000・DRYPIX7000
電子内視鏡内視鏡システム	2	オリンパスメディカルシステムズ株式会社	CV-240 CV-260SL
ビデオ軟性胃十二指腸鏡	3	オリンパスメディカルシステムズ株式会社	GIF-XQ240・GIF-XQ260・GIF-H260
ビデオ軟性十二指腸鏡	1	オリンパスメディカルシステムズ株式会社	JF-230
ビデオ軟性大腸鏡	4	オリンパスメディカルシステムズ株式会社	PCF-Q240ZI・PCF-240I・PCF-P240AI・CF-240AI
軟性鼻咽喉鏡	1	オリンパスメディカルシステムズ株式会社	ENF-P4
軟性気管支鏡	1	ペンタックス株式会社	FB-15BS
脳波計	1	日本光電株式会社	EEG-1518
長時間心電用データレコーダ	4	フクダ電子株式会社	FM-160 FM-180 FM-960
多機能心電計	2	日本光電株式会社	ECG-1550
血圧脈波検査装置	1	オムロンヘルスケア株式会社	BP-203RPEIII
誘発反応測定装置	1	ニコレー・バイオメディカル・ジャパン株式会社	SynergPlinh-T
肺運動負荷モニタリングシステム	1	インターリハ株式会社	Cpex-1
運動負荷用血圧監視装置	1	米国サンテック社	TangoM2
肺機能測定システム	1	チェスト株式会社	CHESTAC-33
汎用超音波画像診断装置	1	東芝メディカルシステムズ株式会社	SSA-660A
汎用超音波画像診断装置	2	GEヘルスケア・ジャパン株式会社	LOGIQ S6・Vivid S6
検体検査システム	1	シスメックスCNA株式会社	CNA
臨床化学自動分析装置	1	株式会社日立ハイテクノロジーズ	H7180
全自動血液凝固測定装置	1	シスメックス株式会社	CA-6000
多項目自動血球分析装置	1	シスメックス株式会社	XE-2100
全自動グリコヘモグロビン分析装置	1	東ソー株式会社	HCL-723G9
全自動エンザイムアッセイ装置	1	東ソー株式会社	AIA-360
汎用血液ガス分析装置	1	ラジオメータ株式会社	ABL-5
全自動尿分析装置	1	テラメックス株式会社	US-3100R
低周波治療器	1	株式会社日本メディックス	PH-CM100
超音波治療器	1	伊藤超音波株式会社	US-750
赤外線治療器	1	東京医研株式会社	HA-550
乾式ホットパック装置	4	オージー技研株式会社	KT-521
物理療法台	1	株式会社日本メディックス	DF-110FW

機器名	台数	メーカー名	機種名
測定機能付自力運動訓練装置	4	株式会社キャトアイ	EC-3600・STB-3200
多人数用透析液供給装置	1	ニプロ株式会社	NCS-400S
A粉末製剤溶解装置	1	ニプロ株式会社	PTS-200S
B粉末製剤溶解装置	1	ニプロ株式会社	NPS-40S
透析用監視装置	15	ニプロ株式会社	NCV-1
血液透析濾過用装置	1	ニプロ株式会社	NDF-01
個人用透析監視装置	1	ニプロ株式会社	NCD-50
電解質分析装置	1	株式会社 常光	EX-Zs
浸透圧分析装置	1	株式会社 アークレイファクトリー	OM-6040
汎用血液ガス分析装置	1	ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社	cobas b121
手動式除細動器	4	株式会社フィリップスエレクトロニクス ジャパンメディカルシステムズ	M4735A
半自動除細動器	2	日本光電工業株式会社	AED-9200 AED-2100
成人用人工呼吸器	3	フジ・レスピロニクス株式会社	Triogy O 2
汎用超音波画像診断装置	1	株式会社日立メディコ	EUB-6500
移動型超音波画像診断装置	1	アロカ株式会社	SSD-1000
移動型超音波画像診断装置	1	持田シーメンスメディカルシステム株式 会社	MEU-1585
移動型超音波画像診断装置	2	株式会社ソノサイト・ジャパン	P04327-04 S-Nerve

組織図

(2016年3月31日現在)



統 計

◇診療科別外来患者数

診療科	延べ人数* ₁	一日平均* ₂
内 科	33,455	111.1
D M セ ン タ ー	7,050	23.9
外 科	4,037	13.0
整 形 外 科	13,150	44.5
緩 和 ケ ア 内 科	184	0.6
耳 鼻 咽 喉 科	1,699	5.8
泌 尿 器 科	4,496	15.3
脳 神 経 外 科	1,104	3.7
皮 膚 科	2,200	7.4
放 射 線 科	517	1.8
麻 酔 科	1,842	6.2
精 神 科	366	1.2
透 析	7,361	23.2
歯 科	4,855	19.2
合 計	82,316	276.9

*1 日曜・祝祭日含む
*2 月曜日～土曜日の平均

◇紹介

初診紹介患者	1,227
--------	-------

◇救急外来時間帯別患者数

時間帯	患者数	救急搬送（再掲）	
		入院	外来
日 勤	2,003	77	93
準 夜	1,497	41	45
深 夜	46	6	13
合 計	3,546	275	

◇診療科別入院患者数

診療科	新入院数	退院数（死亡）	入院延数
内 科	1,183	1,118 (53)	34,115
外 科	111	88 (5)	2,208
整 形 外 科	412	408 (0)	21,708
泌 尿 器 科	0	0 (0)	0
麻 酔 科	17	12 (0)	401
リ ハ ビ リ 科	3	4 (0)	294
脳 神 経 外 科	23	23 (0)	2,170
緩 和 ケ ア 内 科	110	9 (124)	7,367
合 計	1,859	1,662 (182)	68,263

◇地域別患者数

地区	入院	外来	
南 部	那 覇 市	10,916	2,396
	豊見城市	10,467	2,806
	糸 満 市	35,219	64,787
	そ の 他	5,659	6,331
中 部	1,135	766	
北 部	607	89	
離 島	1,446	162	
県外・その他	885	409	
合 計	66,334	77,746	

◇病床利用率・平均在院日数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	
一 般	病床利用率	112.7%	95.7%	91.3%	99.2%	105.0%	97.5%	89.5%	86.3%	93.4%	96.1%	101.6%	101.2%	97.5%
	平均在院日数	21.7	18.6	16.8	16.5	18.5	19.9	18.1	18.8	17.4	19.6	18.6	18.3	18.6
回 復 期	病床利用率	99.9%	99.8%	100.0%	98.6%	100.0%	100.0%	99.9%	100.0%	99.5%	100.0%	99.7%	99.8%	99.8%
	平均在院日数	75.8	81.1	69.4	75.2	69.9	101.0	54.8	81.0	61.2	71.8	65.2	61.4	72.3
地 域 包 括	病床利用率	60.9%	77.6%	77.7%	78.1%	89.7%	98.4%	97.2%	83.9%	96.2%	96.0%	98.8%	99.7%	87.8%
	平均在院日数	26.8	49.1	31.5	45.8	42.5	33.2	44.5	48.2	30.2	49.6	30.0	42.2	39.4

◇患者送迎バス利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
南部豊見城線	2,368	1,942	2,249	1,907	1,561	1,665	2,251	2,115	2,307	2,196	2,069	2,503	25,133
糸満南部線	475	409	464	499	374	506	499	492	504	514	515	595	5,846
具志頭線	155	118	150	138	102	125	117	150	102	90	73	123	1,443
西崎線	250	208	252	189	210	290	259	245	245	247	234	293	2,922
合計	3,248	2,677	3,115	2,733	2,247	2,586	3,126	3,002	3,158	3,047	2,891	3,514	35,344
1日平均利用者数	158	131	152	133	110	126	152	146	154	149	141	171	145

◇運動療法

	参加人数	日数
運動実践教室	849	48
グループ療法	405	54

	実人数	延べ人数
個別指導	605	696

◇診療科別手術件数・麻酔件数

診療科	手術件数				麻酔件数					
	外来		入院		全身麻酔	脊椎麻酔	静脈麻酔	硬膜外麻酔	局所麻酔	ブロック
	予定	緊急	予定	緊急						
外科	6	0	12	0	12	3	10	0	10	0
整形外科	0	0	29	0	2	17	0	0	6	12
麻酔科	0	0	1	0	0	0	0	4	0	1
合計	6	0	42	0	14	20	10	4	16	13

◇内視鏡件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
上部消化管内視鏡 (FGS)	39	29	56	58	58	56	57	59	46	61	45	59
胃瘻造設術 (PEG)	0	0	2	0	2	4	3	2	1	2	2	1
下部消化管内視鏡 (CF)	8	6	14	8	11	8	6	6	14	11	0	0

◇透析患者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
血液透析	人数	54	53	58	92	55	61	61	53	55	56	57
	延べ	609	608	585	667	662	654	687	610	638	655	690

◇薬剤管理指導料等

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2.特に安全管理が必要な医薬品	22	27	46	86	97	86	94	64	70	106	93	123
3.1および2以外	40	21	35	73	73	54	62	65	63	75	123	122
退院時薬剤情報管理指導料	42	14	40	52	45	28	41	45	47	42	49	46
薬剤麻薬管理指導料加算	0	0	1	1	0	1	4	0	3	0	2	2

◇リハビリ疾患別総単位数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
心大血管疾患等 リハビリ（Ⅰ）	外来	77	65	60	82	71	78	86	69	72	94	98	130
	入院	86	127	164	70	40	8	88	88	135	210	208	150
脳血管疾患等 リハビリ（Ⅰ） イ.口以外の場合	外来	39	35	29	22	25	27	26	29	28	19	16	25
	入院	3,227	3,573	3,232	3,383	3,155	3,582	3,071	2,392	2,522	2,701	2,649	2,956
脳血管疾患等 リハビリ（Ⅰ） 口.廃用症候群	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	162	109	79	112	21	38	13	13	269	450	454	394
運 動 器 リハビリ（Ⅰ）	外来	147	126	106	100	102	120	121	117	124	118	148	160
	入院	4,543	3,858	3,807	3,921	3,869	3,840	4,222	4,000	4,060	3,764	3,572	4,265
運 動 器 リハビリ（Ⅱ）	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
呼 吸 器 リハビリ（Ⅰ）	外来	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	625	633	502	498	645	581	508	651	787	746	802	605
が ん 患 者 リ ハ ビ リ	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	146	216	358	343	301	259	327	277	263	289	297	193
摂食機能療法	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	69	146	89	116	163	103	77	122	94	100	98	84
早期リハビリ テーション加算	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	2,119	1,606	1,795	2,013	1,710	1,382	1,374	1,625	2,007	1,872	2,145	1,832
初期リハビリ テーション加算	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	602	718	712	791	617	377	527	574	806	819	835	676

◇栄養指導件数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
個 別 栄 養 指 導	外来	28	18	14	9	11	10	17	12	11	10	9	26	
	入院	20	24	24	22	18	23	30	21	29	24	26	29	
	外来透析	7	1	3	3	2	4	2	0	0	1	3	4	
集 団 栄 養 指 導		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
N	S	T	105	72	124	97	109	133	120	86	151	103	106	132

◇食事別延食数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
一 般 食	3,394	3,009	3,014	3,834	4,626	4,604	4,266	4,303	4,333	4,844	4,574	4,548
特 別 食	11,239	11,377	9,909	10,837	10,367	9,381	9,643	8,513	9,723	9,309	9,376	10,493
手作りおやつ(産科・小児科)	1,094	1,179	1,427	1,150	1,111	1,448	1,082	1,114	1,337	1,485	1,351	1,242
合 計	15,727	15,565	14,350	15,821	16,104	15,433	14,991	13,930	15,393	15,638	15,301	16,283

◇検体検査件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
生 化 学	3,250	2,838	3,306	3,285	3,267	3,130	3,290	3,075	3,122	3,225	3,333	3,536
血 液 検 査	2,322	2,134	2,369	2,517	2,472	2,355	2,394	2,165	2,354	2,446	2,397	2,446
尿・一般検査	1,785	1,578	1,828	1,943	1,897	1,753	1,926	1,725	1,768	1,725	1,824	1,994
輸 血 ・ 血 型	16	16	24	32	19	21	17	31	35	33	21	32
そ の 他	74	90	88	98	76	92	69	80	31	16	15	24
血 液 ガ ス	26	20	26	55	33	30	23	12	16	22	22	25
合 計	7,473	6,676	7,641	7,930	7,764	7,381	7,719	7,088	7,326	7,467	7,612	8,057

◇生理機能検査

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
心 電 図	445	449	451	519	452	420	607	431	442	469	479	502
負 荷 心 電 図	23	17	22	20	11	20	23	25	17	29	18	26
TM負 荷 心 電 図	0	1	8	2	0	0	8	4	4	7	4	7
ホルター心電図	13	8	11	6	5	3	14	7	10	10	8	9
心電図記憶検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
呼吸機能検査	11	10	13	13	7	13	11	10	12	7	6	10
A B I / P W V	77	76	73	75	69	60	92	97	94	89	89	112
パルスウォッチ	4	2	0	1	1	0	0	1	1	1	1	1
脳波検査	4	6	5	3	6	3	3	6	2	2	5	2
神経検査	2	1	6	0	5	3	2	2	3	1	4	4
腹部エコー	163	142	168	179	168	139	170	167	179	146	142	187
腎動脈エコー	3	2	2	2	5	5	1	3	3	3	2	7
甲状腺エコー	11	8	11	6	12	18	4	18	7	6	12	13
乳腺エコー	5	4	2	2	3	4	1	3	6	3	2	4
表在エコー	17	28	25	8	8	8	11	6	1	8	7	3
血管エコー	61	37	62	80	73	63	77	64	75	60	61	86
心臓エコー	141	139	135	147	119	127	131	134	146	140	147	153
経食道エコー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
エコー下穿刺	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
P S G	17	14	13	13	8	11	11	11	8	11	3	8
合 計	997	944	1,007	1,076	952	897	1,166	989	1,010	992	990	1,134

◇耳鼻科検査件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
標準純音聴力検査 (PTA)	19	18	19	19	19	20	27	26	17	16	20	24
標準話音聴力検査 (Speech)	0	0	2	1	1	2	3	1	0	0	0	0
簡易聴力検査(気導純音聴力検査)	0	0	1	1	3	3	0	1	1	1	0	2
簡易聴力検査(その他)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
チンパノメトリー (TG)	12	13	11	14	14	14	18	16	13	13	15	17
内耳機能検査 (Bekeesy, DL, SIS)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中耳機能検査(パッチテスト)	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0
耳小骨筋反射検査 (SR)	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0
誘発筋電図 (ENoG)、顔面神経麻痺評価	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0
合 計	31	32	33	36	37	40	49	45	32	30	38	43

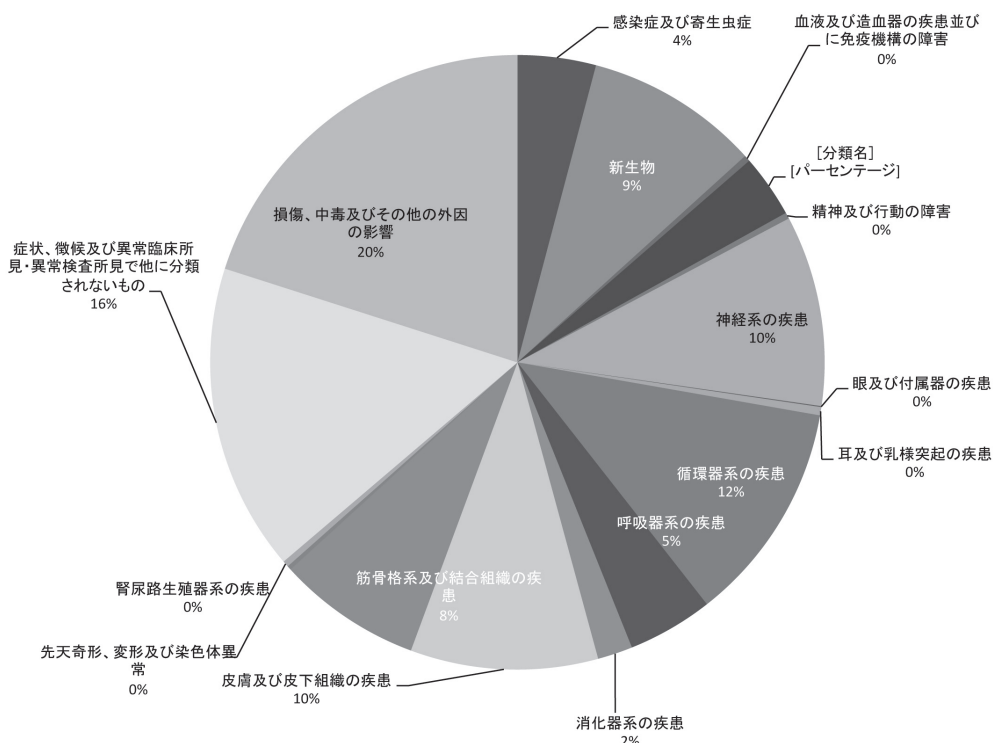
◇画像撮影件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
一般撮影	1,017	1,070	1,138	1,197	1,069	1,048	1,089	979	1,124	1,104	1,113	1,261
軀幹	723	733	783	833	777	731	738	656	747	795	782	901
その他	294	337	355	364	292	317	351	323	377	309	331	360
ポータブル	78	76	112	144	129	103	94	80	86	117	94	85
造影検査	8	6	15	9	13	13	17	11	6	12	11	12
上部消化管(UGI)	0	1	4	2	3	3	6	3	0	3	4	4
バリウム直腸検査(BE)	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
胆嚢胆道系	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
泌尿器系	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
脊髄	0	3	0	0	1	0	1	1	0	0	0	1
関節造影	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他造影	3	0	3	0	2	0	1	0	0	1	1	2
透視のみ	0	0	1	0	0	0	1	2	2	0	1	0
嚥下造影	4	2	4	6	5	6	5	3	3	6	3	3
胃瘻造設	0	0	3	0	2	4	3	2	1	2	2	1
マンモグラフィー	1	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0
骨塩定量	102	119	104	109	98	118	141	138	121	121	87	101
腰椎正面	50	56	51	53	49	58	70	68	58	57	43	48
腰椎正側	0	7	2	4	1	2	2	2	2	2	0	2
大腿頸部	50	56	51	52	48	58	69	67	58	57	43	48
前腕	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
手	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
全身	0	0	0	0	0	0	0	0	3	5	1	3
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
CT検査	231	279	249	287	305	233	255	276	286	256	235	261
単純												
頭頸部	63	70	64	58	86	71	57	62	66	41	61	64
躯幹部	163	198	158	207	204	151	183	197	196	194	149	175
その他	1	4	3	6	5	2	6	7	10	6	9	8
造影												
頭頸部	0	1	1	1	0	1	1	1	0	1	2	1
躯幹部	3	3	16	11	0	5	5	8	10	10	9	11
その他	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
単純造影												
頭頸部	1	2	0	0	1	1	0	0	0	0	2	2
躯幹部	0	1	6	4	0	2	3	1	4	4	3	2
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
他院再掲												
他施設	(3)	(11)	0	0	(5)	(2)	(11)	(2)	(12)	(7)	(2)	(7)
豊見城中央	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
MRI検査	181	163	200	186	178	164	186	187	179	140	159	197
単純												
頭頸部	109	95	128	100	108	105	111	100	105	61	71	102
躯幹部	41	38	39	47	39	32	36	53	45	46	45	57
その他	29	30	31	38	31	27	38	33	28	30	43	36
造影												
頭頸部	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	1
躯幹部	2	0	2	1	0	0	0	0	1	2	0	1
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
単純造影												
頭頸部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
躯幹部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
他院再掲												
他施設	(34)	(29)	(49)	(28)	(53)	(53)	(54)	(47)	(43)	(29)	(32)	(38)
豊見城中央	(1)	0	0	(1)	0	(1)	0	0	0	0	0	0
合計	1,618	1,713	1,818	1,932	1,792	1,679	1,782	1,673	1,803	1,750	1,699	1,917

◇ICD-10大分類による退院診療科別患者数

大分類	内科	外科	整形外科	緩和ケア 内科	麻酔科	リハビリ テーション科	泌尿器科	脳神経 外科	計
感染症及び寄生虫症 (A00-B99)	76								76
新生物 (C00-D48)	15	17		133	3	1			169
血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害 (D50-D89)	6								6
内分泌、栄養及び代謝疾患 (E00-E90)	60	1							61
精神及び行動の障害 (F00-F99)	5				1				6
神経系の疾患 (G00-G99)	176	1	2		5			1	185
眼及び付属器の疾患 (H00-H59)	1								1
耳及び乳様突起の疾患 (H60-H95)	8								8
循環器系の疾患 (I00-I99)	175	18	1			2		19	215
呼吸器系の疾患 (J00-J99)	54	29							83
消化器系の疾患 (K00-K99)	20	10	4						34
皮膚及び皮下組織の疾患 (L00-L99)	29	2	149		2				182
筋骨格系及び結合組織の疾患 (M00-M99)	140								140
腎尿路生殖器系の疾患 (N00-N99)									0
妊娠、分娩及び産褥 (O00-O99)									0
周産期に発生した病態 (P00-P96)	2		2						4
先天奇形、変形及び染色体異常 (Q00-Q99)	6								6
症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの (R00-R99)	30	14	250			1		3	298
損傷、中毒及びその他の外因の影響 (S00-T98)	368	1			1				370
健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用 (Z00-Z99)									0
合 計	1,171	93	408	133	12	4	0	23	1,844

2015年度 疾病分類—大分類比率



人員体制

医師 常勤医 副部長 与儀 洋之 非常勤医 3名
 健康運動指導士 1名、看護師（糖尿病療養指導士1名）
 管理栄養士（糖尿病療養指導士1名）
 メディカルアシスタント、クラーク

■目標

- ①南部地区糖尿病二次医療機関としての役割を果たし、生活習慣病に関する病診連携の確立を目指す
- ②血糖コントロール不良患者への重点的指導
- ③腎臓内科グループとの連携

■概要

当センターは糖尿病をはじめとして、脂質異常症、高血圧症、肥満症なども含めた生活習慣病を中心に内分泌代謝疾患全般の診療を行なっている。特に糖尿病については、次の三つに重点を置いて診療にあたっている。

① 動脈硬化性疾患の予防

南部地区医師会DMCKD委員会で採用している、多因子介入を視野に入れた糖尿病管理基準「糖尿病のABCD」を使用し、動脈硬化性疾患の予防に努めている。

② 行動変容を促し、薬物に頼りすぎない診療

生活習慣病は、文字通り生活習慣を主因とする疾病の総称である。薬剤は年々進歩しているものの、生活習慣の改善は欠かせない。当センターは、医師、看護師、健康運動指導士、管理栄養士をメンバーに構成されている。食事療法や運動療法の指導を通じて、患者自身をエンパワメントすることにより行動変容を促し、生活習慣病の改善を図るよう努めている。

食事療法や運動療法の指導を通じて、患者自身をエンパワメントすることにより行動変容を促し、生活習慣病の改善を図るよう努めている。

③ 糖尿病性足病変予防への取り組み

「誕生月のフットチェック」と「年1回の動脈硬化チェック」を行い、特にハイリスクの方には、「フットケアハイリスク外来（毎週木曜日午後）」にて重点的にフォロー。同時間帯に診療を行なっている皮膚科/循環器内科に連携が取りやすい体制を整えている。

糖尿病のABCD

A: HbA1c (NGSP)	< 7.0%
B: Blood Pressure	< 130/80
C: Total Cholesterol	< 180
D: Don't Smoke	= 0

(NDN 南部糖尿病ネットワーク2003)

■2015年度の取り組み・実績

① 糖尿病フットチェックの実績

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
件数	569件	507件	498件	727件

② 糖尿病透析予防管理コースへの取り組み

平成24年度より「糖尿病透析予防管理コース」を導入。医師、看護師、管理栄養士でチーム医療に取り組み、更に腎サポート外来担当医師、看護師とも連携をとれる体制となっている。2015年度は、総数29名（延べ73名）に指導を行った。

- ・HbA1Cが改善又は維持 58.62%
- ・Cre又はeGFRが改善又は維持 31.03%
- ・血圧が改善又は維持 51.72%

人員体制

専従医師1名、兼任医師1名（日本緩和医療学会暫定指導医）
 看護師：3階北病棟、4階南病棟
 緩和ケア認定看護師1名、医療ソーシャルワーカー1名、心理士1名、
 薬剤師2名、栄養士1名、リハビリPT、OT、STがんリハ研修終了

■概要

◎緩和ケア病床：3階北21床 有料個室3室 ◎がん患者対応一般病床：4南または4北一般病床

◎緩和ケア外来（火曜日午前、木曜日午後） ◎疼痛外来（月、水、金）

3北 緩和ケア病棟の機能

- ◇入退院判定会議：緩和ケア病棟への入院は患者・家族が事前に医師、看護師、MSWらとの面談のうえ、苦痛や予後などの状況を包括的にアセスメントした後、調整、決定する。
- ◇定期的多職種カンファレンスおよび合同回診：毎日看護師、医師による朝のカンファレンスを行なう。週一回（水曜日）に医師、看護師、MSW、薬剤師、心理士、リハビリ、栄養士を交えた多職種で新規入院患者に対するカンファレンスおよび、回診を行ない、ケアの方針を共有する。
- ◇死亡退院患者のデス・カンファレンスを週一回行ない、ケア体験を分かち合い、医療の質の向上を図るとともに、職員の燃え尽きを防止する。

■目標

平成24年より開設された緩和ケア病棟を中心に、入院、外来通院、在宅の緩和ケア患者・家族に対して身体、心理、社会的、spiritualな全人的な苦痛に対する緩和ケアを提供している。豊見城中央病院緩和ケアチーム、友愛会訪問看護ステーション、南部病院訪問診療部と連動し患者のニーズに迅速に対応できるシームレスな地域緩和ケアトライアングルを提供する。

■2015年度の取り組み・実績

- 身体的苦痛のケア：疼痛のアセスメントをVAS、STAS等を用いて定量的に評価・記録している。WHO方式に加え、機械式PCAポンプを用いた麻薬による鎮痛管理を徹底し苦痛の緩和を図っている。
- ◇緩和的インターベンション：くも膜下フェノールブロック、腹腔神経叢ブロックなどの神経破壊ブロックを患者の予後と症状の強さなどを考慮しながら実施している。
- ◇精神・心理・スピリチュアルケア：患者生活歴、家族との関係性を重視し、看護師は傾聴につとめ、心の苦悩に向き合う事を支える。抑鬱、せん妄のアセスメントを定期的に行い、臨床心理士による週一回の患者茶話会を実施ディグニティーセラピー、マインドフルネストレーニングなどの心理療法を導入している。週1回非常勤の精神科医によるリエゾン回診
- ◇がんリハビリテーション：緩和ケア病棟、一般病棟において、OT、PT、STが患者一人一人の問題と目標（通院復帰、在宅移行、生き甲斐の創造等）に応じたりハビリを積極的に行っている。
- ◇在宅緩和ケア支援：南部病院訪問診療部門は3名の在宅医師の登録する強化型在宅支援診療病院である。患者家族より在宅療養や在宅看取り希望が示された場合。友愛会訪問看護ステーション、在宅支援センターが早期から介入し、望む場所での療養生活を支えている。
- ◇一般病棟での緩和ケア：緩和ケア病棟受け入れ待機患者や在宅療養のための調整を行う患者の一部に対して一般病棟で緩和ケアを実施する。非がん慢性疾患の終末期ケアも一部対応している。

人員体制

内科 上原 清水 久田
 麻酔科 笹良
 看護師 新垣 森 荻堂

■目標

訪問診療体制の充実・関係者の連携強化

訪問診療が開始されるには、患者本人または家族より、地域連携室、外来の訪問診療担当看護師へ相談、連絡があり、入院中の患者については退院時のカンファレンスへ参加し、訪問回数や診療計画を策定している。その際、主治医、訪問担当医師、入院・外来看護師、訪問診療担当看護師、地域連携室の相談員、ケアマネジャーなど、関係者のネットワーク構築、連携強化を図り、患者本人、家族が安心して在宅療養できる環境づくりを目標にしている。

■概要

訪問診療日

- ・水、木、土曜日の午前を除く曜日の訪問診療

健康チェック（診察・血圧測定・体温測定など）	点滴治療・その他投薬
薬の処方	定期的な検査（採血・検尿など）
療養上の相談	床ずれ処置
予防接種	酸素療法
経管栄養法	在宅ターミナルケア
経尿道カテーテル（留置）の管理	各種ストーマケア（人工肛門など）のケア

対象疾患

- ・在宅緩和ケア患者
- ・神経難病患者
- ・寝たきり患者
- ・外来通院困難患者

■2015年度の取り組み・実績

- ・診療体制の拡充
- ・木曜日午後の訪問診療を実施
- ・在宅看取り数は前年より減少している

人員体制

センター長：岩田 剛、非常勤医師：福原 香
理学療法士 52名、作業療法士 26名、言語聴覚士 8名、助手 3名

■診療内容

主に脳血管障害・廃用症候群・呼吸器疾患の入院・外来リハビリテーション患者の診療、リハビリテーション科回診、リハビリカンファレンス、嚥下機能評価（嚥下造影検査）、バクロフェン髄注療法の調整・リフィル、ブレースカンファレンス、装具処方、身体障害者認定などの診断書作成等

■目標

「南部地域におけるリハビリ拠点病院の構築」

- ・連携を活かした専門性の高いリハビリの提供
- ・カンファレンスの質の向上、チーム医療の充実
- ・教育システムの強化
- ・訪問リハビリの充実

■概要

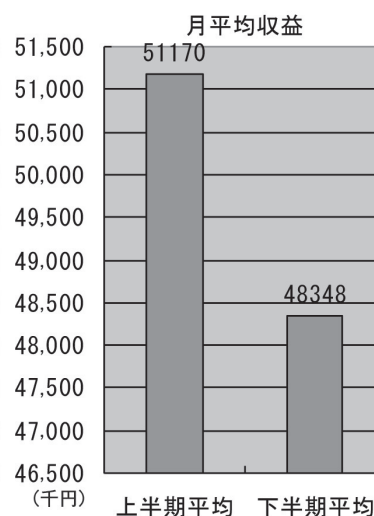
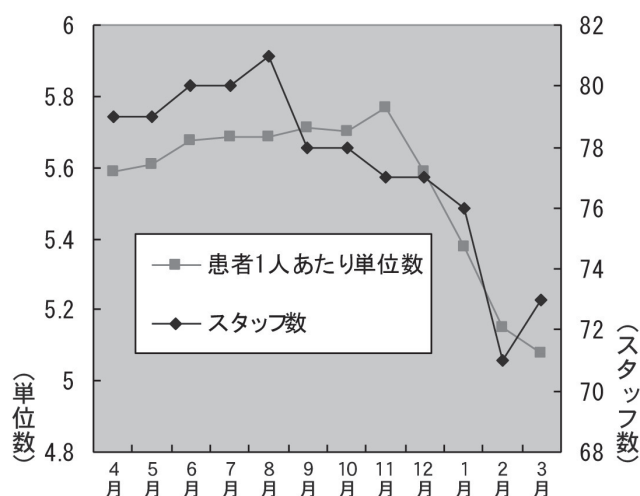
平成26年4月の診療報酬改定で回復期リハビリ専従医の定義変更があり、専従医の外来診療は原則不可となったが、平成27年4月より非常勤医師が週2回来院するようになり、外来リハビリや訪問リハビリの件数が増え、外来での診断書対応も可能となった。

■2015年度の取り組み・実績

入院リハビリ処方数（リハビリ科）564件（昨年+29件）

外来リハビリ処方数（リハビリ科）22件（昨年+16件）

リハビリテーションセンター



リハビリセンター全体として、スタッフ数減少に伴い、患者一人あたりのリハビリ単位数が減り、年度内での収益も低下傾向がみられた。

人員体制

薬剤師：常勤8名（主任1名、副主任2名）
 （入職：4月2名、退職：3月1名）
 非常勤1名
 薬剤助手：常勤1名、非常勤1名

■概要

○主な業務内容

①処方箋調剤

②注射箋調剤

③薬剤管理指導（服薬指導）

4階北病棟・4階南病棟・5階北病棟（算定不可）

④病棟薬剤業務（病棟常駐）

4階北病棟・4階南病棟

担当薬剤師：各3名配置

【内容】

- ・投薬、注射状況の把握
- ・持参薬のチェック及び院内処方切替え提案
- ・相互作用チェック
- ・ハイリスク薬の注意喚起
- ・薬剤投与前の流量、投与量の計算など

⑤無菌製剤、化学療法剤混注

⑥NST、褥瘡回診への参加

⑦薬事審議委員会事務局

⑧感染制御への参画

⑨緩和ケア病棟の緩和ケアカンファレンス、デスケースカンファレンスへの参加

⑩医薬品安全管理

⑪医薬品情報提供など

■目標

- 1) 限られたマンパワーで効率よく収益につなげる
- 2) 専門知識のある薬剤師を目指す
- 3) 新入職員の業務習得と適正を判断する

■2015年度の取り組み・実績

- 1) 服薬指導件数：前年度3月62件だったものが、当年度3月262件に増加
- 2) 取得資格：医療情報技師、スポーツファーマシスト、＜取得準備中＞生薬漢方認定薬剤師、糖尿病療養指導士
- 3) 講師派遣：沖縄県看護協会 医療安全管理者養成講座の医薬品部門講師を担当
- 4) 技術習得スケジュールに沿って新人教育を実施し、定期的なフォローを入れながら病棟業務まで習得。

人員体制

センター長1名 科長1名 主任3名 副主任4名
 理学療法士52名 作業療法士25名 言語聴覚士8名 助手3名
 (産休者6名)

■概要

病棟毎にチーム体制で取り組んでおり、一般病棟チーム（4階北病棟・4階南病棟・緩和ケア病棟）、地域包括ケア病棟チーム（5階北病棟:外来リハビリも兼務）、回復期リハビリテーション病棟チーム（3階南病棟）の3チーム体制からなり、各病期に応じたリハビリを展開している。

■目標

『南部地域におけるリハビリ拠点病院の構築』を目標に掲げ、下記の3本柱を行動指針とする。

- ・連携の強化（急性期から終末期まで全てに関わる）
- ・チーム医療の充実（院内全スタッフで患者様を共通理解する）
- ・生涯教育（学習に意欲的な環境を皆で創る）

■2015年度の取り組み・実績

(1日の1患者あたりのリハビリ実施平均単位数)

一般病棟 5単位
 回復期病棟 8,4単位
 地域包括ケア病棟 4,4単位

(リハビリ実施患者数)

入院：実人数1日平均 148名
 延べ人数月平均 8,328名
 外来：延べ人数月平均 287名

(カンファレンス件数)

月件数 106件
 年間件数 1,269件

(家屋調査件数)

月件数 106件
 年間件数 402件

(リハビリ実習生受け入れ)

県内実習生数：延べ20名
 県外実習生数：延べ5名

(リハビリ学院への講師派遣)

ST 1名：中枢神経機能学（15講座）
 (沖縄リハビリテーション福祉学院)

(学会等への発表)

- ・第21回心臓リハビリテーション学会学術集会（7/18・19）
 「当院における心臓リハビリテーション対象者と今後の課題」
- ・第1回日本心臓リハビリテーション学会九州地方会（10/24・25）
 「心臓リハビリテーション開始時の6分間歩行距離を規定する指標の検討」

人員体制

- ①臨床検査技師11名（正職10名、非常勤1名）
 - ・生理検査室 5名
 - ・検体検査室 6名（非常勤技師1名含む）
- ②査助手1名
- ③科長補佐1名、副主任2名、検査助手1名、非常勤1名：合計12名

■概要

検査科は、大きくふたつの検査室がある。一つは、人体の体液を主材料にして行う体液成分の生化学的分析、自己免疫疾患の自己抗体検査、顕微鏡を用いて細胞変化の病変観察を行う形態学、病原起因菌や感染起因菌、ウイルス検査等の抗原抗体反応により検査判定を行う感染症検査等の検体検査室である。他方は、人体の各臓器・細胞等の活動組織の電位から得られる細胞の活動や血流状態を観察する電気生理学、組織に超音波を照射し反射してくる超音波を立体的に画像表現することで得られる組織病変や、細胞成分の解析を行う画像診断検査がある。他に呼吸機能検査や、耳鼻科領域の検査があり、疾病の早期発見、診断、治療、治療経過観察等に大きく寄与している生理検査室がある。

これらの両側面から複合的に疾病の診断、治療計画、経過観察等が行われる。また近年では、予防医学分野にも早期発見、早期治療を目的に臨床検査が大きく貢献している。

検査科の勤務体系は、日勤帯はそれぞれの検査室で業務を行い、業務量過多や人的要因による業務量補完が必要な場合は、双方の検査室から支援体制を行う事としている。

日勤帯終了後の検査は、一人で検体検査を主業務とした救急待機当番体制（夜22時まで病院待機し、以降はPHS持参し自宅待機）を、輪番制により検査科全員が行う。通常の至急・緊急項目をはじめ、針刺し事故等の感染症検査、第4類、5類感染症等を含めて当番帯での検査体制を整え、診療支援を強固なものにしている。

■目標

平成27年度は、検体検査室の契約満了に伴う検査室リニューアルをテーマに委託業者の再選定、検体検査室の再構築を行い、院内検査充実型をめざす。生理検査室においては、慢性的な人材不足と検査技師のスキル向上策を目的とした人材育成を行うこととした。

<検体検査室>

- ①契約満了に伴う検査委託業者の選定を行う。
- ②検体検査室の再構築を行い、検査室の導線の改善と効率良い検査運営を行う。
- ③再構築に伴う検体検査室の充実型を提案し、内分泌項目、感染症項目、血中薬物濃度を一部院内実施し、迅速検査体制の維持と強固な診療支援体制を行いつつ、検査の品質向上を行う。

<生理検査室>

- ①心血管系エコー検査のレベルアップと迅速化をはかる。
- ②PSG検査の体制構築と地域医療への拡充を行う。
- ③CPX導入による心臓リハビリテーション体制の充実を行う。
- ④全国学会発表を通して知識見聞習得と検査スキル向上をはかる。

■2015年度の取り組み・実績

計画課題に基づき、取り組んできた内容と評価について以下にまとめた。

- ①エコー検査科は、検査増による患者待ち時間の短縮ができず、引き続きH28年度課題として豊見城中央病院での研修対応を行うこととした。
- ②透析部門（シャントエコー）のエコー検査は、シャント肢のトラブル事例の発生時に主治医指導のもと症例ごとに対応することが可能となってきた。
- ③PSG検査は看護部の協力により人員育成はできたが、実践まではいかなかった。次年度課題とする。
- ④CPX導入は心臓リハビリとの協力体制により順調に稼働できたが、対応人材が限定されており、対応人員数の拡充が急務である。
- ⑤全国学会は日本心臓学会に演題1題、沖縄県医学検査学会（臨床検査技師会主催）1題を発表することができ、技師個々のスキル向上はもちろんのこと、業務への習得技術の反映がなされた。
- ⑥検体検査の外部委託業者の契約満了に伴う更新については、コンペ方式にして複数業者のプレゼンテーションを行った。検査科、検査運営委員会、関連部門会議にて各社のプレゼンテーションを行い、参加者へのアンケート方式による統計処理により、最終業者の選定を行うことができた。
- ⑦検体検査室のリニューアルに関する課題策定を行い、全体の構築スケジュールを作成した。3月末日までの構築スケジュールと次年度課題の洗い出しを行い、課題進捗に関する担当者割にして作業進捗確認を行うことができた。
- ⑧検査室のリニューアルに伴う検体検査室の効率稼働をめざし、室内のレイアウト変更を行った。付帯する電気工事、給排水工事、ネットワーク工事等のスケジュール調整をおこない進捗管理を行うことができた。

人員体制

診療放射線技師：常勤6名（主任1名）
受付担当：常勤1名

■概要

MRI検査、CT検査、骨密度検査、マンモグラフィー検査、TV検査、一般撮影などが主な業務内容である。MRI検査1名、CT検査1名、一般撮影2名、TV検査・OR担当1名、骨密度検査・ポータブル1名の6ブロックに分けて業務配置している。一週間交代のローテーションを行っている。

時間外は1名の技師が当番で対応している（22：00以降はオンコール体制）

平日 17：30～22：00

土曜日 12：30～22：00

日曜日・祝祭日8：30～22：00

友愛会放射線技術科で毎月、全体ミーティング等を行い施設間での連携を図っている。各種委員会も各施設から委員を選出し交流を図りながら活動している。

■目標

- ① モダリティローテーションへの取り組み
- ② 働きやすい職場環境の構築
- ③ 科内教育体制の構築
- ④ 検査件数増加に向けての取り組み

■2015年度の取り組み・実績

MRI・CT検査の件数増加に向けて、近隣のクリニックを地域連携スタッフと共に訪問し渉外活動を行った。実際の検査画像や検査予約方法をまとめた冊子を配布し、南部病院の検査機器を自施設のように利用してもらえるよう説明を行った。訪問を機会にMRI検査の依頼が2件/年から34件/年に増えたクリニックもある。

機能評価に向けての取り組みとして、スタッフ全員で協力して文書作成や業務内容の問題点の洗い出しや改善を行った。特に安全性の確保については受審することで対策できたことが多々あった。

友愛会放射線技術科全体で各種委員会の活動を行った。放射線管理委員会・医療安全委員会・教育委員会・放射線機器管理委員会・IT委員会などを定期的に行い委員会活動の充実が図れた。

主な検査実績

MRI検査 177件/月

CT検査 263件/月

骨密度検査 113件/月

一般撮影 1,101件/月

TV検査 11件/月

人員体制

管理栄養士：常勤4名（主任1名、副主任1名） うち産休1名
 非常勤2名
 給食業務委託：栄養士、調理師、調理員、事務員

■概要

1. 外来業務
 - ・栄養指導（個人）
2. 入院業務
 - ・栄養指導（個人）・栄養管理計画書作成・栄養アセスメント/栄養評価・経腸栄養、食事内容調整
 - ・栄養サポートチーム回診・緩和ケアカンファレンス・褥瘡回診
 - ・心臓リハビリテーションカンファレンス
3. 給食業務
 - ・約束食事箋管理・献立管理・衛生管理・セレクトメニュー（常食・エネルギー基準食 朝/夕）
 - ・行事食提供・イベント食提供・嗜好調査実施（年2回）・昼食時病棟訪問（栄養士/調理師）

■目標

1. 財務の視点
 - ・栄養指導件数増加
 - ・栄養サポートチーム回診件数増加
2. 患者満足の視点
 - ・食事時間の病棟訪問継続し、多職種との情報共有を図る。
3. 人材育成の視点
 - ・県内外の講演会へ積極的に参加する。
 - ・NST研修を受講
 - ・新人教育フロー実践
4. 業務プロセスの視点
 - ・院内ホームページの充実

■2015年度の取り組み・実績

- ・第9回 糖尿病療養支援実践セミナー参加

・主な実績

栄養指導件数 入院250件（うち非算定75件）外来320件
 栄養サポートチーム回診件数 1,338件

人員体制

臨床工学技士（ME）2名

■概要

ME室は、人工呼吸器・血液浄化装置・除細動装置その他の医療機器管理の一元化により機器の貸出・回収・点検・修理などの業務管理を行い、臨床現場における安全性・信頼性・経済性に寄与することを目的に業務を行う。社会医療法人友愛会MEセンターは院外医療施設に対し、収益事業として医療機器の共有化を提案を行う。

- ① 臨床現場に導入される医療用電子機器の工学評価（安全性・信頼性・経済性）を行い、導入の適正化に寄与する
- ② 機器・システム及び設備・環境の安全性や性能を確保するための保守管理を行う
- ③ 医療従事者に機器に関する取扱い研修や最新情報等の提供を行う
- ④ 機器・システムの故障・修理の履歴に関するデータをメーカーにフィードバックし、安全性・信頼性・性能の向上に寄与する
- ⑤ 社会医療法人友愛会MEセンターを立ち上げ、友愛会が有する知見や信用力を十分に生かした医療機器の運用（医療機器の共有化）と管理業務を収益事業として展開する

■目標

透析監視装置を全15台更新し、透析の質向上や高い安全性を担保する。収益事業として社会医療法人友愛会MEセンターを立ち上げ、友愛会が有する知見や信用力を十分に生かした医療機器の運用と管理業務を展開する経済的な効果を提案し、実施に向けて努力する

■2015年度の取り組み・実績

管理医療機器のデータベース化と記録管理および特定管理医療機器の計画的な点検実施。

- ① 医療機器安全使用のマニュアル化と情報提供
- ② 医療機器の安全使用と操作に関する研修実施
- ③ 人工呼吸器使用患者の診療業務支援
- ④ 透析液水質浄化及び透析治療安全管理

医療機器管理業務実績

- ・日常点検 8,276件/年
- ・定期点検 370件/年
- ・修理 院内71件/年・外注28件/年
- ・院内職員対象医療機器安全研修11件/年

人員体制

1名（欠員1名）
健康運動指導士、心臓リハビリテーション指導士

■概要

患者の適正療養行動取得を目的に、総合的な生活習慣を含めた行動変容の支援、また必要に応じて自律訓練法も提供し、生活習慣病患者、慢性疼痛患者、整形外科患者の適正治療に寄与する介入を実施。毎週火曜日（オープンクラス）水曜日（ロコモクラス（仮称））の指導に於いては、運動実践方法の取得と実践の場を提供。DMおよび慢性疼痛患者の教育入院プログラム作成と指導も担当した。

■目標

初年度（平成21年）からの経年取り組み「患者への行動変容支援介入の有効性」を客観的に評価し、研究発表を行うこと。また、介入手法である多理論統合モデル（TTM：Transtheoretical Model）と認知行動療法的介入（CBT：Cognitive Behavior Therapy）を療養行動指導担当スタッフに伝達する取り組みも行う。

心理的介入の側面を持つ療養行動支援に於いて、個別介入の効率化を図り、介入の所要時間を適正に短縮する工夫を継続して行う。

平成26年度に3ヶ月間（閉鎖型）提供したニューロケアクラスへの患者ニーズ対応として、パーキンソン病患者を主とした「ロコモ予防クラス（仮称）」を新たに通年（毎週水曜日）開催する。

■2015年度の取り組み・実績

〔個別介入〕

	実人数	延人数	新規実数
DMセンター外来	155	155	7
他科外来	210	236	16
入院	5	24	4
退院後フォロー	20	20	0
センター希望	101	103	4
スポーツ外来	110	154	33
その他希望	4	4	4
合計	605	696	68

〔グループ療法（教育型）〕

	実人数	延人数	実施日数
慢性疼痛患者	6	54	11
パーキンソン病患者	15	351	43

※慢性疼痛クラス参加82%

※パーキンソン病各回平均参加者加数 8.2人

〔オープンクラス（実践型）〕

実人数	延人数	実施日数	各回平均	新規実数
64	849	48	17.7	38

〔その他〕

- ・第79回日本循環器学会学術集会 研究発表
「生活習慣病センター患者における認知行動療法介入の有効性：NAMBU HEART研究」
- ・リレーフォーライフin 浦添 運動指導担当
- ・大学 看護学部 保健師研修 指導（0.5日×2）
- ・日本心臓リハビリテーション学会、日本自律訓練学会参加
- ・Japan Heart Club会員 :メディックスクラブ メイン指導担当

人員体制

看護部長	1名	准看護師	19名
看護師長	7名	介護福祉士	21名
看護主任	11名	看護補助者	14名
看護師	145名	看護クラーク	11名

■概要

病床数：188床

看護単位：7看護単位（5病棟・外来・透析室）

看護師配置：一般病棟・地域包括ケア病棟10対1、回復期病棟13対1、緩和ケア病棟7対1

看護提供方式：固定チームナーシング

■目標

1. 看護実践能力を上げ、教育と研鑽に根ざした専門性に基づき看護の質向上を図る
2. 看護職員が生き活きと働きやすく、働きがいがあり意欲と誇りのもてる職場環境づくりを推進する
3. 地域のニーズに応えられる医療への貢献・連携の強化を図る
4. 経営に参画する

■2015年度の取り組み・実績

【看護職員動向】平成28年3月31日現在

入職：25名（内、新人職員6名） 退職：23名 産前・産後休暇：22名 病気休暇：4名

【主な行事】

1. 看護週間 5/8～5/14
 - ①母の日似顔絵展示 ②部署紹介ポスター掲示
 - ③ふれあい看護体験実施：5/14（土）体験者（高校生）21名を受け入れた
2. 看護部総会開催（4/22）：活動報告・予算報告・永年勤続表彰・ラダーⅡ研修修了式の実施
3. 総務委員会主催会員親睦会の実施：ホテルランチビュッフェ、参加者数65名（3日間）
4. 地域医療講演会の企画、運営（豊見城中央病院 看護局との合同企画）参加者数122名
開催日：6/6（土）
テーマ：「呼吸器疾患患者の療養生活をいかに支えるか」
5. 看護部院内ホームページを立ち上げ看護部情報の発信に努めた

【教育】

1. 研修参加：県内研修235名 県外研修：26名
2. 認定看護師育成
 - ①皮膚排泄ケア認定看護師教育課程へ進学 1名
 - ②認定看護管理ファーストレベル研修 2名
3. 実習指導者養成支援：保健師助産師看護師実習指導者講習会受講 3名
4. 主任会によるシミュレーション研修の実施：「呼吸・循環器のフィジカルアセスメント」について

【ワーク・ライフ・バランスへの取り組み】

1. 年休取得の推進：年休取得率 98%
2. 残業削減への取り組み
 - ・各部署単位での業務改善
 - ・ノー残業デイの推進

【看護学校との連携】

- ①看護実習生受け入れ：延べ人数122名
- ②講師派遣：学内アシスタントティーチャー 29名 領域別非常勤講師 2名

人員体制

看護師	23名（常勤 18名・非常勤 1名・6Hパート 4名）
准看護師	2名（常勤・非常勤）
クラーク	5名（非常勤 5名）
助手	1名（5Hパート）

■概要

当院の外来は内科をはじめ整形外科・外科・泌尿器科・ペイン外来・緩和ケア内科外来・救急外来・耳鼻科・皮膚科・生活習慣病センター・心療内科・と11の診療科に加え採血室（処置室）・内視鏡室・手術室・中央材料室で構成され、日々患者の健康維持と診療補助全般の業務を担っている。さらに、在宅療養支援病院として訪問診療・24時間往診にも応じ地域医療への貢献を実践している。

また、医療の安全・危機管理を職員一人ひとりが意識し、対象者別・疾患別看護に対する看護実践が提供できるよう日々、知識・技術向上を意識し、学習面においては積極的に勉強会へも参加している。

■目標

外来における看護の専門性を深め、安全で質の高い看護サービスを提供する

27年度目標

- 1 外来患者の受診率アップ（1日平均、300名）
- 2 外来待ち時間の短縮・有効利用
- 3 専門看護師の育成
- 4 看護の質のレベルアップ 研修参加（院内／院外）
- 5 患者サービス・接遇の強化

■2015年度の取り組み・実績

1. 外来待ち時間の短縮・有効利用
 - ・予約時間 1 時間来院の案内を30分に短縮
 - ・待ち時間調査
 - ・外来待合室に医学雑誌・週刊誌等の設置
2. 看護の質のレベルアップ
 - ・糖尿病療養指導士の資格受験 1 名
 - ・フットケア研修受講（県外） 1 名
 - ・看護協会研修参加者17名
3. 病院機能評価受審に向けてのマニュアルの見直し及び環境整備
4. 手術室においては、手術日の拡大と電子カルテの運用開始

人員体制

緩和ケア医：2名
 看護師：20名・看護助手：3名
 リハビリテーション：担当2名（兼任）・栄養士：1名（兼任）・臨床心理士：1名（兼任）

緩和ケア認定看護師：1名
 社会福祉士：1名
 薬剤師：1名（兼任）

■概要

緩和ケア病棟21床

■目標

<病棟理念>

友愛の心で、一人ひとりの気持ちを尊重し、あなたらしく生きることを支えます

【目標】

- ① 紹介先病院との連携強化
- ② 豊見城中央病院との連携
- ③ 当院のがんに関わるすべての医師が緩和ケアに関する知識を有する
- ④ ボランティア育成

■2015年度の取り組み・実績

【連携について】

友愛会がん情報センター会議を受けて、友愛会内での連携を課題として、以下を取り組んだ。

- ① 緩和ケアのスムーズな連携を目的として、これまでの兼任から専従MSWとして緩和ケア病棟に配置した。院内および院外のがんに関して、専従MSWを中心とし前方・後方連携の窓口を一本化した。
- ② 緩和ケア面談後の緊急時の受け入れに関して、夜間・休日でも当院当直医が対応し、その後緩和ケア医へ転科する体制を整えた。

【地域活動について】

- ① 地域活動として琉球大学保健学部、糸満市、社会福祉協議会と協働し「最期まで地域で暮らすには」という演題で地域セミナーを行った。
- ② 緩和ケア週間に、パレットくもじ前にて県内ホスピス緩和ケア病棟と啓蒙活動を行った。
- ③ 沖縄がん心のケア研修会で、市民向け講演会及び「生前葬を行った事例」検討
- ④ 市民向け：「最期まで支えるQOL」：名桜大学

【緩和ケア病棟に協力頂いたボランティア】

毎月のイベント：合計 41名、延べ95名

【患者ケア・遺族ケア】

- ① デイグニティセラピーの取り組み
- ② 遺族満足度調査、遺族への手紙

【緩和ケア研修】

2015年度 緩和ケア基本研修会（豊見城中央病院）

【看護学校へ講師派遣】

那覇看護専門学校：看取りの技術・・・1名
 ぐしかわ看護学校：在宅緩和ケア・・・1名
 琉球大学保健学科：在宅緩和ケア・・・1名

【実習受け入れ】

友愛会訪問看護ステーション：1名 4/20～4/24
 聖路加国際大学：見学実習 6/24～6/30
 看取りの実習：那覇看護専門学校

人員体制	<ul style="list-style-type: none"> ●病棟スタッフ 看護師長 1名 主任 1名 看護師 12名 准看護師 5名 介護福祉士 10名 クラーク 1名 (回復期リハ看護認定2名) 	<ul style="list-style-type: none"> ●リハビリスタッフ 理学療法士 16名 作業療法士 10名 言語聴覚士 3名 計29名 ●専従医 1名 ●社会福祉士(専従) 1名
-------------	--	---

■概要

回復期リハビリテーション病棟 (40床)

○看護師配置 13対1 ○看護提供方式 固定チームナーシング

当病棟では、脳血管疾患や骨折等の整形外科疾患の治療後、日常生活に支障を来した患者に対し、患者の持っている能力を最大限に引き出し、生活動作の向上と在宅復帰を目指したリハビリテーションを行っている。患者一人ひとりに医師・看護師・介護福祉士・リハビリスタッフ・社会福祉士が協働でリハビリプログラムを作成し、チームでカンファレンスを組みながら情報の共有化を図っている。

病棟生活全体がリハビリの一環であると考え、移動・食事・排泄動作を含めた日常生活全般にリハビリ的視点を取り入れ、患者一人ひとりのADLに応じた支援を行っている。家族を含め退院に向けた社会福祉制度の説明や環境調整、生活指導を行っている。

■目標

ミッション：自分が受けたい援助を患者さんへ提供する

ビジョン：自宅に一番近い回復期病棟！！

■2015年度の取り組み・実績

- ・沖縄県回復期リハビリテーション病棟運営会議参加
- ・沖縄県回復期リハビリテーション病棟協会 第4回 研究大会 (1演題発表)
- ・全国回復期リハビリテーション病棟協会 第27回 研究大会 (2演題発表)
- 第5回 介護研修会参加
- 第2回 リハナースフォローアップ研修参加
- 第89回 全職種研修会参加
- 第8期 回復期リハビリ看護認定取得 (1名)

回復期リハビリテーション病棟入院料 I	
イ、	重症患者比率 (基準30%) …41.0%
ロ、	重症患者回復率 (基準30%) …77.8%
ハ、	在宅復帰率 (基準70%) …84.7%

- ・実習指導者講習会終了…1名
- ・平均在院日数…68.9日
- ・一日平均リハビリ単位数…8.2単位

人員体制	看護師長	1名	看護師	25名	看護助手	3名
	主任	1名	准看護師	2名	クラーク	1名

■概要

4階北病棟（41床）

看護師配置 10対1（看護提供方式…固定チームナーシング）

4階北病棟は、循環器内科・一般外科・整形外科・脳血管障害の患者を受け入れでの混合病棟である。

外科では下肢静脈瘤手術を中心に受け入れし、術前・術後の看護を提供している。

これまで通り整形外科の手術も受け入れ、リハビリ介入や在宅支援・調整も行なっている。

安全第一で、患者視点の看護の提供を目標に、患者・家族も安心して治療・療養生活が送れるように、「患者さんへ安心・安楽・安全」の看護に取り組んでいる。

■目標

『患者・家族へ統一した看護が提供できる』

- ・患者の情報を共有し、チームでの声掛けをし、チームワークを深める
- ・報告・連絡・相談の徹底
- ・退院調整・在宅支援のカンファレンスの充実

■2015年度の取り組み・実績

- 各疾患に関して勉強会
 - ・救急看護 BSCインストラクター1名育成
 - ・術前・術後の看護・退院指導パンフレット作成（下肢静脈瘤・単径ヘルニア）
 - ・呼吸器疾患勉強会（NPPV取り扱い）・人工呼吸器看護（モナルT75）
 - ・中頭病院人工呼吸器研修2名参加
 - ・足関節クリニカルパス・心不全クリニカルパス作成・
 - ・看護協会の年間研修
 - ・看護協会災害看護2名参加
- リハビリ・看護師・相談員との病棟ラウンド（毎週金曜日）
- 第16回南部病院院内研究発表会
「テーマ：お茶による陰洗洗浄の効果」
- 第11回南部病院院内QC発表会
「テーマ：環境整備改善」
- 病棟稼働率99.6% ・平均在院日数18日 ・看護必要度17.3%

人員体制	看護師長	1名	准看護師	2名
	主任	1名	看護補助者	6名
	看護師	19名	クラーク	1名

■概要

4階南病棟41床

看護師配置…10対1

看護提供方式…固定チームナーシング

内科一般・慢性呼吸器疾患・無呼吸症候群検査・糖尿病初期入院・慢性呼吸器（C K D）の教育入院や化学療法、代替療法が必要な患者さま、在宅で闘病中のレスパイト入院、緩和外来・病棟と連携を取りながら緩和ケア病棟待機病棟として入院患者の受入れを行なっている。

医師、看護師、ソーシャルワーカー、リハビリ、在宅チームと連携し、疾患の増悪予防に努めると共に、患者個々の日常生活状況に応じた治療計画を作成し、チームが連携し常に「安心」を提供できるように取り組んでいる。

■目標

『専門性を高め看護実践ができる』

- ・呼吸器専門知識の向上
- ・呼吸プロセスに応じた指導
- ・パス入院 指導知識の向上
- ・固定チームナーシング・チーム連携
- ・終夜睡眠ポリグラフィ（P S G）
- ・教育入院患者の増員
- ・効率的なベッドの運用

<基本方針>

- ・患者さまへ笑顔の看護・介護の提供
- ・良質な看護サービスの提供
- ・入院から退院まで一貫した患者指導の提供
- ・在宅へのプロセスに応じた指導
- ・安全で快適な療養環境
- ・患者さまの安全・安楽を守る
- ・知識の向上、勉強会の充実
- ・緩和待機病棟としての役割機能

■2016年度の取り組み・実績

- 退院調整、支援カンファレンス
- 在宅支援の充実（在宅への調査）
- 慢性呼吸器疾患患者さまの自宅調査及び退院後訪問、生活環境、状況確認
- 院内呼吸器疾患患者ラウンド 他部署連携
- スタッフミーティング（カンファレンス）
- 総合評価加算開始
- レスパイト入院受け入れ
- 第13回院内看護研究発表会

「一般病棟における終末期ケア ～否認・取引段階にある終末期患者を看取った事例～」

- 第11回院内QCサークル発表会

「排泄ケア向上を目指して TENAの試験導入による取り組みと課題」

- 那覇看護専門学校T A派遣2名
- 第6回がんリハビリテーション研修会参加
- 日本クリティカルパス学会参加（福井県にて開催）
- 呼吸器講演会並びに地域講演会、討論会開催

テーマ「呼吸器疾患患者の在宅ケアをいかに支えるか」

- NASBA（独立行政法人自動車事故対策機構）

短期入院受入れ協力病院九州地区意見交換会

- 日本糖尿病療養指導士（CDEJ）合格
- ・平均在院日数 18.9日
- ・病床稼働率 99.2%
- ・病床利用率 96%
- ・無呼吸症候群 124件

人員体制

看護師長	1名（透析兼務）	主任	2名	看護師	17名	准看護師	3名
介護福祉士	9名	クラーク	1名				

■概要

地域包括ケア病床（45床）

看護師配置 10対1

看護提供方式 固定チームナーシング

当病棟は地域包括ケア病棟で、急性期を脱した患者を対象にリハビリを行いながら在宅復帰へ向けて取り組んでいる病棟である。急性期治療を経過した患者に対して、効率的かつ密度の高い入院医療を提供している。チームとして、医師・看護師・社会福祉士・リハビリスタッフ等が個々の患者に合わせた治療計画を作成し退院に向けてサポートしている。

また病棟内では闘病意欲を高めるために、レクリエーション活動や、在宅へ向けて家屋調査などリハビリと連携を図りながら患者に、質の高い医療を提供出来るように取り組んでいる。

■目標

『患者に沿った退院支援を行い、安心した環境で安全に長く生活できる』

1. 退院支援・調整がスムーズにできる
2. 他職種との連携
3. 専門知識技術の向上

■2015年度の取り組み・実績

- ・退院支援・調整がスムーズに行えるよう、退院調整カンファレンスを全患者に行い、退院後の生活に向け、患者・家族の勉強会を開催することができた。また、在宅支援の充実を図る目的で家屋調査を行い、他職種合同カンファレンスにて効率的に患者の退院支援に繋げることができた。
- ・病棟でのレクリエーション（七夕・母の日・敬老会・クリスマス会）
- ・リハビリスタッフを含むリーダー会（1回/月）
- ・第15回南部病院院内研究発表会
「テーマ：患者の安全な生活と家族関係へ介入した事例を通して ～退院支援における地域包括ケア病棟の役割を学ぶ～」
- ・第11回南部病院院内QC発表会
「テーマ：個別性のある排せつ支援を求めて～業務改善への道のり～」
- ・第5640回沖縄県支部QCサークル大会 うるま市民芸術劇場
「テーマ：個別性のある排せつ支援を求めて～業務改善への道のり～」
- ・地域包括ケア病棟実績 在宅復帰率 82% 病床稼働率 98.3% 病床利用率 96%

人員体制

看護師長 1 名（病棟兼務） 看護師 8 名 准看護師 2 名 看護補助者 1 名

■概要

透析室（15床）

看護提供方式 固定ナームナーシング

ベッド数は15床で、月・水・金（午前・時差）、火・木・土（午前・時差）にて1日2サイクルの日程で透析を行っている。

透析療法には欠かせない、栄養指導や服薬指導の充実を図り、患者のニーズを共有化するためカンファレンスの定例化を行っている。

また、腎サポート外来では保存期から、維持期までの患者サポートを行い、在宅でのケアにも努めている。医師と連携し透析療法の専門性を高め、患者を安全かつ安心して受け入れられるよう取り組んでいる。

■目標

透析医療の専門性を高め、安全で安心な透析医療を提供する。

- ・ 専門知識と技術の習得
- ・ 働きやすい職場環境づくり
- ・ 事故のない安全な透析看護の提供

■2015年度の取り組み・実績

- ・ 透析学会への参加
- ・ 患者カンファレンス
- ・ マニュアル見直し
- ・ スタッフミーティング
- ・ 業務改善
- ・ 透析回数：651 / 月
- ・ 透析病床利用率96%
- ・ 腎サポート外来より新規導入患者 8 名

研修実績

(2016年3月31日現在)

一般県内研修	参加人数	一般県内研修	参加人数
看護研究入門 ～看護現場から見出す研究課題～	2名	看護の本質を再確認しよう！ ～看護の臨床の「知」から～	3名
地域包括ケアシステム構築に向けた保健師と看護師の連携	7名	医療提供体制の変化をふまえた看護職の役割～患者の在宅療養を支援するために～	5名
フィジカルアセスメント	10名	看護師が行う糖尿患者のフットケア	4名
演習で学ぶ看護研究Ⅰ	2名	医療事故分析に関する研修	1名
感染管理Ⅰ～感染防止の基礎知識～	6名	感染管理Ⅱ～感染防止の基礎知識～	5名
がん看護研修Ⅰ	7名	介護施設等で勤務する看護職者の研修	1名
災害医療と看護（基礎編）	4名	これからの時代に求められる看護記録	6名
看護職と倫理	7名	地域包括的視点に基づく看護管理	6名
高齢者介護施設における看護とマネジメント	1名	QCサークル大会	6名
看護実践能力を育てる ～継続教育担当者として効果的な教育計画の企画にどう取り組むか～	5名	創傷・褥瘡ケア（スマート含む）基礎編	10名
		沖縄県における高齢社会の現状と看護職の役割	3名
労働者として知っておきたい労働基準法の基礎知識～労働時間編～	4名	不隠患者への看護介入とチームアプローチの実際	7名
認定看護管理者教育課程ファーストレベル	4名	認知症高齢者の理解と看護（基礎編）	2名
救急看護～急変予測と対応～	2名	演習で学ぶ看護研究Ⅲ	2名
人工呼吸器管理の基礎と患者のケア	8名	がんのリハビリテーション研修	1名
がん看護研修Ⅱ	6名	摂食・嚥下障害のある患者の看護	3名
准看護師研修～与薬と医療事故防止～	2名	救急看護～急変予測と対応～	2名
災害看護（看護管理者編）	3名	介護施設で勤務する看護職者の研修	1名
口腔ケア～口から始まるQOLの向上～	12名	人工呼吸器管理の基礎と患者のケア	1名
第34回人工透析学会	4名	創傷・褥瘡ケアマネジメント編	6名
夜勤交代勤務ガイドライン導入のために実践方法をする	2名	「ノーリフトケア」～持ち上げない、抱えない看護・介護～	2名
平成27年度沖縄県保健師助産師実習指導者講習会	3名	第27回回復期リハビリテーション研究大会in沖縄	7名
がん看護研修Ⅲ	7名	演習で学ぶ看護救急Ⅳ	2名
災害看護（実務編）	5名	ナースのためのメンタルヘルスケア	5名
看護職と倫理（看護管理者編）	3名	新人看護職員研修「教育担当者研修」	1名
演習で学ぶ看護研修Ⅱ	2名	医療安全管理者養成研修	1名
プロフェッショナルマネージャーを目指す	5名	医療安全管理者養成研修公開講座（5日間）	延べ20名
一般県内研修	参加人数	一般県内研修	参加人数
第2回がんのリハビリテーション研修	1名	第5回介護研修	2名
日本神経学会学術大会	1名	第16回日本クリニカルパス学会学術集会	1名
日本老年学会学術大会	1名	日本糖尿病療養指導士認定講習会	2名
緩和医療学会・教育セミナー	3名	第2回回復期リハ看護師フォローアップ研修会	1名
日本透析医学会学術集会・総会	2名	回復期リハ看護認定授与式	1名
第1回慢性疼痛に対する認知行動療法セミナー	1名	リハビリテーションケア合同研究大会2015	2名
日本腎不全看護学会 第12回基礎研修	1名	第89回全職種研修	2名
第27回糖尿病足病変の指導に従事する方のためのフットケア研修	1名	アメリカにおけるエンドオブライフケアにおける症状マネジメントと緩和ケア	1名
看護実践に活かせるスピリチュアルケアセミナー	1名	医療事故・紛争対応研究大会第10回年次カンファレンス	1名

人員体制

課長 1名 一般事務 8名（総務課7名 医局秘書1名） 保健師（主任） 1名

■概要

総務課では病院運営を管理・統括する、様々な業務を担っている。主な業務は次の通りである。

[各種申請・届出に関する業務]

保険医療機関に関する業務（施設基準等）	各種開設許可・指定等の手続き（沖縄県・保健所）
補助金申請に関する業務	

[職員勤怠管理業務]

医師勤務管理	職員勤怠管理
各種休暇等手続き	年休・残業統計

[その他庶務業務]

委託契約・管理業務	各種請求書等確認業務	タクシーチケット管理
リース・レンタル契約・管理業務	特別管理産業廃棄物に関する業務	各種行事運営管理
PHS・携帯電話管理業務	郵便物等（発送・受信）	各種講演会運営
広告関連業務	リネン類管理	防火・防災訓練
広報誌・年報発刊	ホームページの更新	公用車管理
起案管理業務	文書管理業務	安全運転管理・指導
出張手配・精算業務	職員向け図書管理	透析患者送迎業務
人事関連手続窓口業務	互助会関係業務	患者搬送（転院）業務
各種委員会 庶務	職員健診・予防接種	

■目標

当課では、病院利用者（患者・家族）の満足度向上、職員満足度向上、委託職員及び取引先業者との良好な関係作りを目標に、裏方として間接的に病院の収益向上、支出削減に取り組んでいる。

患者サービスの一環として、平成25年9月より『いちまん友愛文庫』（患者向け図書室）を運営しており、図書の閲覧、貸出、インターネットの利用、DVD（映画等）の上映会を行い、入院療養生活が快適におくれるような環境を提供している。

患者搬送業務は、可能な限り対応しており、他医療機関への転院や、自宅等への搬送を行っている。

■2015年度の取り組み・実績

患者搬送件数（年度別）

搬送先	H22	H23	H24	H25	H26	H27
豊見城中央病院	119	123	124	135	124	147
その他の医療機関等	61	58	38	40	39	45
自宅他	21	23	23	12	18	7
合計	201	204	185	187	181	199

いちまん友愛文庫運用実績（年度別）

内容	H25	H26	H26	H26
図書等貸出実績	253	669	556	556
パソコン利用者	216	709	833	833
コピー利用者	52	73	101	101
DVD（映画上映）回数	0	8	24	24
合計	521	1,459	1,514	1,514

人員体制

保健師（常勤1名）

■概要

保健師、衛生管理者として職員の心身の健康の保持増進に関する業務を担う。

業務の遂行にあたっては、個人情報保護に留意し、安全衛生委員会・メンタルヘルス委員会で審議の上、関係部署と連携、協力しながら取り組みを進めている。

■目標

- 1) 定期健康診断受診率100%の達成と有所見率の改善
- 2) 職場復帰支援体制の充実
- 3) メンタルヘルスにおける予防的取り組み
- 4) 職場内の連携と気軽に相談できる環境・信頼関係づくり

■2015年度の取り組み・実績

- 1) 職員の健康の保持増進
 - ・「定期健康診断」及び「特定業務従事者健康診断」を実施し、各受診率100%を達成した。
事後措置として、要精査者に対する受診勧奨と職員16名に対し保健指導を実施した。
（定期健診）有所見率においては、平成26年48%、平成27年41%と改善を認めた。
 - ・職員の感染対策として感染制御委員会と連携し、B型肝炎ワクチン・インフルエンザワクチン
予防接種を実施した。（B型肝炎ワクチン70名）
 - ・職場巡視を実施（概ね月1回）し、職場環境の改善を行った。
- 2) 健康・保健教育、啓蒙活動、健康情報の発信
 - ・健康講演会の開催（「腰痛対策」平成27年6月開催 参加71名）
 - ・保健室だよりの発行（月1回発行・院内ホームページに掲載）
- 3) メンタルヘルス不調による休職者の復職支援
 - ・個別面談、院内外関係者間の連携・調整、復職判定会議、フォローアップ会議）
- 4) メンタルヘルス予防的取り組み
 - ・セルフケア推進「全職員対象ストレス調査」の実施（457名）
 - ・ラインケア推進「役職者対象結果説明会・ラインケア研修会の開催（参加47名）
 - ・その他の個別面接相談
- 5) ハラスメント相談窓口担当
 - ・働きやすい職場環境づくりを目標に、相談窓口担当として問題解決に向け対応した。
 - ・役職者、一般職員を対象に「ハラスメント講演会」を開催し啓発・周知した。（平成27年8月開催）
（役職者34名、一般職員72名参加）
- 6) その他、外来患者に対する保健指導の実施
 - ・労災二次検診（4名）及び特定保健指導対象者（1名）に対し、関係部署と連携して保健指導を実施した。

人員体制

課長 1 名（管理者）
 入院担当：5 名（主任 1 名）、外来担当：11 名（主任 1 名）
 未収金担当：1 名、健診担当：1 名
 総合案内：2 名、医師事務作業補助者（MA）：10 名（主任 1 名）
 （常勤 26 名、非常勤 3 名、派遣職員 2 名）

■概要

- ・ 窓口業務
 外来診療受付、入院受付案内、会計
- ・ 診療報酬請求業務
 レセプト請求、各種公費の請求、自賠責請求、労災請求
- ・ 医師事務作業補助業務
 診療記録代行入力、投薬・検査等オーダー代行入力、各種文書代行作成
- ・ 未収金回収業務
 電話・封書での督促、訪問回収
- ・ 健診業務
 特定健診、がん検診の予約・請求
- ・ 総合案内業務
 入院患者等の問い合わせや案内、外来診療予約の変更、歩行困難者の介助
- ・ その他業務
 施設基準の申請、査定減点処理

■目標

- ・ 接遇マナーの向上
 患者の立場になり、丁寧で分かりやすい言葉使いを心掛ける。
- ・ 査定減点対策
 査定減点率 0.35% 以下、返戻 250 万円以内。
 査定対策勉強会を月 1 回行う、医師へ査定減点情報を発信し共同で対策を講じる。
- ・ 未収金対策
 3 ヶ月以内での回収が出来るよう全職員で分担し患者へ連絡を行う。
 回収目標金額、年間 350 万円。

■2015年度の取り組み・実績

- ・ 特定健診対象者に受付窓口で受診を呼びかけ、健診受診者が前年度より 113 件増えた。
- ・ 査定・減点対策を強化、前年度より査定金額 300 万円程減らす事ができ、査定率も 0.26% へ下がった。
- ・ 医師事務作業補助者を 1 名増員し、医師の負担軽減や患者の待ち時間減に貢献した。
- ・ 職員のスキルアップを目指し豊見城中央病院の医事課と人事交流を行なった。

人員体制

主任	1名
課員	3名

■概要

用度課は院内で扱う物品を管理し、コスト削減に努め下記業務を行っている。

- ① 医療機器、医療材料、一般消耗品、備品、薬品（薬剤科と兼務）、事務用品等の購入管理
- ② 購入に関して価格決定、情報収集
- ③ 各部署への物品払出し、2009年9月からSPD医療材料物流管理システム開始
- ④ 棚卸し
- ⑤ 備品台帳管理
- ⑥ 故障、修理その他物品に対する苦情、要望等の処理
- ⑦ 印刷物の発注・管理

■目標

- ① 医療原価（薬剤・医療材料・医療消耗品費）収入に占める割合を8%以下目標
- ② 各部署からの病院機能評価対応の為の購入見積もり、発注、納品の対応
- ③ 豊見城中央病院との医療材料・薬品の統一使用

■2015年度の取り組み・実績

- ・薬品値引き交渉によるコスト削減
- ・材料VHJ（全国共同購入）推奨品の使用によるコスト削減、ダイアライザー、胃瘻交換チューブ、インフルエンザ測定キット、他VHJ推奨品への切り替え。
- ・一般消耗品の購入、事務用品（机、イス、ロッカー等）の中古品、再生品購入、ネット通販からの価格を比較検討し格安購入。
- ・病院事業計画、（薬剤・医療材料・医療消耗品費）医療原価の目標金額より月平均73万円削減。
- ・病院機能評価受審 自部署審査範囲A評価

人員体制

職員：2名 委託職員（国際ビル産業）：4名
 勤務形態：職員は日勤帯 08：30～17：30
 託職員は2交代制 365日 24時間
 日勤 08：30～17：30 宿直 17：00～翌日09：00

■概要

主要業務

1. 設備保守業務

各設備のトラブルを未然に防ぐ予防保全の観点から年間保守点検スケジュールを作成し、チェック表に基づいて作業を実施。

設備内訳：受変電設備、非常用電源設備、ボイラー設備、空調設備、給排水設備、医療ガス供給設備

2. 営繕業務

病院利用者が安全・安心・快適に過ごせるよう各部署よりの営繕依頼対応及び、突発的なトラブルに対応するため365日24時間体制での対応業務。

3. 監視業務

各機器の遠隔操作及び状態監視、空調制御システムによる省エネ制御監視を実施。

設備内訳：中央監視盤、火災受信盤、電気絶縁監視盤、デマンド監視盤、医療用ガス監視盤、空調制御システム

■目標

*ゼロ災害

*給水・給湯使用量対25年度比2%削減

*病院機能評価認定取得に向けた対応

■2015年度の取り組み・実績

1. 年度目標実績

*ゼロ災害達成

*給水・給湯使用量対25年度比 4.7%、1,666m³、516,074円削減

*病院機能評価にて自部署審査範囲はA評価

2. 外部講習会・セミナー等参加

*5月 電気主任技術者会議

*12月 電力負荷平準化・省エネルギー社会実現セミナー

3. 主な改修工事実績

*8月 NO.1エレベーターリニューアル工事

*2月 直流電源装置更新工事

人員体制

システムエンジニア（主任）	1名
システムエンジニア	2名
計	3名（常勤）

■概要

情報システム課は南部病院のIT技術の導入・管理を行う部署であり、サーバー・パソコン・その他関連機器等のハードウェアや電子カルテを含む院内利用ソフトを管理する。

1. コンピュータシステム導入

電子カルテシステムを中心とした各種部門システムの導入に際し、購入計画・システム選定を経て導入・運用管理を行う。

2. 関連機器およびネットワーク管理

上記システム関連機器の導入および業者との保守契約管理や院内での簡単な保守・修理を行う。

サーバー（16台）、クライアントPC（約460台）、プリンター（約90台）、他ネットワーク関連機器

3. システムデータ管理

電子カルテ等を運用するためのデータ作成・管理を行う

4. プログラム開発

電子カルテ機能で不足している処理の補完プログラム作成や学会発表等でのデータ2次利用、開発元の異なるシステム間のデータ連携等の為、当課でプログラム開発を行う。

5. その他

職員の日常業務におけるコンピュータ利用方法の伝達や、データ・セキュリティ・個人情報保護に関する勉強会等の実施を行う。

■目標

1. 未導入サブシステムを順次導入していく
2. パソコン等のコンピュータ機器更新
3. 各施設で統一したセキュリティ対策の実施
4. プログラム開発新技術の習得

■2015年度の取り組み・実績

1. 電子カルテ機能の運用開始
 - ・手術システム導入および運用開始
 - ・豊見城新版カルテ導入に伴う運用変更の調整
 - ・2016年度診療報酬改定に対するシステム変更の対応
2. プログラム開発
 - ・既存機能の更新処理を行った。
3. 各種統計データ取得
4. 部門システムリプレイス
 - ・検査科 検査システム リプレイス対応

人員体制

医療安全管理者（専従看護師1名）

■概要

病院内における全ての患者並びに職員の医療事故防止体制の確立を促進し、適切で安全な医療の提供に資することを目的とし医療安全対策に関する企画、立案や評価、改善、医療安全に関する職員の意識向上や指導等の業務を行う。

1. インシデント報告書の集計と分析及び予防策の立案について調整を行うこと。
2. インシデント報告書に関する事実確認、対応への助言、指導を行う。
3. アクシデント報告を受け、特別調査委員会の設置に関する情報収集。
4. アクシデント報告書の分析及び予防策の立案について調整を行うこと。
5. 院内の医療安全に関する巡回点検を行う。
6. 安全管理に関する教育・研修の企画・運営に関すること。
7. 医療安全の推進に関し、調査、研究を行う。
8. 医療安全に関する会議の運営。
9. 各リスクマネジャーと連絡調整。
10. その他医療安全対策の推進に関すること。

■目標

1. 医療安全講演会 目標参加率90%以上
2. 医療安全講演会年2回開催
3. 医療安全教育への取り組み
全部署へ推進
危険予知トレーニング（以下KYT）
根本原因分析（以下RCA分析）
4. リスクマネジメント委員会参加率100%

■2015年度の取り組み・実績

1. 平成27年度病院機能評価受審
平成27年12月17日・18日
2. 第1回 医療安全講演会
『医薬品副作用被害救済制度について』
平成27年7月17日 参加率：93%
 - ・ビデオ講演会2日間
 - ・DVD回覧（感想文）

3. 第2回 医療安全講演会

『Rapid Response System (RRS)』について

平成28年2月28日 参加率：96%

- ・ビデオ講演会1日間
- ・医療安全ホームページ（感想文）

4. リスクマネジメント委員会KYT活動推進

各部署KYT活動の報告

5. RCA分析手法の勉強会と周知

6. 医療安全カンファレンス（週1回）の充実

7. 事象レベル3以上の振り返りと対応策の充実

8. 院内ラウンドの充実と注意喚起の徹底

9. 沖縄県看護協会医療看護安全対策委員会活動参加

沖縄県看護協会医療看護安全対策委員会小グループ（2G）活動参加

10. 医療安全ホームページ掲載

平成26年度医療安全集計・分析報告

医療安全講演会参加者集計と分析

医療安全情報

- ・日本医療機能評価機構
- ・医薬品医療機器総合機構（PMDA）
- ・日本医療安全調査機構
（医療事故調査・支援センター）
- ・その他（団体からの情報）

人員体制

副院長兼室長	1名
診療情報管理士（主任）	1名
診療情報管理士	3名

■概要

「私たちは、精度の高い管理を行い、それを最大限活用が出来るよう研鑽し、良質の医療サービスの提供に寄与します」を部署理念とし以下の業務を行った。またスキルアップとして各種資格の取得に挑戦した。

- ◇診療記録管理業務（入院診療録の管理・診療記録の監査、退院時サマリーの疾病コーディング等）
- ◇診療情報管理業務（疾病統計、死因統計、各種調査への回答、データ抽出依頼への対応、院内がん登録）
- ◇臨床指標に関する事務
- ◇DPCデータ提出業務

■目標

戦略目標	重要成功要因	成果尺度と目標値
迅速で正確な診療情報管理	残業時間短縮	前年度比10%減
安全な医療の提供 地域住民に役立つ診療情報の提供	臨床指標の追加 院内がん登録の精度向上	臨床指標数を10指標に増やす 初級実務者認定試験全員合格
診療情報の質の向上	サマリー記載率の向上 診療記録の電子化の推進 疾病統計の迅速化 病院機能評価受審	2W以内記載率100% 電子化予定のうち未実施のものを0にする 報告までの期間を40日以内にする A評価以上
専門的能力の向上	職員のスキルアップ	職員の目標到達度100%

■2015年度の取り組み・実績

戦略目標	取り組み	実績
正確な診療情報管理	残業時間短縮	前年度比0.5%減
安全な医療の提供 地域住民に役立つ診療情報の提供	臨床指標の追加 院内がん登録の精度向上	16の計測指標（CI）を新設 初級実務者認定試験合格（1名）
診療情報の質の向上	サマリー記載率の向上 診療記録の電子化の推進 疾病統計の迅速化 病院機能評価受審	2W以内記載率99.6% 手術システム導入 報告まで：上半期47日、下半期40日 A評価
専門的能力の向上	資格取得	医療経営士3級（1名）、医療情報技師（1名）

人員体制

顧問 1 名 室長 1 名 副主任 1 名
 <地域連携> 4 名（うち 1 名は渉外兼務）
 看護師：2 名 社会福祉士：1 名 事務：1 名
 <相談室> 5 名
 社会福祉士：5 各（各病棟 1 名配置）

■概要

<地域連携>

- ・豊見城中央病院からの転院や外来受診の調整
- ・他の医療機関からの外来受診や検査、転入院の連絡調整
- ・福祉事務所からの生保受給者の病状把握日程調整など公的機関との連携
- ・その他、外来患者、その家族の窓口での相談支援や院内外からの情報提供依頼への対応

<渉外>

- ・診療所や他医療機関等への広報、当院機能の情報提供（営業・広報）
- ・当院の連携統計、退院調整状況内訳や調整内容・期間の把握
- ・在院日数や病院機能向上のため統計情報の解析

<相談室>

- ・入院、外来患者の相談支援・患者家族の相談支援
- ・病状説明、カンファレンス、回診への参加
- ・家屋調査の調整、同行
- ・退院後外来やサービスの調整・確認
- ・学生実習指導
- ・入院患者の介護保険、施設入所の訪問調査同席

■目標

1. 地域の医療機関との連携の強化
2. 相談支援、連携調整の充実 ソーシャルワークの質の向上
3. 業務の整理と、他職種への役割・機能の周知

■2015年度の取り組み・実績

○豊見城中央病院地域医療部と3ヶ月ごとに合同ミーティングを実施
 主な議題としては以下のとおり。

- ・急性期病院から転院調整をスムーズに行う為の各種確認事項を検討。
- ・業務実績報告（受け入れ件数・紹介件数・その他）
- ・MSWフェイスシート情報共有について 等

○多機関連携・協働ネットワーク情報交換会開催

<目的>在宅や施設への早期退院が出来るように、施設相談員・ケアマネージャーとの情報交換会

- ・平成27年9月17日：第3回開催 講演会・グループワーク
 参加人数58名（友愛会職員34名 友愛会以外24名）

人員体制

管理者：医師
 師長：1名 正看護師：1名 准看護師：1名
 理学療法士：3名 作業療法士：2名
 介護福祉士：9名 介護員：5名
 相談員：1名

■概要

通所リハビリテーションは要介護・要支援状態と認定された利用者に対し、介護保険法の主旨に従いリハビリテーション実施計画書を立案・実施し、利用者の心身の機能回復を図る事を目的としている。当通所は「友愛の心・家族の心で、自分らしく充実した生活を送れるよう支援する」を理念としている。

病院併設のため、包括ケア病棟・回復期病棟からの継続的リハビリの要望も多く、他事業所に比べ、厚いリハビリスタッフのマンパワーにより医療と在宅のシームレスなリハビリを展開しているのが特徴である。在宅生活を維持し、利用者ニーズに対応出来るよう、リハビリ・介護・看護・相談員が連携し、地域に開かれた通所リハビリテーションを目指している。

1. 営業日・時間 月～土・8：30～17：30（日曜日休み、祝日は年間計画あり）
2. サービス提供時間 9：45～16：30
3. 送迎範囲 糸満市内と近隣市町村
4. サービス内容 個別リハビリテーション、パワーリハビリ、集団体操、手工芸、レクレーション、入浴、食事提供、送迎

■目標

1. 地域に根ざした通所リハビリとして、糸満市、近隣地域住民の在宅生活継続を目指す
2. 利用者の在宅生活を把握し、必要なりハビリサービスを提供する
3. 利用者の個性、疾患等を考慮し、小集団の活性化を図る
4. 職員の知識技術向上を目指し、介護安全を心がけ利用者・家族へ寄り添ったサービスを提供する

■2015年度の取り組み・実績

1. 院内研究発表「認知症利用者とのコミュニケーションについて」
2. 認知症サポーター養成講座参加
3. 糸満中学校福祉体験受入
4. 在宅事業所間連絡会（ケアマネ、ヘルパー、訪問看護、通所リハビリ）2ヶ月に1度開催
5. 研修参加
 - リハビリ）①H27年度生活行為向上リハビリテーション
 - 看 護）①地域包括ケアシステム構築に向けた保健師と看護師の連携
②医療体制の変化を踏まえた看護職の役割 ③地域包括視点に基づく看護管理
 - 介 護）①福祉車両安全講習 ②認知症介護・ストレスマネジメント、主任、副主任、師長）①通所事業所の稼働率アップと質の向上

活動内容（委員会）

	委員会	開催回数	活動内容
1	I C L S 委員会	月 1 回	救急救命BLS講習の実施
2	N S T 委員会	月 1 回	NST回診・病棟ラウンドの報告
3	クリニカルパス委員会	月 1 回	クリニカルパスの検討、対象患者の把握、分析、改善策の検討
4	コーディング委員会	年 4 回	適切なコーディングを行う体制の確保
5	コンピュータ委員会	月 1 回	情報システムの適正な管理運営
6	メンタルヘルス対策委員会	月 1 回	職員のメンタルヘルス推進のための対策・実施、メンタルヘルス不調の予防・介入・支援
7	リスクマネジメント委員会	月 1 回	医療事故の原因分析・事故防止策の検討及び提言
8	ワークライフバランス推進委員会	年 6 回	仕事と家庭の両立を図るため、育児・介護・健康を守り働きやすい職場環境の整備
9	安全衛生委員会	月 1 回	職員の健康障害の防止、健康保持増進の対策・実施
10	医師負担軽減対策委員会	年 2 回	医師の日常業務の負担を軽減するための対策及び検討
11	医療安全管理推進委員会	月 1 回	職員に対する安全管理の考え方・具体的方策の周知徹底
12	医療ガス安全管理委員会	年 1 回	医療ガス設備の安全管理
13	院内がん登録委員会	年 2 回	南部病院における院内がん登録の実施と運営に関する協議
14	化学療法委員会	年 2 回	化学療法に関わる規則や運用規定を明確化し、規則に沿った運用を行えるよう、各部署に対する指導・改善・支援
15	環境整備委員会	月 1 回	院内美化活動（毎月第3土曜日）
16	患者サービス接遇改善委員会	月 1 回	患者サービス・接遇向上対策の企画立案・実施
17	感染制御委員会	月 1 回	病院長の諮問に応じて種々の院内感染を予防することを目的とし、その具体案を検討、立案するとともに、その決定により対策を実施
18	緩和ケア委員会	月 1 回	院内はもとより、友愛会としての緩和ケアチームと連携し、緩和ケアに関する業務・活動等の協議
19	給食委員会	年 2 回	給食業務の合理的運営・質的向上
20	教育委員会	月 1 回	全体教育・研修の企画、実施運営、結果評価
21	検査運営委員会	年 3 回	検査室の運営調整
22	広報委員会	月 1 回	院内外における広報活動・講演会の実施
23	省エネ推進委員会	年 2 回	南部病院におけるエネルギー使用の適正化及び省エネを推進
24	褥瘡委員会	月 1 回	褥瘡の発生・治療状況の把握、発生の予防対策
25	診療録管理委員会	月 1 回	診療録の適正な管理運営
26	地域連携パス委員会	月 1 回	急性期病院・維持期病院との診療連携
27	防災委員会	年 2 回	防災管理の適正運営
28	薬事審議委員会	月 1 回	医薬品の評価・選定・購入・配布、使用に関する勧告
29	輸血療法委員会	年 6 回	血液インシデント・事故・副作用等に関する検討・対策
30	臨床指標委員会	年 4 回	臨床指標の策定、結果報告と公表
31	手術運営委員会	年 4 回	手術室の整備、スタッフの確保、教育等の課題の検討

学会発表

内科

- Carip,etabolic risk control in japanese healthy subjects based on ckd sategorry:findngs from the oghma study
井上 卓 (内科)
第79回 日本循環器学会学術集会FRS
(2015.4 大阪)
- 関節リウマチにおけるC反応性蛋白の高値持続と慢性腎臓病発症の関連
幸地 政子 (内科)
第58回 日本腎臓学会学術総会
(2015.6 名古屋)
- I npact of heart rete on drveloping left ventericular hypertrophy
井上 卓 (内科)
2nd consensus confrerence on herrt rare as a cv risk factor in hypertension
(2015.6 イタリア)
- 維持血液透析患者における炎症・糖尿病と心血管病発症の関連
幸地 政子 (内科)
第60回 日本透析医学会学術集会・総会
(2015.6 横浜)
- 当院血液透析患者における感染症心内膜炎の検討
喜久村 祐 (内科)
第60回 日本透析医学会学術集会・総会
(2015.6 横浜)
- 当院における心臓リハビリテーション対象者の特徴と今後の課題
新城 哲治・井上 卓 (内科)
第21回 日本心臓リハビリテーション学会学術集会
(2015.7 福岡)

- 肺超音波検査を用いた体液貯留評価
井上 卓 (内科)
第63回 日本心臓病学会学術集会
(2015.9 福岡)
- 心停止から回復し社会復帰後に記憶障害が顕著に出現した一症例
新城 哲治・井上 卓 (内科)
第1回日本心臓リハビリテーション九州地方会
(2015.10 福岡)
- ライフスタイルの合わせてHDからPD+HD併用療法、その後再発HDに移行した一例
清水 紘平 (内科)
第21回 日本腹膜透析医学会
(2015.11 仙台)
- 高齢心不全患者における左室形態の特徴 : NAMBU HEART
井上 卓 (内科)
第120回 沖縄県医師会医学会総会
(2015.12 沖縄)

外科

- 術前診断が困難であった原発性肝neuroendocrine tumor の一切除術
東 康晴 (外科)
第20回 日本外科病理学会学術集会
(2015.11 和歌山)

放射線科

- VSRADを応用した大うつ病補助診断法における青壮年者データベース作製の試み
仁井田 明 (放射線科)
第12回 日本うつ病学会総会
(2015.7 東京)

麻酔科

- 精神症状と適応障害を来したワクチン後難治性ギランバレー症候群患者に対する包括的アプローチの経験

笹良 剛史（麻酔科）

第111回 日本精神神経学会学術総会

（2015.6 大阪）

- 沖縄県における多職種間のコミュニケーションと倫理に関する研修会による在宅医療人材育成の取り組み

笹良 剛史（麻酔科）

第23回 日本ホスピス・在宅ケア研究会全国大会 in 横浜

日本マインドフルネス学会第二回大会

（2015.8 横浜・東京）

- ホスピス・緩和ケアに従事する支援者のためのマインド振るネストレーニングプログラムの効果の検討

笹良 剛史（麻酔科）

第28回 日本サイコオンコロジー学会総会

（2015.9 広島）

- 地域一般病院における慢性疼痛に対する集団認知行動療法の検討

笹良 剛史（麻酔科）

第45回 日本慢性疼痛学会

（2016.2 佐賀）

看護部

- 退院支援の連携が円滑に図れる

新垣 光子（5階北病棟）

第5742回QCサークル大会

（2015.10 沖縄）

- ABL向上への関わりを意識づける病棟運営の取り組み ～ABL週間の導入と評価～

玉城 浩美（3階南病棟）

回復期リハビリテーション病棟協会

第27回研究大会in沖縄

（2016.3 沖縄）

- 透析室における魅力的な職場環境に向けて～業務改善からの変化～

桃原 倫子（透析室）

第34回人工透析学会

（2016.3 沖縄）

医療技術部

- 生活習慣病センター患者における認知行動療法介入の有効性

小幡 美和（健康運動指導士）

第79回 日本循環器学会学術集会

（2015.4 大阪）

- 南部病院における血液培養検査の汚染率低減について

名嘉 正光（検査科）

第51回沖縄県医学検査学会

（2015.6 沖縄）

- 当院における 心臓リハビリテーション対象者の特徴と今後の課題

中本 聖（リハビリテーション科）

第21回日本心臓リハビリテーション学会学術集会

（2015.7 福岡）

- Comet Score と下大静脈径による体液評価比較

糸数 葵（検査科）

第63回日本心臓病学会学術集会

（2015.9 横浜）

-
- 当院における病棟症例検討会の進化
平田 純（リハビリテーション科）
第3回沖縄県回復期リハビリテーション病棟研究
大会
(2015.9 沖縄)
 - 心停止から回復し社会復帰後に記憶障害が顕著に
出現した一症例
中本 聖（リハビリテーション科）
九州心臓リハビリテーション学会
(2015.10 福岡)
 - 心臓リハビリテーション開始時の6分間歩行距離
を規定する指標の検討
喜納 浩司（リハビリテーション科）
九州心臓リハビリテーション学会
(2015.10 福岡)

健康管理センター

概要

(2016年3月31日現在)

開設者	社会医療法人 友愛会
名称	豊見城中央病院附属 健康管理センター
所在地	〒901-0225 沖縄県豊見城市字豊崎3番49
開設日	平成22年4月1日
理事長	比嘉 國郎
センター長	木下 昭雄
事務長	仲村 茂
敷地面積	7,501.2 m ²
建物面積	4,700.6 m ²
診療科目	内科、乳腺外科、心療内科、婦人科
1日平均受診者	89名
駐車場収容台数	180台（身障者専用4台）

沿革

(2016年3月31日現在)

2010年（平成22年）	豊見城中央病院附属 健康管理センター開設（豊見城市豊崎） 診療科目1科（内科） 診療科目2科（内科、乳腺外科）
2011年（平成23年）	診療科目5科（内科、乳腺外科、心療内科、精神科、婦人科）
2012年（平成24年）	MRI シーメンス MAGNETOM Avanto導入
2013年（平成25年）	視野計 CARL・ZEISS・MEDITEC FDTスクリーナー 導入
2013年（平成25年）	デジタルマンモグラフィ 検診施設画像認定 『ソフトコピー診断A評価』取得
2014年（平成26年）	内臓脂肪測定装置 OMRONコーリン DualscanHDS-2000 導入
2014年（平成26年）	新健診システム（Lanpex）稼働
2016年（平成28年）	人間ドック検診施設機能評価Ver3受審

施設基準

(2016年3月31日現在)

基本診療科	明細書発行体制加算
特掲診療科	CT撮影及びMRI撮影 肝炎インターフェロン治療計画料

学会認定

50音順

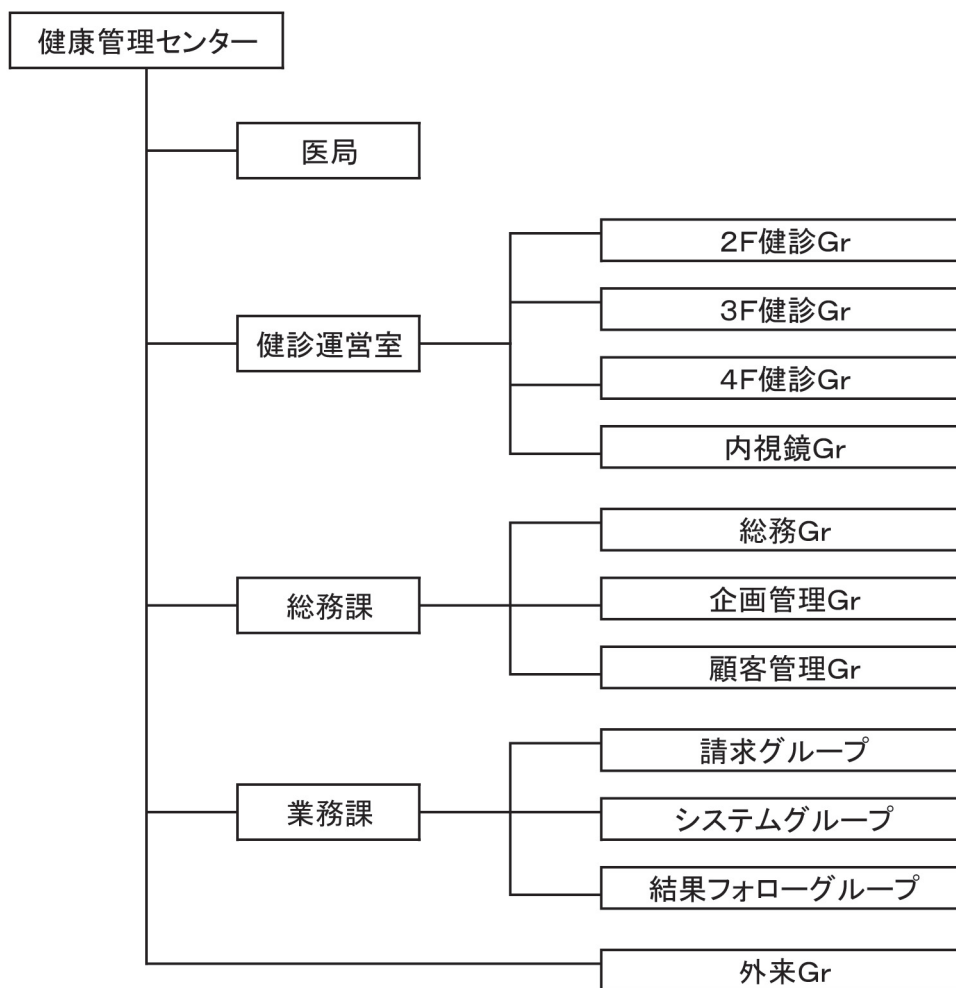
<p>《資格》</p> <p>禁煙学会専門医 血液内科専門医 検診マンモグラフィ読影認定医師 循環器専門医 消化器病専門医 消化器内視鏡専門医 小児科専門医 腎疾患専門医 総合内科専門医 糖尿病研修指導医 日本医師会認定産業医 日本産婦人科学会専門医 日本女性医学学会認定女性ヘルスケア専門医 日本糖尿病学会専門医 日本内科学会認定医 人間ドック健診認定専門医 (日本乳がん検診精度管理中央機構) マンモグラフィ検診施設画像認定</p>	<p>《学会会員》</p> <p>日本胃がん学会会員 日本がん検診学会会員 日本肝胆膵外科学会会員 日本がん治療学会会員 日本外科学会会員 日本循環器学会会員 日本消化器外科学会会員 日本女性心身医学会会員 日本大腸肛門病学会会員 日本超音波医学会会員 日本東洋医学会 日本内科学会会員 日本内視鏡学会会員 日本内視鏡外科学会会員 日本乳がん学会会員 日本人間ドック学会 日本肥満治療学会会員 日本不整脈学会会員 日本臨床外科学会会員</p>
--	---

主要機器一覧

(2016年3月31日現在)

機器名	台数	メーカー名	機種名
磁気共鳴断層撮影装置	1	シーメンス (SIEMENS)	MAGNETOM Avanto 63085
CT装置 (コンピューター断層撮影)	1	シーメンス (SIEMENS)	SOMATOM Emotion 6
FCR画像読取装置 (FCR VELOCITY U)	2	富士フィルムメディカル	FCR-VELOCITY U/CR IR 364 RU
X線装置 (FPD搭載デジタル式TV装置)	2	日立	Medix LBERO
X線装置 (一般撮影用)	2	日立	RADNEXT32
乳房X線撮影装置Pe・ru・ru DIGITAL	1	東芝メディカル	MGU-1000D/S1
ビデオシステムセンター	6	OLYMPUS	CV-260SL
高輝度光源装置	6	OLYMPUS	CLV-260NBI
内視鏡システム (LCDモニター)	6	OLYMPUS	OEV-191
ワークトローリ (架台)	6	OLYMPUS	WM-NP1
内視鏡スコープ (上部消化管・経鼻用ビデオ)	5	OLYMPUS	GIF-XP260NS
内視鏡スコープ (上部消化管ビデオ)	15	OLYMPUS	GIF-PQ260
内視鏡スコープ (上部消化管ビデオ)	4	OLYMPUS	GIF-XP260
内視鏡スコープ (上部消化管ビデオ)	1	OLYMPUS	GIF-XQ240
内視鏡スコープ (上部消化管ビデオ・経鼻可)	1	OLYMPUS	GIF-XP260N
内視鏡スコープ (大腸ビデオ)	3	OLYMPUS	PCF-240 I
内視鏡スコープ (大腸ビデオ)	2	OLYMPUS	PCF-Q260AI
内視鏡スコープ (大腸ビデオ)	1	OLYMPUS	PCF-Q260L
内視鏡洗浄消毒装置	6	OLYMPUS	OER-3
電動リクライニングチェア	27	ニトリ	DBRDJ6088
超音波診断装置 (デジタル式)	7	日立メディコ	EUB-7500
超音波診断装置	1	日立アロカ	ARIETTA70
超音波診断装置 (汎用デジタル)	2	日立アロカ	SSD-PROSOUND 6
超音波骨密度測定装置	1	GEヘルスケア・ジャパン	A-1000 EXPRESS
ABI装置 (血圧脈波検査器)	2	オムロンコーリン	BP-203RPEⅢ
AED ハートスタートHS1	2	フィリップス (PHILIPS)	M5066A
心電計 (解析機能付)	2	日本光電	ECG-1550
心電図モニター (バイタルセンサー G プリンタ付)	2	エ・アンド・デイ	TM-2564GP
パルスオキシメータ	5	タイコヘルスケア	N-65
パルスオキシメータ	3	日本光電	Oxypalmini
電子スパイロメーター	2	チェスト (CHEST)	DISCOM21FX
オージオメーター	1	RION	AA-55
オージオメーター	1	RION	AA-58
眼圧計	2	興和	KT-800
眼底カメラ (無散瞳型)	2	ニデック	AFC-210
コンパクト視力計	2	TOMEY	CA-1000
視力計	2	NIDECK	NV300
身体測定器	1	タニタ	TBF-200
身体測定器	1	タニタ	DC-250
自動血圧計	3	日本光電	MPV-3301
自動血圧計	4	エー・アンド・デイ	TM-2655P
手動血圧計	3	TERUMO	HS5
検診台 (産婦人科用)	2	タカラベルモント	DG-7000
呼気中13CO2分析装置	1	大塚製薬	POCONE
内臓脂肪測定装置 Dualscan	2	オムロンコーリン	HDS-2000
自動視野計	1	カール ツァイス メディテック	ハンフリー FDTスクリーナー

組織図



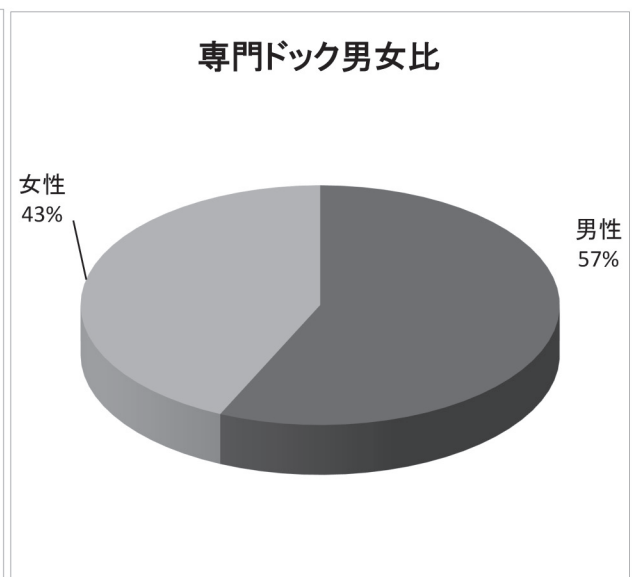
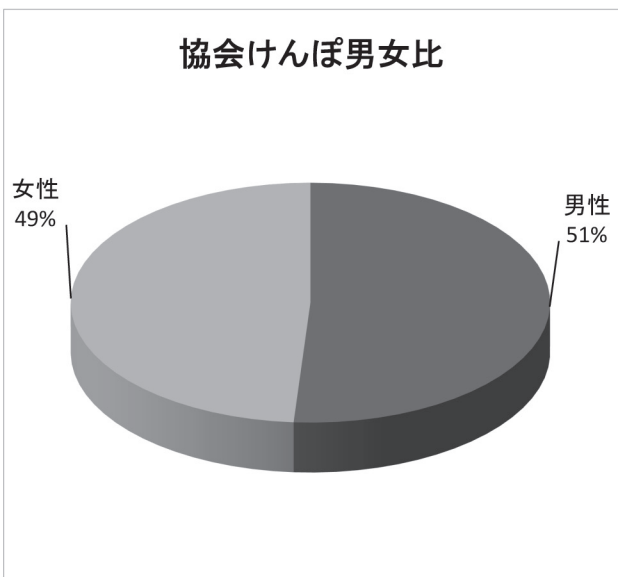
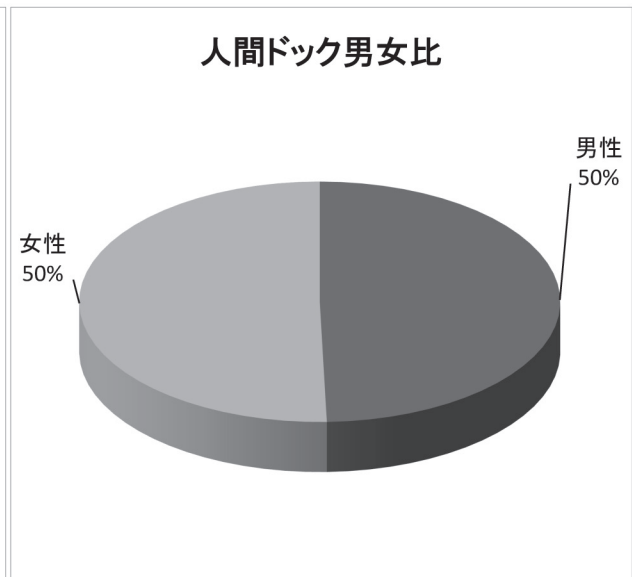
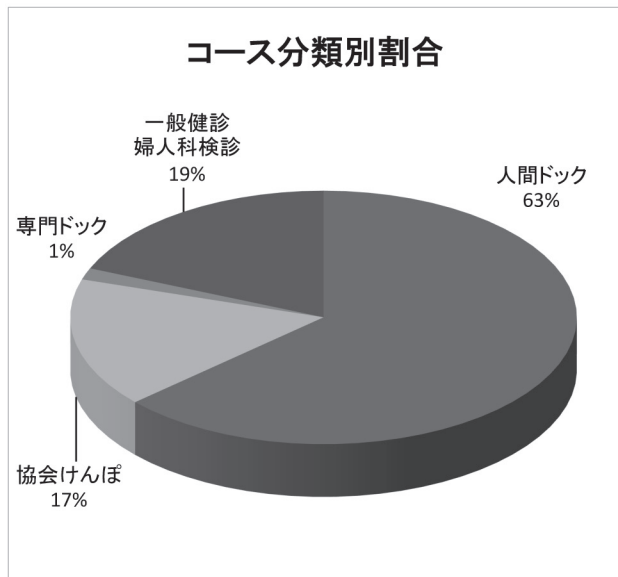
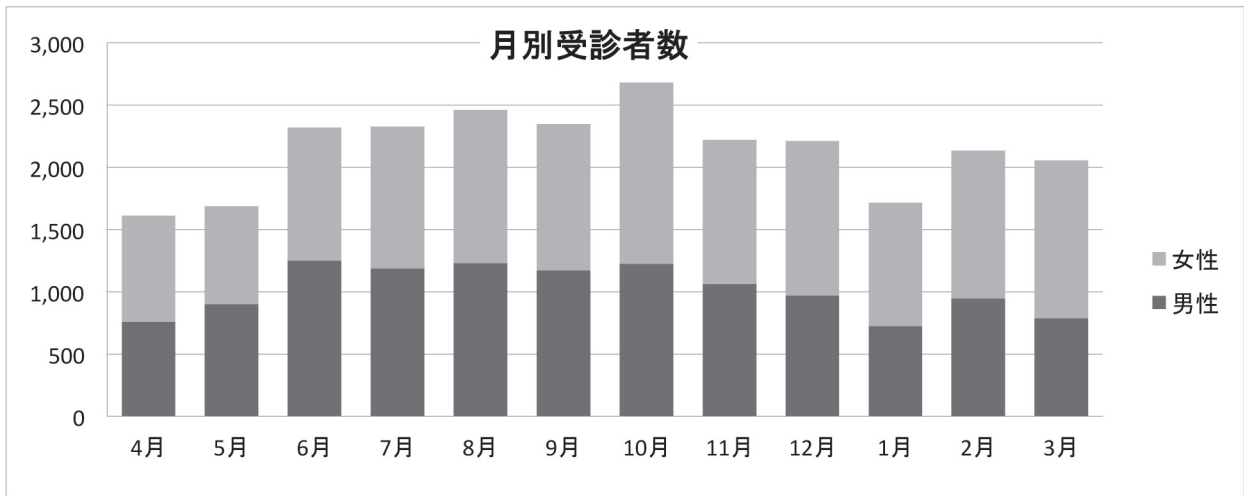
統計

◇コース別受診者数

			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
人間ドック	日帰り	男性	269	510	870	880	895	806	838	748	704	458	578	434	7,990
		女性	158	380	784	819	922	756	872	802	914	631	700	462	8,200
	2日間	男性	4	4	7	5	7	14	8	8	10	5	8	13	93
		女性	1	3	2	1	1	3	1	4	2	7	1	10	36
協会けんぽ	一般	男性	314	213	192	158	156	150	147	142	133	117	165	55	1,942
		女性	516	238	94	107	96	87	139	117	116	109	123	51	1,793
	付加	男性	25	26	27	23	30	12	28	24	13	9	14	2	233
		女性	40	34	23	18	15	20	29	25	14	23	32	14	287
専門ドック	脳	男性	2	3	6	11	11	9	4	6	6	2	4	3	67
		女性	0	5	9	10	17	5	7	7	8	1	0	3	72
	総合がん	男性	10	10	11	13	7	7	12	22	8	22	13	14	149
		女性	6	1	8	3	4	9	11	14	8	13	6	9	92
一般健診/ 婦人科健診	男性	135	135	137	98	122	173	187	112	96	112	164	266	1,737	
	女性	130	126	149	181	178	296	397	189	178	206	327	719	3,076	
合計	男性	759	901	1,250	1,188	1,228	1,171	1,224	1,062	970	725	946	787	12,211	
	女性	851	787	1,069	1,139	1,233	1,176	1,456	1,158	1,240	990	1,189	1,268	13,556	
	男女	1,610	1,688	2,319	2,327	2,461	2,347	2,680	2,220	2,210	1,715	2,135	2,055	25,767	

◇検査件数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
心電図検査	男性	740	884	1,232	1,175	1,210	1,149	1,208	1,040	958	686	913	749	11,944
	女性	816	737	993	1,060	1,152	1,110	1,337	1,070	1,133	849	1,039	1,103	12,399
眼底	男性	321	564	947	945	969	868	906	836	763	505	626	470	8,720
	女性	204	430	831	855	976	807	929	867	963	685	744	508	8,799
眼圧	男性	293	534	881	882	901	816	849	792	729	488	608	464	8,237
	女性	164	389	768	782	906	747	848	823	916	656	709	489	8,197
肺機能検査	男性	303	539	833	835	853	766	846	773	717	487	603	460	8,015
	女性	200	411	788	783	890	744	867	834	927	669	734	493	8,340
腹部エコー	男性	433	584	917	921	937	840	886	801	735	495	613	463	8,625
	女性	525	540	817	840	941	795	912	846	941	674	738	497	9,066
胸部レントゲン	男性	720	863	1,205	1,134	1,166	1,039	1,089	996	936	668	889	732	11,437
	女性	795	724	972	1,044	1,121	918	1,097	1,037	1,124	847	1,022	1,076	11,777
胃透視検査	男性	161	245	357	282	321	310	313	280	247	163	230	124	3,033
	女性	98	128	200	200	266	187	259	206	240	162	195	109	2,250
胃カメラ	男性	425	470	718	729	723	647	685	623	580	426	508	388	6,922
	女性	519	457	650	702	710	635	723	692	757	595	618	418	7,476



◇オプション検査

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
頭 部MRI・MRA	男性	23	35	38	50	56	53	35	47	39	38	46	51	511
	女性	19	24	35	22	34	25	31	34	32	22	31	37	346
大 腸 カ メ ラ	男性	27	33	37	53	62	52	42	51	47	33	47	47	531
	女性	12	15	27	24	19	18	22	24	26	32	25	21	265
胸 部 C T	男性	13	19	21	24	34	27	13	20	14	6	19	19	229
	女性	2	2	7	6	7	12	6	9	6	7	11	7	82
甲 状 腺 エ コ ー (TSH検査込)	男性	19	20	23	32	28	14	26	38	19	35	20	24	298
	女性	48	36	101	73	77	66	73	73	55	51	44	44	741
頸 動 脈 エ コ ー	男性	34	58	70	80	94	83	68	79	62	56	70	75	829
	女性	33	46	68	51	74	50	81	84	74	58	70	63	752
胃 健 康 検 査 ※1	男性	35	37	62	59	58	43	54	57	55	49	58	29	596
	女性	53	63	82	84	68	49	71	77	96	72	75	51	841
甲状腺ホルモン検査 (TSH+FT4)	男性	13	49	83	30	28	13	28	37	21	35	20	24	381
	女性	50	97	228	79	76	66	74	73	63	56	46	47	955
前 立 腺 が ん 検 査 (PSA)	男性	125	164	246	206	207	173	180	191	169	121	145	101	2,028
	女性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
動 脈 硬 化 検 査 (ABI/PWV)	男性	27	51	71	51	57	66	47	56	36	30	41	37	570
	女性	12	37	67	35	38	43	34	45	28	41	41	29	450
視 野 検 査	男性	7	12	10	9	10	8	6	6	11	7	7	7	100
	女性	6	11	19	18	11	9	14	12	13	8	9	5	135
内 臓 脂 肪 量	男性	14	22	24	28	24	34	21	34	25	16	25	27	294
	女性	6	15	35	16	14	20	16	22	19	22	24	21	230
ブドウ糖負荷試験	男性	0	0	0	0	0	2	1	0	1	0	0	0	4
	女性	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	2
SRL外注検査	男女	791	397	228	206	179	152	174	192	198	154	310	645	3,626

※1) ピロリ菌検査・ペプシノゲン検査

◇レディース・オプション検査

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
マンモグラフィ		274	311	406	503	445	437	537	496	477	433	473	350	5,142
乳房エコー		394	325	365	375	444	334	439	398	416	272	339	417	4,518
子宮頸がん検査※2		477	486	727	768	862	703	900	835	872	629	709	648	8,616
H P V 検 査		91	66	100	22	24	10	14	18	24	16	35	98	518
おりもの検査B※3		0	0	1	5	3	3	2	5	4	1	1	5	30
女性ホルモン検査※4		0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	2
超音波骨密度検査		18	36	21	47	49	46	68	72	58	62	69	63	609

※2) 診察・頸部細胞診・経膈エコー

※4) E2・FSH

※3) クラミジア・淋菌検査

◇紹介先別件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
健康管理センタークリニック	0	0	2	0	3	0	2	0	1	0	2	0	10
豊見城中央・南部病院	158	204	249	250	247	204	166	207	171	145	165	132	2,298
その他医療機関	390	561	766	725	696	710	744	625	794	553	766	632	7,962
合 計	548	765	1,017	975	946	914	912	832	966	698	933	764	10,270

紹介医療機関数：336施設

◇保健指導・栄養指導件数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
当 日 保 健 指 導	対 象 者 数	1,069	1,182	1,711	1,728	1,859	1,590	1,746	1,656	1,676	1,184	1,357	966	17,724
	指 導 件 数 (個 別 ・ 集 団)	499	715	1,045	1,084	1,144	1,046	1,087	991	1,053	778	908	625	10,975
	指 導 率	47%	60%	61%	63%	62%	66%	62%	60%	63%	66%	67%	65%	61.9%
特 定 保 健 指 導 初 回 面 接 件 数	22	18	36	22	26	28	18	23	30	16	11	13	263	
電 話 相 談 件 数	17	10	16	16	13	14	12	21	17	12	14	15	177	
来 所 相 談 件 数	1	0	1	1	2	0	0	4	1	2	1	3	16	

◇健康管理センタークリニック

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
患 者 延 べ 数	146	114	128	135	127	141	123	148	135	94	117	82	1,490
初 診 患 者 数	3	2	3	3	4	4	0	1	1	2	0	2	25
一 日 平 均 患 者 数	10	13	13	11	12	13	11	15	15	9	13	9	144

◇免疫療法外来延患者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
樹状細胞ワクチン療法	15	11	11	5	4	2	2	0	0	0	0	0	50
活性化自己リンパ球療法	23	14	14	10	11	15	11	2	2	2	10	4	118
合 計	38	25	25	15	15	17	13	2	2	2	10	4	168

医 局

人員体制

センター長、
医局長：1人
医師（14人体制）、常勤医師：4名、非常勤医師：8名（週1～3コマ勤務）

■概要

本（豊見城中央病院附属）健康管理センターは、平成22年3月に豊見城市豊崎タウンに移転。日本全国でも珍しい男女別フロアの設置が当センターの大きな特色の一つとなっており、特に女性受診者の方々には高い評価を頂いております。美しい海を展望できる素晴らしい環境と高い医療水準で、より多くの方々にご満足頂けるように、そして、それが沖縄県民はもとより、日本各地や海外から訪れる方々の、より一層の健康増進と予防医療につながりますように取り組んで参ります。「心身ともに健康長寿であること」を目標に、皆さまの健康管理のために職員一同が誠心誠意努めてまいります。

■目標

『理念』

友愛の心で、受診者の皆さまの健康づくりと増進、そしてご自身による健康管理を支援するために、全力を尽くします。精度の高い健診。信頼と安心が得られる健診を目指します。

『基本方針』

- ・ゆったりとした気持ちで快適な健診を受けられる環境づくりに努めます。
- ・ご自身による健康管理に対して適切な助言と継続的な支援・評価を行います。
- ・根拠に基づいた健診で健康管理を支援するために全力を尽くします。
- ・かかりつけ医や専門医と連携し病気の早期治療に努めます。
- ・積極的に新しい医療情報・技術を習得し、健診精度の向上に努めます。
- ・受診者の皆さまの権利を尊重し、個人情報の保護に努めます。

■2015年度の取り組み・実績

2014年4月より、新しい健診システム（Lanpex）の運用が開始されました。

また、忙しくて平日に時間が取れない地域クリニックの先生方を対象に、日曜祝祭日に実施する人間ドック「ドクターズDay（2015年11月24日（祝日））を実施し37名の医師やその家族の方が受診しました。

現代の医療も進化してきており、ある程度の病気は治療して治す事ができますが、私達が提供する予防医療で病気の早期発見に繋げ皆さまのお役に立ちたいと考えております。今後もしっかりとした検査、診断、説明、アドバイス、フォローを行い皆さまの健康管理のために職員一同が、誠心誠意込め努めて参ります。

【那覇市医師会報】2015年新春号（第43巻・第一号）

- ・生涯教育コーナー「甲状腺の外来でのみかた」

高良正樹

看護部

人員体制

師長：1名、主任：3名
看護師：17名、保健師：7名、
管理栄養士：2名、健康運動指導士：1名
看護助手：7名
常勤職員：16名、非常勤職員：10名、8時間未満：9名

■概要

〈業務内容〉

1) 健診業務

①問診・採血、②乳がん検診・子宮がん検診介助、③内視鏡業務

2) 保健業務

①個別保健指導、②グループ保健指導、③特定保健指導、④電話相談、⑤来所相談

3) 結果フォロー業務

①健診結果報告書チェック業務、②がん検診等フォロー業務

4) クリニック業務

生活習慣病科・婦人科における検査介助、看護

5) 実習受け入れ（8月）

那覇医師会那覇看護専門学校成人看護実習

■目標

信頼と安心、満足が得られる看護・保健サービスを提供する。

■2015年度の取り組み・実績

1) 内視鏡業務について

- ・事業計画の1つである、内視鏡の件数増加に取り組んだ。
- ・2014年度から健診検査を優先し、クリニックからの検査実施せず。

	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
F G S	10,120	11,545	13,280	12,792
C F	631	628	643	761
クリニック F G S	149	79	0	0
クリニック C F	185	64	0	0

- ・2015年7月6日より咽頭麻酔をビスカスよりスプレー法に切り替える。

（局所に薬剤が直接当たるため高い評価が得られ、苦痛度が低く含む時間も短縮されるため）

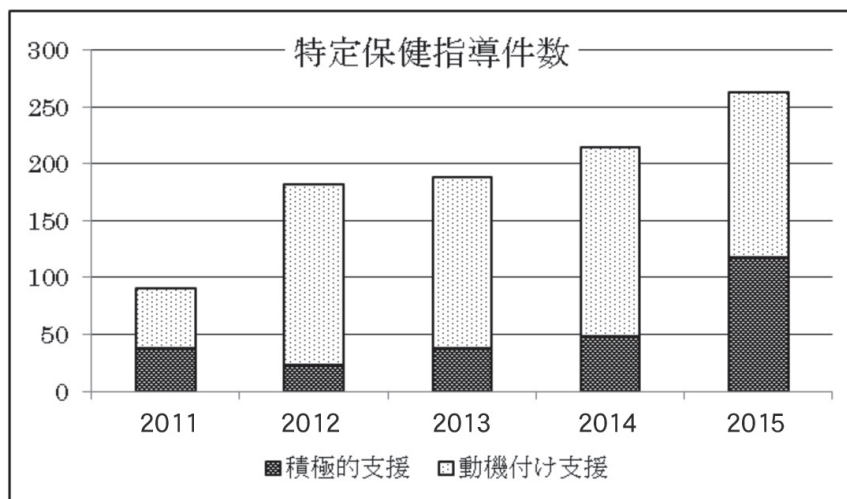
2) 保健業務について

目標

- 1 受診者が自らの生活習慣を振り返り、健康レベルの向上をはかる。
- 2 個々にあった保健指導を実施する（グループ・個別・特定保健指導）。

	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
指導件数	15,378	15,283	13,472	10,975
指導率	91.8%	91.2%	68.3%	61.9%

- ・継続的な保健指導・支援を行うため、保険者や事業所担当者との会議・随時連絡、連携を行なった。
- ・グループ指導内容：
 - 食事編「肥満と栄養不足 ～ダイエットって痩せること？」
 - 運動編「ロコモティブシンドロームとは」をテーマに体重管理の重要性を情報発信。
- ・特定保健指導：健診当日初回面接受け入れ枠拡大。協会けんぽ積極的支援の受け入れ開始。
9月～積極的支援利用者へ3ヶ月中間評価と6ヶ月終了評価時に採血・内臓脂肪測定検査を導入。



3) 活動について

- ・運動指導士：本院心臓リハビリ、ウォーキング大会へ派遣。

生理検査技術科・放射線技術科

人員体制

検査科長代行：1人
放射線科主任：1人
・生理検査技師（6人体制）
常勤職員：5人　　8時間未満：1人
・放射線技師（7人体制）
常勤職員：6人　　応援技師：1人

■概要

検査技術科は常勤技師5名、非常勤1名（男性1名、女性5名）で業務を行っている。主な業務は、心電図検査、眼底検査、眼圧検査、肺機能検査、ABI/PWV検査、超音波検査、閾値聴力検査である。

放射線技術科は常勤6名（男性4名、女性2名）と応援技師1名で業務を行っている。主な業務は胸部一般撮影、胃透視検査、超音波検査、MMG検査、CT検査、MRI検査である。

機器については故障が多かった超音波検査装置1台の更新を行い検査の効率化を図った。

各スタッフは複数（4～5箇所）の検査を掛けもちし、ローテーションで業務を行っている。

当センターは男女別フロアを特色として健診を行っているため、他職種間の連携を活用するなどして検査の効率化を図っている。特に超音波検査については放射線技師と臨床検査技師の協力体制のもと受診者の待ち時間短縮を図っている。

■目標

- 1) 人間ドック機能評価への取り組み
- 2) 業務マニュアル作成への取り組み
- 3) 各委員会活動への取り組み

■2015年度の取り組み・実績

- 1) 人間ドック機能評価受診への取り組み。

機能評価受診へ向けての問題の洗い出し、修正・新規設置等の改善に取り組んだ。

- 2) 業務マニュアル作成への取り組み

放射線技術科、検査技術科ともに各モダリティ毎に担当者を選任し業務マニュアル作成への取り組みを行った。

- 3) 各委員会・クリニック活動への取り組み

・健康管理センター各委員会への取り組み

- ①クリニック全体会議
- ②接遇委員会活動
- ③セーフティーマネジメント委員会活動
- ④救急体制・感染対策委員会活動

各委員会・クリニック会議にコメディカル担当者を配置、担当者を中心に各委員会活動を行った。

・友愛会放射線技術科、各委員会活動への取り組み

友愛会放射線技術科としての委員会活動があり、センター業務へも活動内容を反映させている。（IT委員会、医療安全委員会、機器管理委員会、教育委員会、放射線管理委員会）

事務部

人員体制

事務長：1人、
課長：2人、主任：1人、副主任：2人
事務職（55人体制）、常勤職員：21人、非常勤職員：21人、8時間未満：13人

■概要

友愛会の予防医療の始まりは、豊見城中央病院の外来を利用して一般の患者と一緒に人間ドックの検査を行うことからスタートしました。その後、（平成4年）に増築を行い健診専用のフロアを持つこととなり、健康管理センターの基礎が出来上がりました。それから20年の期間で多くの方にご利用頂き、常に受診者サービスの向上に努めて参りました。平成22年4月には全国でもあまり例のない、男女別検査フロアを取り入れた施設として、豊見城市豊崎に新築移転開業となりました。

■目標

当センターが誕生して6年目を迎え、様々な課題を全職員で解決しながら受診者から選ばれ、安心、満足、感動の得られる施設作りを日々行っています。今年度は、センター新築移転後、初の年度黒字化の実績がありました。センター事務スタッフにとって、当センターで働くことができることに喜びと誇りが持てる職場づくりを目指して行きたいと思えます。

■2015年度の取り組み・実績

- 1) 人間ドック健診施設機能評価受診への取り組みとして、マニュアル作成、環境整備に努めた。
- 2) 石垣・宮古島・久米島へ営業及び広報活動。那覇空港へのお迎えキャンペーン実施。
- 3) 閑散期（4～5月）企業早期受診勧奨及びキャンペーン（生活習慣予防検査）の実施。
- 4) 乳がん検診啓蒙活動としてピンクリボン沖縄イベントへ参加及び無料クーポン券配布。
- 5) 4Fフロアの有効活用として、骨盤ストレッチを1回／月実施。
- 6) ドクターズDayの実施 51名：11/22日（日曜日）。
- 7) 土曜日（半日→1日健診）の実施。
- 8) 2FフロアレディースDayの実施。
- 9) 健診単価見直し。
- 10) 協会けんぽ一般健診食事の見直し（軽食ローソンプラン採用）
- 11) 協会けんぽ健診受入れ期間の延長（例年3月5日→3月29日迄）
- 12) 全職員による事業計画策定会を実施。
- 13) 職員家族知人紹介キャンペーン：480件
- 14) ワークライフバランス・業務改善への取組みとして、年間残業代の削減6,000時間。
- 15) 取組として、リース契約料金12%減額、物品経費節減等。
- 16) 健診実績（前年比）受診人数：107%、収入：107%
- 17) 契約実績として

特定健診集合契約、日母施設検診、健保組合・代行機関契約（全国健康保険協会、他80団体）、地域がん検診事業の契約（豊見城市、那覇市、糸満市、他6市町村）

活動報告（会議及び委員会）

No.	委員会	開催回数	活動内容
1	経営会議	月1回	センター経営に関する最終意思決定
2	安全衛生委員会	月1回	労働者の健康障害および精神的健康の保持増進を図る
3	人事委員会	随時	センター内人事に関する検討
4	センター運営会議	月1回	各会議・委員会活動報告、経営会議への提案
5	月例集会	月1回	全センター職員参加の集会
6	医局会	月1回	医局員の情報共有
7	看護部会	月1回	看護部職員の情報共有
8	コメディカル会	月1回	コメディカル職員の情報共有
9	事務部会	月1回	事務職員の情報共有
10	フロアリーダー会議	月2回	健診業務運営に関する事項検討
11	クリニック全体会議	随時	各外来クリニック運営に関する事項検討
12	接遇委員会	月1回	サービス向上（お客様満足度アップ）、アンケート実施
13	セーフティマネジメント委員会	月1回	事故発生防止策、健診業務に対する質の向上を図る
14	救急体制・感染対策委員会	月1回	救急患者対応策、感染対策に対する情報発信
15	看護部内視鏡会議	月1回	
16	保健業務会議	月1回	

学会発表

医局

第58回日本糖尿病学会年次学術集会（2015.5.21下関）

- ・当健康管理センターにおけるメタボリック症候群の変化
高良正樹

第36回日本肥満学会（2015.10.2名古屋）

- ・デュアルスキャン測定の内臓脂肪面積とアディポネクチンの関係
高良正樹

豊崎クリニック

概要

(2016年3月31日現在)

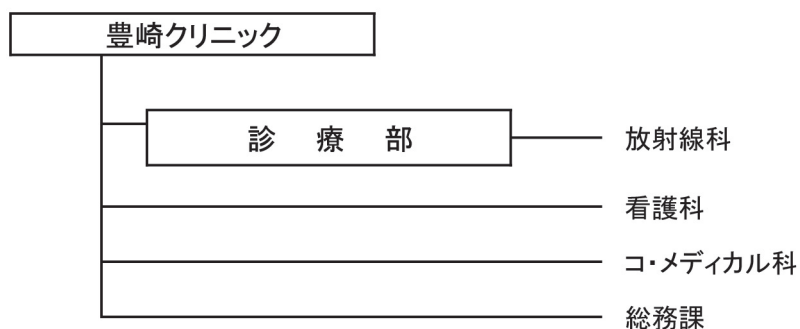
開設者	社会医療法人 友愛会
名称	豊見城中央病院附属 豊崎クリニック
所在地	〒901-0225 沖縄県豊見城市字豊崎1番412
開設日	平成16年4月
理事長	比嘉 國郎
院長	小渡 宏之
事務長	仲村 茂
敷地面積	3,300㎡
建物面積	1491.80㎡
診療科目	放射線科
1日平均受診数	11名
駐車場収容台数	28台
各種指定・認定	保険医療機関の指定 生活保護法の規定に基づく指定医療機関 小児慢性特定疾患治療研究事業にかかる委託病院 特定疾患治療研究事業にかかる委託病院
施設基準 (特掲診療科)	画像診断管理加算1 ポジトロン断層撮影 ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
主要機器	PET-CT (SIEMENS Biograph16 TP) 1台 PET-CT (SIEMENS Biograph Duo) 1台 サイクロトロン (CTI RDS111) 1台 FDG合成装置 (SIEMENS Explorer FDG4) 2台

沿革

(2016年3月31日現在)

2004年 (平成16年)	沖縄県内初のPET検査施設として開院
2005年 (平成17年)	PET-CT (シーメンス社製Biograph Duo) 導入
2007年 (平成19年)	健康管理センターと連携した『総合がんドックコース』の新設
2011年 (平成23年)	外国人旅行者を受け入れたPET検査開始
2011年 (平成23年)	PET-CT (シーメンス社製Biograph16 TP) 2台目導入

組織図



統計

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
診療日数		20	20	22	20	21	19	23	18	21	19	20	21
臨床	件数	171	152	167	160	126	136	190	164	177	178	168	175
	1日平均	8.6	7.6	7.6	8.0	6.0	7.2	8.3	9.1	8.4	9.4	8.4	8.3
健診	ベーシック	20	28	23	17	20	14	51	19	31	26	26	16
	エグゼクティブ	8	6	17	11	5	10	22	30	14	9	10	10
	総合がん	16	12	19	14	10	18	25	32	19	32	21	20
	小計	44	46	59	42	35	42	98	81	64	67	57	46
	1日平均	2.2	2.3	2.7	2.1	1.7	2.2	4.3	4.5	3.0	3.5	2.9	2.2
合計	件数	215	197	230	205	163	179	293	251	247	247	229	222
	1日平均	10.8	9.9	10.5	10.3	7.8	9.4	12.7	13.9	11.8	13.0	11.5	10.6

放射線部門・看護部門・事務部門

人員体制

勝山 直文（総括部長）
専門：放射線診断学（核医学）
資格：放射線科専門医、核医学専門医
PET認定医、第一種放射線取扱主任者
医師：2名、看護師：3名（うち非常勤2名）、
放射線技師：4名、事務職：4名

■概要

豊崎クリニックは沖縄県内初のPET施設として平成16年4月1日に開院した。開院から11年目の現在までに、読影医の増員に伴う遅滞の無い結果報告、PET単体機からPET/CTスキャナーへの撮像機器更新に伴う検査時間の短縮、診療報酬の改訂に伴う保険適応疾患の拡大、PETの有用性が広く臨床家に認知されたこと等が相まって保険診療件数は増加傾向にあった。その後、県内他施設開院の影響を受け、2期連続の前年割れとなっていたが、3期ぶりに対前年度比増を達成できた。

検診者数も減少傾向であったが、訪日外国人（特に中国人）の受診者増が寄与し、対前年度比増となった。那覇空港から車で約10分という立地条件にあり、本島各地からも沖縄自動車道・那覇空港自動車道名嘉地交差点立体部から約10分と交通の便に恵まれた強みを生かし、健康管理センターと連携した「PETがんドック」の推進やリピーターの掘り起こしをより強化していきたい。

（放射線部門）

診療放射線技師は、薬（ ^{18}F -FDG）の製造・PET/CT装置の撮像及び放射物質の管理を行なっている。この薬（ ^{18}F -FDG）は、半減期（放射線の量が半分になる時間）が110分と短いため、当院で製造しなければならぬ。製造に携わるのは、診療放射線技師・薬剤師及びサイクロトロンオペレーターである。検査開始時刻までに製造し、薬（ ^{18}F -FDG）の品質検定をクリアする必要がある。

診療放射線技師は“合成”を薬剤師は“品質検査”を担当し、クリーンで安全な薬（ ^{18}F -FDG）が提供できるように、細心の注意を払いながら製造している。

（看護部門）

豊崎クリニックはPET/CTの検査施設として県内でかなり浸透してきている。がん検診の普及が進み国内外からの受診も増加傾向である。

受診者の皆様に安心して検査を受けていただけるよう専門的な知識を深めるため年2回開催される核医学会や看護セミナーに積極的に参加している。今後もよりよい看護を提供できるように努力していく。

（事務部門）

事務部門は、クリニックの運用全般に関わる庶務を行なっている。常に受診者の視点に立って、接遇・サービスの向上に努めている。他医療機関との協力や部門間の綿密な連携が不可欠になるため、円滑な業務が実施できるよう心掛けている。患者の負担を軽減出来るよう迅速かつ丁寧な対応をスタッフ一同心掛けていきたい。また、検診の新たな取り組みとして会員制の導入の検討など課題は多い。

平成27年度 外国人受診者数32名、県外からの受診者数67名。年に一度公休日に実施しているドクターズDay受診者14名。

■目標

- ・全職種がPET検診に関する更なる知識の向上を図り、質の高いPET検査を実施する。
- ・沖縄県におけるがん検診の普及啓蒙に貢献し、健康促進に寄与する。
- ・受診者ニーズに応えられる質の高い接遇サービスの向上を図る。

■2015年度の取り組み・実績

臨床件数は2,000件、検診者数は678件、総数2,678件であった。

検診では、肝細胞癌等の悪性腫瘍が8件発見された。

介護事業部

概 要

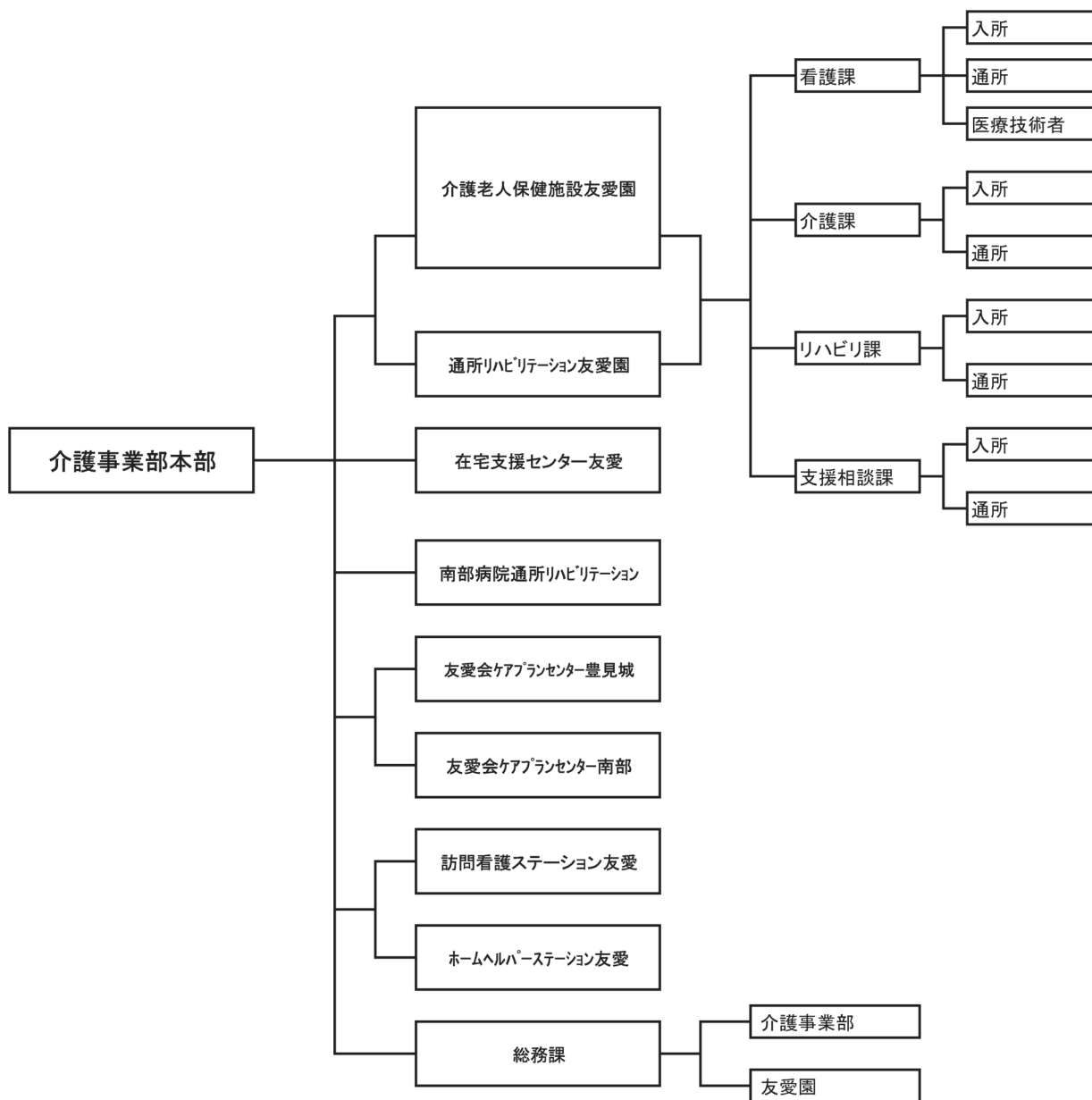
(2016年3月31日現在)

開設者	社会医療法人 友愛会
名称	介護事業部
所在地	〒901-0243 沖縄県豊見城市字上田25番地 〒901-0362 糸満市字真栄里870番地
開設日	介護老人保健施設友愛園（通所リハビリテーション含む）（平成3年2月15日） 在宅支援センター（平成4年7月1日） 友愛会訪問看護ステーション（昭和57年11月1日） ホームヘルプステーション友愛（平成4年4月1日） 友愛会ケアプランセンター南部（平成19年8月1日） 友愛会ケアプランセンター豊見城（平成26年10月1日） 南部病院通所リハビリテーション（平成21年5月1日）
理事長	比嘉 國郎
介護事業本部長	城間 寛
介護事業部副部長	饒波 剛
事務長	長嶺 英政
許可病床数	介護老人保健施設（100名） 通所リハビリテーション（友愛園：50名）
事業所科目	介護老人保健施設・短期入所療養介護・通所リハビリテーション 在宅支援センター・訪問看護・訪問介護 居宅介護支援事業所・病院指定通所リハビリテーション

- 1991年（平成3年） 介護老人保健施設友愛園開設（100名の内、短期入所療養介護5名）
「通所リハビリテーション友愛園」開設（30名）
- 1992年（平成4年） 友愛園 通所リハビリテーションルームの変更（老健内3階→6階へ）
「ホームヘルパーステーション友愛」開設
「在宅介護支援センター友愛」開設（市委託事業）
- 1995年（平成7年） 在宅介護支援センター移転（友愛園2階→病院看護寮跡へ）
入通所リハビリ室の移転（友愛園3階→2階へ）
友愛園通所リハビリテーション 定員変更（30→40名）
- 1996年（平成8年） 入所者基本施設療養（Ⅱ）の申請 「ケアプラン本格的実施」
- 1997年（平成9年） 通所リハビリテーション拡張工事開始（友愛園2階透析病棟の移転に伴う）
- 1998年（平成10年） 友愛園通所リハビリテーションルーム移転（6階→2階）
痴呆性老人加算施設（20名）開設
痴呆性老人通所加算施設（20名）・ナイトケア開設
- 1999年（平成11年） 入所リハビリ訓練室の移転
- 2000年（平成12年） 介護報酬システム管理ソフト「ワイズマン」新規導入
入所者基本施設療養Ⅱ、痴呆性老人加算施設、痴呆性老人通所加算施設
ナイトケアの廃止
豊見城「居宅介護支援事業所 友愛」 開設
介護保険制度の施行
- 2001年（平成13年） 入通所者用ベッド（102台）の取替（手動式→電動式）
- 2002年（平成14年） 友愛園全クーラー設備の取替工事（第1期）
- 2003年（平成15年） 友愛園通所リハビリテーションルーム改修工事
介護報酬改定
入所者口腔ケアの開始（歯科医師による歯科検診開始）
友愛園全クーラー設備の取替工事（第2期）
友愛園通所 個別リハビリテーション加算届出（PT1名OT1名ST1名配置）
パワーリハビリ機器の整備
- 2004年（平成16年） 入所リハビリ体制加算施設の登録（PT1名OT1配置）
友愛園通所リハビリテーション定員変更（40→50名）
入所フロア改修工事（3階～5階の食堂・浴室）
入所フロア定員数の変更（3階16名、4階32名、5階32名、6階20名）
入所利用者の重度への重点化計画開始
- 2005年（平成17年） 沖縄総合給食との食事委託契約の見直し
介護保険制度改定
基本食事サービス加算（入所）、食事加算（通所）の廃止
「食事・居住費」の利用者負担開始
- 2006年（平成18年） 友愛園通所リハルーム浴室、3階入所療養室、6階リハビリ訓練室等の改修工事
介護保険制度改定
- 2007年（平成19年） 友愛園通所にて入浴材料費の個人負担請求を開始
居宅介護支援事業所「南部ケアプランセンター」開設
友愛園 療養通所介護事業開始（定員5名）
生活保護指定
- 2008年（平成20年） 介護保険請求システム「ほのぼの」通所介護を導入
豊見城市委託事業「いきいき健康教室」事業開始
友愛園入通所の介護保険請求システム「ワイズマン」→「ほのぼの」移行
- 2009年（平成21年） 南部病院通所リハビリテーション 開設（定員20名）
介護報酬改定
療養通所介護定員変更（5名→8名）
友愛園組織図改定
介護職員処遇改善交付金の申請・開始

2009年（平成21年）	法人介護サービス事業者業務管理体制の届出 法人各介護保険事業所を統括し、「介護保険事業部門」設立
2010年（平成22年）	南部病院通所リハビリテーション定員変更（20名→30名） ヘルパーステーション 障害福祉サービス事業所指定
2011年（平成23年）	南部病院通所リハビリテーション定員変更（30名→40名） 介護老人保健施設友愛園 開設20周年記念 各事業所の法人名 医療法人友愛会から社会医療法人友愛会へ変更
2012年（平成24年）	介護報酬改定 友愛園2階通所リハビリ訓練室の本院事務局室へ変更による改修工事と6階への移動 ヘルパー・訪問看護・南部ケアプラン 南部病院1階から旧医師住宅アパートへ移転 居宅友愛・南部ケアプラン統合→「友愛会ケアプランセンター」として運営開始 南部病院1階部分改修工事 「介護事業部 総務課」設置 南部病院通所リハビリテーション改修工事 「友愛会 介護事業部」運営開始 南部病院通所リハビリテーション定員変更（40名→60名） 介護事業部事務 介護報酬請求報告書等様式の統一 第23回 全国介護老人保健施設大会 美ら沖縄 開催
2013年（平成25年）	豊見城市委託事業「第6回 いきいき健康教室」を開催 喀痰吸引等研修施設として友愛園が実地研修の委託を開始 友愛園・ヘルパーステーション介護職員が喀痰吸引等研修を受講、特定行為業務従事者資格を取得 友愛園・訪問看護看護師が喀痰吸引等研修 指導看護師資格 取得 ほのぼの新システム導入 友愛園にてR4システム導入 登録ヘルパー就業規則作成・施行及び賃金改定 ケアプラン・訪問サービス 寛マンション（豊見城）にてサテライト運営開始 介護事業部専任の安全運転管理者・安全衛生管理者を配置 介護事業部 広報誌「ゆうあいの駅」発行開始 友愛園秋まつり 開催 南部病院・介護事業部構想委員会にて（株）野村ヘルスケア・サポート&アドバイザーと契約 第20回 沖縄県介護老人保健施設大会 開催 療養通所介護友愛園 事業廃止
2014年（平成26年）	消費税引き上げに伴う契約書等の変更 ヘルパーステーションにて特定事業所加算 算定開始 友愛会ケアプランセンターを豊見城・南部（糸満）に分離 （名称：友愛会ケアプランセンター豊見城・友愛会ケアプランセンター南部） 南部病院移転計画に伴う介護事業構想の推進 ケアプランセンター豊見城にて特定事業所加算Ⅰ 算定開始 訪問看護にて訪問看護機能強化Ⅱ 取得 ヘルパーステーション喀痰吸引等事業者（登録特定行為事業者）登録 友愛園にて「豊見城市高齢者緊急一時保護事業」委託開始 〃 「豊見城市高齢者筋力向上トレーニング事業」委託開始
2015年（平成27年）	第21回 沖縄県老人保健施設大会 介護報酬改定 介護予防・日常生活支援総合事業 開始 ケアプランセンター豊見城にて特定事業所加算Ⅰ 算定開始 友愛園・麻布デンタルクリニック契約締結 訪問歯科診療開始 介護事業部組織図の見直し 友愛園安全衛生委員会 開始 第3回沖老健職員バレーボール大会 優勝 介護事業部組織図の見直し（正式な法人組織図の作成） 南部病院通所リハビリテーション管理運営権を南部病院へ移譲

組織図



統 計

友愛会ケアプランセンター南部

◇地域別利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
介 護	216	222	223	220	224	218	219	219	209	214	207	212
那 覇 市	6	6	6	6	6	5	5	4	3	2	2	2
豊 見 城 市	24	24	23	21	20	19	16	13	11	11	11	10
八 重 瀬 町	15	18	21	19	19	20	20	20	16	17	16	16
糸 満 市	166	169	168	167	172	167	172	177	175	180	173	179
南 城 市	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	4	4
南 風 原 町	2	2	2	3	3	3	2	2	1	1	1	1
そ の 他	0	0	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0
介護予防	9	10	11	10	8	7	5	8	6	6	6	6
那 覇 市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
豊 見 城 市	2	2	2	2	1	1	0	0	0	0	0	0
八 重 瀬 町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
糸 満 市	6	7	8	7	6	5	4	6	4	4	5	5
南 城 市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南 風 原 町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
そ の 他	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2	1	1

◇介護度別実利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要 支 援 1	4	4	5	4	3	2	2	5	3	3	2	2
要 支 援 2	5	6	6	6	5	5	3	3	3	3	4	4
要 介 護 1	65	68	68	68	67	65	63	65	56	57	52	53
要 介 護 2	60	63	66	63	61	57	59	59	65	67	66	68
要 介 護 3	35	37	39	40	43	44	51	51	51	51	48	48
要 介 護 4	37	35	33	32	33	33	29	28	24	26	29	30
要 介 護 5	19	18	17	17	16	18	17	15	13	13	12	13
そ の 他	0	1	0	0	4	1	0	1	0	0	0	0

友愛会訪問看護ステーション

◇地域別利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
介 護	48	44	47	50	47	49	48	47	49	48	49	46
那 覇 市	7	7	7	8	8	9	7	7	7	7	8	6
豊 見 城	11	11	11	11	9	10	9	9	10	10	11	10
八 重 瀬 町	2	2	2	2	2	2	3	3	3	2	2	2
糸 満 市	27	23	26	28	26	26	27	27	26	26	26	25
南 城 市	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	2
南 風 原 町	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1
そ の 他	1	1	1	1	2	2	2	1	1	1	0	0
介護予防	7	8	7	6	5	5	5	5	6	6	5	5
那 覇 市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0
豊 見 城 市	3	3	3	2	1	1	1	1	1	1	1	1
八 重 瀬 町	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
糸 満 市	3	4	3	3	3	3	3	3	4	3	2	3

◇介護度別延べ利用者数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要 支 援 1	人数	3	3	3	3	3	3	3	2	1	1	1	2
	延べ	15	13	13	12	12	15	15	4	2	2	2	5
要 支 援 2	人数	4	5	4	3	2	2	2	3	5	5	4	3
	延べ	19	21	21	15	8	8	9	15	19	21	14	11
要 介 護 1	人数	10	8	8	8	6	6	5	5	5	6	7	6
	延べ	39	49	53	53	22	23	17	16	22	23	30	25
要 介 護 2	人数	5	7	6	6	6	6	7	7	7	7	7	6
	延べ	47	36	28	28	30	34	34	36	44	30	28	30
要 介 護 3	人数	6	5	7	8	8	8	9	7	8	7	7	6
	延べ	20	14	27	35	31	35	35	30	51	25	34	33
要 介 護 4	人数	15	11	10	12	11	13	11	12	12	11	10	11
	延べ	72	57	41	44	50	48	47	52	59	55	51	59
要 介 護 5	人数	12	13	16	16	16	16	16	16	17	17	18	17
	延べ	43	46	62	69	61	58	63	62	64	58	57	50

◇利用者状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
介 護	利用者実人数	48	44	47	50	47	49	48	47	49	48	49	46
	利用者延人数	221	202	211	229	194	198	196	196	230	191	200	197
	一日平均	9.6	9.9	8.8	9.5	8.3	9.4	8.3	9.3	10.5	8.9	9.1	8.2
	平均介護度	3.3	3.3	3.4	3.4	3.5	3.6	3.5	3.6	3.6	3.3	3.3	3.6
介 護 予 防	利用者実人数	7	8	7	6	5	5	5	5	6	6	5	5
	利用者延人数	34	34	34	27	20	23	24	19	21	23	16	16
	一日平均	1.5	1.7	1.4	1.1	0.9	1.1	1.0	0.9	1.0	1.1	0.7	0.7
医 療	利用者実人数	41	42	38	40	30	35	33	33	41	39	37	37
	利用者延人数	276	240	257	309	176	233	265	232	254	229	217	257
	一日平均	12.0	11.7	10.7	12.9	7.5	11.1	11.3	11.0	11.5	10.7	9.9	10.7

ホームヘルプステーション友愛

◇地域別利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
介 護	35	33	32	33	34	38	37	35	39	42	39	36
那 覇 市	3	4	4	3	4	5	4	3	3	5	4	4
豊 見 城	9	8	7	7	7	7	7	7	9	11	11	10
八 重 瀬 町	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
糸 満 市	21	19	19	20	21	24	24	23	25	24	23	21
南 城 市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南 風 原 町	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
そ の 他	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0
介護予防	16	15	17	16	17	16	18	18	19	18	18	19
那 覇 市	3	3	3	3	4	3	2	2	3	3	2	2
豊 見 城 市	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
八 重 瀬 町	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
糸 満 市	9	9	11	10	10	10	13	13	13	12	13	14
そ の 他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

◇介護度別延べ利用者数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要 支 援 1	人数	6	6	8	7	6	5	8	7	6	6	6	6
	延べ	31	35	45	41	29	29	43	40	33	36	33	31
要 支 援 2	人数	11	10	10	10	12	12	11	12	14	12	13	14
	延べ	83	75	84	80	82	83	83	83	102	83	86	103
要 介 護 1	人数	10	12	11	12	15	16	14	11	14	14	13	11
	延べ	167	179	171	194	192	201	183	163	180	180	169	166
要 介 護 2	人数	11	10	10	10	9	11	12	12	11	13	13	12
	延べ	93	97	92	93	74	104	106	120	113	112	128	132
要 介 護 3	人数	3	1	1	1	0	1	1	2	3	4	5	4
	延べ	24	9	8	2	0	13	14	13	27	26	32	34
要 介 護 4	人数	4	3	3	3	3	3	3	3	4	6	4	4
	延べ	44	41	17	18	21	39	42	36	52	113	70	60
要 介 護 5	人数	7	7	7	7	7	7	7	7	7	6	4	5
	延べ	217	205	175	206	185	197	193	195	192	143	85	67

◇利用者状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
介 護	利用者実人数	36	33	33	33	34	38	37	35	39	42	39	36
	利用者延人数	546	418	463	513	472	554	538	527	564	574	484	459
	一日平均	18.2	13.5	15.4	16.5	15.7	18.5	17.4	17.6	18.2	18.5	16.7	14.8
	平均介護度	2.6	2.5	2.5	2.5	2.4	2.3	2.4	2.3	2.6	2.4	2.6	2.5
介 護 予 防	利用者実人数	17	16	18	17	18	17	19	19	20	19	19	20
	利用者延人数	114	110	129	121	111	112	126	123	135	119	119	134
	一日平均	3.8	3.5	4.3	3.9	3.7	3.7	4.1	4.1	4.4	3.8	4.1	4.3
障 害 者 自 立 支 援 法	利用者実人数	5	6	6	6	4	5	5	5	5	6	7	8
	利用者延人数	65	84	133	112	85	89	94	75	99	83	101	114
	一日平均	2.2	2.7	4.4	3.6	2.8	3.0	3.0	2.5	3.2	2.7	3.5	3.7
軽 度 支 援	利用者実人数	18	19	17	20	23	22	23	23	23	20	21	21
	利用者延人数	84	92	79	94	98	108	117	105	101	87	95	105
	一日平均	2.8	3.0	2.6	3.0	3.3	3.6	3.8	3.5	3.3	2.8	3.3	3.4

南部病院通所リハビリテーション

◇地域別利用者数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
介	護	87	82	93	85	85	84	85	85	86	79	79	80
	那 覇 市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	八 重 瀬 町	5	6	6	6	6	6	6	5	6	5	6	6
	糸 満 市	82	76	87	79	79	78	79	80	80	74	73	74
	南 城 市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	そ の 他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
介	護 予 防	22	21	23	23	23	22	23	20	20	17	15	15
	八 重 瀬 町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	糸 満 市	22	21	23	23	23	22	23	20	20	17	15	15

◇介護度別実利用者数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要 支 援 1	人数	11	11	13	13	12	11	11	11	11	8	8	7
	延べ	90	80	94	101	79	84	83	84	87	60	51	60
要 支 援 2	人数	11	10	10	10	11	11	12	9	9	9	7	8
	延べ	75	66	68	70	69	87	83	58	65	55	48	65
要 介 護 1	人数	30	28	28	30	26	24	24	23	24	23	22	24
	延べ	317	286	312	307	270	273	266	242	252	217	227	257
要 介 護 2	人数	28	27	30	25	27	26	26	27	27	24	23	21
	延べ	295	280	307	249	244	281	287	253	259	222	195	220
要 介 護 3	人数	14	17	18	19	19	19	21	21	20	21	21	19
	延べ	153	170	213	207	228	258	278	258	252	237	232	268
要 介 護 4	人数	9	7	6	6	8	9	9	9	9	6	7	8
	延べ	75	58	60	54	66	99	93	97	90	63	81	84
要 介 護 5	人数	6	5	5	5	5	6	5	5	6	5	6	7
	延べ	85	51	58	68	64	72	59	61	66	65	80	88

◇利用者状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
介 護	利用者実人数	87	84	87	85	85	84	85	85	86	79	79	79
	利用者延人数	925	845	950	885	872	983	983	911	919	804	815	917
	一 日 平 均	35.6	34.5	36.5	36.1	34.9	37.8	37.8	36.4	36.8	33.5	32.6	34.0
介 護 予 防	利用者実人数	22	21	23	23	23	22	23	20	20	17	15	15
	利用者延人数	165	146	162	171	148	171	166	142	152	115	99	125
	一 日 平 均	6.3	6.0	6.2	7.0	5.9	6.6	6.4	5.7	6.1	4.8	4.0	4.6
新 規 利 用 者		1	1	5	2	2	1	1	0	0	0	0	1
終 了	死 亡	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	そ の 他	2	2	1	3	3	0	2	1	4	1	2	3

友愛園

◇入所者介護度別利用者数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要 介 護 1	人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延べ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要 介 護 2	人数	9	8	8	9	7	7	7	7	6	7	9	8
	延べ	269	248	240	278	212	210	180	187	156	212	254	248
要 介 護 3	人数	15	17	16	16	16	16	17	17	18	18	17	18
	延べ	397	466	480	492	445	474	499	436	452	510	447	528
要 介 護 4	人数	50	49	50	50	47	46	45	44	44	48	49	47
	延べ	1,412	1,440	1,383	1,440	1,397	1,253	1,293	1,273	1,288	1,435	1,341	1,436
要 介 護 5	人数	25	27	26	26	25	25	30	29	27	27	26	25
	延べ	719	737	758	731	743	689	765	765	773	753	707	761

◇通所リハビリ介護度別実利用者数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要 支 援 1	人数	8	8	6	7	4	5	4	1	2	2	0	1
	延べ	60	32	24	27	14	18	17	5	8	3	0	3
要 支 援 2	人数	19	19	20	21	20	18	18	17	17	18	16	16
	延べ	194	128	166	160	131	130	138	128	127	131	120	119
要 介 護 1	人数	17	15	15	16	12	14	11	14	9	9	10	8
	延べ	190	130	139	113	123	121	105	81	73	79	75	67
要 介 護 2	人数	16	13	16	22	17	23	23	34	26	27	24	25
	延べ	145	125	155	158	163	201	228	230	247	234	241	277
要 介 護 3	人数	18	18	18	30	19	21	19	25	20	20	20	18
	延べ	213	205	213	203	205	205	235	221	209	213	183	217
要 介 護 4	人数	9	9	9	13	12	12	12	15	14	14	15	15
	延べ	93	90	100	93	112	132	138	140	145	135	172	191
要 介 護 5	人数	12	11	12	16	11	12	10	11	11	11	14	10
	延べ	151	132	153	143	144	146	135	124	126	129	147	146

◇短期入所者利用者数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要 介 護 1	人数	0	1	0	0	0	2	0	1	0	0	1	2
	延べ	0	6	0	0	0	9	0	9	0	0	1	6
要 介 護 2	人数	0	2	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0
	延べ	0	9	0	0	0	0	12	2	0	0	0	0
要 介 護 3	人数	1	1	1	1	2	1	2	2	1	2	1	1
	延べ	4	3	4	2	7	5	12	4	7	6	1	3
要 介 護 4	人数	1	2	1	2	2	2	3	2	3	3	3	2
	延べ	3	5	3	6	9	9	8	6	10	11	3	6
要 介 護 5	人数	3	4	5	2	3	3	3	4	3	2	2	2
	延べ	7	8	15	7	7	7	9	17	10	5	2	5

友愛会ケアプランセンター豊見城

◇地域別利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
介 護	149	147	149	145	147	145	138	139	145	142	141	140
那 覇 市	54	53	57	52	54	56	51	54	54	53	51	53
豊 見 城 市	46	46	46	48	50	46	46	48	55	53	54	51
八 重 瀬 町	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
糸 満 市	43	41	41	39	37	37	36	31	31	30	30	30
南 城 市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南 風 原 町	1	1	0	0	0	0	0	1	1	2	2	2
そ の 他	2	3	3	4	4	4	3	3	2	2	2	2
介護予防	3	2	3	6	5	4	5	5	5	5	6	6
那 覇 市	1	0	0	3	3	3	3	3	3	3	3	3
豊 見 城 市	1	1	2	2	1	0	1	1	1	1	2	2
八 重 瀬 町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
糸 満 市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
南 城 市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南 風 原 町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
そ の 他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

◇介護度別実利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要 支 援 1	1	1	1	2	1	1	1	1	1	2	2	2
要 支 援 2	2	1	2	4	4	3	4	4	4	3	4	4
要 介 護 1	37	34	35	28	23	25	23	23	27	25	24	23
要 介 護 2	38	41	40	40	39	37	36	38	35	33	35	38
要 介 護 3	28	26	26	32	37	37	33	33	35	35	34	32
要 介 護 4	23	21	22	22	23	25	26	26	27	30	30	29
要 介 護 5	21	22	24	23	21	21	20	18	19	19	18	18
そ の 他	2	3	2	0	4	0	0	1	2	0	0	0

友愛園介護課 入所

人員体制

医師：1名（施設長兼務） 看護職員：13名（看護師：8名、准看護師：5名）
介護職員：41名（介護福祉士31名 介護員13名・パート3名含む）
リハビリ職員：4名（理学療法士2名、作業療法士2名）
管理栄養士：1名 相談職員：3名（介護支援専門員3名）

■概要

病状が安定期にある要介護者に対し、施設サービス計画書（ケアプラン）に基づいて看護、医学的管理下における介護、機能訓練、その他、必要な医療、日常生活上の世話を職種毎に計画書を作成し、協働でケアを実施する施設として都道府県知事の許可を受けており、友愛園は豊見城中央病院併設という事もあり、医療依存の高い経管者（胃瘻造設者・経鼻栄養者）又、看取りケアも行っている

■目標

- 入所者数（平均98名）の維持を図るため利用者の体調維持に努める
- 新規利用者の獲得を法人（豊見城・南部・在宅）、他事業所と連携しながら増やす
- 施設内研修の充実と参加人数の増加を図る。又、介護事業部介護課の新人研修施設としての充実を図る
- リフト認定制の構築にあたって全職員のリフト認定合格を目指す
- R4システムを活用し、ケアプラン計画書の作成を勧める

■2015年度の取り組み・実績

- 法人内の医療相談室・地域連携室・ケアプランセンターと情報共有を行い、友愛園の入所者数のアップを図る
 - ・新規入所者数： 豊見城中央病院紹介：9人
南部病院紹介：20人
- 沖縄県介護老人保健施設大会にて協議会会長賞 受賞
「壁画の果たした役割 ～2本の木が教えてくれたこと～（リハビリ課 矢野俊恵）」
- 施設内研修
 - ・口腔機能維持勉強会（毎月1回）
 - ・認知症専門ケア勉強会（年5回）
 - ・消防訓練説明会（年2回）
 - ・身体拘束・虐待防止勉強会（年2回）
 - ・感染予防（食中毒対策含む）（年3回）
 - ・介護保険（加算・処遇改善加算）（年2回）
 - ・施設外研修報告会（実習指導者講習会・認知症リーダー研修・アセッサー段位制度）
 - ・介護職新人研修座学
（人権擁護・介護展開・ICF・施設における医療行為・介護保険・事故防止・認知症）
 - ・倫理及び法令遵守について（年1回）
 - ・看取りケア勉強会（年1回）
 - ・リスクマネジメント（KYT）（年2回）
 - ・救急対応法（BLS）（年1回）
 - ・褥瘡ケア勉強会（年2回）
 - ・ビジネス講座（マナー・文書）
- 実習受け入れ（H27年度）
 - リハビリ実習2名 看護実習24名 介護実習12名
 - 職場体験（小学生4名 中学生19名 高校生7名）

友愛園介護課 通所

人員体制

看護職員：2名（准看護師2）
介護職員：12名（介護福祉士11・介護員1（非常勤））
リハビリ職員：4名（理学療法士3、作業療法1）※言語聴覚士協力
支援相談員：1名

具体的目標

- ・新規利用者の確保
- ・他事業者との連携強化
- ・提供サービスの充実
- ・アクティビティ活動の内容充実
- ・職員の知識
- ・技術向上

新規利用者数 31人／年 3人／月

平均利用者数 946人／月

内：介護31人／日 予防6人／日

■概要

医療、福祉、保健の展開で要介護状態と認定された利用者に対して看護、医学的管理のもとでの介護や機能訓練、その他必要な医療並びに日常生活上のお世話を行うことにより、その利用者が可能な限り居宅において、その有する能力に応じた自立した日常生活を営むことができるように介護、看護、リハビリの専門性を生かし共通認識チームケアのもとで、利用者に関わり、心身の機能維持・回復を図る。

■目標

- ・友愛園理念及び経営方針の周知徹底
- ・行動指針「日常生活の活性化を図り、心身の機能維持ケア」を確立
- ・要介護：「生きがい」 生きがいを高めるためのケアを確立
- ・要支援：「自立」 利用者の社会と共存できるように支援する

■2015年度の取り組み・実績

4月職員勉強会、職員目標管理 5月利用者誕生会 6月豊見城市委託事業開始（筋力向上トレーニング教室）、鏡原中学校職場体験学習 7月生活行為向上リハビリテーション研修会 8月利用者 夏まつり
9月利用者 敬老会 11月職員勉強会（床走行式リフト操作の座学）、利用者 園外活動（お食事会）
12月利用者 紅白歌合戦

2016年

1月 床走行式リフト操作の演習開始、いきいき健康教室 開講式（介護保険・筋力向上トレーニング）（福祉レク・ウォーキング） 2月 いきいき健康教室（料理・超高齢者社会の到来・口腔機能）（認知症をしよう） 3月 いきいき健康教室 閉講式（全8回）、職員勉強会

在宅介護支援センター

人員体制

センター長：1名（兼務）
医療職（ケアマネジャー）：1名（兼務）
福祉職（社会福祉士）：1名（専従）

■概要

豊見城市からの委託事業（市内2カ所の在宅介護支援センター（市内2法人へ委託））。

市内在住の概ね65歳以上の高齢者や要援護、又はその家族などに対し、①総合相談事業（24時間体制）
②実態把握調査③地域ネットワーク機能の構築④専門性を有したサービス調整を実施する。高齢者の生活を支える地域ケア体制の中心として中立、公正かつ公平に在宅保健福祉サービスに関わる。

在宅介護に関する相談（介護保険、その他福祉制度の説明・案内）

在宅福祉や福祉関係の啓発活動（各種講演会案内等）

医療・保健・福祉等関係機関の紹介、連携

公的サービス利用の相談・調査（市福祉サービス）

■目標

- ・地域包括支援センターと共に地域に根差した地域包括ケアの推進。
- ・独居高齢者や要援護高齢者のきめ細かい把握、積極的介入（民生員不在地区の見守り台帳更新等）。
- ・行政や社会福祉協議会、民生員その他関係機関との連携強化（ネットワーク構築）。
- ・多重問題を抱えた高齢者への対応の充実（総合相談支援）。

■2015年度の取り組み・実績

5月：市民生員児童委員総会 6月：新総合事業勉強会 県地域包括・在介協総会及び研修会（在宅医療・介護連携のあり方について考える） 9月：市敬老会 市社会福祉協議会実習生受け入れ 11月：市オレンジカフェ

1月：市福祉関係者の集い 市いきいき健康教室（介護保険制度について） 2月：市民生員児童委員研修会・市認知症講演会 3月：県地域包括・在介協総会及び研修会（地域ケア会議の役割と効果的な運営について）

毎月：市地域包括・在介センターケア部会

1／3M：市地域ケア会議

奇数月：市ケアマネジャー連絡会

沖縄県地域包括支援センター・在宅介護支援センター協議会調査研修委員会（研修委員）5回

沖縄県介護実習・普及センター運営委員会（運営委員）1回

市協議体説明会4回

市民生員不在地区見守り台帳作成訪問（字翁長）

ホームヘルパーステーション 友愛

人員体制

介護福祉士 8名（管理者含む）
介護職員実務者研修 3名
ホームヘルパー2級 7名

■概要

- 介護保険法、障害者総合支援法に基づき、介護、支援を必要とする方が尊厳を維持し、その有する能力に応じ、自立した日常生活、及び社会生活を営むことができるよう支援を行なう。
- ・身体介護・・・（入浴介助、排泄介助、食事介助、治療食調理、送り出し等）
- ・生活援助・・・（調理、掃除、洗濯、買い物等）
- ・予防訪問介護・・・（入浴介助、本人と共に行う家事等）
- 介護保険外のサービス・糸満市軽度生活援助・たまんグループホーム入浴介助
- ・自費サービス

■目標

- 介護保険法、障害者総合支援法改定により予測される減収への対策
- ・月平均850件の利用回数（延べ人数）を目標に経営の安定化を図る
- ・業務の効率化

■2015年度の取り組み・実績

- ・介護福祉士実習生受け入れ（沖縄福祉保育専門学校より4名）
- ・事業所内勉強会
- ・介護保険法、障害者総合支援法改定に伴う収入減を、介護保険外の事業で新たな利用者の獲得により補うことができた。

友愛会ケアプランセンター南部・豊見城

人員体制

- 【南 部】 ケアマネジャー7名（うち管理者1名） 事務員1名
主任ケアマネジャー3名 ケアマネジャー4名
- 【豊見城】 ケアマネジャー5名（うち管理者1名）
主任ケアマネジャー2名 ケアマネジャー3名

■概要

ケアプランセンター南部は南部病院を拠点に、糸満市・八重瀬町を中心に、ケアプランセンター豊見城は豊見城中央病院を拠点に、豊見城市・那覇市小緑・金城圏域を中心に、介護保険法に基づき居宅介護支援を提供している。

両院の入退院を支援・調整する地域連携・医療相談室とも連携を強化し、迅速で適切な援助体制を整えている。

医療重症度の高い利用者や、老衰・癌末期で終末まで自宅で過ごされたい利用者の在宅療養についても、基本方針に基づき、積極的に支援を展開している。

■目標

【基本方針】

医療・介護の連携を強化し、住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう支援する。

【行動指針】

1. 適正業務の遂行
2. 経営・運営の安定化
3. 地域包括ケアの推進
4. 医療・介護の連携強化

■2015年度の取り組み・実績

【行動指針】に基づき、法令・通知の解釈に沿ったケアマネジメントが行われているか、保険請求を行う全件に関し、月毎に適正検査を行った。また、ケアマネジメントに関する知識・技術の習得に取り組み、外部研修への派遣や職能団体への加入により資質向上を図った。

平成27年4月の介護報酬改定に伴い、ケアプランセンター南部では特定事業所加算Ⅱを算定できる体制を整備し、ケアプランセンター豊見城では特定事業所加算Ⅰを算定できる体制を整備することで、経営・運営の安定化を図った。

前年度に引き続き、糸満市が主催する地域包括ケア会議にはケアプランセンター南部から、豊見城市が主催する同会議にはケアプランセンター豊見城からそれぞれケアマネジャーを派遣し、地域包括ケアに関連する政策形成に参画している。

医療・介護の連携強化については、豊見城中央病院・南部病院で開催される多職種連携に関連する会議への参加や、関連する部署との勉強会を共催し、実践に活かせる取り組みを行った。

■その他

豊見城市委託在宅介護支援センター友愛の業務を一部兼務し、行政が整備する高齢者施策に基づいた援助を行った。

糸満市等の要介護認定調査の一部を受託し、要介護認定の仕組みについて把握することができた。

訪問看護ステーション

人員体制

常勤 8名 非常勤 2名 常勤換算9.5名 事務1名

■概要

2025年地域包括ケアシステム構築に向け、糸満市、豊見城市の在宅看護を担い活動しています。

予防から介護・小児から高齢者と、幅広い分野の看護を提供しています。新規利用者の半数は、がん患者です。長年経営の安定化の為、頭を悩ませています。診療報酬、介護報酬改定を積極的に活かし、取れる加算はすべてとっています。人的体制は、補充後に退職と悪循環の状況は長年続いています。

■目標

ビジョン：地域包括ケアシステムの構築

戦略：人材育成に努め、訪問看護を質的にも量的にも強化する

財務：経営の安定化

①月600万収入②毎日の訪問件数30/日③医療保険6対介護保険4割合④糸満市市場獲得10%

業務改善：他職種連携・業務効率化

①豊見城でのサテライト化②人員体制・管理体制の具体化③定期カンファレンス

顧客管理：利用者満足度アップ・地域・住民からの相談窓口

①専門的ケアの提供②満足度調査③リスク管理

人材育成：経営・運営への職員参画・ワークライフバランス・地域視点で考えられる看護師育成

①母体病院との人事交流②県内・県外研修②知識・技術の向上

■2015年度の取り組み・実績

- ・経営的には、前年度と比較し600万程収入が増えています。収入増加の要因として①医療保険収入の増加・複数回訪問・小児長時間訪問が挙げられます。前年度新規利用者107名・今年度111名となっています。半数は、がん患者の新規利用者です。在宅看取りは28名。
- ・業務効率化目的で、豊見城中央病院にサテライト（立ち寄り場所）を置きました。将来的には、サテライト設置を考えましたが、人的体制不足のため実現していません。
- ・毎週火曜日に「気になる利用者のカンファレンス」を行い、情報共有・看護の統一化を行っています。幹部育成として、看護協会認定看護管理者ファーストレベルに一人派遣しました。又、病院との人事交流で豊見城・南部病院への連携室への実習を行いました。在宅での視点だけではなく、病院のシステムを学び病院の視点で在宅を視る取り組みは今後も続行していきたいと考えています。
- ・ワークライフバランスへの取り組みでは、夜間看取りでの緊急時訪問時、翌日の早上がりの勤務や、病院のNO残業dayの取り組みへの参加行動を行っています。

介護事業部総務課

人員体制

介護事業部総務課
主任1名 レセ担当4名 経理1名
友愛園総務課
事務長1名 レセ担当2名 経理1名 企画管理1名

■概要 業務内容

○運営・企画管理 ○職員管理 ○車両管理 ○安全運転管理 ○各種申請管理 ○統計管理
○請求管理 ○勤怠管理 ○起案管理 ○契約管理 ○電話交換 ○窓口業務 ○安全衛生管理
○経理 ○未収金管理 ○レセ請求（入所・短期入所・通所リハ・訪問看護・ヘルパー・ケアプラン・居宅療養管理指導・訪問リハ） ○行事運営 ○各部署業務改善 ○会議運営 ○法令遵守整備

■目標

【介護事業部総務課】

- ・業務集約化
- ・連携強化
- ・事業展開、拡大
- ・法令遵守整備

【友愛園総務課】

- ・現場業務が円滑に進められるように取り組み
- ・南部介護事業部総務課との連携

■2015年度の取り組み・実績

【介護事業部総務課】

○職員・勤怠管理

訪問看護11名 ヘルパー20名 ケアプラン12名 総務課6名 合計49名

○車両管理

訪問看護8台 ヘルパー5台 ケアプラン8台 総務課1台 合計22台

○レセプト件数（年間）

訪問看護1,137件 ヘルパー970件 ケアプラン4,488件

南部通所1,252件 訪問リハ109件 居宅療養管理指導290件 合計8,246件

○その他

南部病院QC発表「勤怠管理におけるチェック方法の見直し」

【友愛園総務課】

○車両管理 通所リハ8台

○レセプト件数（年間）

入所1,182件 短期入所90件 通所リハビリ1,050件 合計2,322件

○訪問歯科診療 利用実績管理

平成27年6月（新規開始）～平成28年3月：677件（うち口腔衛生管理加算算定者数：632件）

○平成27年4月報酬改定に伴う必要書類（料金表、契約書、約款、重要事項説明書等）の変更及び利用者への案内文書作成・送付

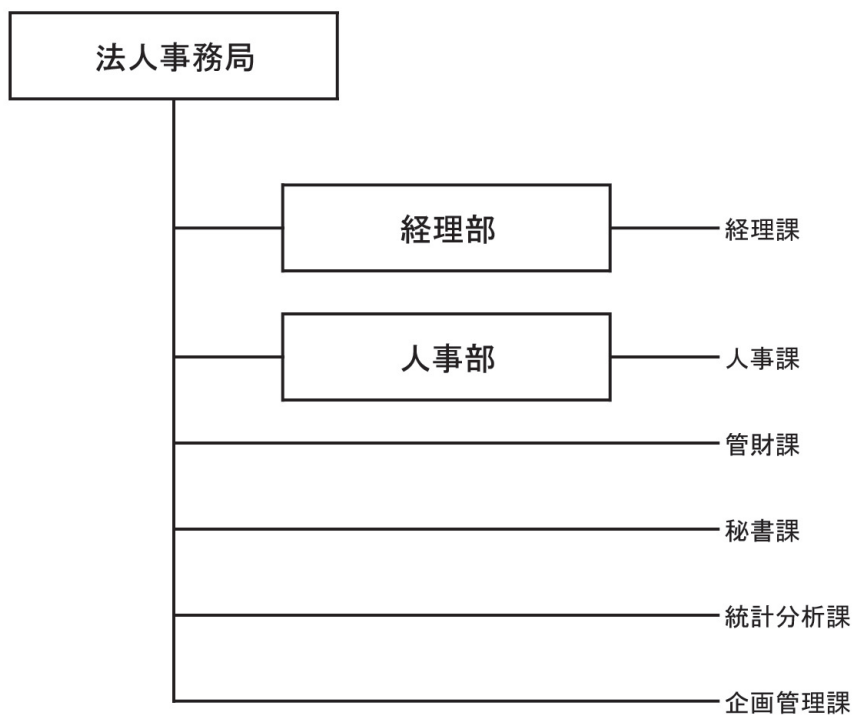
○友愛園安全衛生委員会運営開始（職員健診結果チェック、労基署への報告、職員向け勉強会の実施 他）

○豊見城市「いきいき健康教室」委託 ○豊見城市「高齢者筋力向上トレーニング事業」委託

○第21回沖縄県老人保健施設大会 ○友愛園研究発表会

法人事務局

組織図



経理課

人員体制

課長 1名
主任 1名
課員 4名

■概要

<日次業務>

・経費・仮払金 精算などの現金出納業務 ・預金の入出金、残高管理 ・各取引の記帳、伝票管理

<月次業務>

・取引先への支払業務（買掛金・未払金計上、残高管理）
・給与預かり源泉税納付業務（所得税、住民税、社会保険料）
・出張費計上、精算業務 ・医業収入計上（未収入金、残高管理）
・資金管理 ・月次決算業務

<年次業務>

・法定調書作成、申告 ・税務申告、納税（固定資産税・法人税・消費税）
・資金調達（賞与・設備投資・運転資金） ・年次決算

経理の主な業務は上記内容となっており、すべての業務に税務知識が関わってくる為、課員全員が税務セミナーに参加し税務知識習得に努めている。今後は人材育成の面、内部統制の面からスタンダード会計に基づく業務フローの構築が最大の目標となっている。

■目標

- ・月次決算、年次決算の早期化
- ・病院会計準則に沿ったリース会計採用
- ・現金出納業務の見直し（キャッシュレス化）
- ・ルーティンワークの効率化
- ・資金繰りの精度向上
- ・内部統制、人材育成を見据えた業務フロー構築

■2015年度の取り組み・実績

平成27事業年度より税抜会計を採用。従来の一括比例配分方式からすべての取引について消費税の用途区分を確認し、計上する「個別対応方式」を採用することにより約800万円／（年）の節税効果に繋がった。税抜会計を採用するにあたり消費税セミナーの参加や課内メンバーでの勉強会を行うなど、課員全員が消費税及び個別対応方式に関する知識習得に努め、関係部署や各施設との調整や運用方法を確定することでスムーズな取り組みができた。

また、支払手形を廃止する事により収入印紙代約25万円／（年）削減、当座預金残高管理の労務費軽減により約2.7万円／（年）削減。

賞与資金借入の返済期間を夏季・冬季ともに7ヶ月から6ヶ月へ変更する事により2ヶ月／（年）短縮され、金利コスト80万円／（年）削減。

現金出納の面ではキャッシュレス化を目指し、各種精算フローの確定、全職員への周知案内など運用を改善する事で現金精算から振込精算へ変更労務費軽減により379,240円／（年）削減できた。

今後も引き続き、現金出納業務の効率化を図り キャッシュレス化を目指していく。

管財課

人員体制	課長	1名
	主任	1名
	一般職	1名

■概要

・管財課は社会医療法人化に伴う組織再編の一環として、創設された部署で法人全体の高額医療機器等の購買管理と資産管理を担っている。平成27年度には財務管理の強化を目的に管財課と経理課で編成された財務部が新設された。

主な業務

1. 高額医療機器等の整備計画策定及び予算執行
(対象：30万円以上の医療機器・備品・設備工事・IT・車両)
 - ・事業計画に基づき購入申請された案件について年度予算案の作成及び理事会への提出
 - ・予算執行における決裁事務手続き
 - ・価格交渉、契約締結、支払手続き（リース料交渉・契約含む）
2. 資産管理
 - ・固定資産、リース物件等の管理
 - ・法人内物品移動の調整、機器・備品等の廃棄処理手続き及び備品マスタへの登録、変更業務
3. 特定保守管理医療機器等の保守管理
 - ・保守料金の価格交渉、契約締結
4. 修理関連
 - ・高額修理の価格交渉

■目標

- ・高額な設備投資予算の徹底及び適正化
- ・設備投資に対して徹底した価格交渉を実施し予算の圧縮を図る（一次見積価格から平均15%程度の圧縮を目標とする）
- ・特定保守管理医療機器の保守契約内容の見直し
- ・V H J 共同購入の推進

■2015年度の取り組み・実績

- ・医療機器保守の適正化、費用削減の試みとして、MEP補償サービス（機械保険）を採用した。
年間削減額：約1,100万円（削減率-27.7%）
- ・再リース料約353万円（-15.9%）、リース物件買取金額約323万円（-40.6%）削減した。
- ・高額機器等の設備投資については下記参照

H27年度	申請 件数・額)		予算計上 件数・額)		執行額	圧縮率
医療機器（什器備品含む）	100件	468,688千円	58件	242,539千円	210,303千円	
IT関連	19件	182,395千円	12件	114,031千円	112,076千円	
設備・工事	27件	110,361千円	23件	53,627千円	48,784千円	
車両	2件	5,070千円	2件	5,070千円	5,046千円	
総計	148件	766,515千円	95件	415,267千円	376,209千円	-9.4%

人事課

人員体制

課長 1名
副主任 2名
課員 5名

■概要

法人全体の人事管理・労務管理業務を行うべく、下記業務を主に遂行している。

- (1) 職員の採用に関する業務
- (2) 人事異動に関する業務
- (3) 人事考課に関する業務
- (4) 人事関連諸規則、諸規程の立案、実施に関する業務
- (5) 給与・賞与・退職金に関する業務
- (6) 社会保険・労働保険に関する業務
- (7) 福利厚生に関する業務
- (8) 人材育成に関する業務

■目標

- 【人事企画】 ・人事制度構築 ・適正人員配置 ・人件費管理強化
- 【採用関連】 ・効率的な求人活動 ・新規学卒者向け広報強化
- 【労務関連】 ・給与処理および社会保険関連手続きの効率化 ・人事マスター精度向上
- 【評価関連】 ・人事考課制度の見直し ・目標管理制度構築 ・職能基準要件設定
- 【人材育成】 ・定期勉強会 ・キャリア形成 ・関連資格取得

■2015年度の取り組み・実績

〈人件費適正化〉

例年、年間人件費が前年対比約5%増加を続けてきたが、弾力的な人員配置や雇用形態の整備、委託等の見直しを図り、本年度は人事課創設（H19）以来初めて人件費が前年比削減となった。

〈残業時間削減〉

職員の残業時間削減に取組み、平成26年度は総残業時間が前年比-20%を達成。本年度も継続的に活動を行い、前年比-10%削減となった。

〈人事考課改定〉

評価の観点をより明確化する事を主旨とし、考課表の改定を行った。関連して法人内全施設の役職者向けに説明会を実施。今後も定期的に運用やフォーマット変更含め、改善を行う。

〈ワークライフバランス推進〉

職員満足度向上を図るべく、諸規程整備や保育園等の外部環境整備に引き続き努めた。成果として友愛会の「雇用の質改善取組み」を外部向けの講演会実施。

企画課

人員体制	課長	1名	主任	2名
	課員	5名	保管理員	1名
(うち健康管理センターへの出向者1名を含む)				

■概要

当課は社員総会・理事会及び友愛会会議の運営事務局を中心に、法人運営の全体に関わる業務を担当する部門である。また、経営戦略会議の事務局として、経営幹部による法人の将来計画の検討作業の補助や、各種プロジェクトを通じて、各施設と調整しながら組織横断的な活動をおこなっている。また今年度から組織編成に伴う課名変更があり、企画管理課から企画課となった。

■目標

公益法人としての経営システム構築
新病院建設プロジェクトの推進
院長方針に基づく業務の効率化

■2015年度の取り組み・実績

- ・社会医療法人事業報告等申請作業
前年度社会医療法人の認定を受け、関係部署と調整を行い、沖縄県へ事業と決算の報告を行った。
- ・公益法人としての経営システムの構築
公益法人として求められる健全な運営を構築すべく、諸規程の見直し作業を進めていく。
- ・国際化対応プロジェクトの推進
外国語対応担当の職員を配置し、救急患者の通訳対応、海外からの健診、特に中国からの健診受け入れの対応を行った。
- ・新病院建設プロジェクトの推進
豊見城中央病院の新築移転を検討する上で、「建設委員会」事務局として、設計業者の選定を行い、設計業者とともに各部署意見のとりまとめや基本設計を進めている。また渉外業務としては、県・市担当部局と開発許可申請に向けた事前協議・調整を行なっている。
- ・豊見城市事業の活用
豊見城市「観光資源・医療資源活用事業」の予算（約1千万）を活用し、外国人観光客等を含む外国人受入れに関するネットワーク構築や中国語講座を開催。
その他
- ・人事交流の一環で、福井済生会から2週間、研修生を受入れ、福井済生会の先駆けた取組みの一端を学ぶ機会を得た。
- ・3月に開催された沖縄コーポレートゲームズ（国内外の方が一同に集う市民参加型スポーツフェスティバル）の事務局として、各種事務手続きや協議参加者の取りまとめを行い、スポーツを通じた他業種参加者並びに職員間の交流を深めた。
- ・経済産業省の補正予算を活用し、万国医療津梁協議会主体で実施された「地域企業人材共同育成事業」に参加した。国際医療交流を推進する上で未来の沖縄産業を支える人材を共同で育成する事業で、豊見城中央病院とメルキュールホテルでの連携を模索しつつ、人材交流を実施した。

経営分析課

人員体制	課長 1名
	課員 2名

■概要

- I. 法人会議議案、経営判断の補助を行うべく、主に以下の業務を行っている。
- II. 経営データの情報化（行為別会計データ、損益データ等）
- III. 経営情報の作成（医業活動Monthly Report、法人年間予算計画等）
- IV. 基礎情報の作成（友愛会基礎情報収集、外部環境調査等）
- V. 経営指標の作成（利益計画、診療科別変動費分析等）
- VI. 臨時分析
- VII. 臨時業務（各種プロジェクト）

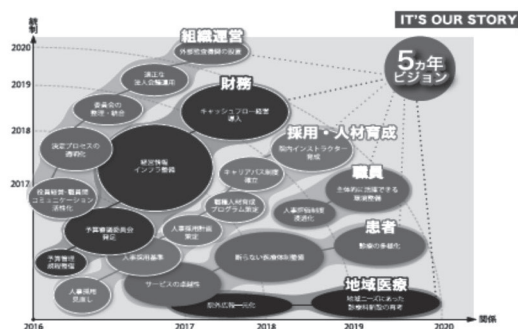
■目標

- I. 経営意思決定の支援ができる
- II. 経営方針・中長期経営計画策定の支援ができる
- III. 年度利益計画、予算管理・統制の支援ができる
- IV. 経営指標の分析ができる
- V. 人材育成

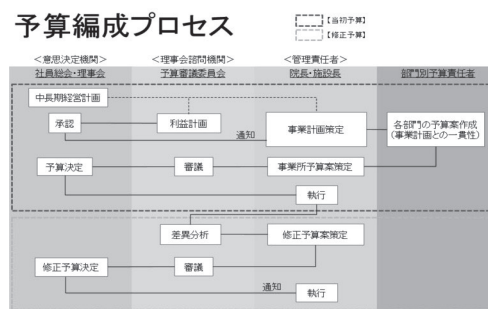
■2015年度の取り組み・実績

2015年は、豊見城中央病院の経営幹部合宿を企画した。幹部総勢32名が1泊2日かけ「豊見城中央病院の5ヶ年ビジョン」策定に向け議論した（図1）。策定したビジョンをもとに単年基本方針を明示し、部門別に事業計画・予算を申請するまでの仕組みづくりを行った。また、事業計画を受けて、幹部による全部門ヒアリングも行った。

理事会の諮問機関として、予算審議委員会の立ち上げを行い、法人利益計画からの事業所別予算案の策定や四半期毎の差異分析、修正予算案の策定を行い、理事会への答申をおこなっている。（図2）



（図1）5ヶ年Vision Roadmap



（図2）

秘書課

人員体制

課長 (1名)
副主任 (1名)
一般職 (5名)

■概要

【配置】

- ・医局員・部長・役員担当と業務分担・共有し連携をとり円滑に業務を遂行

【主な業務内容】

- ・医局員・役員スケジュール管理、依頼業務
- ・医局環境整備
- ・医局情報院内ホームページ管理
- ・医局費管理
- ・医師出張に関する業務全般（出張手配・出張台帳管理・学会発表抄録管理）
- ・勉強会開催調整・医局親睦会・講演会諸準備
- ・新入職医師オリエンテーション諸準備
- ・医局勤怠業務全般：出勤簿・年休管理・外来枠管理・入退職異動管理・給与調整人事課との連携業務
- ・施設基準関連業務（医事課・総務課 連携）
- ・届け出業務（九州厚生局保険医異動届・沖縄県身体障害者指定医・沖縄県難病指定医等）
- ・県外医師手術指導等招聘対応業務・離島医師派遣・外部出向医関連業務
- ・琉大その他兼業依頼管理業務
- ・医局年報関連業務
- ・医師会関連業務（入・退会・異動管理、事務業務）
- ・沖縄県外科会事務局・沖縄腎臓病理研修会事務・南沖縄整形外科医会事務

■目標

- ・医師業務負担軽減に関する業務強化
- ・ワークライフバランスの継続
- ・課内職員のスキルアップ（人材育成）
- ・秘書検定2級取得 医療経営士3級取得

■2015年度の取り組み・実績

各自の業務処理能力の向上、業務の偏りを改善、業務時間内の充実を図る

医局内環境整備強化

- ・医師講演・学会発表抄録の管理業務を行い豊見城中央病院医学雑誌発刊に繋げた
- ・秘書検定2級取得者：4名 医療経営士3級取得者：1名

社会医療法人 友愛会 法人年報 第5号 2015(平成27)年度
Social Medical Corporation Yuuikai Annual Report

平成29年5月 発行

発行責任者	理事長 比嘉 國郎
編集責任	年報編集委員長 加藤功大 法人事務局 企画管理課
住所	〒901-0243 沖縄県豊見城市字上田 25 番地
電話	(098) 8 5 0 - 3 8 1 1
F A X	(098) 8 5 0 - 3 8 1 0
ホームページ	http://www.yuuai.or.jp/
印刷	有限会社 金城印刷

